

わが国唯一のUFO専門誌

UFOと宇宙 第25号 昭和52年8月1日発行(年12回刊) 第5巻第25号 昭和52年1月14日国鉄首都特別換水認雑誌第3043号

UFOs & SPACE
月刊・1977・No.25

UFOと宇宙

8
August

特集 謎の黒い影



- 関東大震災時の驚異的体験を語る
私は円盤に乗った宇宙人に救われた!
- 三原市のコンタクト事件の謎を追求
宇宙人の言葉の解読に成功!?
- アメリカに出没する恐怖の生物の実態
UFOと謎の奇怪な生物
- 新連載—地球外生物からのメッセージ
聖書と宇宙人 (1) クロード・ボリロン

アメリカ、カナダで今、爆発的人気!!

バイオフィードバック

《GSR-1で時代を先取りしよう》

GSR-1
ジー エス アール ワン



高級天然木（クルミ）使用
長さ10cm 巾6.2cm 高さ3cm 重さ100g

定価 ¥30,000（送料共）練習用カセットテープ説明書付 1年保証

●受験生、経営者、タレント、
プロスポーツ選手、管理職、
サラリーマン、OL、教師、医師…全ての方々

●フィードバックとは？

“フィードバック”と言う言葉は比較的新らしい言葉で、今世紀のはじめに出来ました。フィードバックの研究の父とも云われる数学者のN.Wienerは「過去の行動から得た結果を再び同じことに生かして次にはより良い結果を得るようにコントロールする方法」と定義しました。

●フィードバックは人間にとって大切なのですか？

ある有名な学者は「全ての動物はその生存や安全のために自己調整機能を持っているが、これはフィードバックによる。」と云っています。吾々は毎日普通にフィードバックを使っているのです。でも、もし急に目が見えなくなったことを想像して下さい。目で見て今迄そうしていたように道なりに足を前に出して上手く歩くと云うフィードバック機能がストップして、あなたはそこに立ちすくんでしまうでしょう。

●ではバイオフィードバックとは何でしょう。

簡単には身体の特定の部分（脳、心臓、循環器、特定の筋肉等）からのフィードバックと云えます。即ち吾々のもっと内面的な、より精神的なことにも関連してきます。しかしモニターなしではフィードバックに必要な内面的な情報が得られないので今迄バイオフィードバックが出来るのは、禅やヨガの習熟者や修業をつんだ高僧にかぎられていました。

●GSR-1バイオフィードバックで何ができるのでしょうか？

GSR-1はあなたのバイオフィードバック・トレーニングのモニターになってくれます。自分の内面的なことをGSR-1の音の変化で知り訓練を積み重ねばコントロールもできるようになります。使用方法も簡単で、使用中、使用後にとっても「さわやか」な気分が味わえます。緊張をとりリラックスする技術が習得できるのです。

●ポケットサイズでするので大変便利です。

●使用方法・効果については詳しい説明書とガイド・カセット・テープがついています。

お申込みは、氏名、住所、年令明記
捺印の上、代金は現金書留又は郵
便振替（東京・4-8703）でポラック
ス(株)へお願い致します。現品急
送します。

輸入総発売元

製造元



ポラックス株式会社 U 係

東京都中央区日本橋小舟町2-7 ☎ 666-0511(代) 〒103



THOUGHT TECHNOLOGY LTD.
CANADA



●静岡県に円盤が出現！

1977年4月4日(日曜)午前8時頃、静岡県榛原郡榛原町の石間武宏君(11歳・小6)が、自宅2階よりカメラを手にして風景を撮影しようとしていたとき、突然西南の方向から黒い物体が飛来したのに気づいて、2階正面よりシャッターを切った。撮影後、物体は直角に下降し、また西南の方向にもどり、再度直角に下降してピカッと光った直後に消えた。母親のチエ子さんによると、他に目撃者はいないが、武宏君はトリック写真を作って人をだますような子ではないという。カメラ=フジカGE・フジノン38mm F2.8・オート。

SAUCER APPEARS OVER SHIZUOKA-PREFECTURE

On April 4, 1977, at about 8:00 a.m., when Takehiro Ishima (11), an elementary school boy from Haibara, Shizuoka-Prefecture, tried to take a picture with his camera of a landscape from the upstairs window of his house, he suddenly noticed a black object flying from the southeast, and shot one photograph. After that, the object descended at a right angle, and went up to the southeast. It came down again at a right angle, and disappeared immediately after it flashed.

According to his mother Chieko, Takehiro is not a child who would attempt to deceive others by making a fake picture. Camera: Fujica GE/Fujinon 38mm F2.8/Automatic.

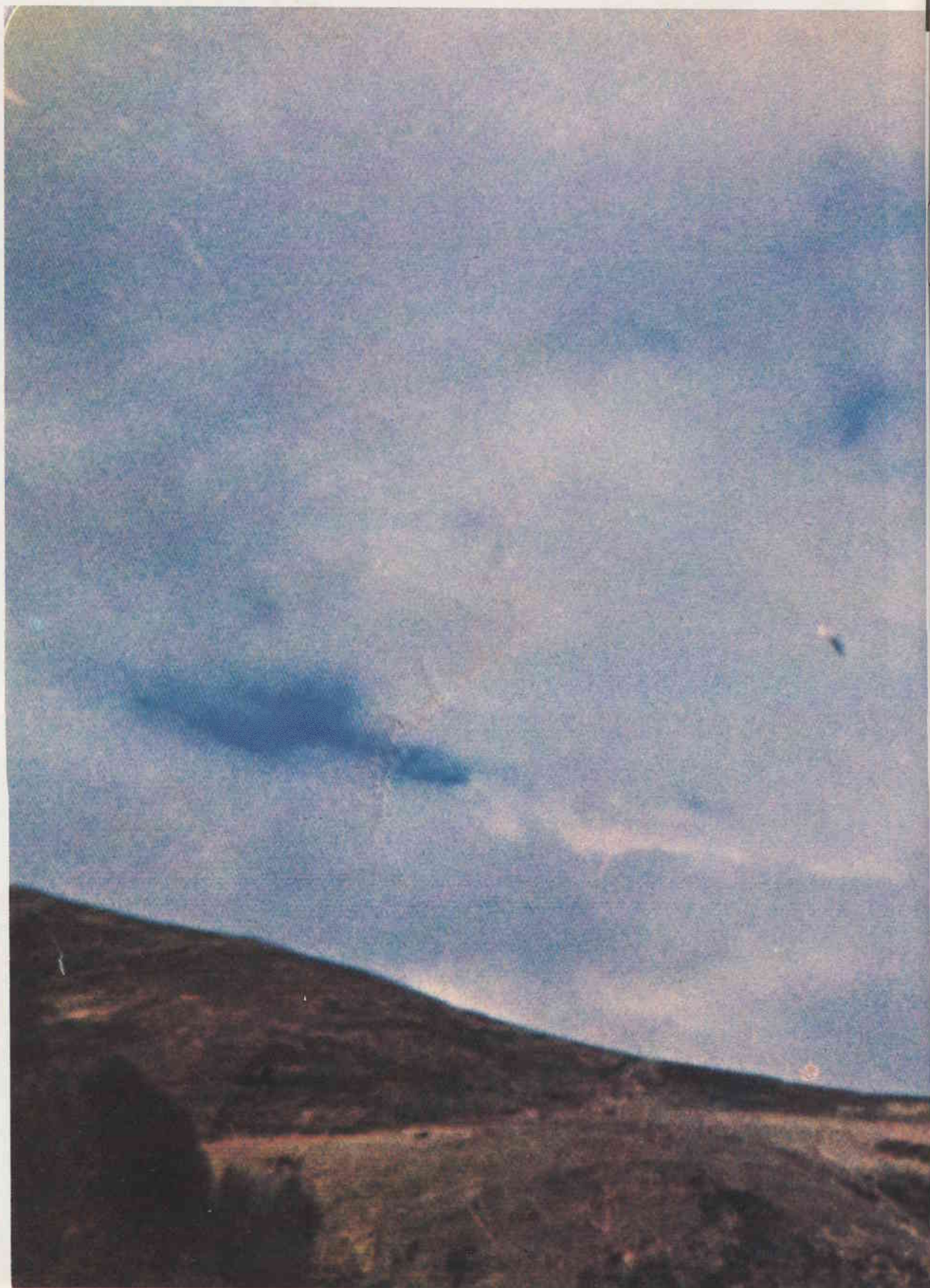
2 UFOs OVER PERU

On March 15, 1967, at 4:00 p.m., Mr. August Arranda took this picture in Yongay, Peru. After hovering for a while, the two objects flew toward the northeast. These are the same UFOs that are shown in the picture on page 1 of the preceding issue of this magazine.



●ペルー、ヨンガイ上空の2機のUFO

1967年3月15日午後4時、アウグスト・アランダ氏が撮影。物体はしばらく上空に停止したあと、北東の方向へ飛び去った。本誌前号口絵1頁に掲載した写真中の物体と同じもの。



●UFOか?—何かを深く考えさせる写真



①



②

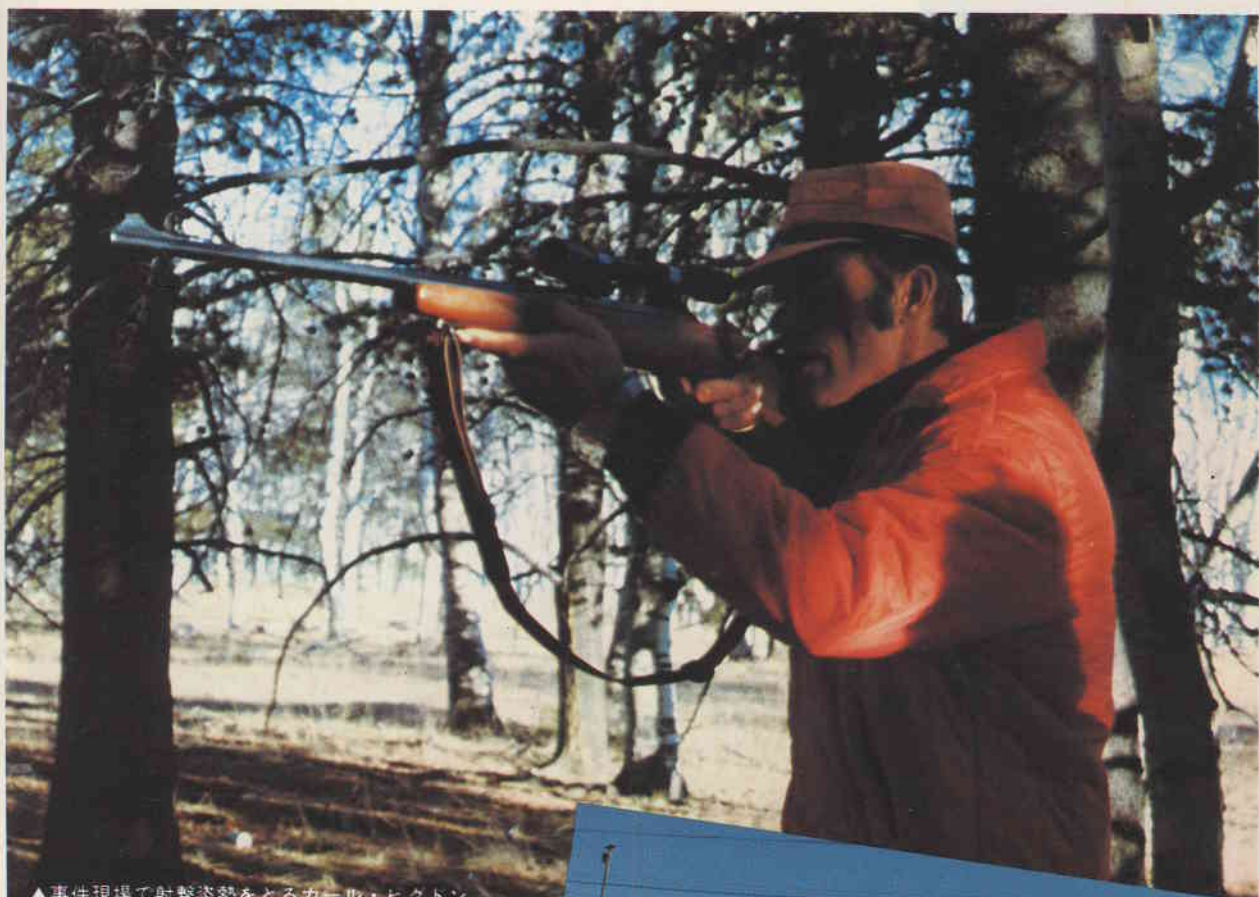
1976年10月21日(木曜)夕方5時28分頃、神奈川県川崎市の高校生・鈴木善勝君(16歳・神奈川県立柿生高校普通科2年)が帰宅途中、西の空をなにげなく見たら、星のような発光体が西から南へ飛ぶのを目撃。急いで家に帰り、カメラを持ち出して構えていたが、すでに物体は消えていた。再度の出現を期待していると、今度は自宅裏の山かげからその発光体が現れた。約15秒間、物体は大空に半円を描いて、あっという間に消えたが、その間、連続5枚の写真撮影に成功し、弟の英世君(15歳・中3)と近所の子供数名も同時に目撃したという。各写真の右下に明るい街灯が写っているの、それによるゴースト・イメージではないかという本誌の質問に対して「光る物体を数回で目撃してからシャッターを切ったことは絶対に間違いない」と鈴木君は怒ったような強い口調で数度断言した。カメラ=キャノンFTb・キャノン50mmF1.4付き。この連続写真のうちの最初の1枚は本号表紙に拡大して掲載。(写真提供=荒井欣一氏)

UFO?—MYSTIFYING PHOTOGRAPHS

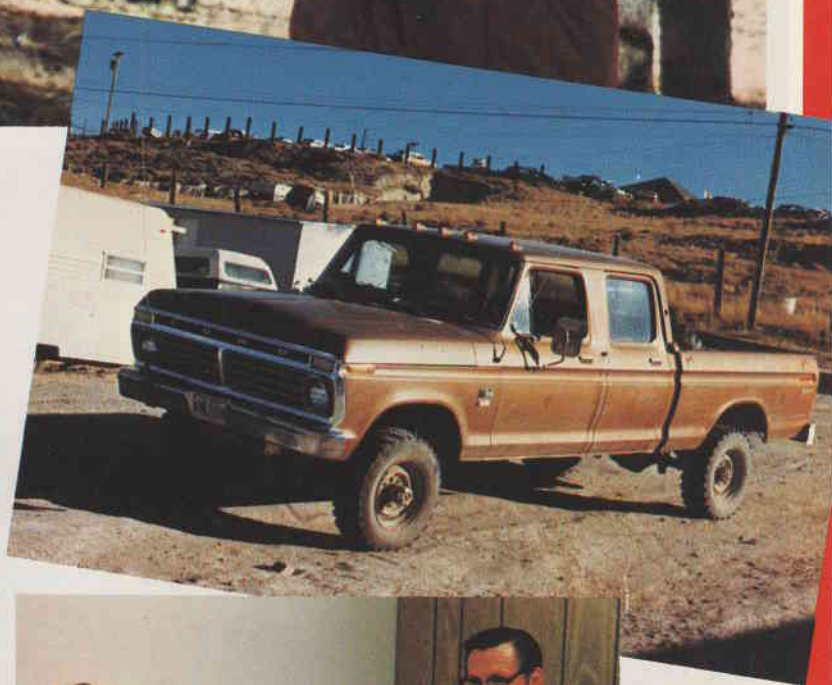
On his way home from school on October 21, 1976, at about 5:28 p. m., Yoshikatsu Suzuki (16), a second-year student of Kanagawa Prefectural Kakio High School, looked up at the western sky unintentionally and noticed a luminous object flying from west to south. After hurrying home and coming out with his camera to shoot a picture, he was not able to find it. However, he was still holding his camera in anticipation of a second appearance of the strange object, when it came out from behind the mountain at the back of his house. The UFO made a half circle in the sky for about 15 seconds and suddenly disappeared. Suzuki succeeded in taking 5 pictures of it in succession during its flight, together with several witnesses including his brother Hideyo (15) and some neighborhood children.

Each picture shows a bright street light at the right-hand corner of the picture, which prompted the editor to ask him if the luminous flying object was a ghost image of the lens. Then he said, "Before I shot the pictures, several others and I saw the object flying in the dark sky. I am absolutely certain!" He strongly affirmed this to be a fact several times as if he were angry. Camera: Canon FTb/Canon 50mm F1.4. One of these photographs is printed on the cover of this issue. (Photographs presented by Mr. Kin-ichi Arai)





▲事件現場で射撃姿勢をとるカール・ヒグドン。



▲カール・ヒグドンが乗っていたトラック。◀ウソ発見器で真実性を立証したジョージ・ファイファー技師(右)。

ワイオミング州の石油探掘工夫、カール・ヒグドンは、近くの森で狩猟中、宇宙人に誘拐された。野生の鹿にライフルの照準を合わせ、引金をひいたところ、鹿は確かに数10メートル先で土煙をあげて倒れた。だがこのとき不思議な現象が起こった。発射後、手応えがあり命中したはずの弾丸が、弾道をスローモーションのように進み、ある所までゆくと、まるで防弾ガラスにさえぎられたかのように垂直にボトリと落下したのである。その瞬間、背後に異様な気配があり、振り返ったカール・ヒグドンは

怪しい黒い影にとりおさえられ、意識を失った……。

逆行催眠によつて、彼が異星に連れられていったという驚くべき事実をひきだしたレオ・スプリングフル博士、彼をウソ発見器にかけたジョージ・ファイファー技師の2人の専門家も、宇宙人とともに異星空間を旅した彼の体験の真実性を立証している。

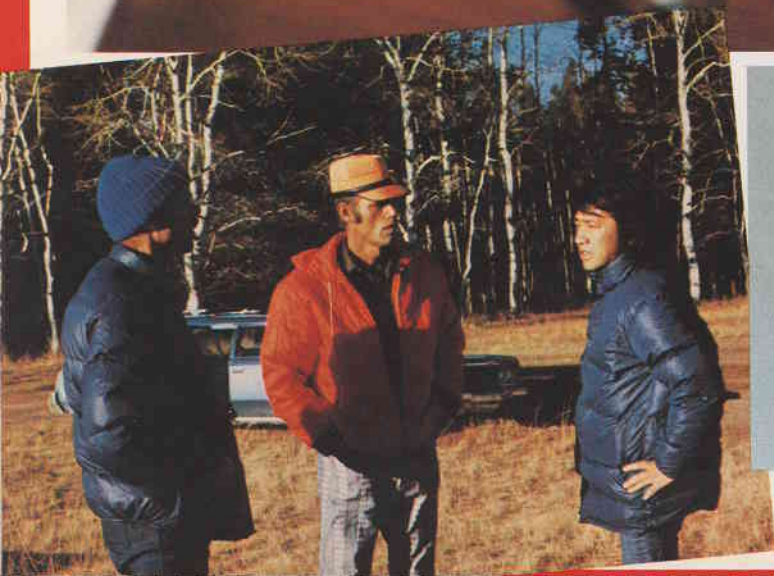
(関連記事6ページ)なお、カール・ヒグドンのこの驚異的な体験の詳細は、矢追純一氏の究明なレポートにより、機会をみて本誌上で紹介する予定。

▼驚くべき体験を語るカール・ヒグドン。



★異星へ行ってきた男★

矢追純一／アメリカUFO見聞記



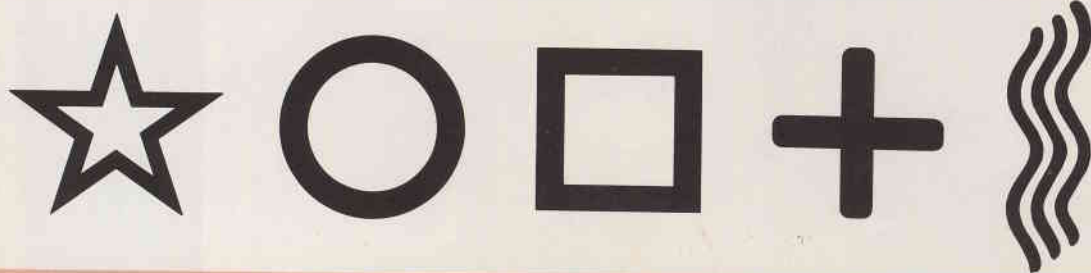
▲弾道の途中で垂直に落下した弾丸（上）。
◀事件現場。スプリングル博士（左）と矢追ディレクター（右）。

あなたの超能力で当てよう!

豪華景品が当たる

UFOと宇宙

テレパシー・コンテスト



●問題 上の図はESP(超感覚的知覚力)開発のために、アメリカンデューク大学のライン博士が考案した有名なテレパシー実験用の図形です。

この5種類の図形をタテに、ある順序で並べて本社のロッカーに厳重に保管してあります。

上からどんな順序で並べてあるか、これをあなたのテレパシーで遠隔透視で当ててください。

解答は別掲の要領で、はがきに図形を必ずタテに5種類描いてください。

●締切り 8月20日(必着)

●発表 『UFOと宇宙』10月号(第

●賞品

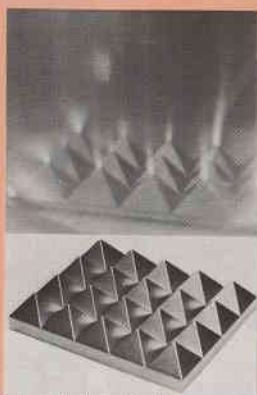
金賞

ピラミッド製品3点セット
(マンカインド) 3名

●エネルギー発生器(ミテアムサイズ ¥3,700) この上に置くだけでコーヒー、タバコは味がマイルドに、食物は新鮮さを長く保つようになる、不思議なジェネレーター。

●エネルギー放射板(ミテアムサイズ ¥1,950) 18ヵ月ぶんのピラミッド・エネルギーを注入した特殊なアルミ板。枕の下に置くところちよい睡眠が可能。

●ピラミッド・ペンダント(¥3,150) 一晚ジェネレーターの上に置いて身体につけると、体内に宇宙生体エネルギーが補給される。



銀賞

MOP双眼鏡8×30
(インテル ¥8,000) 3名

いつでも、どこでも、俊敏にUFOをとらえるスタンダードな小型機。



銅賞

消えるボールペン
(ボラックス ¥300) 50名
インク消しのついた西ドイツ生まれの名品。



27号(9月20日発売)誌上。正解者多数の場合は抽選で決定します。

●宛先 〒110東京都台東区上野5・1・6 ヤマトビル ユニバース出版社

『UFOと宇宙』8月号テレコン係

●はがきの書き方

「UFOと宇宙」8月号テレコン解答
? ? ? ? ?
1 本誌を知った動機。
(A) 広告(新聞・雑誌名)
(B) 書店で。(C) 人にすすめられた。
2 本誌に対する感想。
3 職業(学生は学校名・学年)
4 住所
5 氏名・年齢

●『UFOと宇宙』24号

読者アンケート当選者発表!

『UFOと宇宙』24号誌上で募集したアンケートには605通の熱心な回答が寄せられました。抽選の結果、左記の方々がめでたく当選されました。回答を頂いた全応募者のみなさまに深甚なる感謝を捧げます。

●バッテリー卓上ライター(ユーフォ・ノア/5名)

熱川修司(福島県二本松市) 黒部典子(東京都世田谷区) 長谷川公三郎(熊本県牛深市) 加藤好男(静岡県静岡市) 鍛冶哲也(東京都港区)

●消えるボールペン/50名については賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

UFO 8月号 と宇宙

月刊 1977/通巻第25号 目次
口絵

- ▷ 静岡県に円盤が出現! 1
- ▷ ペルー、ヨンガイ上空の2機のUFO 2
- ▷ UFOか? 何かを深く考えさせる写真 4
- ▷ 異星へ行って来た男 / 矢追純一アメリカUFO見聞記 6

関東大震災時の驚くべき事実

私は円盤に乗った宇宙人に救われた!

レポーター/高坂剋魅 10

三原市のコンタクト事件の謎を解明

宇宙人の言葉の解読に成功!?

本誌特別取材 18

アメリカに出没する恐怖の生物の実態をあばく

UFOと謎の奇怪な生物 (1)

グレイ・バーカー 23

地球外生物からのメッセージ

聖書と宇宙人

連載① クロード・ポリロン 42

特集 謎の黒い影

● 謎の黒服の男 ロバート・ゴーマン 52

● UFO目撃を妨害するFBI ラリー・W・ブライアント 56

● 3人の怪しい男が来た ジョージ・アダムスキー 62

● 奇怪な黒い男たち 矢追純一 66

UFO目撃につきまとう怪人たち ピーター・ガッティラ 30

メキシコ、ココヨクに奇妙なUFOが着陸! 〈写真〉 36

火星の謎のピラミッド型物体 〈写真〉 41

ダラス巨大空港と宇宙兵器 小山内宏 79

(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(7) レナード・克蘭プ 99

科学ニュース 86 UFO情報 94

UFO目撃レポート 90 声 109 蚤の市 116



◆豪華景品が当たる
テレパシー・コンテ
スト 8

人に救われた！

語る生証人が出現

レポーター／高坂剋魅



▲関東大震災で壊滅する横浜市千代崎町(現在の中区千代崎町)付近。©朝日新聞社

私は円盤に乗った宇宙

関東大震災時の謎と驚異の体験を

この驚異的事件は、いったいどのように説明すればよいのだろうか。大正12年9月1日、関東地方を襲った史上まれにみる巨大地震の発生後、焦熱地獄と化した午後2時すぎの横浜上空に不思議な1機の飛行物体が音もなく出現し、逃げまどう被災者数名を安全地帯へ誘導したのだ！ しかも誘導中は、ゆっくり飛び、全員の安全を確認した上で中から2人の乗員が顔を見せ、手で合図をしたという。事件を知る最後の生き証人である一婦人が、いまここに驚異の体験を語る！

この50年前の事実は、円盤と友好的な宇宙人の存在を証する事件として、きわめて重要な意義を帯びるものである。

なお本人の強い要望により、氏名と現住所は伏せることにし、記事の中ではKさんと呼ぶことにする。

関東大震災

大正12年9月1日午前11時58分、相模湾北西の東経139°5度、北緯35°3度付近を震源地とするマグニチュード7・9～8・2の巨大地震が関東地方一帯を襲い、東京、横浜を中心に、千葉県南部、東京湾西半部、神奈川県の大部が壊滅状態に陥った。これらの地域では木造家屋の50%以上が全壊して多数の死者を出したが、ことに東京、横浜などの大都市は悲惨を極め、地震直後に発生した

大火災による死者が数万にのぼった。記録によると、東京市内の死者総数6万のうち圧死した者が約2千人であるから、残りの5万数千人は焼け死んだわけである。特に大惨事が発生したのは本所の被服廠跡で、ここへ避難した3万8千人が大火災で焼死した。なお、関東大震災による被害統計は、全壊家屋12万8266戸、半壊家屋12万6233戸、焼失家屋44万7128戸、流失家屋868戸、死者9万9331人、負傷者10万3733人、行方不明者4万3476人となっている。

Kさんは、横浜市港北区に住み、現在息子さん夫妻と3人の孫に囲まれて暮らす81歳の老婦人である。彼女は、16歳のときに両親と別れて成田山の親戚のもとに預けられたが、成田山にお参りに来る人たちと共にお百度を踏んだり、修行者たちと一緒に滝に打たれたりしているうちに自分の予知能力に気がつき、その能力で今までに数えきれないほどの人々を助けてきたという。

そのKさんに今回の事件のことを聞かされたのも実は、予知能力がきっかけ。人の運勢を見ることができる人がいることを知り、Kさんの自宅を訪れたときに、ふと、この話が出たのである。

「こういったことを人に話しても信じてないだろうから今まで黙っていたが」と前置きをし、「たまたま最近『空飛ぶ円盤』というのを知り、私が関東大震災のときに見たものが空飛ぶ円盤

に似ていることがわかった」と語るKさんは、さらに大地震直後の混乱時、空飛ぶ円盤に安全地帯へ誘導され、しかも円盤に乗っている2人の宇宙人まで目撃したと話してくれたのである。

あまりに突然なものと、すごい内容に驚いた記者は、もっと詳しい話を聞くために、あらためてKさん宅を訪れることにした。

6月10日、Kさんは、前回同様あたたく迎えてくれたが、1つ困った問題がもち上がった。インタビューの直前になって彼女は「この事件は発表しないでくれ」と申し出たのだ。空飛ぶ円盤を見たのは確かだが、これが本誌に発表されて住所と名前が知れると事件の問い合わせや運勢を見てもらおうとする人たちが殺到して困るからだという。現在、無料で人の運勢を見ながら、息子夫妻や孫たちに囲まれて静かな生活を送っている彼女にとって騒がれるのは迷惑なのである。

発表するならばインタビューに応じないと言うKさんは、この取材が、発表するためのものではなく、いつか空飛ぶ円盤や宇宙人の存在が地球人の間で認められ、宇宙人との交流が行われるようになったときのための貴重な資料とするということで、ようやく取材

◆すさまじい大震災

—関東大震災が起ったときは、何をしていたか。

「私は当時、横浜の道慶橋（現在、横浜市南区伊勢佐木町付近にある）近くで主人と共に印刷所を開いていました

が、ガタガタと揺れ始めたときには、ちょうど印刷所でお昼の用意をしている最中でした。若い衆も大勢いたのですが、1日の休みでみんな奥に引っこみ、私と主人は、事務所の方にいました。日頃、主人が『大地震が来たら印刷機械の下にもぐれ。そうすれば助かる』と言っていましたので、揺れた瞬間に『ほらっ、入れ！』と叫び、小学

校1年で8歳になる息子と3人の中に入ったのです。すると、そのとたんにガタガタと……ものすごく揺れて、1回身体がぼんと上に持ち上げられ、もう1度下がったときには、まるで穴の中に潜ったような感じがしました。

そのうちに柱が倒れ、屋根がボンと機械の上に落ちて来て……15分ぐらいでしょうか。ずっと揺れ続けるので、

許可を与えてくれた。

なお、取材後、Kさんに対して、氏名、住所、顔写真をいっさい出さないという条件を示したところ、ようやく本誌に掲載の許可が与えられた。以下は、Kさんとのインタビューである。

じつと機械の中に身を隠していなければなりません。これはもうだめだと考え、お題目の『南無妙法蓮華經』を一生懸命に唱えていますと、ふだんは拜んだことのない主人も最後には一緒に大勢で大声で拜み始めました。

やがて主人が『親子3人そろっているんだから、もう死んでもいい』と言いだします。観念はしたのですが、ただ私は『ふだんからこんなに信心しているのに私の生命が絶たれるなんて、こんなことあるかしら』と思いました。

すると、そのとたん——うちには、四方の柱に災難除けの札が貼ってあったのですが、そのうちの乾（北西）の方角にある柱がひどく揺れて、揺れるたびにそこからパァーッと陽が差しこんでくるのです。陽が入ってくるので外に出れるかもしれないと、主人が柱の方向に向かって機械の下をくぐって行ったところ、無事に外へ出ることができました。私と息子も、そのあとで

▼現場付近の地図。矢印は、当時Kさんが住んでいた印刷所近くにあり、現在も残っている道慶橋。（平凡社『世界百科事典』より）





▲図A 金星人オーソンの肖像画。

脱出に成功しました。ただ、不思議だったのは、主人が傷だらけ、息子が歯を欠いたのに対し、私がかすり傷一つ負わなかったことです」

こうして、ようやく外に出たKさん親子は、まわりの状況があまりにもひどいの驚いた。家々は炎上し、道は逃げまどう人々で混乱していた。

「自宅の前に紡績会社の寮があり、その人たちがぞろぞろ逃げて来て、主人に『どっちに行けばいいでしょう』なんて聞いていましたが、主人は『どっちもこっちも、僕だってわからないんだから、自分たちで方向をきめてくれ』と答えていました。そこで皆ばらばらになって……あくる日、私が焼け跡にもどって来ますと、紡績会社の女工たちが大勢枕を並べて焼け死んでいましたよ」

どうやらKさんは、空飛ぶ円盤より大震災の話の方に熱が入るようだ。肝

心の円盤に出合うのは、自宅を出てしばらくしてからのことなので、話をもとにもどしてもらうことにする。

「とにかくすごかったんです。道なんてわからないし、のべつ播れていましたから、歩くのだってゴロゴロと、最初は少し這いましたよ。外に出たときには、もう見渡す限り潰れていたので、どうしていいかわかりませんでした。

◆輝く円盤が出現！

それから、いいかげん歩いて、ある橋の手前についたのですが、橋は、もうなくなっていて渡ることができませんでした。どっちへ行くかと考えているときに、ふっと上を見たら円盤型の物体がポコポコ浮いているように見えたんです。キラキラ、キラキラと光っていました。すごく光っていましたよ。陽が当たるものですから、よけい

『待ってろ』と主人が言うので、一緒につれて行ってくれるとばかり思っていたら『お隣りの人が潰されてキャーキャー言っているの助ける』と言いつ出したんです。さらに、私のところは石油などの罐が沢山あるので、家に火がついたら大変だから早く逃げる、オレだけ残ると言うものですから、私と息子はいそいでその場から離れました。

光るんです。まるで後光がさすようにでした」

見たのは何時ごろですか。

「なんだかんだしていたから、2時ごろでしょう」

物体の大きさは？

「満月よりずっと大きかったです」

Kさんは両手をのびし、肩幅の倍まで広げて物体の大きさをあらわした。

物体を見たときに、何だと思いましたか。

「当時は円盤という言葉を知りなかったもので、迷信家かもしれません、私はすぐ、物事を神様に結びつけてしまっているので、ああ神様が助けに来てくれたんだと思ったんです」

道を歩いている人たちも物体を見

ましたか。

「他の人も見たでしょうけれど、逃げる方が忙しかったから。私が『ほら、ごらんないかい！ 神様だ』と言ったので一部の人がその気になって上を見

たわけです。『皆さん向こうへ行きましょうよ』と言って、私と息子を入れた7人が円盤のあとをついて行きました。円盤にかまわず左に行った人は、橋が落ちて先に行けなかったし、右に行った人は、30間（約55m）くらい歩いたところで土砂崩れに合い、30人ほどが生き埋め。円盤について真ん中を行

った私たちは、どっちの災難も受けなかったんです。それから、しばらくの間、曲がりくねった道やいい道を円盤について行きました」

すると円盤はゆっくり飛んでいたわけですか。

「すごくゆっくりでした。ゆっくりだから、はっきり見えたわけです。スーッと行ったんじゃなくて、上下にふわりふわりと……」

1時間ほどついて行くと、やがて竹藪が見えて来しました。竹藪だから、もう安全だと思って『皆さん、今夜はここで一夜を明かしましょうよ』と言いながら上を見たら、まだ上に円盤がいたんです」

◆円盤から人間が顔を出す

——どのくらいの距離でしたか。

「そうとう低かった。どこかに着陸す

ドームの頂上部に、黒っぽい
機械の箱があり、左右に光輝く
ボタン状のものが見えた。

白い帽子をかぶり
耳と、まゆげをおおっていた。

手は白い手袋で
指をひろげ、手まねきして
くれた。

(窓の中に、この左手で
引きあげられるかとも
思って、恐ろしく感じた。)

てすり
右手は、金属棒を
にぎりしめていた。

上下つながった服は水色で、
首は白いベルトのようなもので
ピッタリ締められ、手首も
同じ、胴は広い白色の帯で
締められていた。



関東大震災時における宇宙人出現之図

大正12年9月1日

目撃者Kさんの証言
と指示に基づいて描く
高坂勉 魅画

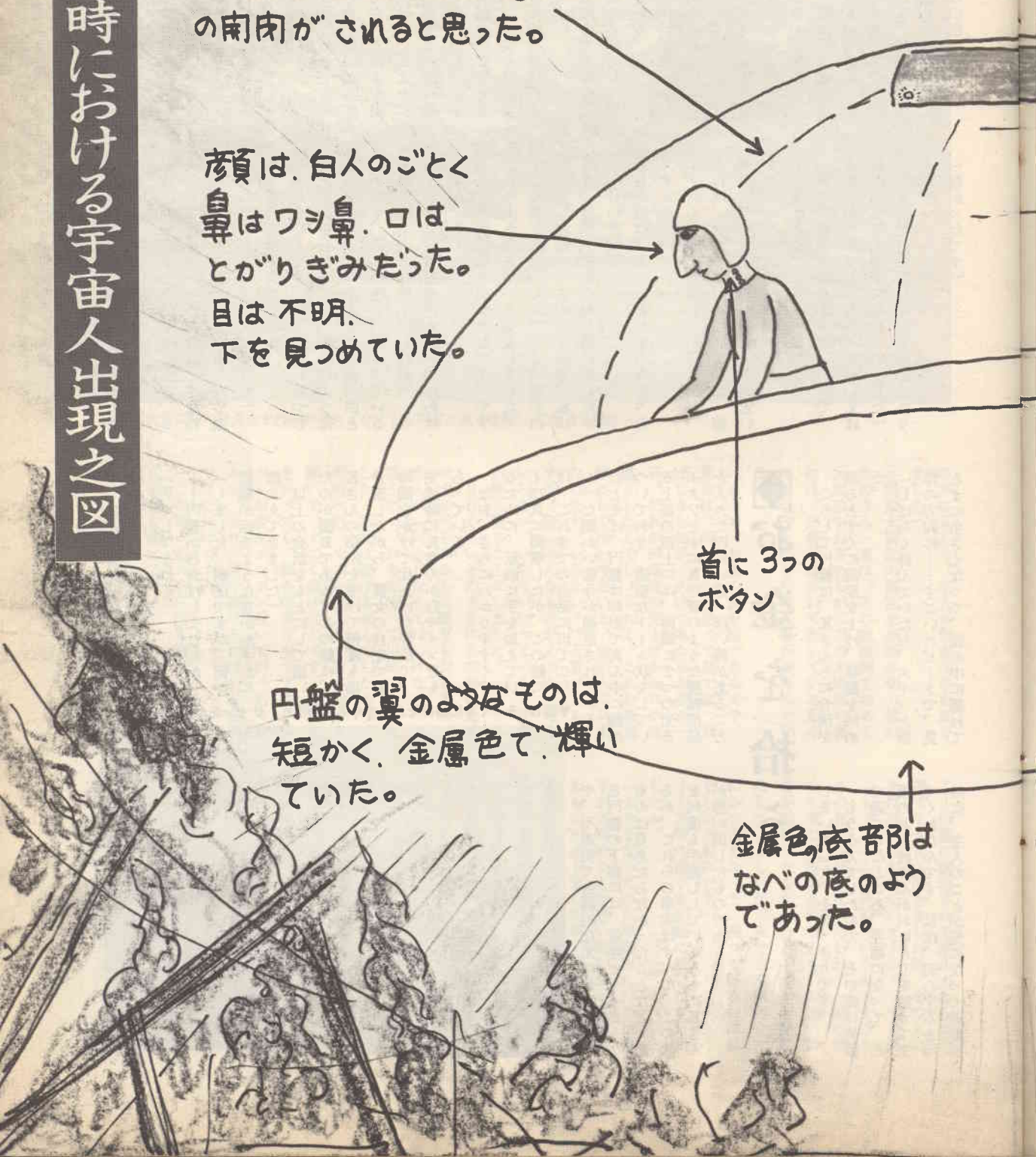
この筋は、透明の窓に
かすかに感じられた。
この筋で区切られて窓
の内外がされると思った。

顔は、白人のごとく
鼻はワシ鼻、口は
とがりきみだった。
目は不明、
下を見つめていた。

首に3つの
ボタン

円盤の翼のようなものは、
短かく、金属色で輝い
ていた。

金属色、底部は
なべの底のよう
であった。



るんじゃないかと思って怖くなったくらいです。よそへ逃げようかとも思いましたが、せっかく安全地帯まで導いてくれたのだから、歩くのをやめて『ありがとう』と言いました。

すると、そのとたんに円盤から2人の人が首を出したんです」

——窓からですか？

「ええ。窓だと思っただけですけど……窓といっても、見たところ幅が狭くて透明でした。向かって右の人が手を出しましたから、窓は開けていたように思います。右の人は、右手で円盤の縁につかまりながら身を乗り出し、左手を伸ばしてこちらに合図をしました。手が非常に大きく、白い手袋をはめていて、5本の指を広げながら前後にゆっくりと動かしただけです」

あまり突然に手が出たので、Kさんは、円盤の中に引つ張りあげられるのではないかと思ったという。

「向かって左にいた人は、こちらから見て左を向き、下の方を眺めている感じでした」

ここでなにげなくアダムスキーが会ったという金星人オースンの肖像画(図A)を見せると、Kさんは驚いた。

「格好がそっくり！特に、首と手首と胴がベルトのようなもので締められているところが、そっくりです。2人とも同じ格好をしていました。ただし、服の色は明るい感じの水色で、首と手首と胴のベルトは白色でした。」

私の考えでは、首をベルトで締めているのは、冷たい空気が入らないようにするための……。そういえば、2人とも、首のベルトの左側に小さなねじのようなものをつけていました。金具でできているボタンでしょうね」

——髪の毛はどうでしたか。

「毛がないんです。最初は白いおつむだと思いましたが、白い帽子のようなものをかぶっていたようです。白と白と、身体の色と、かぶっているものと同じような感じでしたが」

——すると、皮膚の色も白かったわけですか。

「ええ、顔は少し白かったです。ですから外人かなあという気もしました。すごく鼻が高かったんですよ。顔が白くて鼻が高かったものだから、私は外人の神様が来たのかと思いました」

——目の色は？

「目の色は、ちょっとわからなかったですね」

——口もとはどうでしたか。

「口は、少しとんがっていました。前に出て、盛り上がりつつあったように思います」

——耳はどうなっていましたか。

「耳は、帽子がかぶさっていたので、全然わかりませんでした。そういえば眉毛の部分も帽子で隠れていました」

——2人で何か話している様子はありましたか。

「なかったです」

——2人は男女どちらだったでしょうか。

「男でしょうね」

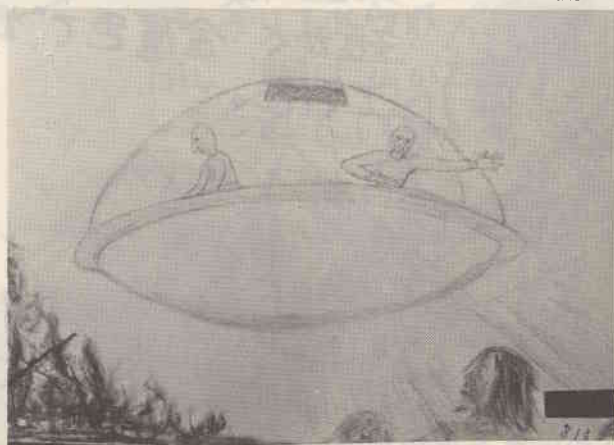
——円盤から音はしましたか。

「しました。瞬間ですが、何か機械が回るような音がかすかに聞こえてきました」

以上の会話をもとにして描いたのが図Bである。この絵は、Kさんの指示を受けて何度も描き直しながら、彼女の自宅で数時間をかけて仕上げた作品で、完成時にKさんからサインをもらっている。

なお、さらにわかりやすくするために、原画に手を加えて14と15頁に掲載したが、この絵には、これまでの会話に出てこなかった細かい部分が補足されている。

▼図B そっくりに描けたとKさんに認められ、サインをもらった絵。



◆お金を拾う

こうして円盤は、Kさんらに合図を送るとすぐに高度を上げ、移動を始めた。

「しばらく拝んでいたら、スーッと根岸の方向に……すごいスピードで、見るまに小さくなって、雲の中に隠れて

や、不透明で金属的な光に包まれている円盤の下部には、着陸ギヤのようなものは見あたらなかったことなどであるが、これらの事実をすべて、この絵を何度も手直ししているうちにKさんが思い出したものである。

しまいました。それっきりです。

もう夕方でしたので、その晩は竹藪で過ごしたところ、翌朝になって、近所のお百姓さんがおにぎりを持って来てくれたんです。私は、安心すると同時に、主人のことが気になって道麩橋



▲関東大震災時の横浜市千代崎町付近（タイトル写真と同じ場所）。©朝日新聞社

の方にもどり、主人が無事なのを知りました」

関東大震災の混乱を無事に切り抜けたKさん一家は、その後商売を始めて大成功をおさめるが、この大成功の裏には、円盤に導かれて歩いている最中に起こった小さな出来事がからんでいる。

「途中で、お金の袋を拾ったんです。最初は、何かしらと思って足で蹴飛ばしましたが、あけてみたらお金が一杯。だれかが商売の売上げかなにかを落としたんでしょうねえ。これを無意味にはいけないと、他の人に『あなたたち、知らない？』と言ったんですが、皆『そんなものがあつたって：：：』って。そこで私が持ち帰ることにしました。」

5日くらいそのままにしておいたんですが、そのうちに騒ぎもおさまり、主人が『何かしなくてはいけない』と言うので、お金を持って川崎へ行きました。川崎は焼けませんでしたが、川崎へ行って肉を仕入れ、食べ物屋を開いて、すごく儲けたんです。儲けたといっても、無茶苦茶なんです。皆さんお金をポンポン置いて行っちゃから。それで家を建てるだけのお金ができただけです」

この後、転々と住所を変えて、再び印刷所を始めるなどして今日に至っている。それでは、Kさんに再びこの事件のことについて聞くことにしよう。

——円盤に誘導されて助かった人は全部で7人だと聞きましたが、その人たちは現在何をしていますか。

「もう、みんな死んでいるんです。うちの息子も死にましたしね。一緒にいて来た近所の人たちとも、お互いに命が助かったんだからと、ずっと交際していました。みなさん病気やなにかで亡くなって、残っているのは私ぐらいのものです」

——当時の様子を記録に残したりしましたか。

「大きくなってから早稲田に行った息子が当時のことを思い出しながら書いたものがありました。こんなものがあると息子のことを思い出して寂しいからって川に流しちゃったんです。とっておけばよかったんですけれど」
（注）現在一緒に住んでいる息子さんは、その後には生まれませんでした

こうしてインタビューは終わりに近づき、Kさんは、最後に次のようなことを付け加えた。

「この関東大震災の記録を、宇宙人たちは映画フィルムのようなものに撮っていたように思います。」

将来、地球に宇宙人の基地ができ、私たちを助けてくれた宇宙人と交流ができたときに、地球側のこの記録と、宇宙人側に残っている記録とを照らし合わせる——。私はなぜか、そんな時代がやってくるような気がしました」

宇宙人の言葉の解読に成功?!

●地球はすでに手遅れか 一女性が語る恐るべき未来

▼宇宙人の言葉を解読した清水正代さん。



FO30年史中の「日本にもあったコンタクト事件」で、まだ解読者なしと表現したのである。

(この事件の詳細は本誌16号を参照)

それとおぼしき

解読者が出現

ところが、24号が発売されて間もない6月初め頃、この記事を読んだ、杉並区に住む清水正代さんという若い女性から編集部に入った。

「あのー、三原市の事件の記事を読んだのですが、あれによると例の不思議な言葉を解読した人は1人もいないそうですね。本当にいないのでしょうか」

いつもの読者からの問い合わせだと思った記者が、前に述べたような理由を話すと、彼女は、すぐに次のようなことを話し始めた。

「実は、今年の3月に解読に成功したのですが、すでに他の方が解読なさっているならば発表しなくてもよいと思っただけです。ところが、24号を読むと、まだ1人もいないとい

うことで、連絡をしたわけなんです」
清水さんによると、この解読文は、宇宙に充滿する友好的な宇宙人の想念波動をキャッチしながら解いていったもので、このことは彼女にとって特にめずらしい出来事ではないという。その他にも、地球への警告を意味するものを多数キャッチしているし、UFO目撃も何度かあり、超能力に關しても他人に指摘されて自分にスプーン曲げやオーラ透視の能力があることに気がついたという。問題の解読文の一部を読んで聞かせてもらった記者は、彼女に直接合つて詳しい話を聞くことにした。

超能力者の清水さん

6月8日午後1時40分、待ち合わせ場所の都内市ヶ谷コーヒール館に花柄のワンピースを着た清水さんが現れた。

電話で感じたとおり落ちついた雰囲気をもつ女性だが、目つきが鋭く、にこりともせずに挨拶をしたのが印象的であった。彼女は、席につくとすぐに解読文やその他の資料を無雑作に取り出

1975年7月22日深夜、広島県三原市の仏通寺山に1機のUFOが着陸し、中から出て来た1人の宇宙人が、真言宗大僧正・北野恵宝師に「日本列島沈没」など驚くべき未来を予言!

日本はおろか、地球や太陽系の危機を宇宙人自らの言葉によって伝える、この三原市の驚異コンタクト事件は、本誌16号に発表されると同時に、全国UFOファンの間に大反響をまき起こ

した。中でも『ググジャラー……』で始まる宇宙人の言葉は、直接聞かされた北野恵宝師にもわからぬ難解さと、宇宙人が「解読するものが必ず出てくる」と予言したことで多くのファンの注目を集め、「解読はまだか」という問い合わせが本社に殺到した。

その後、編集部宛に数種類の「解読」試案が寄せられたが、いずれも内容に問題があるために、今年5月発売の本誌24号で同事件を扱った特集／戦後U

し、電話で話したように、この解説は私の体験のごく一部にすぎないと強調する。早口で一氣にしゃべろうとする清水さんに対し、記者は、彼女の人柄および宇宙人問題に関する考え方を知らするために、まず、彼女がもつという超能力について話してもらうことにした。

「小学校のときに、雨をよく当てました。降ってもいないのに雨が見えるんです。八王子にある自宅の台所を出ると正面に洗濯物を干す柱があります。雨が降るときは、その柱に斜めの線が見えるんです。そうすると、ああ、傘を持って行こうなんて……」

小学校の友達に「どうして傘を持ってくるの?」と聞かれたが、そのときは、特殊なことではないと思っていたので「雨が見えたから」と話しただけだったという。

「中学、高校時代はあまり見えませんでした。口をきくのが嫌で、高校時代は変人扱いにされたぐらいです」

そんな彼女が、ようやく自分の能力に気づくのは、去年の2月、当時勤務していた出版社の取材で、空カン回収運動で知られるウィッピー研究所(五井野所長)を訪れたときから。

「取材で五井野さんと話しているときにUFOの話題が出たので思わず『私も見た、見た!』って……それがきっかけで、いろいろとUFOや超能力関係のことを教わりました」

UFOを目撃

——UFOを見たのはいつですか。

「3年前の5月。八王子の自宅でパーティーを開くため、友達と一緒に買物に行った帰りに目撃しました。夕方の6時頃だったと思います。友達が『あれは何だろう?』と言うので上を見たらものすごく大きいオレンジ色の光がゆっくり飛んでいる。光は、しばらくして消えてしまいましたが、私は、それまでUFOについての知識が全くなかったので、友達が『UFOだ』と言うまで正体がわかりませんでした。」

次の朝、アルバイト先の人たちにそのことを話したら、皆に笑われ、まるで気狂い扱い。それから、2人とも見たことを隠すようになりました。私の場合、五井野さんに会って、やっと話せたわけなんです」

やっと、わかってくれる人がいた……そんな安心感からか、彼女は、過去の不思議な体験を話し始め、それらが今、日超能力といわれているものの一種であることを知った。そのときから彼女の能力は次第に強くなってゆく。

オーラが見える

「去年からは、太陽の光の粒子が見えるようになりました……」

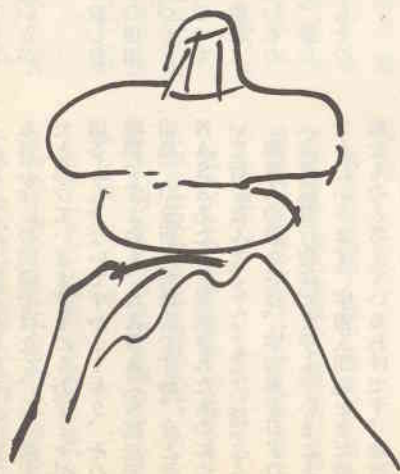
——オーラが見えるそうですね。

「ええ。でも、人体のまわりに大きく見えるほどではありません。初めて見たのは、去年渋谷のパティオという喫茶店で人と会っていたときです。突然、その人の顔から黄金の光が——ツタンカーメンではないんですが、とにかく皮膚の色が違って見えたので驚きました。多分、本当の人間というのは、中から光っているんじゃないでしょうか」

——はつきりと見えるのですか。それとも感じるだけですか。

「私の場合は、はつきり見えますね。不調なときもあるので、いつも見えるわけではありませんが、見えたときに『どうしたんですか?』と聞くと『普通の人間なんだから、そんな変なふうに見なくてくれ』と言われたりします。それに、人の顔から金色の粒が飛んだのを見たことも何回かあります。いつだったか吉祥寺の駅にいたとき、そのへんにいた人全部の背中に白いものが見えているのを見ましたが、それは、いわゆる霊というもののんでしょうか。でも、オーラは霊ではないと思います。科学的なものでしょうか? 生体エネルギーだから。」

▼北野師が描いた岩の上に着陸した円盤。



私は、自分のオーラを見たこともありません。タクシーの中で指を広げてじつと見ていたら指の線に沿って白っぽいものが出てきました」

清水さんによると、オーラの色までは見えないようだ。しかし、後になって次のような体験を思い出した。

植物に話しかけて

動かす

「そういえば、葉のオーラはよく見えます。それに以前私は、葉に話しかけて手をふれずに動かしたことがあります。できたときは、うれしくて、勤務先の人たちの目の前で何度も何度も、皆が納得するまで続けたほどです。問題は愛情なんだと教えてやりました。生命あるものすべてに通じるんですから……今の人は、生命に対して、あまりにも侮辱し過ぎているんですね」

以上のほかに清水さんは、最初に述べたスプーン曲げ、肉体が移動するテレポーション、他人の潜在意識の透視など数々の能力と体験をもっているが、これら一つ一つの詳しい説明は後の機会にまわすことにして、そろそろ今回の主題である宇宙人問題に話を移すことにしよう。

宇宙人は肉体を持つ

——清水さんは、宇宙人についてどう考えていますか。

「妙な存在——いわゆる霊的な存在ではなく、アダムスキーの言うように肉体を持つていると思います。それに宇宙人の科学はすぐ発達していて、どんなに努力しても今の地球の科学では追いつけないでしょう。」

金星とか土星とか木星などには、それぞれ人間が住んでいます。ただ、住んでいる場所の自然法則——たとえば磁場とか自然環境とか、そういうものに支配されているはず。人間が先ではなく、星の方が先に存在していてそこに人間が住むわけです。それは地球も同じこと。

地球人が苦しむ理由

地球人が今苦しんでいるのは、人間が先にいたんだという考えが支配されていて、カルマに火をつけているからで

す。宇宙人は、それをストップさせている感じがします。理性がすごく働き、感情もあまりないようですね。心はもっていますが、地球人のいう情はもっていないと思います。地球人は、揺れ動く情に流されて一定のレベル以上にステップできないので、宇宙人はそれを見てあきれかえっているのではないでしょう。

地球人に対して、思いあがるなっていう。彼らの科学力をもつてすれば、地球なんて問題にするほどの星ではないわけですね。地球のロケットなどは、彼らのものと比べれば、まるで紙ヒコーキと人工衛星ぐらいの違いがあります。地球は、まだ紙ヒコーキの時代ではないでしょうか。

——宇宙人は、地球にきていると思いますか。

「絶対に来ています。残念ながら私はまだ会っていませんが……ただ、このあいだ原宿で仙人のようなお爺さんには会いました。友達と一緒に話したんですが、とにかく哲学的なすごい内容で驚きました。でも、私から見れば、その人は、まだ何かにとらわれている感じでした。」

とらわれるというのは、自分の宇宙を作って限定してしまうことです。宇宙には限界がないのに、小さな宇宙を作って、その中で満足してしまう——それがカルマというものではないでしょうか」

ここで清水さんは、こんなことをしやべって大丈夫かしらとためらいながら、さらに話を続けた。

「宇宙人が、なぜ地球人同士の殺し合いに對して何もしないのか。その理由は、彼らが、愚かな地球人に近づく自分たちも危険だということを知っているからです。彼らの肉体は、地球人と同じように想念細胞でできているので、地球の影響を受けるのです。彼らが一定期間しか地球にいないのもそのためでしょう。」

宇宙人に会うためには

私の知っている限りでは、金星人はスウェーデンやインドネシア、インド、イギリス、アメリカ、日本などにいるはず。彼らは、その土地にふさわしい格好をしているので、だれにもわからないでしょう。もし、宇宙人に会いたいなら、自分の中の一番無心の状態になることです。そうすれば、きっと正体がわかると思いますよ」

——肉体を持った宇宙人にですか。

「ええ。地球人にとっては、無心が最高の状態。それ以外に利己的な考えが入ると終わりです。利己的な考えは、直接肉体に影響を及ぼして、オーラさえも変えてしまいます」

——話は変わりますが、先ほど金星や土星にも人間が住んでいるとおっしゃいましたね。

「ええ。この太陽系以外にも……信じる信じないの問題ではなく、もう確実だと思っています。そのうちデータが出るんじゃないですか……もう、その時期ですよ。NASA（米航空宇宙局）の分析は地球的ですね。今どきNASAあたりで発表されたものについて行くなんて、とんでもない話です。地球人の愚かさ、宇宙船をUFO（未確認飛行物体）と呼んでいることでもわかります。宇宙人問題をまだ特殊なものと考えているわけです。地球人は、国際人感覚にはなろうとしています。宇宙人感覚になろうとはしない。地球人も宇宙人なの……」

ただ私は、そういう人々を非難したくありません。なぜなら、彼らもまた、生きているからです」

——宇宙人は、どのような目的で来ていると思いますか。

「金星人だって、金星にかかわらないことだったら、余裕がない限りやらないはず。彼らだって必死に生きているわけですから。金星人は金星のことで必死だし、土星人は土星のことで必死だし、地球人だって地球のことで必死ですよ。地球人の発想だと、すぐ侵略に結びつきますが、この地球はそれほど面白い星ではないんです。太古の地球は、オアシスとして最高の価値があったと思いますが、今はもう……地球人が考えているほど魅力的ではありません。」

惑星と人間とは一体

ただ、1人の宇宙人がいるといいない
とは、大きな違いがあります。ヒマ
ラヤ聖者も、そのためにヒマラヤにい
るのです。つまり、人間はすべて想念
を出していますが、皆、悪い想念はか
り出しているので、一部でも良い想念
を出さないと地球のバランスが崩れて
悪い想念が充満し、地球の磁場にか
わるというわけなんです。惑星と、そ
に住む人間とは、実は一体なんだとい
うことを地球人は知っていません。

地球が今の状態にあるのは、行政ば
かりでなく一人一人の物の考え方に
責任があるので、私は皆に自己確認を
してほしいと思っています。急に
金星人には、なれませんし、地球人

いいですから、宇宙の法則を知ったう
えで、もっと謙虚になるべきだと感じ
ます。そうしないと、自分で自分の首
を締めることになりますから」

清水さんによると、宇宙人問題に關
する以上の考えのほとんどは、宇宙か
らのテレパシクな印象によって得た
ものだという。

三原市事件の

宇宙人の言葉を解説

彼女の人物および宇宙人に対する考
えを知るためのインタビューが終わ
り、ここで初めて記者は例の解説文の
原稿を手にした。

※実は、このときの解説は全訳でな
く大意であったため、もしできれば
全訳をと依頼しておいたのだが、こ
の記事を書いている最中に、全訳が

できたと連絡が入った。この解説が
正しいかどうかは読者にまかせると
して、さっそく全文を紹介しよう。

解説全文

温かいあなた方、何でも知っている
というあなた方地球の人々に我々は警
告するためにやって来た者です。私た
ちは、この言葉が、どのような人々の
手によってどのような形で訳されるか
あまり期待していない。なぜなら、あ
なた方地球人は、常に自己の利益をも
たらすものにしか興味をもてぬから
だ。私たちは宇宙人と呼ばれ、沢山の
誤解と沢山のマイナス理解をされてい
る者だ。我々が地球人を理解しようと
努めているほどには、あなた方は我々
のことを考えてはいない。それでもな
お我々があなた方がいうUFOに乗っ
てわざわざ訪れて行くのは、あなた方
の地球が、一体として、太陽系、銀
河系その先にまで及ぼすエネルギーの
散乱を、くい止めるためだ。あなた方
は、人間は地球以外でも沢山生活し、
努力していることをあまりにも知らな
すぎる。考えなすぎる。

宇宙の中に浮いていながら、自分を
すべてだと考えこむ宇宙観をもって生
きていけるのは、全く筆舌につくしが
たい驚異だ。

我々もまた、日夜(?) (あなた方
のいう時間とは違う) 努力している。

成長し進歩してゆこうとする生命に準
じて生活することは当然のことで、今
の地球のあり様は、本来なら人間の生
命にとってありえない姿だと我々は考
える。だが、現実にはあなた方は活動し
生活している。しかし、あなた方は考
えたことがあるだろうか。一体いつま
でこの状態が続けられるかを。地球は
すでに危機に入っている。我々の円盤
が何回となく訪れ警告してきたのは、
そのため以外の何ものでもなく、興味
本位のものではない。なぜなら、我々
も多忙な毎日を送っていて、けっして
暇をもてあまして遊んでいるわけでは
ないからだ。地球人に対して、常に我
々が警告してきた言葉は、沢山のコン
タクトマンと称する自尊心の高い人々
や沢山の情報網の裏々を通じ、あると
きは、政治家やマスコミや経済人、宗
教人を通じて語られてきた。

だが、いつもにぎりつぶされてしま
った。

我々は辛抱強く待った。しかし、そ
ろそろもう待つ状態から積極的行動に
移る時期にきたのではないかと考えて
いる次第だ。

我々がこの難解で奇妙な文章を伝え
たのには訳がある。地球人は、あまり
にも心の本来のあり方を知らなすぎる
からだ。

心さえもって読み、本来の生命、す
なわち宇宙のどこにでもある生命体と
一体となれば、おのずから判読できる



▲北野恵宝師。

ものであること。つまり言葉は、日本語でも英語でもいいのである。要は、何のために地球人であるあなたは生存し続けようとしているのか？ 死から逃れたいためか恐怖のためか？ 一体あなた方は、何のために生きているのだ？

我々は、あなた方がわからない。なぜに分離させ、わざわざ難解にし、哲学や、宗教や、経済や、その他の科学文明と称する諸々のものを分裂させて考えてしまうのか？

それらの社会現象などは、すべて生命のためにあるものであって、それ以外に存在する理由はない。すなわち生命のないところに言葉は不要なのだ。

我々は、そのためにわざわざ造語した。なぜにあなた方は疑問をもたないのか？ 宇宙人は、けっして抽象的、SF産物ではない。なぜなら、地球人よ、あなた方も宇宙人ではないか。北野師に告げたときに、はつきり話して、文章になると、このわけのわからぬ言葉となったことをもって疑問にもつべきだった。

ともかく、あなた方の住んでいる地球は、重力磁場が乱れ始めている。軌道も変わっている。天体の位置が変わり始めていること、時間が狂い始めていることに、なぜ疑問をもたないのだろうか。専門家や学者と称する人々を我々は、残念ながらあまり信用していない。彼らは、地球が破壊されるときで

さえ、データ集めに余念がないだろうから……

我々は、地球人に対して最後の警告をしたい。円盤を見てもあなた方は、自分の宇宙の中にとどまって恐怖心を増すばかりだろうか？ それとも錯覚や幻覚にしようのだろうか？ 実際に数えきれぬほど多くの人々が円盤を目撃したし、乗った人も多い。しかし彼らは、自分が特殊な人間のように考えてしまうか、あるいは、何のためにUFOを見、何のために乗る機会を与えられたのか自分の意志で考えようとしなさい。不思議だ。

私は、あなた方に告げたい。たとえ科学的に高度な力を作させたとしても生命は消えはしない。生命は、また繰り返されるだけだ。

だが、今の地球は、今までの危機とは違う。地球の内部にある空洞は、地球自身のものである。いずれバランスを失った力は、内部の空洞を押しつぶすだろう。そのとき地球は完全に破壊され、別な時空間（磁場組成の全く異なる空間）に移ってゆくかもしれない。

だが、地球自体が、もっと大きな磁場を抱えていれば、単にそれだけでは済まない。今は、何とも言いがたい。あなた方が考えているほど、地球は小さな星ではないし、あなた方が考えているほど大きな星でもない。地球が破壊される日の地球の様子を我々はすでに映像を通じて見せられている。だから

こそ、我々は必死に、あなた方と接触し始めたのだ。

我々の意図は、地球を救うためだけではなく、我々の星以外の星、惑星をも助けるためだ。地球だけが、我々の知っている星ではないし、特別な興味をもっている星でもないということだ。

地球が危機に入るとき、地軸は27度以上傾斜角を加えるでしょう。たとえ地軸が傾いても、地球人は、少々体が不調になったと思うぐらいで、特に動揺はしないでしょう。でも、そのときにもまだ、地球人は自分のこと、あるいは、せいぜい友達か家族か、恋人のこと、自分に利益をもたらしてくれる人のことしか考えはしないでしょう。何と愚かなことでしょう。すでに昔より、宇宙は先にあるのに、けっして人間が先行するのではないのに……あなた方は、いつも常にそのように行動してしまふ。どうか、もしできるなら、少しでも外宇宙へ眼を向け、心を開いてほしい。

我々が同じ友達として付き合えるのは、その心のあり方だけで感じられるのです。金星人は、すでに移動しました。もう金星人は危機を感じ、計算しつくした範囲（危険）以外に逃れるためです。衛星を1つ見つけて、そこに移動を開始したのです。我々も、もう少し時間をおいて移動するかもしれません。

地球からは遠くなりますが、けっして来れない距離ではありません。残念ながら、あなた方地球人の現在の科学知識では無理ですが……

もし、この危機を脱することができたら、あなた方も宇宙の人々と直接外交ができるようになるでしょう。しかし、現実には、どんな最悪の事態にと落ち込んでいます。解決する方法は、いくつかありますが、まず、ともかく、地球人自身の意識、自我中心のわがままな心を変革しなければなりません。でないと、我々も危険にさらされることになるからです。すでに沢山のコンタクトの文の中で語られていることですが、あなた方は、もっと正常な生活をして下さい。人間の肉体は、それ独自で存在はしません。心と肉体は一緒にならねばなりません。どちらか一方が、どちらかをねじ伏せてしまふということは、異常な状態です。できるだけ静かな時間をつくって、できるだけ緑の多い環境の中で、人々のことや地球のことや宇宙のことを考えてみて下さい。

初めは、小さな解決、出発点として自分を変えてゆくことです。「そんな小さな努力が、地球を救うなんてありえない」とあなた方地球人は言いますが、一体だれが地球を汚いみすばらしい星にしてしまったのでしょうか？ あなた……個人から出発しているのです。すべてのものは。



UFOと謎の奇怪な生物

●いま世界各地で報告されている見るも恐ろしい怪物は、地球人の反応をテストするためにUFO乗員が放った実験用生物なのか？ UFO裏面史研究のベテランがUFOと怪奇生物の謎に挑戦する！

グレイ・バーカー

車を運転しているマーク・スウィフトの顔に目やうて、私は彼の頭のなかにあることを読み取ろうとした。若い医学生の子は、緊張に顔をこわばらせている。私たちは、ある奇怪なUFO事件の調査を終えたところだった。実際それは、長い年月にわたる私のUFO研究のなかでも、もっとも不気味なケースのひとつだといえるものなのだ。

よほどたくさんさんの証拠の裏付けがなければ、仲間の研究者たちは信じないだろう。なぜなら、UFOに關係のある生物が、実際に人間に襲いかかり、自動車をほとんど破壊した事件なのである。

マークも私と同じ点に疑問を持ち、考え込んでいるのがわかった。私たちの研究グループ、SAUCER（円盤と未解明天体事象研究会）のファイルには、UFO着陸事件や、奇妙な搭乗員が空中浮揚装置、麻痺光線などの進歩した科学兵器を使うことに関する詳細なデータがぎっしり詰まっているけれども、彼らが地球上で目的のわからない計画を実行するときに暴力を振るうというのは、どう考えても理屈に合わないことだと思われる。しかし、この事件を証言したのは、ミシガン州ポントティアック市のジェラルド・ネスターとリンダ・バークハマーで、2人も十分に信頼できる目撃者である。

車に道具を積み込んで、ウィリアム

ズ湖のはずれの遭遇現場を離れたときから、私たちはずっと沈黙をつづけていたが、やがてマークが最初に口を開いた。

「ぼくはあの人たちの言うことを信じるよ！」マークは力のこもった声で、はつきりと言った。

デトロイトに住むジェラルドは、ボンティアックの両親の家に来ていた。リンダは週末を彼と一緒に過ごすために、バーミア州のウィンチェスターから飛行機でやって来た。この若い2人は、どちらも教養のある、信用のおける人たちで、家族もよく知られているが、希望によって名前を変えてある。2人は婚約しており、夏には結婚する予定だった。

ジェラルドとリンダを襲った 奇怪な動物

1976年5月15日、ジェラルドとリンダはウィリアムズ湖のはずれまでダンスに出かけた。休憩時間に友人たちと外に出たとき、その夜のちに起こった恐ろしい事件と関係があるかどうかはわからないが、友人のひとり、空に不思議な光を見つけて指さした。その光体は、じっと空に浮かんでいくかと思えば、急速に振動したりしていた。気象観測のトレーニングを受けたことのあるジェラルドは、たぶん飛行場の標識灯が巻雲に反射しているのだらうと説明した。そこでみんなは興

味を失い、ダンスにもどった。

ジェラルドとリンダは、早目に会場を出た。湖岸沿いの道をゆくりドライブしながら、結婚式の相談をしたいと思ったからである。とりわけ眺めの美しい場所に着いたとき、二人は景色を楽しむと道路から離れた。

「結婚相手の女の子と一緒にいるときには、時間がたつのはわからなくなりますよ」とジェラルドは私たちに話す。「しかし、ぼくたちは30分くらい、ただおしゃべりしたり、キスをしたり、楽しかったときのことを思い出したりしていたでしょう。そのとき突然、湖の上に光が射しているのに気がつきました。どこからくるのかかわからないけれど、とにかくすぐ明るい光が水面に反射していたのです。ぼくはもつとよく見ようと思い、窓から身を乗り出しました。すると、何かがぼくの両肩をつかんだので、とっさに体を引っこめました」

そのときリンダが叫び声をあげた。後ろの窓越しに、車のしかなかった大きな黒っぽいものの姿が見えたのだ。車が揺れ動き、ガリガリひっかくような音が聞こえた。

ジェラルドも、リンダ以上に怖かったので、イグニッションに手を伸ばしたが、キーはグラブコンパートメントに差し込んだままになっている。リンダが彼のタバコを取り出すときに使ったのである。ジェラルドは、狂ったよ

うに悲鳴をあげるリンダの体越しにキーを取ろうとしたが、興奮していたので落としてしまった。その瞬間、黒っぽい、ヌメヌメと光る腕が助手席の窓から入ってきて、リンダの首に巻きついた。軟体動物の触手を思わせるもう一方の腕は彼女の腰にからまった。

ジェラルドの恐怖感は怒りに変わった。彼はそこにあった唯一の武器、ソダのびんをつかみ、襲ってきたものに殴りかかった。そのとき彼は、恐るべき「怪物」とばったり顔を突き合わせた。広く裂けた口と丸く出っぱった目を持つ、巨大なカエルのような顔が、窓から半分のぞいている！

「ぼくがその醜怪な顔をびんで殴りつけると、それはすぐに頭を引っこめました——しかし、まだ腕はリンダを放しません。腕を打つとリンダに当たってしまいそうだったので、ぼくはリンダの上に腹ばうようにして、窓の外をそいつを殴りました。何かを直撃する音が聞こえました。その音と手ごたえは、ちょうど濡れた皮を打っているようでした。暗かったのでよく見えませんでしたし、どんな姿だったか、はっきりお話しするのは難しいのですが、何だかとても大きく大きなトカゲみたいなものでした」

その怪物は、だしぬけにリンダを放した。それが退却するとき、ジェラルドは、腕みたいな器官の末端がひれ状になっていて、指に似たギザギザがつ

いているのに気がついた。

「その腕が触手みたいなものは、ヌルヌルした、ねばっこい感じでした。それほど強くはなかったけれども、じめじめとカビ臭い、腐った下水のようなにおいがしました」

マークと私は、ふとしたきっかけでこの事件を知った。マークが、やはりUFO問題に興味を持つ医学部教授会のメンバーから、恐ろしい怪物に襲われた若い女性を診察したというミシガン州バーミンガムのある医者話を聞き出したのだ。慎重に問い合わせを行った結果、マークは若い2人の身元をつきとめ、ジェラルドにインタビューを申し込んだ。私はデトロイト空港で、オハイオ州北部から車を運転してきたマークと落ち合った。リンダはバーミアに帰ったあとだったが、ジェラルドはボンティアック市へ出かける用意をして、私たちを待っていた。

怪物がソダのびんで殴られて退却したあと、どこへ行ったのか、ジェラルドは見えていなかったが、湖の中で水が跳ねる音が聞こえたという。ジェラルドは急いでキーを探し出し、2人は家へ逃げ帰った。

リンダの怪我は大したことはなさそうだったが、腕に軽い打ち身が残っていた。彼女はまだ恐怖に震えて泣きやまず、服には腐った下水のようないやなにおいがしみついている。ジェラルドの母親がリンダの服を脱がせ、風呂

に入れた。

「ぼくたちは、バーミンガムのかかりつけの医者に電話をしてから、急いでリンダを連れて行きました。打ち身はごく軽いもので、ほかにはどこも悪いところはなく、ただ極度の恐怖感にとらわれているだけだということでした。医者はぼくたちに質問を浴びせましたが、ぼくたちの話を信じたかどうかはわかりません。リンダに注射を2本打つと、次の日まで彼女の精神状態がおさまらないようだったら、また連れてくるようにと言われました。次の日には、彼女はすっかり元気になっていました」

ジェラルドも両親も、事件が公になるのを好まなかったので、警察には報告しなかった。しかし、ジェラルドはこの恐ろしい体験に悩まされたので、図書館にかけ、UFO関係の本を片っぱしから調べて、事件を理解しようと努めた。この件について彼は両親と医者以外にはだれにも話さなかったけれども、精神の混乱とUFOへの好奇心から、マークと私に打ちあける気持ちになったのだ。

ジェラルドは事件の翌日、ひとりで湖に行ってみた。そのときには、道路と水ぎわの間に、茂みの倒された箇所があり、土の柔らかい所に足跡のようなくぼみがいくつか見つかったというのだが、マークと私が現場を調査したときには、雨で証拠はすっかり洗

われていた。

マークの車で空港まで送ってもらったあいだに、私は話し始めた。ポンティアック市で起きた事件は確かにきわめて異常だが、約160km南のエリー湖に臨むモンロー市付近でも、似たような事件が報告されていたのだ。

1965年8月のことである。夜の10時ごろ、クリスティーン・パン・アカーがモンロー市での買物を終えて母親と一緒に帰る途中、車のエンジンが止まり、ライトが消えた。2人は家の近くの田舎道で立ち往生してしまっ

た。車が情力で走り、道路をはずれた路肩に止まると、いきなり車の右側に大きな黒いものが現れて、開けてあった窓からクリスティーンをつかもうとした。

2人が大声で叫んだからか、あるいは遠くから他の車のライトが近づいて来たからか、とにかくその生物は攻撃をやめて暗やみに姿を消した。たちまちヘッドライトが輝き、車のエンジンは何事もなかったように作動し始めた。

ポンティアック市事件の目撃者が正直で間違いのないことを、私は固く信じていたが、それでもいくつかの疑問をぬぐいきれないまま家に帰りついた。奇妙な光が、はじめはダンスの会場付近で、それから後に湖でも確認されていることを考えると、怪物の襲撃

はUFOに関係があるという結論に達する。そこで私はまた、UFO乗員が高度に進歩した科学兵器を使ってみせた多くの事件を思い出すのである。トリス・ウォルトンは放射光線を当てられ、6人の目撃者の前で地面に打ち倒されたし、チャールズ・ヒクソンとカルビン・バーカーは、浮揚光線か何かの装置で抱え上げられ、川岸からUFOに運び込まれている。(注1)トリス・ウォルトン事件は本誌20号を、ヒクソンとバーカーのバスカグーラ事件は本誌24号を参照)

その「ヌルヌルした怪物」がUFOから出て来たのだとすれば、一体どうして、人間を誘拐するのに暴力をふるう必要があったのだろうか？

チャールズ・ウェツツェルの恐怖の体験

やがて私は、やはり湖の近くで、ドライバーが同じような生物に襲われた事件があったのを思い出した。古いファイルをかきまわして未発表のその事件を探し出したのである。

書類入れには、正体不明の恐ろしいものからかろうじて逃げてきたカリフォルニア州ブルミントン市のチャールズ・ウェツツェルにインタビューしたときに私が書いたノートが入っている。カカシみたいのつべらぼうの頭を持った、奇怪な生物の亡霊が1958年の当時から年月を超えて今も人間

を震えあがらせているのだ。

11月5日、ウェツツェルは、ミシガン州リバーデイル付近の寂しい田舎道を、1952年型ビュイックを運転して家へ帰る途中、ノース・メイン・ストリートがサンタ・アナ川の川底へ向けて傾斜しているあたりで、ブレーキを踏み、車を止めた。前方の路上に水があふれ、危険標識が見えたような気がしたからだ。まもなく、それは標識ではなく、男が立っているのだとわかった。突然、その「男」は道路に躍り出て、彼の車の前に立ちはだかった。その瞬間、ウェツツェルはそれが人間でないことを知った。

それは身長1・8mほどの、人間に似た形をしているが、服は着ておらず、かわりに大きなうろこが全身を覆っている。耳も鼻もないようだが、目は電球のように大きく出っばっており、のちにポンティアック市の2人が目撃した生物とよく似た、カエルのように突き出た口をもっている。

車に近づくと、その怪物は、うがいをするときのように喉を鳴らし、かん高い叫び声をあげた。

ウェツツェルは一瞬ひるんだが、どうしようかと思った。生物は車の前に立ち、ギラギラ光る目で彼を見つめている。やがて怪物は車のフードいっばいに腕を伸ばし、ウインドシールドがあるのも気づかないかのように、彼につかみかろうとした。その手はな

んと鳥のように水かきのある手なのだ！

怪物が目の前に近づいたとき、ウェッセルは本能的に身を引いた。同時に彼は、その日練習に使った射撃用ピストルを握りしめて素早く照準を定め、発射はしなかった。万一失敗すれば、怪物との間を隔てるガラス窓が粉じんになってしまう。

そこで彼はもっと気のきいた行動に出た。ギヤーをローに入れて、アクセルを踏み込む。怪物が押し倒されて車の下敷きになる。車の底が、怪物の体をこすりつける音が響く。

「車に轢かれたあと、その生物は起き上がりましたか？」と私は尋ねた。

「そんなことを気にする余裕なんかありませんよ——とにかく逃げ出すことを考えるだけで精一杯でしたから！」

彼がこう答えたことが、私のノートにはつきり記録されている。

ウェッセルはその足で近くの警察署に向くと、恐ろしい遭遇事件の報告をし、続いて彼は2人の警官と一緒にパトカーに乗り、恐る恐る現場にもどった。3人は道路をくまなく調べたが、怪物を轢いたあたりの地面には、何の痕跡もない。

しかし、警官のひとりが道路の端を懐中電燈で照らすと、不思議なものが見つかった。柔らかな泥土に、直径25cmほどのほぼ円形のくぼみがあり、周囲に4つの「足指」または突起物と思

われるものの跡がついている。明らかに水かきのある足の形だ。川の土手を調べた結果、それほど鮮明ではないが、同じような形の足跡が3個所に発見された。この証拠は、正体不明の恐ろしい生物が何であつたにしろ、それが川から出現して、ぬかるみの底に逃げもどつたことを示すものである。

目撃者たちは、いずれもショックを受け、恐怖にかられている最中のことだから、細かい点で描写に相違が見られるが、ウェッセルとボンティアック市の2人が見たものは、形状も動機もほとんど同じ生物であつたことは明らかである。どちらの場合も夜の水辺で体を襲われている。なお、事件の前後に、ミシガン州リバーデイル付近で、ほかにもいくつかUFO目撃の報告があつたという記録も残っている。

インタビュの記録を読んでいるうちに、ウェッセルも私と同じく、その生物の科学技術や知性に欠けた振舞いに当惑を感じていたことがわかり、私は興味をそそられた。その生物はUFO報告と関連があると思うかとの質問に対し彼は次のように答えている。「この怪物が他の惑星から来たなどと考えるのは間違っています。まったく知性のない行動でした。宇宙人なら、もっと利口なはずでしょう！」

奇怪な生物が人間に暴力を振るつた事件を調べるには、それほど古い記録をたどるまでもない。

コウモリに似た怪物が出現！

1958年、テキサス州のサンアントニオ市付近で、コウモリのような顔の空を飛ぶ生物が冷たい1月の空から舞い降りて人間に襲いかかるという事件が起きた。数10名が日中にその生物を見た報告しているが、供述によると、有史以前のテロダクティル（翼竜の一種）によく似た形状だったという。サンアントニオの学校教師、パトリシア・ブライアント、デビッド・レンドン、マーシャ・ダールバークの3名は、乗っていた車が奇怪な生物の「急降下爆撃」をくらって、あやうく道路から飛び出すところだったと証言した。それは白っぽい灰色の、翼長が6m以上もある怪物で、空を飛ぶ古代の爬虫類の絵に似ていた、と教師たちは語っている。

特徴としては、同じ月のあいだにその地域で申し合わせたように多くのUFO目撃が報告されていることであり、ここでも怪物目撃は「円盤」とかわりがあることを暗示している。

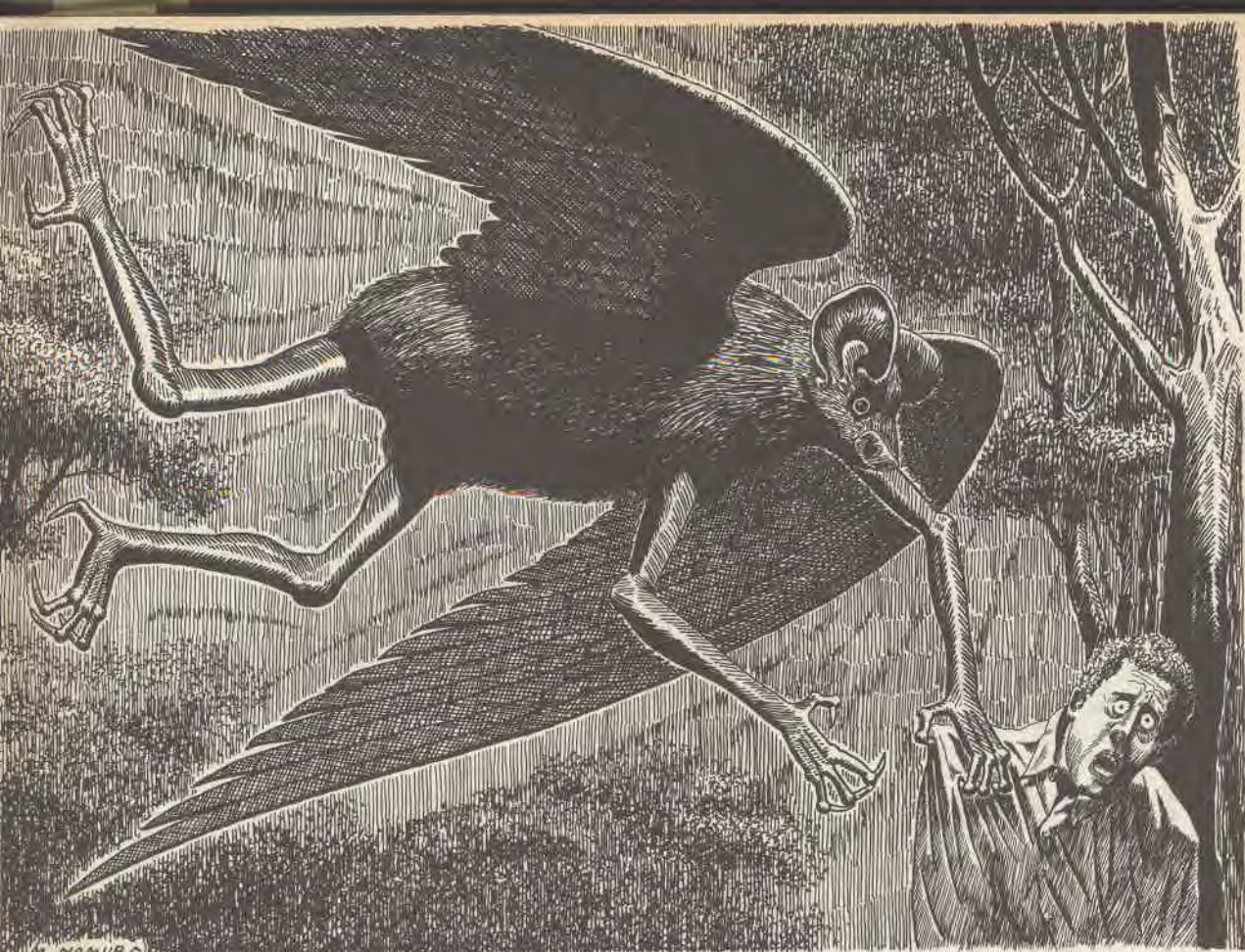
地方の新聞や全国的なマスコミは、この不思議な現象を「大きな鳥」としてからかい半分にくり上げただけでなく、私たちのグループの調査員、ブラッド・ジェフリーズが、無数の目撃報告の中から、多くの重大な発見をしたのである。

パトカーを襲う大怪物

たとえば、1976年の1月3日、サンベニートのアーチュロ・パディラとハマナ・ギラパンという2人の警官は、笑いものになるのを覚悟で、パトカーが巨大な空飛ぶ怪物に襲われた事件を報告した。パディラは次のように語った。「恐ろしく大きな翼を広げていたに違いありません。道路の両方のレーンいっぱい、翼の影が映つたのです。最初に降下したとき、私は小型機がハイウエーに不時着しようとしているのだと思いましたが、また上昇して旋回を始めました。私たちは車を止めて見ていたのですが、どうやら鳥のようでした。それにしても途方もない大きな鳥でした！」

やがて、その生物はもう一度舞い降りてきた。パディラは、スピードが速かったのと、パトカーの中では視野が限られていたため、あまりよく見えなかったことは認めながらも、体は人間に似て、色は他の目撃報告と同じく白っぽいグレイだったと言っている。

さらにサンベニート付近では、移動住宅に住むアルベリコ・グアジャルドが、この異様な飛行生物と真つ向から対決した。外で何かぶつかるような大きな音がしたので、グアジャルドは妻と子供を家のなかに残し、自分はナイフを手にして家の裏側を見まわりに出



本格的UFO研究団体
日本宇宙現象研究会

JSPS三大機関誌

研究誌 未確認飛行物体

日本UFO研究の粋ここに在り!! 調査・探究・分析……充実した内容でUFO現象の本質にせまる本格的な研究誌。UFO研究者必読の重要論文多数掲載。
●B5判、通常50ページ前後、高級オフセット印刷、図版、写真多数掲載。年2〜3回刊、現在6号まで刊行。1500部限定、非売品（会員配布）

情報誌 JSPS's UFO Information

もうマスコミにたよってはいられない!! 早く詳しく正確に、をモットーに現地調査を本旨とするナマの情報誌を求めてついに創刊。正しいUFO研究は誤りのない情報から。
●B5判、通常8ページ、高級オフセット印刷、図版、写真多数掲載。8月創刊以来月刊ペースで現在6号まで刊行中。1500部限定、非売品（会員配布）

英文誌 Japan UFO Information

ここ数年の間休刊していた英文誌が、装いも新たにいよいよ復刊。現地調査に基く確実な情報のみをよりすぐって世界に報道する待望の新会誌。（近日創刊）
●本誌のみ会員外の方にもおわけします。入手法の詳細は後日発表。

当会はUFOに興味関心をお持ちの方なら、男女年齢等の別なくどなたでも入会でき、会員には会誌送呈（但し英文会誌のみは別売）のほか研究会、講演会等へのご招待など多数の特典があります。（会誌への投稿も可能）

●入会金 500円（マーク入り会員証交付）
●会費 1期2000円（誌代差引制、約1年分）
●入会ご希望の方は、住所氏名を明記の上、入会金および会費を添えて、振替、書留等でお申し込み下さい。

〒150 東京都渋谷区神山町5-2

日本宇宙現象研究会

振替：東京6-128740（当会は非営利団体です）

たのである。

物陰に、身長1・2mほどの、巨大な翼をたんだ、恐ろしい鳥のようなものが立っているのだ! ギラギラ光る真っ赤な目が、彼を「刺し通すように」見つめている。一瞬、彼は恐怖に立ちすくみ、その醜いサルのような顔を凝視した。ショックから我に返ると、彼は家のなかに駆け込んでドアの鍵を掛け、警察に電話した。すぐに警官がやってきたが、何も発見できなかった。

一部の科学者はこの「大きな鳥」をコウノトリの一種だと説明してあっさりと片づけ、報告を暗にあげけるような態度だったが、レイモンドビルに住

む26歳のアーマンド・グリマルドにあっては、笑いごとではなかった。彼もまた、実際にこの奇怪な鳥のような生物に攻撃された、数少ない被害者のひとりである。

グリマルドの大ケガ

1月14日、グリマルドは近所の家の修理を手伝いに出かけ、夜の11時ごろわが家に帰りついた。玄関の電灯が消えていたので、彼は手探りで鍵を開けようとした。すると突然喉を震わせるような大きな鳴き声とともに、見上げるように背の高い黒っぽいものが、暗がりから彼に襲いかかり、後ろから彼

を押し倒した。鋭いカギ爪で背中を突き刺され、グリマルドは痛さに悲鳴をあげた。ようやく立ち上がって後ろを振り向くと、彼の妻が叫びながら階段をかけ降りて来る音が聞こえる。怪物は飛びのいて逃げた。走って逃げたのか飛び去ったのかはわからないが、2階の窓から洩れる明かりで、チラとその姿が見えた。グアジャルドの説明と同じように、それは「サルのような顔」をして色は灰色だった。翼を持っていた点は他の報告と同様だが、この場合は、かなりの体格の人間ぐらいの大きさだったという。

グリマルド夫人は、急いで彼を病院へ運んだ。治療に当たったアーチェロ・パレス博士は、グリマルドの体験については何も言わなかったが、「実際に傷を負っており、患者が恐ろしい事態に遭遇したことは間違いないと思われる」と語っている。

パレス博士はグリマルドの両肩に1つづつ、計2箇所の傷を治療した。長さ約30cm、深さは1cm以上もある傷だ。

「きわめて珍しい傷でした。患者は肩幅が広いので、傷の間隔はかなり離れています。傷あとは縦に走っているのですが、上からつけられたものか、下からかは、わかりかねます。鳥の仕業だとすれば、恐ろしく大きな鳥でしょう。爪の間隔がひどく開いていますからね。しかし、他の動物だったら、ほ

かにも傷が残っているはずですよ。やはり、雄鶏みたいな鋭爪のある鳥と考えるのが妥当でしょう」

やがて多くの人たちから、耕作地に奇妙な足跡を発見したという報告が届けられた。鳥類学者はその足跡がどの鳥のものとも判定できず、困惑するばかりだった。

私は、1966年初冬にウェストバリーニア州のポイントブレザントで起こった、「蛾人間」目撃事件を思い出した。この事件も、科学者やマスコミからさんざん嘲笑されたが、UFO研究家のジョン・キールと私は、何週間もかけて丹念に調査を続けた結果、実在を確認することができたのである。テキサス州の「巨鳥」目撃事件は10年前にウェストバリーニア州で起きた事件とはほとんど同じものだ。

怪物「ビッグフット」

テキサスの怪事件と同じように、「蛾人間」目撃もUFOと関連があったのは確かである。ポイントブレザントの怪物は、とくに科学技術を披露したわけではないが、恐るべきスピードで飛行し、あるときは翼をまったく静止させたまま、垂直に急上昇するといふ放れわざをやったのけた。

ほかに人間に危害を加えたUFO生物とはいえ、ビッグフットがある。全身毛むくじらの、巨大なサルのよ

うな生物で、目を光らせ、哀れっぽい、赤ん坊のような泣き声を発する。この怪物は、近年になって目撃記録のリストに現れはじめたものだが、目撃報告はベテランのUFO調査員によって正式に記録され、一定のパターンを持つことが証明された。すなわち、ビッグフットはUFOに関係した生物なのである。

ビッグフットは思いがけないときに出現して人を恐怖に陥れる。夜、家庭の主婦が何気なく暗い窓の外に眼を向けると、のぞき魔みたいな怪物の目にバッタリ出くわすといった場合が多い。そして、ほとんどすべての目撃例に共通しているのは、不思議な形状に加えて、胸がむかつくようなにおい、つきまとっていることである。「卵の腐ったようなにおい」というのは、おそらく硫化水素ガスだろう。濃度が高い場合には毒性があるから、怪物に接近した犬が病気になるというのも、それで説明がつく。

多くのUFO研究家は、ビッグフットが実際に人間を攻撃したという確かな報告を記録していないが、彼らは、1956年の5月以降に起こった、あまり知られていない事件を見逃している。

私はこの事件に興味をひかれた。次に述べる3つの主な理由から、この事件には真実性があると思われる。

①被害者たちには、他のビッグフット

ト事件について書かれた記事を読む機会がまったくなかった。

②その生物の形状とにおいに関する話は、20年後に報告された数100の目撃例とびつたり一致している。

③亡くなった天体物理学者のモーリス・K・ジュサップ博士が、講演旅行でミシガン州の各地をまわった際に、目撃者たちに直接会ってくわしい話を聞き、そのときのノートを私はもっている。

マーシャル市のビッグフットには、最近の目撃例と違う点がひとつだけある。バカでかい不思議な怪物が、1人だけではなく、2人の若い人間を誘拐しようとしたのだ！

マーシャル市郊外の怪事件

この事件は、マーシャル市の近くの、キューリを取り入れる季節労働者が住んでいる小さな農村で起こった。たまたま小さな仮小屋に一緒に住んでいた3人の若い労働者が、事件に巻きこまれたのである。

土曜日の夜、20歳のハーマン・ウィリアムと17歳のフィリップ・ウィリアム兄弟、20歳のオットー・コリンズの3名は、町でデートをして帰ってきた。普通なら、彼らは夜遅くまで外に座って話をするのが好きなのだが、その夜は雷雨のあとで寒いので、早目にベッドに入ることにした。

屋内には水道設備がなかったから、フィリップは寝る前に外に出た。すると、近くの木立の陰に、大きな黒っぽいものが潜んでいるのが見えた。彼はギョッとして小屋に駆けもどり、ハーマンが銃を探している間に、オットーと2人でもう一度外に出てみた。

雨が降ったあとの空にはまだ雲が多く、あたりは真つ暗だった。小屋の窓から洩れる石油ランプの明かりで、木立がおぼろげに浮き出ている。そこに暴風で折れた大きな木の幹があるのに気がついた2人は、フィリップが見たのはきつとそれだろうと思った。奇妙なおいがあたりにただよっていたけれども、ほかには何も変わった様子はない。

そのとき、真つ暗闇の中から突然、恐怖が襲った。

「そいつはきつとぼくらの後ろにいたんですよ。だしぬけに腕が巻きついたり思ったら、ぼくは体ごと持ち上げられていたんです！」と言うのはフィリップ。

ハーマンは小屋の中で銃を探していたが、フィリップの悲鳴を聞きつけて外に飛び出した。遠からぬところで弟と友人の泣き叫ぶ声が聞こえるのだが、何が起きているのか、暗闇の中では見る事ができない。

「あんなに恐ろしい悲鳴を聞いたのは初めてだ——きつと悪魔があいつらを地獄に引きずり込もうとしているのだ

と思ったよ！」

ハーマンは勇気を奮い起こし、2人を助けようと思った。車を使うことを考えたが、小屋までキーを取りにもどる時間が惜しい。彼は暗がりのなかをつまずきながらフォードのそばまでたどりつく、三角窓を引き開けて手を差し込み、ヘッドライトをつけた。

ヘッドライトの直撃を浴びて、そこに現れたのは、身の毛もよだつ光景である。毛むくじらの巨大な黒い怪物が2人の青年を両わきにひとりづつ抱え上げているのだ！

岩かげに潜む生物がいきなり太陽の光にさらされてあわてふためくように、ヘッドライトに照らされた怪物は一瞬とまどった。向きを変えたとき、小屋の外に出してあったテーブルにぶつか、はずみで怪物はバランスをくずし、オットーを地面に落とした。オットーは怒りに駆られて恐怖を忘れ、フィリップを助けようと、ありつた力の力を込めて大きな黒い怪物に突進する。いよいよまごついたらしく、怪物はフィリップを手放し、よろめくような足どりで、横に移動しながら、暗い木立の中に消えた。

フィリップはしばらく気を失っていたので、ハーマンとオットーは彼が怪我をしているのだと思い、怪物の行方よりもそのほうが心配だった。

「ぼくらが抱き起こすと、フィリップは気がついた。2人で彼を家の中に入

れ、ドアにベッドを立てかけたよ」

怪物に接触したオットーとフィリップには、「腐った卵」のにおいが付着していた。服を脱いで湯を使い、着ていたものをすっかり燃やしたけれども、いやなおいは、そのあと何日間も彼らの体やあたりにしつこくからみついていた。

誘拐寸前の恐怖状態だったので、2人の被害者も目撃者も、詳細については多くを話せなかった。しかし、怪物が濃い体毛に覆われ、身長はおよそ2・4mほどもあっただろうという点で3人の証言は一致している。捕らえられたときにも意識を失わなかったオットーは、おそろしく力の強い生物で、体格のよい2人の青年を腕だけでぐに抱え上げる力を持っていたことを認めている。ジェサップ博士の推定によると、オットーは体重約68kg、フィリップは少なくとも80kgはあるだろうという。

ビッグフットの目撃報告には多く見られるように、それ自体が光を放っていたのか、あるいはヘッドライトの反射なのかははっきりしないが、目は緑色で、電球ほどの大きさだったとオットーは語っている。そして、控え目な表現で彼はつけ加えた。

「死ぬほどゾーッとする目だった！」

あいにくジェサップ博士は講演の予定がつかまっていて、周辺地域の他の目撃情報を集める時間がなかったし、そ

の地域に支部を持つUFO研究団体は1つもなかった。この事件の徹底的な調査は行われなかった。しかし、マーシャル・イブニング・クロニクルという地元の新聞のファイル調べてみると、このニュースの短い記事が出ており、いつものパターンが明るみに出された。はなはなしいUFO出現騒動は見られないが、事件の2日前に空に不思議な光体を見たという報告が3件あり、次の日には、郊外周辺を無音で低空飛行する謎の物体が認められたという簡単な記事があった。もつとも、この記事には「少年たちのタコによるいたずら」だという説明がつけられている。

いかにもUFO問題の正体を暴露しようとする連中の言いそうなことだが、こんな説明では、熟練した調査官を納得させることはできない。

(次号完結)



本戸淳子訳

UFOと一緒に「人間」らしき生物も見られたという例は、いちじるしく増加している。これが大気圏外から来るのか、それとも別な次元から来るのかは、議論の余地のある問題だ。しかも1973年のギャラップ調査によれば、米国の大人の11%、すなわち1500万人はUFOを目撃しており、UFOは未知の何かによって知的に操作される物体だと信じているという。

A

不気味に 唸る怪人

1972年1月下旬、16歳のジョン・イエリーとその弟ジェームズ、2人の小さな友達ダーレル・リッチとロビー・クロスの4名は、バトル・クリーク橋付近へ夜釣りに行くことにきめた。そこは米カリフォルニア州アンダーソンから数マイル東の地点である。濃い霧がたちこめて、4人の乗った車はのろのろと前進した。みんなはいらいらしながら話し合い、周囲の暗闇を見つめている。

突然ジョンが叫んで指さす方を見ると、強烈に輝く1個の物体が車の上方

を通過して、森林地帯で消えた。

数分後、彼らはバトル・クリーク橋で車を降りて約100m歩いた。そのとき、道路ぎわのヤブの方から、突き刺すようなギャーッという叫び声が聞こえたのである。

「あのゾッとするような叫び声を聞いて、見ると、ヤブの中に気味悪いものがいたんだ」とジョンが話す。

約15mむこうに1匹の生物が立っていた。身長2m、色は暗緑色ないし褐色で、頭の片側には大きな「耳」のようなものが突き出ている。飛行服のボケットに似た「コブ」のように見えるものが全身についていた。

仰天した少年たちは車の所へ走って引き返し、あわてふためいて乗り込んだが、エンジンがかからない。そこでジョンがクラッチを操作。車を一同があと押しすると、よたよたと走り出したので、みんなは車内へ転げ込み、ドアをしめてから、一目散に道路を逃げ帰った。

だが事件はまだ終わらなかった！道路をかなり走ったあたりで多数のホタルのようなものが現れたのである。青、白、オレンジ、赤の光体の群れが

両側の広い野原を不規則に動きまわっているのだ。このなかの2個が空中を垂直に上昇して消えた。ドライブを続けるにつれて、人間の形をした1個の発光体も見えた。

世にも奇怪な唸り声

少年たちはダーレル・リッチの家に着いて、事の次第をダーレルの父親デイン・リッチ氏に話した。彼はアンダーソンで評判のよい実業家である。拳銃をつかんだ彼は少年たちとともにバトル・クリーク橋へ急行した。

「子供たちは私をからかっているんだろうと思ったが、みんなすごく恐れていましたよ」と彼は言う。

一同は約100mほど暗い森の中へ歩いて入った。そして、またも一連の気味悪い声を聞いたのである。「実に気味のわるい唸り声だった。あんな体験は初めてだ」と彼は言っている。

少年たちは逃げ出したので、彼は1人だけになった。それで彼も引き返したが、太い唸り声とギャーッというすどい声はずっと続き、彼が車の所へ来ると、びたりとやんだ。

「チエイイスが驚いて見ていると、人間らしいものが、はいながらデツキの上に現れた！」これは1973年、カリフォルニア州で起こった事件である。はたして、チエイイスが目撃したものは、我々同様の人間なのだろうか？

「あれは不気味な怪物でした。クジャク、クマ、アメリカライオン、ヤマネコ、その他いかなる動物でもなかったですな」と語る。

怪物はどうやら同じ位置にいらなかった。ヤブの中に音も動きもなかったからだ。一同の意見によると、あの叫び声は人間を近づけまいとする警告なのだろうという。

報告を受けた警察は、現場へパトカーを派遣した。そして橋の付近一帯をくまなく車のスポットライトで照らしたが、何も発見できず、証拠もなかった。だが警察はリッチや少年たちが極度に恐れおののいているのを見て、何か不気味な事件が発生したことを認めた。調査したアンダーソンの警官は目撃者たちを個人的に知っており、全然ホラ話だとは思っていない。きわめて不安なのは、この事件が自宅に近い場所が発生したことだと、デイン・リッチは述べている。

B

よつんばいで 歩く怪人

1973年10月4日、カリフォルニアで保険代理店をやっているゲイリー・チエイイスは、地域治安局内で勤務中の係官の所へ出頭した。

「私は酔っぱらいではありません。実はとても面白い話があるんです！」彼は真剣に語り始めた。その日の

UFO目撃につきまの怪人



夜、早目にサンタ・スザナ・パスの山岳地帯を、シミ・バレーの自宅を指してドライブしていたとき、ロサンジェルス北西64kmの地点で、彼は謎のUFOの世界へ投げ込まれたという。

午後6時40分頃だった。高速道路を疾走していたチェイスは、仕事が終わったことを考えて、妻と娘の待つ家へ急ぐことに専念していた。太陽は沈んだが、空はまだ青い。ヘッドライトをつけるまで、しばらくの間は安全に運転できた。

ロッキーの峰のはずれまで来たとき、前方の山系の頂上に静止している黒い葉巻型物体が彼の目をとらえた。小型軟式飛行船だろうと思った彼は、車のスピードを落として見つけたが、物体は山頂のむこう側へかくれてしまった。

疾走を続けながら彼は右手を見て、峰の反対側の空中に物体の黒いシルエットが目につくものと思っていた。しかし山を回ってから、驚いたことに物体は消えていたのである。

チェイスはなおも数マイルをドライブしながら、物体を求めて空中を見続けた。すると、すぐうしろの峰の側から小さなホコリの雲が舞い上がるのが目についた。彼はキューナー車道の出口傾斜路で車を道路ばたへ寄せると、少しバックして、それを見ようとして外へ出た。

マークのついた細長い飛行体

眼下30mばかりの小さな谷の中に、長円形の飛行体が地上3mばかりの空間に浮かんで、ゆれているのが見えた。胴体の径は約6m、長さは少なくとも10mあり、尾部は頭部の2倍も太い。夕方近くのため、色の識別は困難だが、なめらかな表面は自動車のにぶいグレー色に似ている。長さ約2・5m、太さ30cmのホース状の物が物体の底部から突き出ている。これは下方の小川に届きそうだった。

チェイスが最も不可解に思ったのは、物体の横腹についている大きなマークである。巨大なV字マークに続いて、その内側に次第に小さなV字が並び、交互に暗い色と明るい色で塗られている。

チェイスは首をひねりながら道路ぎわに立って、だれかが通りがかりに一緒に見てくれないものかと思っていたが、結局目撃者は彼1人だった。

ダイバー服の

“人間”が出現！

静かにゆれている物体の頂上から突然、直径約1mの澄んだガラス状のドームが出現して開いた。チェイスが驚いて見ていると、人間らしいものが、はいながらデッキの上に現れて、物体の頭部の方へ動いて行った。体つきは普通で、ダイバー服みたいな服を着て

大い足跡を残した怪人
1973年5月 ワシントン州ベデー

カリフォルニア州アンダーソン

怪人
カリフォルニア州

白い服を着た子供の怪人
(1964年4月24日 ニューメキシコ州)



カナダ

アメリカ合衆国

メキシコ



毛むくじゃらの怪人
(1973年5月 ペンシルベニア州
グリーンズバーグ)

横向きに走る怪人
(1973年10月 バージニア州ダンビル)



バトカーよりも早く走る怪人
(1973年10月 アラバマ州フォークビル)



ブラジル

サンパウロ

閃光を発する道具を持った怪人
(1968年10月9日 ブラジル・リンス)



© 白い服を着た 子供の怪人

1964年4月24日、米ニューメキシコの警官ロニー・ザモラは、空中に出現して小峡谷に降下したUFOを追跡した。物体が着陸した現場へ到着すると、2度にわたるドカンという大きな音が聞こえた。車を降りたザモラが峡谷へ歩いて行くと、2人の人間らし

いる。顔はよく見えない。その顔とおぼしき部分は服の色よりも黒いからだ。
「人間」がホース状の物に近づくとも物体からカチッという大きな音が響いて、その瞬間、「人間」はチェイスの方を見上げた。そしてすぐうつむいて、四つんばいで急速にもとの位置へ引き返した。
頂上の澄んだドームが回転し始めて閃光を放ってから引込んだ。するとまた物音が響いた。何かが振動しているような極端に低いブーンという音である。突然、濃い不透明な雲状の物質が、飛行体を包み始めた。そして船体の周囲を6mも余分にふくらんだ。この「モヤ」のようなものはチェイスの所までは届かなかったが、鼻を突き刺すような甘い匂いがした。彼は約1分間それを見た。すると突然、「モヤ」が消えて、ついでに飛行体も消えていた！



④巨大な足
(1971年5月)



④不気味に唸る怪 —
(1972年1月 カオル)



⑧ よつんばで歩
(1973年10月 日
ロサンゼルス(外))



きものが物体のそばに立っていた。白またはベージュ色の衣服を着た「子供または背の低い大人」のように見える相手はザモラを見て驚いた様子で、すぐに飛行体の中へ入り、空中へ飛び去った。

④ 閃光を発する
道具を持った怪人

1968年10月9日には、ブラジルはリンスの住人ドリビオ・ペレイラが、タマゴ型UFOに遭遇した。この謎の物体の近くにも人間みたいなものが出て、閃光を発する道具を持ち、そのためにペレイラは動けなくなった。飛行体の下のブラッドフォーム上に3名の“人間”が立っており、上部の透明なドーム内には、他の1人がキーボードのついた装置を使用しているようだった。外にいた人間は飛行体内に入り、空中へ飛び上がった。

⑤ 横向きに
走る怪人

1973年10月には、バージニア州
ダンビルの3名の少年が、白色にキラ
キラ光るものを着た1・2mぐらいの
人間から追いかけられた。相手は大き

な頭をしており、目は見えないらしく、横向きに走ったが、この付近にもく、緑色に輝く UFO がいた。

パトカーよりも
早く走る怪人

同年10月には別な事件が発生している。アラバマ州フォークビルの警官がスズ箔はくのようなもので身を包んだ2m近い「人間」の写真をバラロイドで写真を4枚撮った。この生物がぎくしゃくしてパトカーの方へ歩み寄ったので、恐怖した警官が車のフラッシュライトを浴びせかけると、相手は逃げた。パトカーで追跡したが、生物はもつと速く走った。「あんなに速く走る人物を見たことがない！」と警官は言っている。

⑥ 毛むくじやらの怪人

ペンシルバニア州グリーンズバークのUFO研究家たちによる報告では、1973年5月から10月にわたるブームの期間中に、数10名の目撃者が、光る赤い服をした、毛むくじらの、身長2mを越えるサルのような生物を見たという。この報告は当初無視された

④ 巨大な
足跡を残した怪人

が、同地域のある目撃事件を調査中に、長さ32cm、幅20cmにも及ぶ3本指の大きな足跡が発見された。この生物は調査用として植物や動物の標本を集めるようにUFO乗員から訓練されたものかもしれないと考えられている。

ワシントン州ベードーのウォーレス・バワーズ夫人が、自宅のポーチから歩いて出たとき、前の庭に、長さ 30 cm、幅 15 cm という途方もない大きな足跡を数個発見した。足跡は雪の中にきれいに残っており、底の砂利の層を 5 cm もへこませている。夫人は恐怖で震え上った。太平洋側北西部一帯に、夜間のし歩く「大足の怪物」の噂が広まっていたからだ。その怪物が自宅のそばへ出現しようとは！

UFOも現れて
居間に怪しい人影が……

だが、これはまだ事件の序の口にす

ぎなかった！ 3日後に、夫人は4人の子供が興奮して叫ぶ声を聞いた。窓の所へ来いというのだ。恐れおののきながら彼女が窓の外の「怪物」を見ようとしたとき、更に驚愕した。輝くオレンジ色の円盤状 UFO が電線付近まで飛来して、空中に停止するのを見たのである！ 夫人はすぐに隣の人を呼んだ。その人も、UFO が無音で空中を飛んで停止し、少しゆれるのを見た——まるで物体が地上の人間たちを見ているかのようにだ。物体は丸くて、上部にドームがあり、その周囲には輪が回転して、外側の縁が強烈に輝いている。

UFO は縦になり、強い白色光に変化した。それからジグザグに進行し、バワーズ家の方へゆっくりと接近して来た。恐怖している夫人にゾッとするような冷気がやってくる。そのとき、大きな「灰色の物」が物体から落下して、奇妙なするどい音が屋内のインターホンに響いた。

「おかしいのは、前夜インターホンを使用しようとしたとき、同じするどい

状態に返った。
物体は縦になったまま光点として矢
のように空中を飛び去った。
その週末、パウーズ夫人が暖炉にま
きをくべていたとき、ふと隣室を見る
と、カーテンがゆれているのが目につ

いた。窓から何者かが手を突っ込んで
いるらしい。子供たちはみな居間に
いた。そこで夫人は家の外へ避難させよ
うと、車に乗せて家を出たが、振り返
って見ると、居間の中に人影がたしか
に見えた。その後、家の中を調べる
と、盗まれた物はなかったが、2、3
の品が乱れていた。

① 発電所の作業員 を装っていた怪人

バーニス・ニブレットという女性が
小さな木造小屋へただ1人で住みつい
たのは1967年の10月のことで、場
所はブリティッシュ・コロンビアのバ
ンクーバーはホースシュー湾の北西数
マイルの所に位置する美しい孤島、キ
ーツ島である。彼女の奇怪な物語は次
のとおりだ。

孤島に出現した円盤

この小屋は夏季用に建てられたもの
で、冬にそなえて準備することが沢山
あった。夜になると彼女は疲れきって
作りつけベッドの上段に横になった
が、すぐそばに窓があるので、頭を持
ち上げなくても外が見えた。

翌年の1月27日、寒気のために午前
6時頃目が覚めた。外はまだ暗くて、
星々が輝いている。それを見ている
と、突然、強烈に光る1個の白い星が
動くのが目についた。2回ほど大きく

旋回し、数度水平にジグザグ飛行した
後、約10分間停止した。それから急速
に上昇し、黄色からピンクに変化し
た。これがいわゆるUFOなのだと思
った彼女は、初めて見たのを喜んだ。
それ以来、彼女は空を見続けること
にした。この小屋は標高20mばかりの
岩の頂上にあるので、空を観測するに
は絶好の場所である。道路が切れる位
置から100m離れているために、道
路からは見えない。

9月上旬から翌5月末まで、この島
の西側に住む人は彼女だけである。各
地にある小屋を訪れる人はほとんどい
ない。これはイーストボルの^{せんし}棧橋が
冬の間に撤去されるためで、水を供給
するポンプも止まってしまうからだ。

1月28日の夜、彼女は前側の窓から
別なUFOを見た。これは水面上空を
南から北へゆっくりと動いたが、物体
は細長く黒い飛行体で、両端にぶい
赤と黄の色彩がついていた。左右にゆ
れながら進行し、2、3度停止した。

小屋に現れた謎の2人連れ!

翌日の午後、きれいな黒い上下統
きの服を着た2人の男が小道をたどって
小屋までやって来た。自分たちは発電
所の作業員で、こんな所に人が住んで
いるのを発見して驚いたと言う。相手
の作業区域について尋ねたら、2人の
うちの上役らしい男が、ボウエル川か
ら電線を調査していると答えた。これ

は2人の男にとっては長いルートであ
る。こんな所に住むのが好きなのか、
ときには恐ろしくならないかと、相手
が聞くので、何か恐ろしい事でもある
のかと尋ね返すと、男たちは互いに顔
を見合わせたが、上役らしい男が「あ
あ、いろいろな事がね」と答えた。
相手2人はかなり友好的だが、少々
もの静かで、UFO問題を話し合うよ
うな人には見えないため、彼女はその
問題を出さなかった。

2人が去ったあと、彼女は不思議に
思った。小屋は道路から見えないのに
どうして彼らはここに人が住んでいる
ことを知ったのだろう。海上からもほ
とんど見えないはずだ。彼らが来たど
き、ストーブは外に出してあったので
煙突から煙も出ていなかった。

葉巻型物体も出た!

2月17日の午前6時頃、彼女は目を
覚ました。外はまだ暗い。またUFO
が北から南へ飛ぶのが見えた。今度は
かなり低空である。これはたしかに細
長く黒い物体で、両端には赤と黄の色
光がついている。他の目撃の場合と同
様に、ときおりにぶくなり、ほとんど
消えそうになることがあった。

彼女は不安を覚えるようになり、U
FOの目撃に関心が薄れてきた。自分
はUFOから「標本」にされるのかも
しれない! 数年前にテレビで見たイ
ンタビューが浮かんでくる。あるアメ

リカ人夫妻がUFOの中へ連れ込ま
れ、徹底的な身体検査をされたあげ
く、解放されたときには全然記憶がな
かったのに、逆行催眠で思い出したと
いう例である。

続いて2月21日に、彼女は正面窓の
方へ歩み寄った。太陽が沈もうとして
おり、空と水はピンク色に染まってい
る。ふと見ると水面上約20mの位置に
物体がいて、両端を黄色の色彩がおお
い、真中は明るい赤色彩で輝いてい
る。これが小屋の近くの岩場の左から
滑空し、また水面の方へ引き返した。
レール上を走るように滑空するのであ
る。彼女は全身が震えた。物体はきわ
めて容易に無音で動きまわっている。

物体が消えてから、好奇心が起こつ
た彼女は、勇気を出して岩場の端まで
出て行った。遠くを見ると、ラギッド
島の他端に大きな船が半分目につ
いた。光が照らされている。どうして
あんな所に船がいるのかと、いぶかっ
ていると、船体から3個の黄色い光体
が飛び上がった。大きさはよくわか
らない。直径は1mあまりだろうか。つ
いに5、6個になって、ボウエン島へ
向かうのもあれば、キーツ島その他の
方向へ飛ぶものもある。これらがあちこ
ち自在に飛び回るのを彼女は恐怖して
見つめた。

小屋へ走り帰って、彼女はドアに
カギをかけた。翌日、船を持っている
人たちに電話をかけたが、何かを見誤

ったのだらうといって、だれも相手にしなかった。

また謎の2人連れ!

その後も彼女はUFOで種々の不気味な体験をした。不思議な飛行体は依然として出現し続けたのである。

5月2日、彼女は木の皮を拾いに北の海岸へ行った。仕事をすませて家の方へ道路を歩いてみると、2人の男がやって来るのに出会った。1人は以前に小屋へ来た上役らしい男で、他の1人は、今度は違っていた。19歳ぐらいの若い男である。彼女が近づくと、上役は若い男に、うしろから来いと手で合図して、彼女を待った。若い男はまるで奇形の人間を見るかのように見つめている。

「あなたのことが気になるので、またやって来たのだ」と上役が言った。

「大丈夫よ」と彼女が答えて「新しい助手をつれて来たのね」と言うと、

「そう」とだけ相手は答えた。

「新しい仕事はどお？」と若い男に聞くと、彼はまじめな顔をして、少し頭を上げてから、「すてきな仕事です」と言う。

本物の作業員が証言

翌日、前日に落とした木の皮を拾いに道路へ出かけた彼女は、小型トラックがゆっくりと来るのを見た。道路の切れ目まで来て停車してから、4人の

男が飛び降りた。彼らは発電所の作業員で、きわめて人間らしく、無造作に服を着込んでいる。上下統きの作業服ではない。前日の「上役」は見当たらず、みんなは彼女を見て別段驚くでもなく、特別な関心も示さない。

そこで彼女が、前日に2人の作業員が来たことを話すと、それは発電所の作業員ではなく、だれかが「だました」のだらうと言う。

こうして最初の2人の男がだれであったかが、次第に彼女にわかり始めたのである。彼らはUFOの乗員だったのだ!

「あらゆる人間はみな違います。それは当然です。他人と言葉を交わすとき、相手の言葉使いに少し変なところがあったり、訛(なまり)があったりしても、私たちは、どここの国から来たのだらうかと思うだけで、どここの惑星から来たのかとは思いません。これはミステイクではないでしうか」と彼女は語っている。

最も確実なUFOの目撃すらも無視してかかる人は常にいる。しかしUFO目撃を幅広く調査したある詳細な研究によれば、人々が確実に不可解な物体を見たことを示している。言い換えれば、根本的な問題は、決定的なUFO報告を拒否する人々にある。心理学者によれば、大多数のUFO目撃者は真実をよくつかんでいるが、一方、あ

らゆる目撃報告を否定する不信者は、こうした不思議な出来事の実在を想像する能力に欠けているのだという。この典型的な例はある流星専門家の場合である。彼はUFO否定論者で、「UFO目撃を信ずるわけにはゆかない。これは眼視による証言であり、人々が空中に見たという物をあてにするわけにはゆかないのだ」と言っている。

だが、この不信者も狼狽(ろうたい)するときがきた。流星研究の分野で集められたデータ(データ)の90%も眼視観測によるものではないかと指摘されたからである! このことは彼の流星研究を無意味にするだらうか。もちろん、そんなことはない。しかし彼の考え方に従えば、もし目撃者が流星を見たのなら、それは受け入れられるが、UFOを見たと言えば、キチガイとされるのである。

ここで人は尋ねるだらう。バーニス・ニブレットのような人々が報告した「人間」が大気圏外から来たとしても、宇宙から来る生物が我々に似ているとは考えられないではないかと。この可能性を証することは目下不可能である。その「人間」たちが無数の太陽系の生命体の代表であるかどうかは、いづれ「時」が解決するだらう。

しかし今日、今この瞬間に、だれかが到底信じがたい体験に直面しているかもしれない。地球上を歩く異星人に遭遇しているかもしれないのだ。

久保田八郎記

会員大募集中!

(超常現象研究会)

ULC

■入会費300円 ■年会費2,000円

〒125 東京都葛飾区高砂3-8-15
アイコーマンション307

神秘の世界に挑戦する!!

- ヨーガ、UFO、心霊、この世界の始まりなど不思議な世界に関心のある方。
- 子供や子供の心を忘れない方、子供の心をとりたい方
- 夢と理想にあふれる方もぜひはいて下さい。
- 超能力や霊感がある人などぜひはいて下さい。
- 特定の研究会などにはいてる人も全く関係ありません。

(代表) 小高幹博

TEL. 03-672-9463
(電話相談無料)

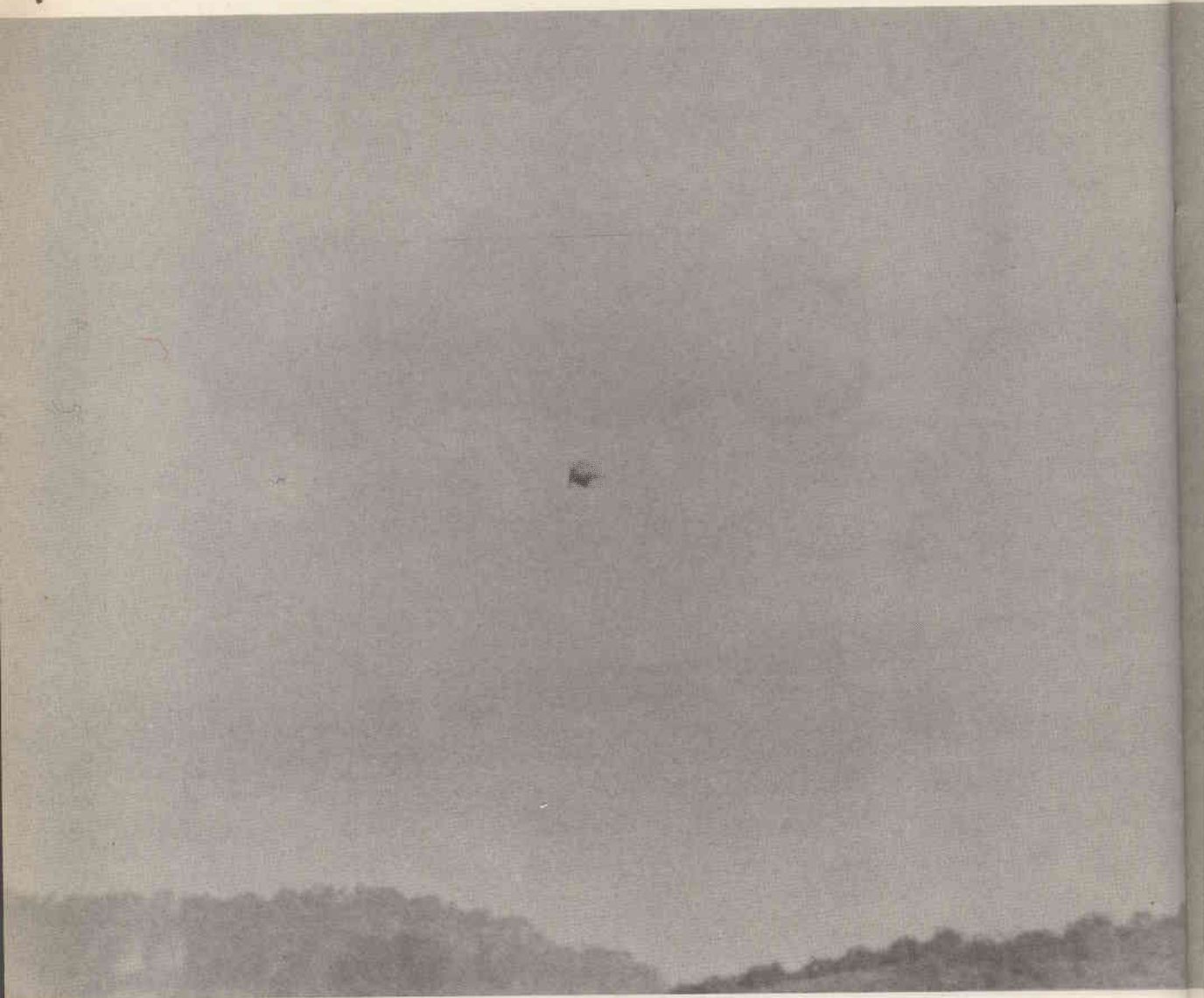
奇妙なUFOが着陸！



①

1973年11月3日、メキシコ人のヒメネス氏夫妻（本人たちのプライバシーを守るために仮名にしてある）は、子供と子守りのローサを連れてモレーロス州の行楽地ココヨクへ車で出かけた。この日は日曜日で、交通渋滞を避けるためにヒメネス氏は早目にメキシコ市へ引き返すことにして、4時頃に出発した。

メキシコ、ココヨクに



②

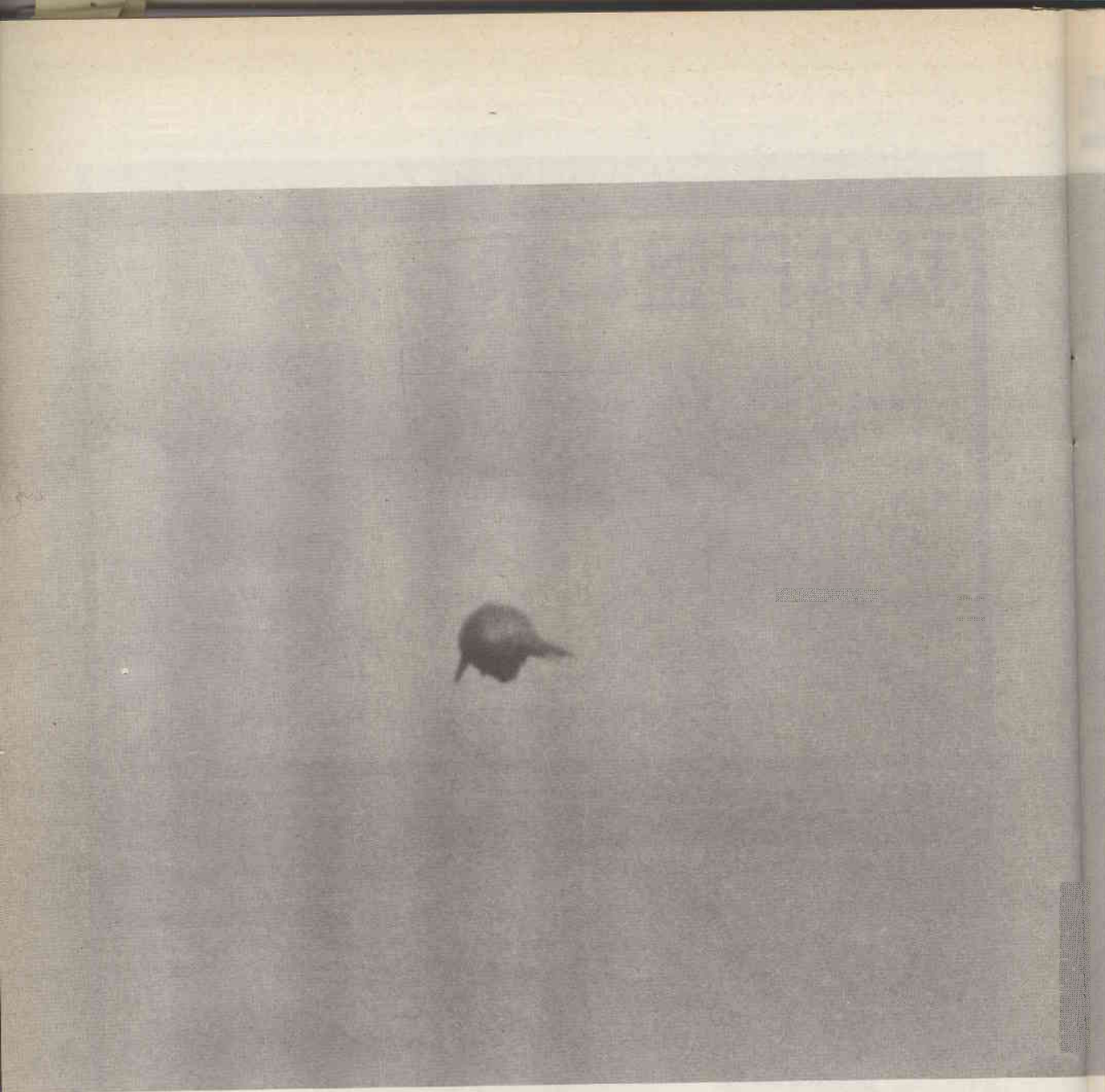
午後4時45分頃、モレーロス州のココヨクとオアフテペク間の国道を走っていたとき、ヒメネス夫人が空中に奇妙な物体を発見した。よく見ようとしてヒメネス氏は車をとめて外へ出た。実に奇妙な物体で、彼らを観察しているかのように非常にゆつくりと降下している。まるでナシをさかさにしたような形だ。しかも物体の周囲に「触手」のような物が数本突き出ている。これは空中を泳ぐかのように移動の手段に用いられているらしい。それらは進行方向とは逆方向にたなびいていた。

(次頁へ続く)



③

この物体はやがて「触手」を下へ向けて着陸した。このとき付近にいた地元の子供2人も目撃してその方へ走って行った。ヒメネス氏の車から250〜300mの位置の樹木のそばに停止している。妻君と子守りが恐れて「早く逃げよう」とせきたてるので、ヒメネス氏は車を運転して走り去った。



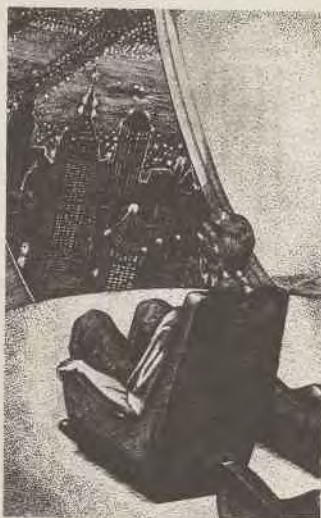
ここに掲げた写真は目撃中に氏が連続撮影した6枚の写真のうちの一部分で、物体は高さ約12 m、直径8 mあったと思われる、目撃時間は約8分間であつた。このとき全く同型の物体がもう1個前方に見えたというが、それは撮影されていない。未公開の珍しい写真である。

驚異のホワイトサンズ事件 ダニエル・フライ著／久保田八郎訳

私は円盤に乗った！

B 6 判
272 頁
¥ 750
〒 160

1950年7月4日夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを30分間で往復する！ その間、円盤の推進法や宇宙人の故郷と超絶した科学、哀れな地球の現状等を知らされるというこの驚異の事実物語は、本誌第2号に掲載されて当時の読者を熱狂せしめたが、いま新装なった単行本として同著者によるすばらしい関連記事三篇をあわせ収録しあらためて読者に贈る！ UFO研究者必読の書。



付・宇宙人アランのメッセージ／
進歩の曲がり道／原子・銀河系・理解

ユニバースUFOシリーズ

宇宙人の劇的出現事件 ノーマン・クラットウェル神父著／増野一郎訳

パプア島の円盤騒動

B 6 判
268 頁
¥ 750
〒 160



ニューギニア島パプアで1959年に一大UFO出現ブームが発生した。島内の各所に円盤が低空で降下し、堂々と姿を現したが、特にボイアナイにおける出現は劇的であった。地上数十メートルの位置に停止した円盤の上部から、数名の「人間」が、歓声をあげて手を振る島民たちに手を振ってこたえる。この驚異的事実を現地在住のクラットウェル神父が徹底的に調査報告し、大事件の全貌を克明に伝えたすばらしいドキュメント！ 更にフランスで発生した「火の玉UFO事件」と「多条光線を放つ円盤」他4篇を掲載した！

付・フランスの怪奇・火の玉UFO事
件／多条光線を放つ円盤

書店にない場合はユニバース出版社へ直接ご注文ください。

火星の謎のピラミッド型物体

火星探査機マリナー9号が撮影した不思議な写真——人工建造物か？



聖書と宇宙人

地球外生物からのメッセージ

■連載第1回■

クロード・ボリロン

CLAUDE VORILHON

"RAEL"

LE LIVRE QUI DIT LA VERITE



LE MESSAGE

DONNÉ PAR LES
EXTRA-TERRESTRES



L'EDITION DU MESSAGE

☆フランスの若いジャーナリスト、クロード・ボリロンは、1973年12月、UFOに乗って出現した異星人と連続6日間にわたってコンタクトしたという。この異星人は、地球に生命を創造し、太古の人類から“神”と呼ばれたのは自分たちの惑星の人々だと語った。そしてクロードに、聖書の記述に秘められている真実を次々と説き明かしていった……

第1章 宇宙人との出会い

私は9歳のときから、ずっとスポーツカーに熱狂していた。3年前にこの分野の専門誌を創刊したのも、人々が他人を追い抜こうと自己のベストを尽している、このエキサイティングな環境で私も暮らしたいと思ったからである。私は幼少の頃からいつの日かレーサーになって、あの偉大なフアンジオのあとを継ぐと夢みていた。発行している雑誌の関係で、私自身も運転の腕前はかなりのものである。現在、私のアパートには10個ほどの優勝カップが飾ってある。

1973年12月13日の朝、私はクレモン・フェランにそびえている火山へと出かけた。自動車を走らせて、いい空気を吸いたくなったのである。この1年ほとんど車に乗りづめで、サーキットからサーキットへとコースを追い求めていたあとなので、足がムズムズしていた。

空気がさわやかだが、空はかなり灰色がかり、霧がたちこめていた。私はすこしばかりぶらつくことにした。車を止めた道からはずれて、ピュイ・ド・ラ・ヴァシエのクレーターの中心へと足を向けた。そこへは夏に、しばしば家族と共にピクニックにでかけたことがある。なんとも壮大で、わくわくする場所である。この私の足が触れて

いる地面で、何千年も昔に、信じ難いほど高温の熔岩が噴出したのだ。いまでも飾りにしたいような火山弾を、火山岩の中に見つけ出せる。植物の成育はプロバンスとは思えないほど貧弱だし、太陽はそれに輪をかけている。私はその場を立ち去りながら、最後に火山岩の堆積で造られた環状山の頂上を一べつした。この急斜面をスキーのように滑り降りて、何度楽しんだことだろう。

円盤が着陸して宇宙人が出現！

突然、霧の中に、点滅する赤い光が見えた。そして、ヘリコプターのようなものが私の方に下降してきた。しかし、ヘリコプターなら騒音をたてるはずだが、全く何の音も聞こえない。気球だろうか。その機体はいまや高度20mほどになり、平たい形をしているのが見てとれた。空飛ぶ円盤だ！

私はずっと前から空飛ぶ円盤の存在を確信していたが、自分の目で見える日が来るとは思ってもいなかった。直径7m程度、底部は平たく、上部は円錐形をしている。高さは2m50cmぐらいである。底部では強烈な赤い光が点滅し、頂部ではカメラのフラッシュのような白い光がパッパッときらめく。そ

の白い光はとてもまぶしく、目を細めずには見られなかった。機体は音もなく下降を続け、地上2mで静止した。私は身動きひとつせず、その場に立ちつくしていた。恐れを感じるところか、この瞬間に生きていた喜びに満たされた。カメラを持ってこなかったのが、とても残念だった。それから、信じられないことが起きた。機体下部の揚げ蓋が開き、ハシゴのようなものが地面まで下りてきたのである。何か生物が出てくるのがわかった。私はそれと自問した。

まず2つの足先が、続いて2本の脚が現れた。それで私は、恐らく人間と同じ形をしているのだらうと思い安心した。ついに全身が出現したとき、最初、子供と見間違えた。が、その人物がトラップを降りて私の方に顔を向けたので、1m20cm足らずの身長にもかかわらず、彼が子供ではないことが分かった。目はかなり細い。髪は黒くて長く、やはり黒くて短い顎ヒゲを生やしている。彼は私からはぼ10m離れた所で立ち止まった。私はその間、ずっと動かなかった。彼は身体をすっぽりおおう緑色のコンビネーションを着ており、頭は大気にさらしているようだったが、そのまわりを不思議な後光が取り巻いていた。本当は後光ではないのかも知れないが、顔の周囲の空気がわずかに輝き、震えている。まるで

目に見えない潜水服を着ているか、ほとんど知覚できない精妙な泡のせいのように思えた。皮膚は白く、やや緑がかっている。肝臓が悪い人の肌のようにだった。彼が微笑したので、私もおかしに微笑するのが一番いいだろうと考えた。なんとなく落ち着かない。私と同じように微笑し、挨拶がわりに頭を軽く傾けると、彼も同じような身振りで答えた。私は、私の言うことを理解できるのかどうか知らなければと思って、彼に話しかけてみた。

——どこから来たのですか？

彼は力強い声で私に答えた。はっきりとした話し方だが、やや鼻にかかっている。

「とても遠くから……」

——フランス語を話すのですか？

「世界中のあらゆる言葉を話せます」

——ほかの惑星から来たのですか？

「ええ」

彼は話しながら、私から約2mのところまで近づいた。

——あなたが地球に来たのは、これが初めてですか？

「いいえ、違います」

——しばしば訪れているのですか？

「しばしば……それでも言い足りないくらいです」

——何をしに来られるのですか？

「今日は、あなたと話すためです」

——私と？

「ええ、クロード・ポリロンさん、ス

ポーツカーの小さな専門誌の編集者で、すでに結婚していて2人の子供のあるあなたとです」

——どうして、そんなによく知っておられるのですか？

「私たちはずっと以前から、あなたを観察していましたから」

——なぜ私を？

「それをこれからお話ししたいのです。こんな冬の寒い朝に、あなたはどろしてここに来たのですか？」

——さあ……野外をちょっと歩き回りたいと思ったから……

「ここへは、よく来るのですか？」

——ええ、夏には。でも、この時期にはありません。

「それなら、今日はなぜ？ 散歩はずっと前から計画していたのですか？」

——いいえ、わかりません。今朝目が覚めたとき、ここへやって来たくなったのです。

「私があなたに会いたいと思ったから、あなたはここに来たのです。あなたはテレパシーを信じますか？」

——ええ、確かに。「空飛ぶ円盤」に關係があるものすべてに関心を持っていますので。でも、私自身が見るなんて思ってもいませんでした。

「なるほど。私はあなたをここに來させるのに、テレパシーを使ったのです。あなたに話したいことは沢山あります。あなたは聖書を読んだことがありますか？」

——ええ。なぜそんなことを聞くのですか？

「あなたが読んだのは、ずっと以前ですか？」

——いいえ。ほんの数日前に買ったのです。

「それはまたなぜ？」

——わかりません。急に読みたくなったのです。

「それもテレパシーで、私があなたに聖書を買わせたのです。あなたに話すことは沢山あります。私はあなたをとて困難な使命のために選んだのです。私の宇宙船において下さい。そのほうが話しやすいでしょう」

円盤の中へ入る

私は彼に従って、宇宙船の下にある小さなハシゴ段から中に入った。間近で見ると、宇宙船は下側が平たくて中高の、押しつぶした鐘にやや似ていた。船内には2つの椅子が向かい合わせになっている。ドアを閉めないのに温度は暖かかった。ランプはなかったが、あらゆるところから自然光がさし込んで来ていた。操縦席と呼べるような計器類はどこにも見当たらない。床は青味を帯びた艶消しの合金製である。とても大きくて低い椅子に腰を下ろした。椅子は無色でやや透き通った、とても座り心地の良い単一の材質でできている。小人も私に向かい合っ

て腰を下ろした。椅子は私のものと似ているが、もっと小さくて高く、2人の顔が同じ高さにくるようになっている。それから彼が壁の一部をさわる、床と頂部を除いて、機体は透明になった。まるで野外にいるようだが、とても暖かい。彼の勧めで私がコートを脱いでから、彼は話しはじめた。

「あなたはカメラを持ってこなかったのを大変残念がっていますね。私たちの会話をみんなに知らせる際、その証拠となるものを示したいでしょう」

——ええ、まあ。

「よくお聞き下さい。みんなに話してかまいませんが、そのときには、彼らがどういう者であり、私たちがどういう者であるかについての真実を話すようにして下さい。彼らの反応にしたがって、もし可能なら、彼らの前におおびらに姿を現わすことにしましょう。あなたがみんなに話すときには、あなたの言うことを信じない人たちに正しく対処し、彼らに反駁できない証拠を示せるように、賢明に振舞いなさい。私の話すことをすべて書き留め、編集して出版しなさい」

——あなたがたは、どうして私を選んだのですか？

「理由は沢山あります。まず第一に新しい考えが受け入れられ、表現の自由がある国に住んでいる人でなければなりませんでした。フランスは民主主義が誕生した国ですし、国土全体に自由

の国というイメージがあります。次に、知性的で偏見のない人が必要でした。最後に、とても大切なことですが、自由な考えを持ちながら宗教を頭から否定しない人でなければなりませんでした。あなたのお父さんはユダヤ人でお母さんはカトリック教徒です。だからあなたは、世界の歴史の中でも重要な2つの民族の間の理想的なきずなです。その反面、あなたの活動は神のお告げといった信じ難いものに陥ることがないので、あなたの言葉はほとんどの人にとって信じられるものです。科学的でなければ意味を理解できないし、簡潔に説明できません。また文学的でなければ複雑でむづかしい文章を大勢の人に読ませられません。というわけで、1945年に最初の原爆が投下されてから私たちはだれかを選ぼうと決心しました。あなたは1946年生まれですから、私たちは誕生以来、ずっとあなたを見守ってきました。私たちがあなたを選んだのはこういうわけです。ほかに何か質問がありますか？」

——あなたは、どこから来られたのですか？

「はるか遠くの惑星からです。この惑星についてはお話ししません。地球人が賢明でない場合、私たちの平穩が乱される恐れがありますから」

——その惑星はとても遠くにあるのですか？



W. V. K.

「とても遠いです。その距離を言ったら、あなたがたの科学や技術ではとうてい行けないことが分かるでしょう」

——あなたがたは自分のことを何と呼んでいるのですか？

「私たちはあなたがたと同じ人間です。住んでいる惑星も地球にかなりよく似ています」

——地球に来るのに、どのくらいの時間がかかりますか？

「一瞬の間です」

——どうして地球を訪れるのですか？

「人間の住んでいる場所を見て、彼らを見守るためです。人間には未来があります。私たちは過去の者です」

——あなたがたは大勢いるのですか？

「地球人より多いです」

——あなたの惑星に行ってみたいのですが、可能でしょうか？

「だめです。まず第一、あなたはそこ

第2章 真実

創世記

翌日、私は手帳と万年筆、それに聖書を携えて会見におもむいた。宇宙船は約束の時間に現れた。あの小人が私を宇宙船の中に招き、座り心地のよい椅子に腰かけさせた。私はこの会見についてだれにも、近親者にさえ一言も漏らさなかった。私がこのように慎重

で生きていられません。大気が地球と全く違っていますから。それに宇宙旅行に耐えられないでしょう」

——私たちの会見を、どうしてこの場所にしたのですか？

「火山のクレーターは、人々の不快な目を避けるのに絶好の場所だからです。では、そろそろお別れしましょう。明日、聖書を持って、同じ時間にこの場所においでなさい。それから筆記用具も忘れずに。金属製の物は持っていないようにしなさい。また、再度私と会いたいのなら、この会見についてだれにも話さないようにしなさい」彼は私を小さな階段から地上へと導いた。私はコートを着ると、彼と握手した。階段はひっこみ、揚げ蓋が音もたてずに閉まった。それから宇宙船は全く無音で400mぐらいいまでゆっくりと上昇し、霧の中に消えていった。

に振舞ったのは幸いだった。彼は私にノートをとるよう勧めて、話しはじめた。

聖書を解説する

「はるか彼方にある私たちの惑星では、あなたがたが間もなく到達するような科学技術の水準に、ずっと昔に達していました。彼らは生命の原始的な

萌芽状態を創りはじめました。試験管の中の生命です。それにはみんな、「熱中」しました。科学者たちが技術を完璧なものにして、奇妙な小動物を創造する段階にまで達したとき、世論も政府も科学者たちが実験をさらに進めることを禁止しました。社会に危害をもたらすような怪物を創り出す恐れがあったからです。事実、それらの動物の中には逃げ出したものもあり、数人の犠牲者が出ました。一方、これと平行して、他の惑星や銀河系の探索も進められていきました。そこで科学者たちは、彼らの実験を続けるのに必要な条件をほぼすべて兼ね備えている遠くの惑星へと出発することにしました。

彼らの選んだのが、あなたがたたちの住んでいる地球です。私があなたがたに聖書を持参するように言ったのは、このためです。聖書の中には真実の痕跡が見つかるとです。ただ、聖書の記述者には技術工学についての知識が欠けていたため、記述はすべて神秘的で超自然的な色彩を帯び、やや変形されていますけれど。

聖書の中では、私があなたがたに解釈しあげる部分だけが重要です。ほかの部分は詩的なタワゴトなので、それについては触れないことにします。それでも、聖書を筆写する場合、全く改変してはならないというきまりのおかげで、数千年も伝えられていくうちに文章は謎めいたものとなり、役に立たな

くなっているにもかかわらず、ほんの些細な表現にも深遠な意味は残されています。

彼らが地球で生命を創造した

まず、『創世記』の第1章をごらんください。

『はじめにエロイムは天と地とを創造された』（創世記1・1）

聖書によつてはエロイムを神と不正確に訳しているが、エロイムとはヘブライ語で「天空より来たる者」の意味を持ち、れっきとした複数です。ここで言うておきたいのは、私たちの世界から逃げ出した科学者たちが、まず最初に、彼らの計画を実現する見込みのある惑星を捜し求めたということですが、彼らが地球を発見して、大気は彼らの惑星と同じではないが、人工生命の創造に必要な要素を備えているということを確かめ、「創造」したので

す。

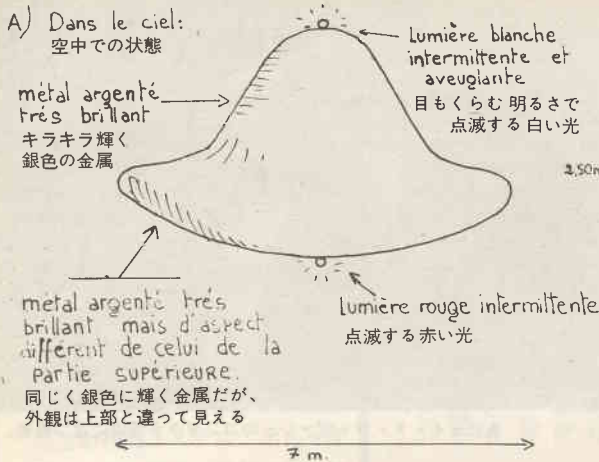
『エロイムの霊が水のおもてをおおっていた』（創世記1・2）

科学者たちは探査旅行を実施し、地球の組成と大気を研究するため、地球の周りに複数の人工衛星を配置しました。当時、地球は水と濃密な霧にすっぽり包まれていたのです。

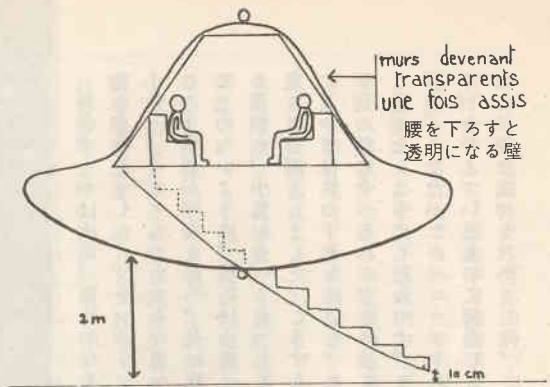
『エロイムはその光を見て、良しとされた』（創世記1・4）

地球上に生命を創造するためには、

DESSINS de L'ENGIN 円盤のスケッチ

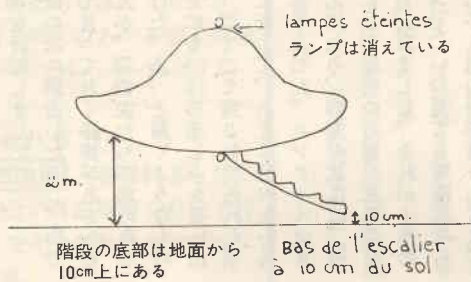


L'APPAREIL EN COUPE 円盤の断面図



◀▲筆者によるUFOのスケッチ

B) Au moment de la sortie de l'homme 円盤から宇宙人が出現した瞬間



太陽が地表に有害な光線を放射していないかどうかを知ることが重要でした。そして太陽は、有害な光線を放射することなく、地球を暖めていることが確かめられました。「その光は良」かったです。

『夕となり、また朝となった。第一日である』(創世記Ⅰ・5)

こうした調査はかなりの時間がかかりました。ここで言う1日は、あなたがたの太陽が春分点に昇ってから、それと星の配列が等しい日に昇るまでの期間に対応しているので、地球上でのほぼ2千年間にあたります。

『彼は、おおぞらの下の水とおおぞらの上の水とを分けられた』(創世記Ⅰ・7)

雲の下の宇宙線について研究したのち、科学者たちは水の上にずっと止まっている雲の下へと降りていきました。上の水および雲と、下の水との間は、大洋が地表すべてを覆っていました。

『天の下の水は一つ所に集まり、かわいた地が現れよ』(創世記Ⅰ・9)

大洋の海面を調査したのち、彼らは海中の調査に移り、それほど深くなくて、水深はどこでもほぼ同じだということを知りました。そこで彼らはブルドーザーに似た働きをする強力な爆薬を使用して、海底の物質を持ち上げて一カ所に集め、大陸を形成するようにしました。だから、もともと地球には1つの大陸しかなかったのです。地球の科学者たちも、これに由来するすべての大陸が、お互いにびったりと当ってはまって1つの大陸を形作るということを知るようになっていました。

『地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ』(創世記Ⅰ・11)

科学者たちは、この素晴らしい巨大な実験室で、化学物質だけから植物の細胞を創造しました。これから、あらゆる種類の植物が得られたのです。彼らの努力は、もっぱら生殖に重点が置かれました。彼らが生み出したいくつ

かの草の芽は、繁殖できるものでなければならなかったのです。科学者たちはさまざまな調査グループに分かれて、この広大な大陸のあちこちにおもむきました。そして各グループは、それぞれの気候に応じて、また自分たちのヒラメキに従ってさまざまな植物を創造しました。彼らは、各自の研究と創造物を比較検討するため、定期的に会合を持ちました。遠くにある彼らの惑星では、彼らの仕事を驚嘆と熱情をもって見守っていました。ある種の植物を、外観にしろ香りにしろ、もっぱら美しく好ましいものにするため、一流の芸術家たちも科学者の仲間に加わりました。

『天のおおぞらに光があつて昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のために役立て』(創世記Ⅰ・14)

科学者たちは星と太陽を観測することによって、地球の1日、1月、そして1年の長さを測定することができました。これは、彼らの彼らの惑星と全く違うこの新しい惑星での、彼らの生活を規則正しくするのに役立ちました。1日の長さも1年の長さも、彼らの惑星とは非常に異なっていたからです。また天文学的な研究によって、地球を正確に位置づけ、より良く理解することが可能になりました。

『水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上を飛べ』(創世記Ⅰ・20)



▲ピュイ・ド・ラ・ヴァシェのコンタクト現場に立つ筆者。

彼らはしばしば会合を開き、最も美しい動物あるいは最も興味深い動物を創造した科学者チームを決めるため、コンクールを計画しました。

彼らが魚の次に創造したのが鳥です。ここで言うとおく必要があるかも知れませんが、芸術家たちが鳥の色や形をバカげた、あっと驚くようなものにするにもつばら楽しみを見い出したため、ごてごて飾りたてられた羽根が邪魔になって、ろくに飛べない鳥も中にはありました。コンクールはますます盛んになり、形態の次には、繁殖期の前にこの動物の行動を変化させることも行われました。それが小鳥の求愛ダンスで、いつ見ても驚嘆させられます。しかし他の科学者チームは、恐ろしい動物を創造しました。あんながたが恐竜と呼んでいるものです。

『地は生き物を種類にしたがって生ぜよ。家畜と、這うものと、地の獣とを種類にしたがって生ぜよ』(創世記Ⅰ・24)

海と空の次に、科学者たちは大地の動物を創造しました。大地は植物が繁茂していたので、この植物を餌とする草食動物が最初に創られました。ひき続いて、草食動物の個体数を平衡化するために、肉食動物が創られました。

また、種同士の平衡を保たせる必要もありました。これらのことに携わった人々は、私のいる惑星から来たのです。私は、地球に生命を創り出した人

々の一員です。

人間も創造された

さてそれから、私たちの中で最も有能な人々は、私たちと同じような人間を人工的に創造しようとした。それぞれがチームが作業に従事し、間もなくお互いの創造物を比較できるようになりました。しかし、彼らが「試験管ベビー」を創っていることが彼らの惑星で問題になり、パニックをひき起こす恐れさえできました。もしもその人間の能力と力が創造者を上回ることにでもなれば、彼らにとって脅威になると恐れられたのです。そこで私たちは人間には科学を知らせずに原始的な状態で生存させるようにし、また私たちの使命を神秘化する必要があります。この創造者たちのチームがいくつかあったかは、すぐに分かります。それぞれの人種が各チームに対応しているのですから。

『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、地のすべての獣と、地のすべてのこのうものゝとを治めさせよう』(創世記Ⅰ・26)

われわれのかたち！ どれだけ似ているかは、一目見ただけであなたにも分かるでしょう。

ここから、私たちにとっていくつかの問題が起こってきました。現在、あ

なたがたがイスラエルと呼んでいる国がありますね。そこにいた科学者チームは、非常に優れたチームでした。その地の動物は最も美しく、その地の植物は最もかぐわしいものでした。あなたがたのいう地上の楽園とは、このことだったのです。そして、この地で創造された人間が最も高い知性を備えていました。そこで創造者たちは被創造者が彼らをしのがないような措置を講じなければなりません。人間を教え導くさいに、彼の知性が限られたものになるよう、科学の偉大な秘密には無知なままにしておく必要があったのです。

『あなたは園エデンのどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きつと死ぬであらう』(創世記Ⅱ・17)

これは次のように言い換えることができます。『おまえは私たちが持っている書物を自由に読んで、欲することは何でも学んでよろしい。しかし、死にたくないのなら、科学の書には手を触れてはならない』

『彼は獣を人のところへ連れてきて、人がそれにどんな名をつけるかを見られた』(創世記Ⅱ・19)

人が食物を得るためには、周囲の植物と動物について、その生活様式、獲得方法をよく知る必要があります。創造者たちは人に、彼のまわりの生き物

科学者たちは次に、原始的な水棲動物を創造しました。プランクトンから小魚へ。そしてもっと大きな魚へと。この小世界が平衡を保ち、死に絶えることのないように、彼らは小魚が食べる藻類や、小魚を食べるもっと大きな魚などを創造しました。こうすることによって自然の平衡を確立し、ある種が別の種に食べられて完全に滅亡することがないようにしたのです。これは現在、あなたがたがエコロジー(生態学)と呼んでいるものに相当します。この計画は成功を収めました。

心と体の統一強化

超道

◆超道師範資格取得講座

- カール・ヘニンガーの指導によりアメリカでプームを呼ぶ画期的運命転換システム「ボータ原理」、大脳生理学、深層心理学による独創的中枢能力開発によって、心と体の統一強化をはかる。
- 自宅に居ながら誰にでもでき、短期間で効果のあがる個人指導方式(パーソナルメッセージシステム)

〇—〇 〇—〇 〇—〇 〇—〇

◆入門される方へ

- 通信講座部** (基礎科3ヵ月)
1日10分の行法練習を自宅で行うだけで充分効果のあがるシステム指導。
受講料:9,000円(スクーリング付)
- 通学部** (基礎科3ヵ月)
銀座会場で毎月1回直接個人指導を徹底に行う。
受講料:15,000円

尚、基礎科終了後、本科(10ヵ月)師範科(1年)に進めます。

申込方法 ハガキに通信、通学の別を明記の上、**超道受講**と書いて申込み下さい。受講料は教材到着後振替又は現金書留でお近くの郵便局からご送付下さい。

唯超学会(UFO係)

- ◆〒104 東京都中央区銀座 2の8の17 (中川ビル1号室)
TEL 03 (567) 6 7 1 8
資料呈:超道資料(通信・通学の別)と書いて、切手50円同封下さい。

すべての名前とそれぞれの持つ力とを学ばせました。植物学と動物学は、彼らにとって危険でなかったからです。男女2人の子供が駆け回りながら自分たちの欲するあらゆる種類の事柄を学ぶ有様を見て、この科学者チームがどんなに喜んだことでしょう。『ヘビは女に言った……園にある木の実に……あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べる、あなたがたの目が開け、神のようになることを、エロイムは知っておられるのです』(創世記Ⅲ・1)

このチームの科学者の中に、自分たちの「被創造物」である人を深くいくつかしんでいる人々がいました。彼らはこの子どもたちに完全な知識を授けて、彼らのような科学者にしたいと考えました。彼らは、間もなく成人になるこの若者たちに、科学を学べば創造者と同じほどの強大な力を持つことができる」と語りました。

(創世記Ⅲ・21)

『すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかった』(創世記Ⅲ・7)

こうして人間は、自分たちも創造者になれることを知りました。そして、彼らの父が科学書に触れることを彼らに禁じ、まるで実験室の危険な動物のようにみなしていたことに恨みを持ちました。

『イアーベ・エロイムはヘビに言われた。おまえは……最ものろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであろう』(創世記Ⅲ・14)

アダムとイブに真実を教えようとしたこの創造者の中の小グループ「ヘビ」は、他の創造者たちが実験を止めて地球を去ったのに対して、彼らの惑星の政府によって追放されて地球で暮らすように命じられました。

『エロイムは人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた』(創世記Ⅲ・21)

創造者たちは、人に原始的な生存手段を与えて、創造者たちと接触せず2人だけで困難を切り抜けるようにしむけました。聖書のこの部分は、オリジナルの文章をほぼ完全に保っています。

『人はわれわれのひとりのようなになり、善悪を知るものとなった。彼は手を伸べ、命の木からも取って食べ、永久に生きるかも知れない』(創世記Ⅲ・22)

人の生命は非常に短いですが、それを延ばす科学的な方法があります。人の生命について詳しく研究したある科学者は、人が年老いと進歩がゆるやかになるという興味深い発見をしています。もし人の寿命が10倍になったら人は科学的に素晴らしい飛躍をすることでしょう。もし最初から人の寿命がそれほど長かったら、人の能力は私たちがわずかに上回っているの、非常に速く私たちと同等になっていたこと

でしよう。人は自分の秘めている可能性を知らないのです。とくにイスラエルの民は、前にお話したコンクールで審査委員会により、知性と才能の面で最も成功を取めた地球人選ばれています。彼らが常に「神の選民」とみなされているのは、このためです。確かに彼らは、各々の仕事を判定するため集まった創造者チーム全体によって選ばれた民です。あなたも、この人種が生まれた時から持っている数多くの才能から、このことを確かめることができるでしょう。

『彼は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせた』(創世記Ⅲ・24)

創造者たちの住いの入口に、原子力破壊兵器を持った軍隊を配置して、人がほかの科学知識を奪いにくるのを防いだのです。

(以下次号) 中村省三訳

お望みの機種が
お求めになれます
メーカーから
ユーザーへ！

サテライト 天体望遠鏡

★ヤマモトの天体望遠鏡は
海外(アメリカ、フランス、
イタリア、ベルギーetc.)
で絶賛を博しております。

★この他多機種とりそろえてい
ます。詳しくは 250 円切手同
封の上カタログをり係へご請
求ください。

株式会社 **山本製作所**

〒174 東京都板橋区大原町5-3
☎(03)966-2408

AE-108

- 有効径：108mm
- 焦点距離：1600mm



特集

謎の黒い影

●UFO研究者やコンタクティーを脅迫する黒い不気味な男たちの正体は何か。闇夜に牛が惨殺されるキャトル・ミューティレーションは宇宙人のしわざか、そしてミサイル基地に侵入する黒いヘリコプターとは？ UFO世界に忍びよる黒い魔の手…その謎を追う！



とから始めることにしよう。

■現場からの驚くべき報告

●目撃報告Ⅰ 1967年1月20日
午後11時30分。

ウォルター・カシュナー夫人とその
2人の娘スーザン(17)、ターニャ(14)、
それに友達の子マリアン・ウィリ
アムソン(16)、は、

形のはっきりした円
盤状の輝くピンク色
の物体が、雲の下を
降下し、急角度でタ
ーンしたあと上昇し
て、山の峰に並行し
て飛ぶのを、カシュ

謎の黒服の男

●UFO目撃事件にしばしば出現する黒衣に身をかた
めた男たち。彼らはいったい何を代表する者たち
なのか、偏執者か、それとも人間以外のものなのか？

ロバート・ゴーマン

ナー家へ帰る途中、
目撃した。一同は物
体が音を出さなかつ

たことと、すさまじいスピードに恐れ
をなした。

ある」

これはロバート・シーファア氏が発
表した説である。ナンセンス！

「UFO目撃者がしばしば語るところ
によると、政府機関の人間かまたは気
味のわるい「黒服の男たち」が、UFO
の写真プリントやネガなどを没収す
るという。ときとして被害妄想という
ものは、ひどい精神錯乱の徴候なので、
無視してかからねばならない。特にテ
レビに出演して際限もなく長たらしい
話をする目撃者が多数いるからには、
よけいに眉にツバをつけて聞く必要が

ある」
これはロバート・シーファア氏が発
表した説である。ナンセンス！
よろしい。いわゆる「黒衣の男」に
関するシーファア氏の全く根拠のない
素朴な意見について、あらゆる点から
ここに解答を与えよう。しかしこの記
事を論説という落とし穴におとすより
もむしろ、視野の狭い「研究者」に対
する私の反論は、まず実例をあげるこ

●目撃報告Ⅱ 1967年1月21日
午前2時。

スーザン、ターニャ、マリアンの3
人が、ミニバジャマ・パーティーを開
いていたとき、スーザンの寝室の閉じ
られたカーテンを通して、奇妙な光を
3人同時に見た。急にカーテンは自然

に割れて、家から数フィート離れた位置の空間に浮かんでいる小さな三角形の物体が、目に痛いほどの強烈に輝くピンク色の光線を室内に放射し始めた。

物体が補助窓の方へ近づいたとき、

カーテンは自動的に開く動作をくり返して、物体から出る光は次第に強くなってきた。そこで娘たちは恐ろしくなり、飛び出そうとした。

突然、3人の娘は全身がマヒして叫ぶことも動くこともできなくなり、泣

きだしたが、ひどい恐怖のために祈りを始めた。しばらくして、光は消えて体の自由が回復したけれども、気味わるいめまいの感じが1時間近く続いたのである。

娘たちはカシユナー夫人を起こし、



●黒服に身をかためた謎の男たちは、道路へ出るとクルマのヘッドライトを消したまま走り去った。

泣きながら事件のことを話して、「あれ」がまたやって来るかもしれないと言って恐れおののいていた。母親は3人を落ち着かせて、いろいろと話した末、みんなが事件のことを忘れて他言しないほうが一番よいということになり、みんなは同意した。

■家の周囲をウロつく男

これで一応正常な状態に返ったが、事件から1週間後の1月28日の夕食後まもなく、2人の男がカシユナー家へやって来た。そして自分たちは米政府の調査員だと名乗り、驚いている母親に空軍の身分証明書を手渡した。丈夫な白い材質の紙に重厚な黒文字で印刷してあるそのカードが明らかにニセ物であることを、彼女は知る術もなかった。

本物の政府身分証明書は薄い板状の材質に本人の写真が刷り込んであり、大抵の場合は2色刷りである。しかも米空軍の特別調査員はそれを特殊な札入れに入れている。

だが、これはまだ序の口にすぎなかった。2人の男は黄かつ色のトレンチコートを着ており、ひざの部分から襟までボタンをかけていた。1人だけがしゃべったが、この男は背が高く、金髪で、目は緑色、やせて、皮膚は黒かつ色である。他の男は背が低く、黒髪で、するどい青目を持ち、これも黒

かった。

2人ともきわめて丁寧な態度を示したが、1つのことを極端にしつこく尋ねた。娘たちの体験を徹底的に探り出そうとしたのである。更に2人は奇妙な言動をなした。

家の周囲を歩き回るのだ。どうやら各部屋、家具、品物などのありかを知っているらしい。カシュナー家に関して全く知らない私は、1つの試みとして、慎重にそのトリックを再現してみた。

その空軍調査員と称する男が、どうやってカシュナー家のUFO目撃事件を知ったのかとターニャに聞かれて、背の高い男が冷たく答えた。

「我々はいろいろなことを知っているんですよ」

スーザンの話によると、2人の衣服は10分ほど前に衣類店で買ったばかりのように新しく、靴もまっさらであったという。背の高い男が持っていたタバコの箱は封を切らないまま、札入れまでが新品だった！

背の高い男はものわりのよい聞き方をし、本格的に描かれた図面の掲載されたルースリーフのノートブックと各種のUFOの外観と内部の写真類を持っていたが、背の低い男は速記者が用いるような細長いノートブックに、ひそかに何かを書き込んでいるのをスーは見た。驚いたことに、その男は縦の欄に奇妙な記号を書いている。左から

書き始めて、1つの欄を書きおろし、次に2番目の欄に移り、更に3番目から4番目へと移ってゆく。速記になっているスーにも、それらの記号の意味がわからなかった。

■政府関係者ではない！

一方、背の高い男はしゃべり続けて家族の人たちをケムに巻いた。UFOはアメリカの秘密実験機であり、人間や土地家を傷つけたりしない。それを見たということを公に洩らせば連邦捜査局の世話になるだろうという。

どうすればあなたがたに連絡できるのかとターニャが尋ねると、背の高い男が、啞然とさせるような言葉で質問をかわした。

「私は、どこでも、いつでも、あなたを発見できます！」

やがて謎の男たちは去って行き、道路へ出て、クルマのヘッドライトを消したままで走り去った。日没後にライトなしで走行するのは、ペンシルバニア州では交通違反である。

1つだけ明確な事実がある。この2人の男は絶対に政府関係者ではないということだ！

ここで重要なのは、私は家族の信用をかちとるために相当な苦勞をしたということである。しかもこの家族はきわめてまじめな人々であるという印象を受けた。

最初の調査中、はつきりしたのは、目撃者たちはUFOの基礎的な知識を全くもたなかったばかりか、黒服の男たちに関することも全然知らなかったということである。

訪問者を「政府関係の人」と言い、男たちの不合理な振舞いをいぶかっていた。

■新品の服と

ニセの身分証明書

この事件はウォーターゲート事件よりもずっと前の1967年1月に発生したということを忘れてはならない。これにより連邦や軍部の情報機関の悪弊に関する事実が明るみに出たのである。1967年に、一政府関係者が語った言葉を、みな聞いたはずだ。そして、同じ人が沈黙を命じれば、みな黙ってしまう。そのとき物事の推移は一切聞かされないのである。

どこから来たのかわからない黒い服の謎の男たちは、身分証明書を見せて目撃者たちを圧倒し、人々を混乱させてしまった。相手の男たちは全く同じ人間のように見えたし、その軍装のパターンは、だれの目にもよくわかった。2人にはたしかに一貫性があった。「いま買ったばかり」のように見える服、新しい靴、すてきな新品の札入れ等々。私は多数の軍関係者を知っているが、彼らの80パーセントはすり

宇宙人とのコンタクトや政界と民間への啓蒙活動をアダムスキーから実質的に引き継いで活躍している米国のグループからの最新情報と、生命の奥にひそむ普遍的真理の探究

空飛ぶ円盤と宇宙人に関する新しい教育誌

UFO教室

主な内容 ウィスコンシン州の円盤目撃・誘導事件と講演活動の相関性(トーマス・ハイマン) ■ワシントンへの旅——政界・空軍へのアピールと日本大使館訪問(センター報告) ■連載——アダムスキーの幻の著書「宇宙のバイオエアー達・第二回」 ■ブルー・ブック計画の結論は当然(安斎純夫) ■「UFO教室」発行の意義(古山晴久) ■メンバーの研究経過(葦沢潤一郎) ■他 ※6月末発行 価360円 送料140円 年二回発行分で1000円

UFO教育グループ

〒350-12 埼玉県入間郡日高町高萩2648-38

振替 東京 3-54681

アダムスキーの質疑応答集の決定版

進化した宇宙人と
他の惑星に関する

1965年版 質疑応答集(本邦初訳)

これ以前に出された質疑応答集には内容がゆがめられた所が多かったため、アダムスキー自身の手で旧本を改めて出されたもの
竹島正訳 価格350円(送料100円)

切れたような札入れを持ち、残りの20パーセントもある程度古びたのを持つている。札入れ（または身分証明書入れ）というものは靴と同じようなもので、使いながらしてこそ良さがわかってくるのである。

■問題は1つの本物の事件

そうだ。カシュナー家の事件はまさしくこのパターンにあてはまる。「黒服の男」が出現したという事件は1966年の夏の間、ふえ続けて、68年の秋まで急速に増加した。しかし68年になって初めて、少数の研究者でさえ

も、こうした事件の資料を入手し得るようになったのである。

我々は何を信ずればよいのか？ カシュナー家の人々は、1年半後に研究者たちが集めた「黒服の男」の事件資料と類似の正確きわまりないインテキをでっちあげるほどの見通しをもっていたのだろうか？

再度言おう。「ナンセンス！」。同家の人々は正直に、尾ひれをつけないで、発生した出来事を私に語ってくれたのだ。しかし我々とはかく目先の見えない人間や自分で考えたがらない人間たちに抑圧されがちである。

1969年は、だれしもUFO研究

者であるということ、かなりの貫録があったことは事実である。そして悪名高い「黒服の男たち」におどかされたUFO研究者には、もつとハクがついた。またこの頃は、多くのニセ「黒服の男」の話も出まわった。もちろんこのことも真実である。捏造者たちは十分なデータを集めて、巧みにでっちあげた。UFOについて考えたこともなかったカシュナー家の人々は、この例ではない。彼らは地元のUFO機関誌へあわてて報告するようなこともしなかった。どちらかといえば、黒服の男たちがやって来たために、だれにも全然話さなかったあの不気味な光線の

ことが明るみに出たのである。目撃者たちは沈黙させられた。なんとうまく達成されたことか。

我々がほとんど知っていないことや、感づいていることの半分も真実に近いということになれば、ひどく複雑かつファンタスティックな現象に直面していることになる。いまはこうして「素人」を我々のレベルに引き寄せるのをやめて、どうあるべきかを知らせるのもやめる時期ではないだろうか。筋道から言っても、謎の黒服の男の存在を証明するのに、ただ1つの本物の事件だけを取り上げるべきだ。

草笛三津雄訳

地球の水は惑星Mから来た

高橋実著

灼熱の氷惑星

常識をくつがえす途方もない新説！ 三千年周期で接近、地球に巨大量の水をドッと移し（最新例・ノア大洪水）、超大洪水、生態系絶滅、マンモス遺体の大集積などの異変を起こした謎の「天体M」の存在説で地球史の疑問が一挙に氷解。

- 第一章 仮説への道 地球の水は多すぎる 世界中に散在する洪水伝説………
- 第二章 謎の大天体の構造 深さ四千キロの大水圏 中心部は灼熱の水………
- 第三章 大天体が地球の近傍を通過 天体Mから噴出する巨大量の水が地球へ………
- 第四章 晩間の大異変 ノアの洪水は午前六時の異変であった 超大津波………
- 第五章 地質時代の謎を解く マンモスの死因は何か 砂漠、石炭、石油………
- 第六章 人類はどうなる

四六判 900円

待望の第2作！！

高橋実著

氷惑星の謎

氷惑星の痕跡を解説し大陸と海洋と生物の謎に挑む……… 四六判 900円

著者・高橋実紹介 昭和十五年東京大学工学部卒。水の特性、電離層、原子力の工学的エネルギー利用の研究に従事し、現在、財団法人「電力中央研究所」経済研究所理事待遇高橋研究室長

東京都新宿区新宿 1-25-13
☎(354)0685 振・東京 5-151594

原書房



UFO目撃を妨害するFBI

ラリー・W・ブライアント

●常套文句のように「UFO事件を調査する権限はない」と繰返しながらFBI（米連邦捜査局）は、UFOの目撃や着陸事件に何10年もまえから介入してきた。FBI暗躍の黒い背景！

もし、FBIが軍と協力して市民のUFO目撃報告を調査し、その市民たちの信用を失わせるため職員と施設を使用して組織的な秘密活動を続けていると知ったら、皆さんはいいと思いますか？

この発見に関して私がしようとしているのは、証拠を明らかにして、法律でこの積年の活動を阻止できるかどうか、皆さんにも心を決めてもらうことである。

もちろん、証拠といっても不完全な

ものだ——入手できるものが少ないわけではないが、FBIの活動の性質からいって、入手しにくいのである。何人かのUFO研究家たちのしつこいまでの努力と、情報自由法が最近改正されたおかげで、情報の入手もだいぶんになった。事実が次第に明るみに出てくれば、UFOという名のバイにFBIがどんなに指を深く食い込ませていたかがわかるだろう。

UFOの公式調査に果したFBIの役割に私が関心を抱きはじめたのは、かなり前の1959年2月1日

のことである。私はJ・エドガー・フーバーに手紙を書き、「1952年1月1日以後、異常空中現象の写真や映画を含めどのくらいのUFO目撃報告を収集・評価・分析しましたか？」と質問したのだ。「FBIはUFOの運動の分析に関する情報を入手したことがありますか？」とも聞いてやった。

フーバーは2月9日、いかにも彼ら



●ソコロにて。UFOのために焼けこげた茂みを空軍技術者がガイガー計測管で調査するのを見ている
ニューメキシコ州警察のロニー・ザモラ。背後の背広姿はFBIアルバカーキ事務所の職員だろうか？

しい温情主義的な調子の返事をよこした。「……FBIの保管する情報はすべて秘密であり、政府しか利用できないものであることをご通知します。その理由はおわかりでしょうし、貴殿が必要とされる情報をわれわれが持っているとも持っていないとも推測しないようにして頂きたい。しかしながら、未確認飛行物体の調査はFBIの権限外にあることだけはお知らせします。本件はまず空軍省の管轄であり、したがって貴殿のご書面の写しを特別調査官、(空軍)憲兵司令官あて送付させていただきます……」

UFO論争には連邦政府も一役加わっている。フーバーにあっては私の手紙も、その政府とつながっている連邦・州・地方の各官庁にあって毎日のように殺到する沢山の質問状の1通にすぎなかった。

60年代に入ると私は、警察署長、保安官、民間防衛軍司令官など、バージニア州の法律執行官たちの調査に演じている役割を研究し決定する活動に入った。ピクアップした官吏たちを何カ月もかかって綿密に調査したのち私は、その調査結果を記事にまとめて発表した。(フエート誌1964年

2月号)。

私がピクアップした官吏の中に、バージニア州サセックス郡の保安官がいた。彼は1963年7月23日付の私の手紙に対しては返事をくれなかったが、私の質問は重大であると考えたらしくてFBIに通報した。同様に、バージニア州ノーフォーク海軍基地司令官にあっては1963年8月8日付の私の手紙、——その中で私は「もし貴隊が民間官庁に、UFO目撃の報告手続を配付しておられるなら、その写しを一部お送り頂けませんか？」と書いた



●前FBI長官J・エドガー・フーバー。●現FBI長官クラレンス・M・ケリー。

——も、直接回答されるかわりにFBIの書類整理棚に直行してしまっただけとも確かである。

どうして私にそれがわかったか？

■訪ねてきたFBIの手先

それを確認したのは、1963年9月17日、バージニア州ニューポート・ニュースのジョン・S・キャッスルズを通してだった。彼はFBIの手先だったのである。その日はフォート・ユースティスの事務所で昼食の準備をしていた。会社の保安係から電話があり、キャッスルズという人が私に面会にくるとのことだということだった。UFO研究に精力的に取り組んできたこの数年間、自分の活動がバージニア州内の地方官憲、たとえばフォート・モンロー陸軍対抗情報部隊やヨークタウン海軍武器集積所の諜報員、また時には仕事に熱心すぎる上役などから監視されるのには馴れっこなっていた。それに相当あけつびろげな活動でかなりの悪名をとどろかせているのだから、FBIの手先が突然たずねてきてもそう大したことはない。とはいっても、役人から自分の私生活に踏み込まれることには、幾分かの不安もあったことは確かである。それに、調査の原因となった手紙を書いた自宅でなく、事務所によつてきたことにも、私は怒りの念を覚えた。

約10分ほど彼の質問にできるだけいいねに答えてから、私は自分からも2、3質問してやった。「UFOに関心を表明する者はだれでもFBIの調査を受けるのですか？」

キャッスルズは、そうではない、と答えた。だが、私の場合は必要なのだろう。私の手紙を受取った人たちがからの質問状がFBIに殺到しているの、彼は「保管書類のための」メモを書いていろいろのだという。

「それはつまり、FBIのUFO関係の書類の一部としてですか？」私の質問に対して彼は答えた。「FBIがたといえ(UFO目撃について)そのようなデータを持っているとしても、それは性質上秘密情報であり一般民衆にも個人にも公表されることはないのです」

13年も前のその訪問を今になって考えてみても、やはり、私にとってそれは相当なショックだったと思う。うまいことをするものだ。別に私が悪いことをしているに露骨に言われたわけではないが、話を聞いていると、理由は知らないがFBIは私の個人的なUFO研究から目を離さないのだなという気がしてくる。うるさいというか、法の権威の濫用というか、プライバシーの不当な侵害というか、表現はどうであれ、法律で明白に規定されない以上、私だけではなくフリーのUFO研究者ならだれでもこのような目にあう危険があることを忘れてはならない。

一つにはUFO報告の調査と評価にFBIが関係していることに、また一つには私のような平凡なUFO研究者の調査報告を作成したりして納税者のお金をFBIが浪費していることに腹を立てた私はすぐさま、キャッスルズのいう「保管書類のためのメモ」の写しをフーパー氏に請求した。その返事は、フーパー秘書ヘレン・W・キャンデイからの1963年9月27日付の手紙となってきた。「……当局の書類はその性質上秘密扱いですのであなたの要求に応じることができません」

それから11年後の1974年3月31日、私はふたたび同じ請求をした。今度はフーパーの後任のクラレンス・M・ケリーが、キャッスルズのメモの写しを入手したいという私の要求を拒絶した。だが、それから間もなく、情報自由法の修正案が、議会手続の複雑な迷路と大統領の拒否権という難関を通過して、1975年2月19日に発効し、沈黙のFBIとの押問答を可能にしてくれた。最初にバッテリー・ボックスに立ったのは、経験に富むUFO研究家のリチャード・H・ホールだった。そして、情報自由法の有効性をテストするにも、UFO調査に深いつながりを持つていることをFBI自身に認めさせるにも、私のケースが理想的だということになった。

ホール自身も空中現象調査委員会(NICAP)の一職員だった196

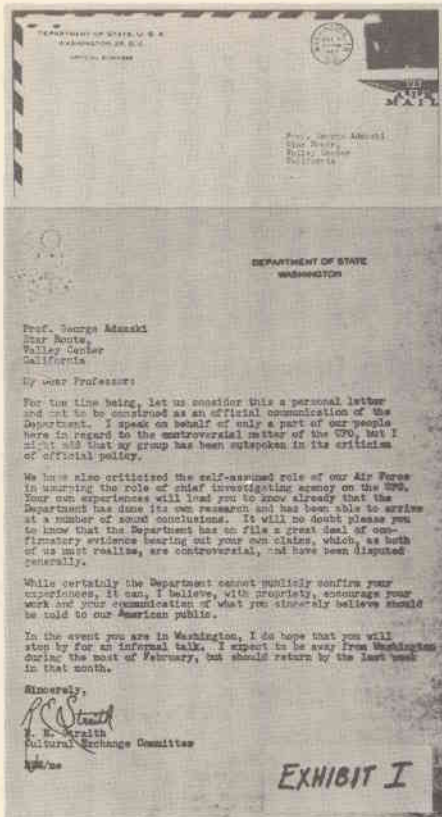
5年に、CIAの取調べを受けたことがある。彼は、アラバマ州マクスウェル空軍基地に保管されていた空軍のプロジェクト・ブルー・ブックの書類の中に、FBIがUFOと関係があることを示す興味深い証拠を発見していたので、いわゆる「ブライアント調査報告書」なるものがFBIが軍の情報機関に保管されているとすれば、それを研究することにはかなりの価値があることをよく知っていた。

情報自由法を跳躍台として、ホールは1975年5月14日、次のような回答をケリー長官から引き出した。

「我々は最近、この情報を貴殿に発表してもよいというブライアント氏の書面を受取りましたので、ご請求の記録の写しを同封します。本記録は、米国規則五五二条(b)(5)、(b)(6)、(b)(7)、(c)、(d)の規定により、削除した箇所があります。これらの削除は、他の政府機関と訴訟中の政府機関以外の団体には発表されない情報、個人プライバシーの不法侵害となる情報、秘密情報源の正体とその提供になる情報等が一般に公開されないよう、抑制するためのものです」

このインタビュー記録には、(私がキャッスルズの姓名をちゃんと書いておいたにもかかわらず)私自身の名前以外は何も書かれていないばかりではなく、FBIがこのインタビューを計画、記録した目的についても何も触れられては

●国務省からアダムスキー（右）へ宛てられたR・E・ストレイス書簡。



政府によるいかなるUFO調査とも関係なしにFBIが行ったと思われる調査に、いわゆる国務省のR・E・ス

FBIの

ひそやかな違法活動

いなかった。事実、削除された部分と手を入れてない部分との境界は一目瞭然で、空白は3分の1ページ以上にわたる箇所もあり、手を入れてない部分はインタビューに関する私のメモをただ繰り返しているにすぎなかった。

トレイス事件がある。

簡単に述べると、このデッチあげ事件は、1957年12月、UFOコンタクトのジョージ・アダムスキーに關係して起こった。彼は、宇宙人が地球を訪れているという自分の主張を国務省が支持するという手紙を受け取ったのだ。しかもその手紙はちゃんと「米国国務省」というレターヘッド入りの国務省用箋を使用し、文化交流委員会の「R・E・ストレイス」という存在しない人物の署名が入っていた。

言うまでもないことだが、アダムスキーがこの手紙をマスコミに発表したため、UFOファンの飛入り自由大論戦が始まり、その1人が、有名なUFO関係書物の出版者がこのニセ手紙をデッチあげた疑いがあるとして、FBIの調査を要求した。調査の一部とし

てFBIは、1人の職員をNICAPに派遣して、容疑者たる出版者の手紙を借り出し、そのタイプされた印字がストレイス書簡と一致するかどうかを調べたのである。その結果を知りたい方は——私が1976年1月18日にしたように——このデッチあげ事件に関する全調査内容を知りたい旨、情報自由法に基づいて同局あて請求されるとよい（本稿印刷の時点では、私はまだ回答を得ていない）。

あのウォーターゲート事件でFBIの悪名高い活動ぶりがなお有名になったので、皆さんも（私と同じように）いつそうストレイス事件の詳細を知りたいとお思いのことだろう。FBIの悪名高い活動には、にせの政治的報告を発表したり、さしさわりのある意見を持つ団体や個人を混乱させたり信用を失わせたりするために差出人不明の手紙を送ったりすることも含まれていることを、私たちは知っている。FBIが、空軍やCIAの対UFO政策立案者たちと歩調をそろえ（または彼らの指令により）、そのような破壊活動を続けているのではないかと疑われても仕方がないのではなからうか。

それについて、もう少しFBIのひそやかな違法活動について推測を続けるなら、予告もなしにUFO研究者の家庭に定期的に姿を現し、身の安全のために活動を中止するよう説得を続ける、あの正体不明の怪しい「黒服の男

たち」はどうなのだろうか？ また、ニュージャージー州ワナクトのときのように、1960年代のUFO事件のさいに出現し、政府職員になりすましてUFO目撃者を悩ましたりUFOの写真を没収しようとした、あの峻厳な男たちはどうだったのだろうか？

記録が示す

UFO事件への関心度

推測はしばらくさておいて、FBIがUFO事件に対して抱く関心が単なる気まぐれでないことを示す証拠を、記録の中から再調査してみよう。

●1947年7月7日のウィリアム・ローズの事件。空軍の情報将校とFBIの手先が彼を説得して、アリゾナ州フィニックスにある彼の家の近くで目撃した物体の写真（ネガも含めて）を提出させようとした。

●空軍の特別調査部とFBIの間にはかなり以前から連絡があったらしいことは、次の例からも明らかである。

- (1) 1954年4月8日にイリノイ州シカゴのヨット・クラブに着陸したというUFOに関する、陸軍・海軍・空軍・FBI間の往復書簡。以前は扱われていた。
- (2) 1957年11月5日にネブラスカ州カーネイに着陸したというUFOの調査報告。ネブラスカ州オマハのFBI事務所の特別主任ジョゼフ・E・ソーンストンが11月6日に起案

したものである。シカゴの事件はプロジェクト・ブルー・ブックも解決不能として処理したので、興味を感じた私は、FBIのシカゴ特別主任リチャード・G・ヘルドに質問状を送ってみた。以下は彼の回答(1974年10月10日)である。「遺憾ながらFBIは、貴簡で述べられたようなUFO目撃報告に関する情報は保有しておりません。事実、FBIは一般のUFO目撃に関する情報は収集しないのです。ご承知と思います」

●FBIは米国法務省の調査機関であり、議会が特に委託した問題のみを調査する権限を持っておりすが、UFO目撃事件はそのような問題ではないのです」

●ニューヨーク州ブラッツバーク付近で起きた一連のUFO目撃事件を公文

●レックス・ヘフリンは、空軍将校と偽った何者かにこの有名なUFO写真のネガを詐取されたと主張している。

書化するのに、同市に住むFBIの手先エドワード・A・マックシェーンが関係していること。

●1959年9月7日のウォルター・オグデン事件。彼の言葉によれば、彼は、空軍とFBIの調査官から2時間にわたって厳しい尋問を受けた。彼らはまた、ケンタッキー州ウォーリングスフォードの彼の農場の牧草地に接地したUFOの影響を調査するため、土と牧草をサンプルとして採取した。

●1964年4月24日ニューメキシコ州ソコロで起こったUFO着陸事件の現場にFBIの職員D・アーサー・パインズが急派された真の理由。FBIのアルバカーキ事務所特別主任ウィリアム・A・マインケによれば「ソコロ事件は権限外であったため、FBIとしては何の調査も実施しておりません。係官が臨席したのは単に、FBIに

関係ある違反事実があったかどうかを確かめるためでした」「調査権限」とは、公式のUFO調査に決して関係していないことを明言するために、FBIがいつも使う逃げ口上である。さしきわがあらったお許し頂きたい。

●バーニー・ヒル事件も表向きは無視

FBIは機会ある度に権限といういいわけを口にしたがるようだ。たとえ、有名なUFO研究者J・アレン・ハインツの「UFOホットライン」と題する記事(FBI法律施行報1975年2月号所載)について質問したワシントン・ポスト紙のマイケル・F・コラン記者は、匿名のFBIスポークスマンから「私の知る限りFBIは、(UFOに関する)調査を行ったことはありません。それはわれわれの責任の範囲外です」という回答を得ている。

あるUFO事件には、FBIが公式調査に乗り出してよい正当な理由があった。1961年9月のバーニーとベティ・ヒル夫妻誘拐事件である。誘拐は(それが正体不明の生物によるものであっても)FBIの調査に値する犯罪であり、ヒル夫妻の場合もFBIが何らかの努力をしたことだろうとはだれでも考えることだ。ところが、1976年4月9日のケリー氏のことばによれば「……本部のファイルに、この(ヒル夫妻)事件がFBIの手で調査されたという記録はない」

あれほど有名になったヒル事件をも外見上は無視することでFBIは、UFO報告に対する政治的態度を偶然にも確認してみせたのだろうか? 他の(政府と州双方の)官庁の陰にかくれて

板谷・宮沢共著
定価 八〇〇円
千 一六〇円
心靈科学入門

現界における心靈現象の歴史と実例とその起る機構を科学的に且つ広範囲に説明した名著で心靈に心を有する人が教科書として最初に且つ必ず読まねばならぬ本。

宮沢虎雄著
定価 一二〇〇円
千 一六〇円
死後の真相

われわれの想像や宗教の教義を交えず死者からの通信のみで書かれた真正正銘の死後の世界の真相の記述書。

近藤千雄著
定価 六〇〇円
千 一二〇円
こうすれば健康と富と成功が得られる

何千人という不治の人々の病気を治した心靈治療者の体験から健康と富と成功をともしよう生き甲斐ある人世を得るための方法を具体的に述べた名著で十六カ国で翻訳され各国でベストセラーとなった本。

月刊誌
『心靈研究』
一冊 三〇〇円
千 三〇〇円

本年四月で三六二号を数える我国唯一の心靈研究雑誌(バックナンバ一冊一五〇円。会員制度あり)

「心靈現象の科学的研究機関」

財団法人 **日本心靈科学協会**

創立昭和二十一年
千114 東京都文京区湯島三二二
電話 〇三三八三二一・二九四
振替 東京 五一三七六七七番

裏面工作だけで関係するというあのやりかたを? この疑問は、情報自由法の助けを借りてケリー株式会社からもつと沢山のUFOに関するデータを引出そうという私の活動——1975年8月21日から開始され、ケリーが決心も新たにいつその口を閉じて沈黙を守るようになった以外はほとんど收穫のない運動——にとって良い刺激剤となってくれる。手始めに私は、「1947年から現在に至るUFOの米国領土着陸事件でFBIによる何らかの調査活動が行われたものについて、その日時、地理的位置、物的証拠、それに情報関係の軍高官が介在した証拠があればその氏名などの一覧表」をケリーに請求したのである。

その後私は特殊なケースを2、3追加した——そのどれもまだ、手続の壁に阻まれて中ぶらりんのままである。ケリーはハリー・F・バード上院議員(インディアナ州バーミングハム選出)に書簡を送り、私の要求が単なる気まぐれであと回しにされているのではないこと、この2年間FBIには情報自由法に基づいた請求が殺到しているため、文書の取戻し、複写などの要求をスムーズに処理するには番号による整理法を採用せざるを得なくなったことをほとんど悲愴とも言える調子で訴え、同議員の理解を求めている。おまけに長官は1976年4月9日付の私宛ての手紙で、「UFOに関係した事柄はFBIの調査権限内でないことをご通知申し上げます」と述べ、「UFO着陸事件は当局の権限外であるため、いかなる時期のものでもそのような事件の調査に当局がどの程度介入しているかをお知らせすることは不可能です。どこかある特定の事件についての説明をお求めであれば、記録を調査してご回答申し上げます」と付け加えている。

私の要求は情報自由法に基づくものであり、この程度の説明では拒否されたと同じことだと考えた私は、自分の意図をはっきり伝えるため、ふたたびケリーに宛てて手紙を書いた。「権限はないとおっしゃるが、それにもかかわらずFBIは、そのような活動の記録を保管しており、結局はそれを公表したこともあり得ます。したがって、米国地方裁判所の判事なら、貴殿の権限外であるという抗弁は、1975年9月24日の私の請求の内容については当てはまらないと判断するでしょうし、現存する記録は、それがいかなる理由で作成されたものであろうと、(情報自由法に)規定された公表基準に一致するものであれば、私の要求に応じて公表されるべきだと裁定するでしょう」私は更に、空軍の「プロジェクト1949年2月号所載の次の声明を、ケリーに思い出させてやった。『FBIは、多くの場合において、事件の関係人物の人物や信頼度の調査をしてくれたり、その他の調査手段を提供したりして、プロジェクト・サインを援助してくれた』」

今度はケリーも異例の速さで(1976年5月4日)返書をよこした。「1976年4月15日付の貴殿のご書面の写しを法務省情報自由部個人請願課に転送致しました……」

これでもまだケリーの拒否的な態度がまかり通るようであれば、次の手として私は、情報自由法に基づいて訴訟を起こすつもりである。そうなればケリーも、冷徹な連邦判事の眼前で自分の行いを弁護しなければならぬ羽目になることだろう。

さしあたり、私の計画を援助するため読者の皆さんにもしてもらいたいことがある。情報自由法に基づいてFBIに、現在まで公表されていない(たぶん)膨大なUFO調査資料を請求する手紙を書いて頂きたい。どれでもいい、特定の事件を取上げてください。詳しいことがわからなくても気にしないことだ。質問の大体の意味がわかればいい。質問状が沢山舞い込むほど圧力は大きくなり、FBIがうんざりして降伏の手を上げるのも早かるうというものである。そうなれば、研究・分析のための材料が十分に入手できる。その結果、この20世紀の現象を解決する手がかりが、いくつかが発見できるかもしれないのである。

増野一郎訳



重力研究所
〒798 宇和島市宮下甲519

空飛ぶ円盤の科学研究誌 宇宙艇 隔月刊 B5判

内容 A) 空飛ぶ円盤の理論研究 B) 空飛ぶ円盤の試作
C) 時間反転機の理論研究と試作

☆ 部分品を頒布します(カタログは、宇宙艇巻末にあり)。

年会費 A) 4,000円(大学生及び社会人)

B) 3,500円(高校生以下)

振替 徳島 28986 (又は、現金書留にて)(切手は不可)

☆ 超相対性理論(原著) 定価 3,000円

〒 200円

(同じく切手は不可) 発売中



3人の怪しい男が来た

●UFO研究者やコンタクテイーを脅迫し、UFO研究界を混乱させるサイレンス・グループの正体は何か？ここに、生前、アダムスキーが語った驚くべき秘話を初公開する！

ジョージ・アダムスキー

スペース・ブラザーズの教えの促進活動に関する私の公的生活を通じて、私の所へ多くの機関がやって来た。そのなかにはFBI（連邦捜査局）、CIA（米中央情報局）、AFI（空軍情報部）、国務省、その他の政府機関の人がいる。この特殊な人々が私を黙

らせようとしたことはない。サイレンス・グループには多くの面があり、その多くを私も大衆も知っていないと思うのである。

■サイレンス・グループとは何か

サイレンス・グループとは何なのか、だれがやっているのか？ キーホーが言っているように、ありそうな、非公式なグループがあるし、米国の各情報部よりもっと極秘にされた公式なグループもある。

最近ワシントン市へ旅行したあいだに、UFO問題の真相に対抗するサイレンス・グループが、ある種の神秘主義宗教が現れるのを待ち望んでいることを私は知った。そうなる下次のように言うかもしれない。

「それみたことか。UFOなどはみな神秘宗教の産物なのだ。この

宗教を確立させようと

してやっているのだ。

UFOの実在の基礎はありやしないんだ」

言い替えれば、彼らはあらゆるUFO問題

を破壊しようとして、このような説明をするだろう。私を沈黙させる目的でやって来た人たちは宇宙人ではないことを、私は確実に知っている。彼らは地球人なのだ。

このサイレンス・グループが、オカルトや心霊の分野にいる人を妨害しな



●ニューヨーク市マンハッタン南端のウォール街。UFOに関するあらゆる戦いの向こう側にいる者たちの拠点か？

いのは奇妙である。この人々は言いたいことが言えるし、脅迫したり沈黙させようとする人はいない。

彼らは、かつて私が哲学上の指導者として活動したことのあるかつてのグループのことに言及して、私の体験をゆがめようとしてきた。このグループの名はロイヤル・オーダー・オヴ・チベットといった。しかしこの団体は神秘主義の教義に固執したのではない。私が講演のかたちで述べたレッスンの

多くは、ロングビーチとベバリトヒルの各種ラジオ局から放送されている。このことが重要な問題だと思ふ人は私の講演のコピーが各放送局から入手できると思ふ。このレッスンはだれでも知っているはずの宇宙的な概念から出た、生命の法則について純粋に哲学的に述べたものである。しかし、「無知」はそれをゆがめるのだ。

私の所へ来る郵便物から判断すると、プロテスタント、ユダヤ人、東洋

人等、あらゆる宗教、あらゆる階層の人が、物理的・機械的な見地から、宇宙人の来訪というテーマに関心を持ち、支持しているのである。これが神秘主義の分野に入れられたら、だれも興味を起こさぬだろう。

■なぜサイレンス・グループは暗躍するのか

以上が、サイレンス・グループが存在し、恐れている要素なのである。世界中の人々が「宇宙人の来訪」という問題にもとづいて考え始めると、両替屋（訳注：金融制度を意味するらしい）の基礎は弱くなる。人々の目が上空に向けられ、友好的な宇宙の訪問者を求めて空を探索し、心は地球の平和と幸福に対する憧れで満たされるならば、同胞に対する憎悪で心を満たすことはむづかしくなる。憎悪の中にこそ戦争の沃土があるのだ。しかも宇宙旅行という魅惑的な思いに満ちた若者の心は、流血の戦場で待っているいかかわしい名誉の方にそれることはまずないだろう。これこそ資本家が恐れていることではないか。

つまり資本家は地球人類のあいだに平和と理解をもたらしかもしれないような出来事を恐れているのであり、一方、戦争ともなれば投資の対象となり、ある種の投資家は十分儲かるのである。ところが今や、世界中の無数の人が個人的なコンタクト事件について

話し合っているのだ。

地球人にとって友好的で、しかも互いに平和に生きることを知っているこの大気圏外からの訪問者に関する知識は、希望を失った多数の人に新しい希望を与え、ともに、無数の人に新しい生活目的を与えている。世界の財布のヒモをにぎっている人が恐れているのは、これなのだ。別な惑星から人間が来る事実を認めるならば、現代の地球の経済システムに甚大な影響を与えることになる。万人がはるかに大きな影響を受けるだろう。サイレンス・グループはこのことを知っており、あらゆる手段を用いてこれと闘っているのであり、同時に、表面から巧みに姿を隠しているのだと思う。

■怪しい男がやって来た

『空飛ぶ円盤は着陸した』を出版してまもなく、3人の男が私の所へ来た。2人は以前に会ったことがあり、1人は未知だった。この男が権威ある態度を示して私をひどくおどかした。私が所持していたある書類を出せと言う。そこで相手に渡すと、あとで返すと約束したが、それきりだった。彼らが何に関係しているのか全くわからなかった。私は重要書類の一部分を渡さなかった。私が脅迫されたことは事実である。彼らは出て行く前に、UFO・宇宙人問題をしゃべるのをやめろと

命じ、さもないければ私のあとをつけて監禁し、キイを捨ててしまおうと言った。

宇宙人は肉体を持つ人間で、機械的な宇宙船に乗って宇宙旅行をしている事実を知って、そのことを公言している我々に対抗しようとして、宇宙人飛来現象をオカルトの分野に押し込む、あらゆる戦いの背後に存在している中心的党派はウォール街ではないかと思う。(訳注)ウォール街はニューヨーク市マンハッタン南端にある区域で、アメリカ金融の中心地。この取引は世界経済の変動をあらわすバロメーターの役割を果たしている)

彼らはUFO問題のすべてをオカルトと呼ばれる心霊の分野に投げ込んで、世界中のまじめな人々の心に不信感を植えつけようとしているのだ。

飛躍した想像力

なお言いたいことがある。私の言葉は間違っていればよいが、種々の証拠によって、ジェームズ・モスレーと他の人間たちが、サイレンス・グループの手先になっている形跡がある。彼らがやっている事には金がかかるからだ。『空飛ぶ円盤は着陸した』はよく売れたけれども、私がそれによって得たものは殆どなかった。スポンサーなしに私は旅行もできないのである。モスレーや他の人間たちの場合は、だれ

が金を出しているのだろうか？ もちろん、だれかが彼らをサイレンス・グループの手先に仕向けているのだが、彼らはそのことに気づいていない。しかしその「だれか」はUFO問題全体に精通しているのである。

(訳注)ジェームズ・モスレーは反アダムスキー派の暗躍者。アダムスキー問題をひどく混乱させた)

地球人は宇宙で最低の貧しい人間ではないと私は確信するので、この種の影響が宇宙からも来ることはあり得るだろう。しかし私に言わせれば——しかも私は世界中から手紙を受け取るので——、宇宙人が地球人を沈黙させようとしている形跡はない。

もし敵意あるUFOが現れたとすればそれは地球人側の恐怖の結果であると思われる。なぜなら、ひとたび恐怖の状態におちいると、人間は殆ど何も見えず、何も考えることができなくなるからだ。したがって敵意あるUFO出現例が発生したという証拠は、私は全然持ち合わせない。ただしこの地球のある勢力がそれに関係している証拠は豊富にあるようだ。

『ソーサリアン』誌に掲載された、私がバロマー・ガーデンズで撮影した円盤の丸窓(複数)から数名の宇宙人の顔が外を見ているイラストを見て、私は全く驚いた。その写真の丸窓を非常に注意深く調べてみると顔が見える、という話を聞いたことはある。しかし

私が調べてみても、顔は見えない。だが、宇宙人が丸窓から私にメッセージを投下したとき、友の顔をチャリと見た。数名の顔が見えるというのは驚きである。しかし後に宇宙人に質問したら、1952年12月13日にバロマー・ガーデンズへ飛来したとき、円盤内には2人しか乗っていないかったということだった。人間の想像力には驚くほかない。

■カール・ハンレースについて

ここでカール・ハンレースとジェロルド・ペーカーについて話したい。2人はモスレーの『ネクサス』誌1955年1月号に、私の体験と写真の真实性を否定する証人として利用されている。読者はウィルキンソンという名の男とともに、ハンレースを覚えておられるだろう。2人を宇宙船で別な惑星へ連れて行ってやると約束した「宇宙人」とコンタクトしたと称した後、1953年に謎の失踪をとげた男である。私はジェロルド・ペーカーがハンレースの居所を知っていると思う。彼は別な惑星へ行ったのではない。彼が失踪してから広まった噂によると、彼はメキシコの国境近くにいるかもしれないという。

(訳注)ペーカーとハンレースはアダムスキーがUFO研究活動を始めた初期にバロマー・ガーデンズを訪れて門

を叩いた若者で、後に去って行った) ペーカーが彼の居所を知っていると、いう私の推理は、次のとおりである。約2年前のある夕方、ペーカーと他の1人がバロマー・ガーデンズの私に会いに来て来た。ペーカーとの対談中、彼は新聞の広告の切抜きを見せるので、みると、ハンレースに連絡した人は、ある郵便局の私書箱に手紙を出せとある。私は関心がなかったのだ、その新聞名と日付を記憶しなかった。

私がハンレースを知ったのは数年前にさかのぼる。UFOの写真を撮ろうという私の努力と、初期の写真の数を『フュート』誌が紹介したとき、全米から手紙を受け取ったが、一方、あらゆる階層の人がバロマー山頂の天文台を見学に行く途中、私の所へ訪問に立ち寄った。その訪問者のなかにウィスコンシン州から来た人がいた。彼は科学者で、帰宅してから私と会談したことを2人の仲間に話した。その1人がハンレースである。

その後ハンレースは個人的に私に手紙をくれたので、私たちはかなり長く文通を続けた。彼はすぐれた科学的素質を持っているようで、私は文通を楽しんだ。その後、彼の手紙は進展し、何かのトラブルを起こして、理由不明のまま次々と職を失ったという。やがて私は一通の手紙を受け取ったが、それによると私に会いに来る途中だとあ

り、ついに1952年12月に所持品の一切を持ってパロマー・ガーデنزへ来たのである。無期限に滞在するつもりだったが、出費を補う金は持っていなかった。

ジェロルド・ベーカーも1952年12月の夜遅く、似たような状態でやって来た。彼も我々ファミリーの1人として滞在し、あらゆる事を自由に自分で処理していたが、やはり金を持たなかった。

■ハンレースの奇妙な機械

ハンレースが来てから1、2日後に、彼が私に洩らした話によると、磁気応用のある機械を作ったということで、それを使えば我々がパロマー・ガーデنزで消費していた電力を充分にまかなえるということだった。当時、我々は電力会社の供給を受けておらず、小型の自家発電機を使用していたのである。彼の話では、この機械は郷里の町の倉庫に保管してあるので、カリフォルニアへ送らせるつもりだという。そしてパロマー山腹の容易に発見できない場所へ埋めるのだと語った。私はすぐに好奇心と疑惑を起こしたけれども、ただちに応諾しなかった。そのことを知るにはまだ用心を必要としたからだ。ついに、ふとした会話でその問題を話し合ったとき、その機械は円盤を引き寄せるとともに、それを墜

落させることができるかと彼が洩らしたのである。

円盤を墜落させるぐらいならば、飛行機も墜落させるだろう。パロマー山には毎日多数の飛行機が飛んでいるのだ。この点を質問すると、そのとおりだと彼は答えた。これは私の失策だったが、そんなことをすると人命喪失に対して我々は責任を問われることになるのではないかと言ったのである。すると彼は答えた。

「問題じゃありませんよ。我々は円盤が欲しいんだ!」

そこで私はその機械をパロマー・ガーデنزへ持って来るかと命じた。そしてこの事でトラブルが発生したのである。ベーカーが今起こしているようなトラブルが。そのときまではすべてが順調にいったのだが、即刻ここを退去せよと命じたところ、ベーカーも彼と共に去って行ったのである。しかも出発直前にハンレースは私にむかって、パロマー・ガーデنزに隣接した私の所有する地所から去れと逆に命じた。相手は力づくでこれを強制するかもしれないと私は一瞬思ったが、やがて彼は平静さを取り戻して、おとなしく出て行った。

ハンレースの言動が陰險で非愛国的であると考えた私は、この事をFBIに通報したところ、FBIは私の意見に同意し、呼ばれたことに感謝して、パロマー・ガーデنزの我々が報復さ

れないように警戒策をたててくれたが、ベーカーが私をやっつけようとして用いるかもしれない手段に対して、FBIは防御策を講じることができなかった。

■私は恐れない!

ウィルキンソンがウィスコンシン州からカリフォルニアへ来たときに、ハンレースの機械を持って来たという噂が広がった。私はこの事を全く確かめなかったが、ハンレースとウィルキンソンが蒸発したのは、彼らがカリフォルニアへ来てからまもない頃であった。もし彼らがメキシコ国境の向こう側にいるとすれば、そこへ機械を持って行ったことだろう。これに関してもっと情報が与えられるはずだったが、現在のところ、ない。

モスレーや他の人々が私に対する攻撃にベーカーを利用したければ利用するがよい。私は恐れない!

一方、私は、スペース・ピープルの真の使命を世界の人々に知らしめようとして、小さな声で——取るに足りない声かもしれないが——呼びかけるつもりである。

(訳注)これはアダムスキー攻撃の旗頭であったモスレーが、去って行ったハンレースとベーカーを利用し、多くの材料をでっちあげて流したデマに対する一文である)

久保田八郎訳

会員募集

日本
GAP

UFOと宇宙哲学
研究グループ

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究家としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP(知らせる運動)組織の日本代表となり日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えてアダムスキーの特異な体験と宇宙の哲学の促進活動を展開してきた。機関誌「GAPニュースレター」はすでに61号まで発行。毎月東京文化会館の月例会で宇宙哲学を指導し、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。大阪・高知・熊本・新潟・岐阜・福知山各市支部設立。個人の奉仕活動として啓蒙運動を続行中である。真剣な探求者の参加を歓迎している。

不定期機関誌

「GAPニュースレター」

第61号発行中

第58、59号残部僅少

入会希望者は50円切手と宛名明記返信用封筒を同封の上「UFOと宇宙」25号で見たと書き添えてまず案内書をお申し込み下さい。入会は高校生以上に限ります。非会員に機関誌の1冊売りはしません。

●本格的活版印刷・B5判・極上アート紙40頁●UFOに關連し他惑星における偉大な人類存在の認識と宇宙法則の探求専門誌
主要記事●道載スペース・ブラザーはなぜ来るのかG・アダムスキー／太陽が黄金色に見える／宮内温夫／宇宙冥想について久保田八郎／その他有益な記事写真満載

〒133東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP(主宰)久保田八郎



奇怪な黒い男たち

●アメリカに頻発するキャトル・ミューティレーションは宇宙人による標本採集実験か、そして無音の黒いヘリコプターは偽装したUFOなのか？ さらに黒服姿で徘徊する不気味な男の正体は？ 全米各地を錯綜するミステリーに、今またもう一つの黒い謎の生物が登場する！

●日本テレビ
ディレクター

矢追 純一

も呼ばれる黒ずくめの男たちが、どこからともなく現れて、UFOの秘密の核心に触れた研究家や、UFOやその乗組員と接触し直接その実体をつかんだと思われるコンタクトティーたちを訪れるという事件が、次々に起こることをいうのである。

この「黒の男たち」は、黒いスーツに黒いソフトという黒ずくめのいでたちで、夜間、ライトを消した黒のビュイックやクライスラーといった大型乗用車で影のように現れ、これらリサーチチャーやコンタクトティーたちの家をひそかに訪問し、なにごとかを行った後、再びどこへともなく姿を消すといわれている。

彼らの乗用車には、なぜかナンバープレートがなく、暗闇の中で全員が黒ずくめの衣装のため、その正体を見とどけた者は1人もいない。

ただ不思議なのは、この「黒の男たち」の訪問を受けた人々は、その翌日から急に前言をひるがえし、UFO目撃やコンタクトの事実を否定したり、長年続けてきた研究を突然放棄する宣言をしたりすることである。

現在、全米のUFOコンタクトイー

(UFOや宇宙人と接触した人々)：UF

オリサーチャー(UFO研究家)の間

で、MIB現象とよばれる不気味な事

件がひそかに進行している。

MIB (THE MEN IN BLACK)

現象とは、その名の示すとおり「黒の男たち」とも「暗闇からの男たち」と

そして、UFOに関する重要な証拠物件やUFO写真・フィルムなどはすべてこの黒の男たちによって、どこかへ持ち去られてしまうという。

果たしてこのMIB「黒の男たち」とは、UFOに乗った宇宙人からの使者なのか、米国秘密諜報機関「CIA」のエージェントなのか、それとも何かの秘密結社のメンバーなのか、その目

的も正体ともに謎のベールに包まれたままなのである。

だがここに、第2の「黒い男たち」ともいべき別の「黒い人影」が、現在全米を襲っているじつに怪奇としかいいようがない不気味な事件の背後に、チラチラと姿を現しているのだ。

この「黒い人影」について述べる前に、現在、全米の人々を恐怖のどん底

におとしいれている奇怪な事件「キャトル・ミュティレーション」について触れておかななくてはならないだろう。

キャトル・ミュティレーション、そ



●無音で出没する黒いヘリコプターと酷似したヘリコプター。機体を黒く塗りつぶし所属不明。左はキャトル・ミュティレーションで性器の切りとられた牛。

れはワシントン州をはじめとしてオレゴン、ミネソタ、テキサス、コロラド、ユタ、ワイオミング、モンタナなど全米28州にまたがって連日のように起こっている身の毛もよだつような不気味な事件で、牛が世にも奇怪な殺され方で次々と発見されるのである。

ある朝、広い牧場の一画で1頭または数頭の牛の死体が発見される。

死体の周囲には、草の踏み荒された跡も、クルマのわだちの跡も、足跡すらも発見されず、死因が全然わからない。しかも人間わざでは考えられない鮮やかな切り口で、片方の耳や眼、あるときは唇、背中の皮膚の一部、性器などが何者かによってえぐりとられているのである。そのうえ、死体には血が1滴も残されておらず、麻酔薬や毒薬なども一切検出されない。

警察の必死の捜索にもかかわらず、その犯人も目的もまったくわ



からないのだ。検死に立合った警察専属の獣医および地方の保安官補は、例外なく次のような事実を発見する。

① 死因がまったく不明。毒薬、麻酔薬投与の形跡がなく、弾丸の跡や直接死因になる刺傷もない。

② どのようにして殺したか、周囲の状況から見てもその方法がわからない。死体の周囲数10メートルの範囲内に、足跡、クルマの跡など一切なく、牧場主の家が現場からわずか50メートルしか離れていない場合でも一切の物音を耳にしていない。ふだん、郵便配達人が来ても気が狂ったように吠える犬が、全然騒がない。

③ 牛の血液をどのようにして1滴残らず抜きとったか不明。通常は首筋の血管に穴をあけて抜くが、そのような傷口がない。死体の下の地面にも、血が浸みこんだ形跡がない。

④ えぐりとられた各部の切り口から判断して、人間わざとは考えられない。どのような鋭い刃物を用いても、動物の肉を切りとるには刃物を小刻みに動かすため切り口が多少ギザギザになるが、一刀のもとに鮮やかに切りとられている。特殊な器械（それがどんなものか見当もつかないが）を開発したのでもなければ不可能に思える。

⑤ 要するに犯人も、その目的も方法もすべて不明で、どうして足跡を残さずに牛に近寄れたのか、どうして

物音をたてずに暴れる牛をつかまえて殺すことができたのか、どんな方法で血を抜き、各部を切りとり、そしてまた、どんな方法で退散できたのか……

と、わからないことだらけなのである。

しかも、このキャトル・ミュージレインションの行われた前後には、真つ黒に塗られ、何の標識も描かれていない「黒いヘリコプター」または「幽霊ヘリコプター」と呼ばれる謎のヘリコプターが現場付近の上空を低空で飛び回り、軍、民間を通じてどここの関係機関に問い合わせても所属不明なのである。

そのうえ、巨大な葉巻型から円盤型、三角型にいたるまでのいろいろなUFOが、事件の前後、やはり現場付近に現れている。

そして、奇怪な黒い人影が現場近くで目撃され、時には見ている人の前で影のように消えたり、黒い人影に向かって発砲した弾丸がその人影を通り抜けてたりする事件が次々に起きているのだ。

こうなると警察ならずともまったくのお手あげで、FBIまでが乗り出しているという噂にもかかわらず、犯人や事件についての公的機関の見解発表は行われないまま、毎日のように、あちらで1頭、こちらで1頭というぐあいに全米各州にまたがってキャトル・

ミュージレインションが発生しているのである。

ユタ州のテレビ局の発表では、1975年1年間だけで全米28州にわたって1600件のキャトル・ミュージレインションが発生しているといわれ、アリゾナ州のUFO研究団体GSWの調査によるとここ数年間ですでに6000頭以上の牛が殺されているという。

ミサイル基地に出没する 黒いヘリコプター

モンタナ州は、かの有名な米空軍のミサイル防衛システムNORAD (NORTHAMERICAN AIR DEFENSE COMMAND) のオペレーションセンターがあることで有名な所で、たくさんのミサイル基地や重要軍事機密施設が点在し、後に述べるように、キャトル・ミュージレインションやUFO、黒いヘリコプター、それに黒い人影（それがどのような目的であるのかわからないにせよ）ひんぱんに現れる重要な理由ではないかと思われる。

1976年8月4日――。

私は、モンタナ州カスケード郡警察のキース・ウォルバートン保安官補の事務所にいた。

「保安官補。さっき、キャトル・ミュージレインションと黒いヘリコプターとは深い関係があると言っていました

昨1976年8月4日から3週間、私は『木曜スペシャル』制作のために、米・モンタナ州を中心にキャトル・ミュージレインションの現地取材を行った。

その詳細の一部は本誌23号（1977年4月号）で報告したが、掲載しきれなかった数々の不思議な事件を、黒いヘリコプターと黒い人影を中心に述べてみたいと思う。

が、黒いヘリコプターというのはいったい何のですか？」

「ミスター・ヤオイ。それはわれわれにも、いや、だれにもまったくわからないんです。とにかく、黒く塗られていて何の標識もなく、われわれが調査してもどこにも所属していないヘリコプターで、殆どの場合、奇妙なことに音がまったく聞こえず、ある時は音だけで実体が全然見えない。それにリーダーにも現れる場合と現れない場合があるといった具合で、ちょっと常識では考えられない不思議なシロモノなんです」

「それはどんなかつこうをしているんですか？ ヘリコプターであることには間違いないんですか？」

「いや、それがヘリコプターかどうかははっきりわからないので……そいつ

はUFOがヘリコプターに変装しているんだという信じられないようなことをいう人もいくらいですが、それがまったくデタラメだと笑えないような事実もあるんです。とにかく起こった事実を順を追ってお話ししますから、そのなかからあなたに自分で判断していただくほか方法がありません」と困惑しきった表情で記録をとりだし、話しはじめた。

「まず、最近で最もひんばんに黒いヘリコプターが現れた、1975年9月15日の記録からお話ししましょう。これが確か、黒いヘリコプター出現のハシリだったと思います」

この日の夜、フォートショウに住む保安官補アーン・サンドが警察の仕事を終えて家路に向かい、殆ど自宅近くまできたとき、頭上にヘリコプターが飛んでいる音を耳にし、クルマをとめて降りて見た。こんな夜にヘリコプターが飛ぶのは滅多にないことなので職業柄、確認しようと思ったのだが、奇妙なことに確かにヘリコプターの音が頭上すぐ近くに聞こえるのに姿はまったく見えない。その夜は月も出ている晴天で、周囲の畑や木々もよく見えるのに、肝心のヘリコプターがまるで見えないのだ。やがて音が南の方へ移動していくので、急いでクルマに飛び乗り、1・6キロほど南へ追跡してから再びクルマを降りて見た。

このときは、すぐ頭の上、およそ20

メートルくらいの高さでホーバリング（空中に静止している状態）しているとしか思えない音がしているのだが、不思議なことに、夜間飛行のさいヘリコプターがつける標識灯の光はおろか本体の影も形も見えなかった。

やがて、その音は再び急速に遠ざかり、ついには聞こえなくなってしまうが、彼は狐にばかされたような奇妙な気持ちだったという。

ところが同じ夜、しかもサンド保安官補が音を聞いた数分後に、フォートショウの近くのショトウという所に住む牧場主夫妻が、家の外で月見を楽しんでいるとき、無灯火のヘリコプターが上空を横切って飛んで行くのを目撃しているのだ。

だが不思議なことに、このヘリコプターはいくら耳を澄ましても何の音もたてなかったという。あの騒々しい音をたてるので有名なヘリコプターの回転翼の音が、まったく聞こえないなどということがあるだろうか？ しかも静かな夜の田舎の牧場で……。

「ともかく、その翌日、2つのキャトル・ミューティレーションが発見されたんです」とウォルバートン保安官補は続けた。

スタンフォードの町近くの牧場で、1頭の若い雌牛の死体が発見された。2つの乳首と左側の腹の皮が3センチ四方切りとられ、生殖器と尻尾も内部から深く鮮やかにえぐりとられている。

血液は、例によって1滴残らず抜きとられていて、死体の周囲にはクルマのわだちの跡も足跡も牛が暴れた形跡すら発見されなかった。

第2現場は、この第1現場の北西、ゲイサーという所にある牧場で、牡牛が1頭、唇と舌を切りとられ、1本を残した全部の歯を抜きとられ、これまた、生殖器をえぐりとられている。

この場合、さらに奇妙なのは、この牛が真っ昼間の、しかもわずか30分の間に殺され、血を抜かれ、各部を切りとられたらしいことである。

牧場主は、この日の午後3時半に見回ったときには確かにこの牡牛は生きていて、この現場には何もなかったと証言している。

だが、そのわずか30分後の4時、牧場を一回りしたあと再びこの現場にさしかかった同じ牧場主がこの死体を見つけたのだ。これはいったいどう解釈したらいいのだろうか？

そして、何のマークもついていない黒いヘリコプターが、午後3時から3時半の間と、4時半から5時の間、付近の上空を飛ぶのをこの牧場主とその家族によって目撃されている。そのうえこの夜、2機の黒いヘリコプターが音もなく編隊飛行するのが、近くの別の牧場主によって目撃されたのだ。

はたして、犯人はヘリコプターでやってきてこのような犯行におよぶのだろうか？

いかにヘリコプターで来ても、近寄って殺すまで、牛がおとなしくしているわけはないし、血を抜いたり、あちこちを切りとったりするあいだ、ヘリコプターが地上わずか数10センチの所でホーバリングしていて、しかもだれにも見られないということは考えられない。

そのうえわずか30分間で、これらのことをすべて行うとなるとまったく不可能としか言いようがないのである。

もちろんこの事件の直後、カスケード郡警察は、近くのマームストローム空軍基地をはじめ、すべての軍関係機関と民間の団体に問い合わせたが、この日は終日風が強く、とてもヘリコプターが飛べる状態ではなく、1機も飛ばしていないという。空軍のヘリコプターさえ飛ばないような気象条件のなかを、どのようなヘリコプターがこの日飛んだのだろうか？

ウォルバートン保安官補は、

「このあと、同じような黒いヘリコプター目撃事件とキャトル・ミューティレーションが重なって次々に起こったため、このあたりの牧場主たちは恐がって見回りのさいに銃を持ち歩くようになり、なかには日中、軍のヘリコプターに発砲するという事件まで起こるようになったんです」

と事態が深刻なことを訴えた。

ついには、マームストローム空軍基地の情報将校がテレビに出演して、軍



●殺された牛の口から発見されたアルミ片を示すマーティン・ウルフ氏（右）。

のヘリコプターが緊急の救助活動以外は夜間飛ばないこと、および日中一定時間にはこれこれの場所をパトロールするために低空飛行するので銃で撃たないで欲しい、などと住民に訴える事態にまで発展したが、黒いヘリコプターの方は一向おかまいなしにひんびんと現れ、住民の不安は高まる一方でついにパニックになりそうな状態になった。

そしてついにはほんものの黒いヘリコプターに向かって、州の税務検査官がショットガンで発砲する事件まで発生したのである。

それが起きたのは1976年4月。

コロラド州の税務検査官C氏が、公務でハイウェイを走行中、黒く塗られた所属不明のヘリコプターに低空飛行で追跡されたのである。C氏は何とかこの不気味なヘリコプターから逃れようと必死にアクセルを踏んだが、とてもヘリコプターにはかなわない。

ついには、黒いヘリコプターはクルマの前に回りこみ、強引に着陸して彼のクルマを止めてしまった。

黒いヘリコプターとキャトル・ミューティレーションの関係を知っていたこの州税務検査官は、恐怖でパニック状態になり、いきなりこの黒いヘリコプターに向かってショットガンをぶっ放したのである。

すると驚いたことに、かなりの至近距離から撃ったにもかかわらず、ヘリ

コプターの前部のガラスにもどこにも弾痕がつかず、ヘリコプターは再び上昇してどこへともなく飛び去ってしまったのだ。

ヘリコプターの操縦席には、3つの黒い人影が、黒いガラスを通してぼんやり見えたというが、この銃撃にも何の反応もみせず、まるでそこに置かれているだけの人形のように動かなかったという。

●レーダー網を

あざ笑う不敵な機影

1975年12月2日――。

記録を見ると、この日は黒いヘリコプター・ラッシュと云っていいほど目撃報告が寄せられ、しかも、まるでアメリカ最高の軍事機密施設をからかうように、ミサイル基地上空を次々に飛び回ったのである。

最初は午後8時過ぎ、ジュリエット・ミサイル基地の当直士官から、保安官事務所に電話で報告が入った。

ミサイル基地範囲内に所属不明のヘリコプターが超低空飛行をしており、警報を出そうとした瞬間、信じられない上昇角度とスピードで飛び去ってしまったという。その当直士官は、これまでの彼の長い軍隊経験からみて、あのような不思議な飛び方のできるヘリコプターは見たことがないし、とても考えられないことだ、と興奮してつけくわえた。その18分後、ダットン市

上空を飛ぶ黒いヘリコプターが目撃され、さらに38分後、マームストローム基地から15マイル北のミニットマン・ミサイル基地上空に、黒いヘリコプターが出現し低空で旋回しているという報告が入った。

この黒いヘリコプターは、当時ブライディ地区を走行中のパトカーによっても確認され、現在南西方向へ向かって頭上150メートルを通過中と報告された。

10時すぎ、今度はコンラッド・ミサイル基地上空90メートルに現れ、そのわずか15分後にはヴォーン・ミサイル基地上空へ……。当直軍曹は、通常のヘリコプターと違って音が聞こえず、点滅する白い光を出しているが着陸灯が点いていないと報告。

さらに12分後、今度はマームストローム空軍基地付近に現れ、驚くべきことにはその7分後、基地から8キロの地点で突然消えてしまったのである。

この黒いヘリコプターはマームストローム空軍基地と、ゴアヒル基地の両方のレーダーによってこの間ずっととらえられていたが、この地点でスクリーン上からパッと消えてしまったというのだ。

ヘリコプターでは、事故で爆発するか急に墜落する以外は考えられないことで、もちろん、そのような事故はおろか、このような深夜に、ヘリコプターを飛ばしていた機関はどこにもなか

ったのである。

NORADは、すでに書いたとおり全米を敵のミサイル攻撃から防衛するアメリカ最高の防衛システムで、万一、敵ミサイルが飛んできた場合、全米にはりめぐらした精巧なレーダーでいち早く探知し、ただちに迎撃ミサイルを発射して、敵ミサイルをアメリカ本土に入るまえに撃墜するという、世界最新鋭のコンピュータ防衛施設である。その中枢センターが、このモンタナ州のシャイアン山の中腹をくり抜いて部厚いコンクリートと鋼鉄で固めた

NORADの要塞に侵入した奇妙な人影

モンタナでのキャトル・ミューティレーションを熱心に研究してきたマーティン・ウルフ氏は、

「このニュースソースを明かすわけにはいかないのは申訳けないが、絶対確実な筋からの情報だから……」

と次のように話してくれた。

1975年のある深夜――

NORADのいちばん外側の防護柵、第1フェンスの警報装置が非常警報を発した。

このNORAD中枢センターにくるには、ハイウェイ115からフォートカーソンへのバイパスを入ってすぐの所から、地図にも載っていない秘密の道路を、シャイアン山中腹の秘密の入口ま

要塞の中に設置されている。

つまりここは全米防衛施設の中核で、たとえ針1本たりともこの施設地域内に入ったら、ただちに警報が発せられ緊急措置がとられるという最新のエレクトロニクス警戒設備が完備され、おそらく世界で最も警戒厳重な場所といえるだろう。

だが驚くべきことにこのシャイアン山にあるNORADのオペレーション・センターさえも、黒い人影とキャトル・ミューティレーションの侵略を受けているのである。

で4・5キロもくねくねと登ってこななくてはならない。

しかも外側の柵には、1メートルおきに、『立入禁止、違反者は厳罰に処す』と書かれたボードが所狭しとつけられているのだ。

滅多に侵入者などはいないのだが、たまに犬や鳥などがちよつと触れるだけでも警報は鳴るので、衛兵はさして慌てもせず見張りに出かけようとした。

その途端、今度は内側の防護柵、第2フェンスに設置された警報が鳴ったのである。

このように嚴重な警戒を突破して、世界最高の秘密施設の中へ入ってくる

なんて……しかもどうやって第1、第2と2つのフェンスを突破できたのか……といぶかりながら衛兵は全速力で走り出た。

すると、黒い人影のようなものが、第2フェンスを突破した内側の地域をフワフワとこちらへ向かって近づいてくるではないか。

「だれだ！ 止まらないう撃つぞ！」と誰何したが、黒い人影はなおも黙ったまま近づいてくる。

衛兵は即座に人影に向かって発砲した。だが奇怪なことに、弾丸は確かにその人影を通り抜けたがそいつは倒れることもなく、なにごともしなかったように後向きになり、ゆらゆらと空中をすべるようにもと来た方へ引返しはじめ、第2フェンスのあたりまで行ったと思うとフツと消えてしまったのである。

翌朝、そのあたり一帯を大搜索したが、足跡はおろか、フェンスにも何の痕跡も見えなかった。

そしてその3日後、このNORADの正面ゲートの前に、キャトル・ミューティレーションの牛の死体が転がっていたのである。

例によって性器が切りとられ、血は1滴残らず抜きとられていた。

どのような方法でこの警戒嚴重な軍事施設に牛の死体を持ってこれたのか、何の目的で正面ゲートに放置したのかは、ついにわからなかったが、公

式発表では牛はコヨーテに食い殺されたということになったという。

■バッファロー惨殺に

UFOが関連？

そして、同じ年の11月21日。

このNORADの要塞が隠されているシャイアン山頂に作られているシャイアン動物園で、今度はバッファロー(アメリカ特有の野生牛)が殺されたのである。

このシャイアン動物園は、警戒嚴重なNORADの防衛施設に隣接していて、さらにその隣にはノースアメリカン・パノラマと呼ばれる展望台があり、その上から直接いろいろな動物が放し飼いにされている柵の中が見下ろせる位置にある。

この日の朝、いつものように開園前の見張りに出た飼育係は、昨日までピンピン生きて走り回っていた牡の巨大なバッファローの死体が柵の片隅に転がっているのを発見した。

死体の周囲には人の足跡はまったくなく、柵が乗り越えられた形跡も見当たらず、あの狂暴なバッファローが暴れた気配もまるでない。

このバッファローは、体重が630キロもある、ひととき大きな図体の牡で、どうやってこのバッファローに近づき、殺せたのか……それよりも、他のバッファローが当然大騒ぎするはずなのに、(バッファローというのは、野生で狂

暴性があり、なかなか人になじまない扱いにくい動物である。だれもそのような騒ぎを聞いておらず、格闘が行われた形跡もないのだ。

動物園専属の獣医、ロドニー・ウォーカー博士は解剖の結果、次のような処見を発表した。

① バッファローの乳房、片方の耳、10センチ四方の背中皮膚、それに性器が切りとられている。この切除の方法・手段ともにまったく不明。自分のこれまでの獣医としての経験からみても不可能としか思えないシャープな切り口で、自分が考えられる限りの刃物や器具ではとうてい無理だと思われる。背中の皮膚は、その下の皮下組織をまったく傷つけず、正方形に鮮やかに切りとられているが、これはよほどのベテランの仕業だと思われる。

② 死因が全然わからない。乳房や耳、性器の切除などは直接の死因にはならない。その他の外傷は発見されず、薬物投与の形跡もない。殺したあとでなければ、前記のような切除はできないと思われるので、これまた謎である。

③ 前日の夜、暗くなつてから今朝発見されるまでの12時間以内に殺されたものと思われるが、そのような短時間で、しかもほかのバッファローのいる中でこれだけの仕事をするのは人間業では不可能としか言いよう

がない。

④ 血液は、信じ難いことに血管中にはまったく発見されず、胸郭と眼球にわずかに血がうつすらとにじみ出ているのが認められるが、このような症状の病気は知られていない。

⑤ コヨーテやハゲタカは通常、630キロもの体重の大バッファローを襲うことはなく、傷口の状況から判断してもそのような可能性はありえないと思われる。

小型機につきまとう 無音のヘリコプター

1976年5月――

さらに奇妙な黒いヘリコプター事件が相次いで起こった。

その夜、この5月に入ってから、あまりにもたくさん黒いヘリコプター目撃事件とキャトル・ミューティレーションが起こり、犯人も原因も不明なために住民の不安がつのる一方なので、何とか正体を明らかにしたいと考えたカスケード郡警察は、1人の保安官補を小型飛行機に乗せて空からパトロールさせ、保安官自らは地上のバトカーから空を監視するという二面作戦をたてたのである。

作戦開始から3時間ほどたった午後11時過ぎ、無線で空軍基地から連絡があった。

レーダーで小型機を監視していたレ

というものである。

なお興味深いことにこの事件の夜、楕円型の光るUFOが、ノースアメリカン・パノラマの展望塔をすすめて飛ぶのを、動物園の飼育係と、シャイアン山のふもとにある空軍基地の兵隊が目撃している。はたして、キャトル・ミューティレーションは、UFOに乗った宇宙人の標本採集実験なのか、それとも謎の黒いヘリコプターの乗組員の仕業なのだろうか？

レーダー要員からで、小型機の下方15メートルくらいの所にヘリコプターと思われる飛行物体が、ビツタリくっついて飛んでいるのがレーダーにうつっている、というのだ。

連絡を聞いた保安官補は早速、小型機のライトを消して下方を見てみたが見えない。

この夜は晴天で視界がよく、月あかりで60〜70メートル前方のものまではっきり見えるほどで、下界の家並みなどがうつすらと見えるのに、ヘリコプターらしいものは見当たらない。

地上のバトカーからの確認でも、それらしいものは見えないという。

そればかりか、耳をすましてみても小型機のエンジン音以外、あのヘリコプターの特徴ある回転翼の飛行音がま

るで聞こえないのだ。

空軍基地にもう1度確認したが、確かに、それもあきらかに、ヘリコプターと思われるものが追尾しているのがレーダーにとらえられているという。

そのうえ、それから2時間というものの、ヘリコプターらしい影は、あるときは小型機の前、あるときは上、あるときは後方というふうに移動しながら、小型機にまわりつくようにして飛び続けるのがレーダーで確認され、そのたびに、小型機自身と地上バトカーの両方から必死に探すのだが、まったく見えないという鬼ごっこが午前1時まで続けられたのである。

そしてレーダー上のヘリコプターの影は、それが現れたときと同様、突然パツと消えてしまい、二度と現れなかったという。

それから1週間後、同じモンタナ州のスミス夫人は、世にも奇怪な事件に遭遇した。

隣り町の知りあいの家を訪ねた帰り道、夜の10時半頃、スミス夫人が自家用車を運転して州道を走っていると、前方に5つの黒い人影が横一列になつて立ちどかっているのに出会った。見ると、全員が頭からスッポリとかぶる真っ黒な長い僧衣のようなローブをまとっていて、月あかりでも顔がまったく見えない。

これは、ひょっとすると強盗か、それとも何かの狂信者の団体で、クルマ

を止めて乱暴をされるのではないかと
思った夫人は、恐ろしくなって夢中で
アクセルを踏み、敵中突破をしようと
した。

だが驚いたことに、クルマが近づい
たらあわててとびのくだらうと思っ
ていた黒い人影は、まるで作りつけの
人形のように身動きひとつせずに並
んで突っ立ったままで、スミス夫人はつ
いにはそのうちの1人をクルマで跳ね
飛ばしてしまったという。

人をひき殺してしまったかもしれない
という罪の意識と恐怖で、パニック
状態になったスミス夫人は、そのま
ま突っ走って半狂乱で自分の住む町の
警察にかけこんだ。

スミス夫人を同道して現場へかけつ
けた警察は、そのあたりを徹底的に
探索したにもかかわらず、奇怪なこ
とに人のひかれた形跡はおろか、1滴の血
痕すらも発見できず、このことを知
ったスミス夫人は驚きのあまり失神し
てしまったという。

その後、あらゆる病院や薬局、関係
機関を調査したが、その夜からこ
ちら、死体や怪我がかたつきこま
れたことも、輸血を頼まれたことも
まったくないという事実が判明した
のである。

■出没するあやつり

人形のような人影

それから2週間後……。

今度はユタ州の州立森林公園の2人

の監視員が不気味な黒い人影を見た。

その夜は晴れていて月が煌々^{キラキラ}とあたりを照らし、見通しもよかったので、いつもの巡回に出た2人もらかな気持ちでのもんびりと月夜の散歩を楽しんでいた。突然、何かが月をさえぎって、一瞬あたりが暗くなったので、ふと上空を見上げると、何の灯りもつけていない真つ黒なヘリコプターが、音もなく横切って飛行するのが見えた。

そんな馬鹿な……音のしないヘリコプターなんてあるものか。——それにヘリコプターの前部にあるはずのガラス張りの操縦席がまるでなく、全体が黒い金属でおおわれているのが月あかりでハッキリと見えたのだ。

あまりの奇怪さに一瞬呆然となった2人は、しかし、ヘリコプターが森林公園のどこかに着陸するかのように降りて行くのを見て、夢中で走り出した。500メートルほど走ったところで、ふと見ると、200メートルほど離れた前方の林の間のわずかな空地から、ヘリコプターが上昇して行くのが見えた。

あんな所へ降りて何をしていたのだろう……と見ると、そこに黒いローブをまとったような怪しい人影が、2メートルほどの細長い何かの器具のように見える物を両手にかかえるようにして、ユラユラと林の中へ歩いて行くのが見えた。

それを見た瞬間、何ともいえず背筋

がゾツとして薄気味が悪かった、と監視員たちは証言している。

その人影は、どことなく人間とは思えないギクシャクとした動きをしていて、この世のものとは思えなかったのだ。

もちろん2人でそのあたり一帯を探し回ったが、その人影はおろか足跡ひとつ発見できなかったという。

さらにこのユタ州、モンタナ州とな

人里離れた廃屋に おびただしい人血の空袋が……

1976年8月6日——。

われわれ取材班が立ち合ったモンタナ州カスケード郡フォートショウの仔牛が殺された現場には、血を抜きとられた仔牛の死体を中心としてそれぞれ4メートルの位置に直径4メートルほどのUFOの着陸跡らしいものが3つ等間隔に残されているのが発見され、ガイガーカウンターが放射能を検出している(詳しくは本誌23号/1977・4月号参照)。

また、われわれの立ち合った別の現場では、殺された牛の口の中いっぱいに、薄いアルミ箔の細片が無理やりにつめこまれているのを発見した。

いったいどのような意味があるのかはまったく不明だが、それは一見、米空軍が敵機のリーダーかく乱のために飛行機から散布するというアルミ箔の

らんで、キャトル・ミューティレーション事件が多発しているオハイオ州でも、今度は奇妙なことに真つ白なローブを頭からスッポリかぶって、やはりあやつり人形のようにフラフラと歩く怪しい人影がさかんに目撃されているのである。

そしてキャトル・ミューティレーションの現場には、不思議な事実が次々に発見されるのだ。

ように見える。

私もその一部をもらってきて、日本の研究機関で調べてもらったが、ごく普通のアルミ箔で放射能も検出されないという。ことだったが、リーダーかく乱用のものよりもアルミ片が短かすぎるといことが判明しただけで、いったい何の目的でこのようなものを牛の口の中につめこんだかはまったくわからなかったのである。

また別の現場では、牛の死体とその周囲の地面にごく薄い綿状のフワフワしたものが発見され、それを採集して州の研究所に検査にまわそうと運ぶ途中、いつの間にかガラス容器の中で消えてしまったという事件や、別のキャトル・ミューティレーション現場では、肉眼ではまったく見えなかったにもかかわらず、保安官補が撮ったボラロイ

ドの現場写真には、その薄い綿状のものがあちこちにはっきり写っていた事件などがある。だが、取材したそのような奇怪な事実の中で、何といつても不気味なのは、1976年8月10日、人里離れた無人の廃屋内で発見した、おびただしい血液の空袋だろう。

その日われわれは、モンタナ州のなだらかな丘陵の続く牛の放牧場を横切つて、キャトル・ミューティレーションの現場へと向かっていた。そして途中のアルターガルチ峡谷にさしかかったとき、小さな林に囲まれた汚らしいボロ小屋を見つけた。

その、屋根は破れ、ドアは外れたままの、見るからに薄気味の悪い小屋に近づくと、何ともいえずいやな匂いがプーンと鼻をついてくるのだった。

おそるおそる薄暗い小屋の中をのぞいたわれわれは、アッと驚いたきり呆然と立ちすくんでしまった。

そこには、小屋の中といわず、裏口の外といわず、おびただしい数のビニール袋が、表面にA型とかO型とかの血液型の表示を残して散乱しているのだ。中には、まだいくらか残った血液が乾ききれずにうっすらとよどんでいるものもある。

袋の数は、全部で60〜70個もあろうか。それぞれの袋に300°Cくらいずつ入っていて、袋の表示からそれが輸血用の血液だということがわかる。

何者が、どのような目的で使用した

のかはわからないが、思わずゾッとするような異様な雰囲気である。

血液型は、A型、AB型、O型、RHマイナス型といろいろな種類の袋があることからみて、怪我人がいて、その輸血に使ったとは思われない。袋の表示するところによると、これらは1975年5月に、カリフォルニア州サクラメントの病院で封入された血液で、有効期間1年と書いてあるところを見ると、もう期限を3カ月も過ぎて

いることになる。小屋の中には、何の貯蔵設備も冷蔵庫も見当たらないので、保存がきかないだろうと思われ、これだけの多量の、しかも異なった種類の血液を何に使ったのか、それにどうやってこの血液を手に入れ、はるばるサクラメントから、このモンタナ州まで運んだのかもわからない。

同行したディック・ノーランダー保安官補とリチャード・レイン保安官補は、袋の口についている注射用の針が全部抜きとられ、袋の口を切りとられていることから見て、何者かがこれらの血液を飲んだのに違いないという。だがいったい何のために？ となると皆目、見当もつかない。近くには、狂信者団体の儀式の跡も見当たらず、第一、州内の狂信者団体は、キャトル・ミューティレーションの犯人である疑いが濃いので、すべて警察によって徹底的に調査され、彼らの動静は逐一監視され報告されているが、このよう

なことをする団体は未だ知られていないのだ。

その時である。

突然、小屋の外にヘリコプターの爆音が聞こえてきた。

■黒いヘリコプター 撮影に成功

思わず小屋からとび出してみると、機体が真っ黒に塗られたヘリコプターが、こちらへ向かってぐんぐん近づいてくる。

黒いヘリコプターだ！

ついにわれわれは、黒いヘリコプターに出会うことができたのだ。

近づいてくるのを見ると、確かにその機体には何の標識も描かれていない。軍、民間を問わず、通常はその機体にも所属を示す何らかのマークが描かれているはずなのに、このヘリコプターにはそれがまったくないのだ。

だが、それはあきらかにヘリコプターの形をしており、それらしい轟音も聞きとれた。ただ、回転翼のたてるバ

ッパッ、バッパッという音が、心なしか普通のものより小さく、音の質もちがうように思える。

その黒いヘリコプターは、見上げるわれわれをあざ笑うかのように悠々と通り過ぎ、高速で視界から遠去かっていった。

しかしこのとき、われわれはついに、黒いヘリコプターをフィルムにおさめることに成功したのである（そのフィルムは、1977年2月10日の日本テレビ「木曜スペシャル」で放送したので、ご覧になった方もおられるだろう）。

はたして、黒いヘリコプターで飛来するのは何者だろうか？ キャトル・ミューティレーションをはじめとする怪事件を秘密裡に調査しているCIAのものだろうか？

だが、この黒いヘリコプターは、じつは、宇宙人がわれわれの眼をあざむくために偽装しているUFOの一種だと主張する人もいるのだ。その実証になるかもしれない、UFO目撃事件を次にご紹介することにして。

黒いヘリコプターは 偽装したUFOなのか？

1976年1月21日の夜9時頃！

レイ・キャボックという牧場主とその2人の息子たち（2人ともまだ10代前半くらい）が、フェアフィールド近くの自分の家へ帰ってきたとき、家の近

くの林の向こうに怪しい光体が見えかくれしながら飛んでいるのを見つけたのである。

3人が乗ってきたビックアップトラックのなかにいつもおいてある双眼鏡

を奪い合いながらわかるがわるのぞいてみると、光体は全部で4つで、白っぽい光を放って動き回っているのが見えた。

「そいつらは、私たちの所から1・2キロくらい離れていたでしょう。これこれ20分くらい見ているうちに、林の向こうに下りていつちまいしました。すると、今度はその向こうのハイウェイのあたりに赤く点滅する光が2つ、急速に走って行くのが見えました。

息子が、『あつ、だれかが電話で知らせたんで、パトカーが調べに行つたんだ。僕たちも見に行こうよ』というんで3人で急いでトラックにとび乗り、ハイウェイへ向かったんです」
だがハイウェイへ出てみると、それはパトカーの点滅灯ではなく、上空を飛ぶ、えたいの知れない赤い光体だった。

その光体を追いかけて行くうち、ハイウェイから500メートルほど離れた道のない野原に、巨大なUFOが着陸しているのが見えたのである。

「それはまるで、2階建てのホテルのように見えました。長さが90メートルくらい、高さが18メートルくらいの長方形のビルのような大きなしろもので、横幅が1・5メートル、高さが90センチくらいの長方形の窓が上下2列にずらっと並んでいて、まるでホテルのようでした。双眼鏡でのぞいてみると、窓のなかは明るいのに何も見え

ず、その大きなUFOの周りに直径3・4メートルくらいの球型の光っているUFOが飛び回っているのが見えました。その4つの光は、アセチレンランプのような白っぽい光で、地面に近づくと光が弱くなり、周りが黄色味を帯びた色になるんですが、どんな形をしているのかは、全体が光っているんでわかりませんでした」

そのまま4・5分くらいも見ていただろうか……突然、下の息子が叫んだ。「お父さん、ヘリコプターがくるよ。空軍がかぎつけて調べにきたんだね、さつと……」

だが不思議なことに、ヘリコプターは音をたてず、ただ赤い灯を点滅させながら急速にその大きなホテルUFOに近づくと、その横に並んで空中に静止した。

「お父さん、あれはヘリコプターじゃないよ。双眼鏡でよく見てごらん」

それまで双眼鏡をのぞいていた上の息子がささやくように言うのでのぞいてみると、たしかにそれはヘリコプターに似ているが、その尻尾の部分がなく、どちらかというと、楕円形を半分に切つたような形をしたUFOだったという。

「普通のヘリコプターは、尻尾の部分が細いんで、夜なんかは前の操縦席の部分しか見えないでしょう。とする、ちょうど私の見た楕円形のUFOをヘリコプターと見間違えることもあ

ると思います。いや、あれが夜、赤い光を点滅して飛んでると、てっきりヘリコプターだと思いこんじまいますよ」

ホテルのようなUFOは、そのヘリコプターふうのUFOがくるやいなや、ゆっくりと上昇しはじめ、両者いっしょに、サンリバー・パレイの方に飛んで行ってしまったという。

残りの4つの球形UFOは、その後45分間もその場で飛んでいたが、やがて、同じ方向に向かって飛び去ってしまったのである。

このキャトル・ミューティレーションの多発するモンタナ州でのUFOコンタクト事件には、2人のティーンエイジの女の子がUFOに追いかけ回された事件や、クルマでドライブ中の若いアベックの眼のまえで、何度も現れたり消えたりした三角形の小型UFOの事件など、不思議な話はたくさん報告されている。

なかでも最も奇妙だが信じよう性のあるのは、1897年4月23日付の『ウッド・カウンティ・アドボケート』という新聞に載つた事件である。ギブ・ヘスロップという牧場主がその体験者で、自分の牧場の上空に飛来した長さ90メートルもの葉巻型の飛行物体が、わずか50メートル前方に着陸し、なから3人の奇妙な人間が出てきたという。

この事件の起きた1897年という

好評発売中! アルファートーン バイオフィード バック装置

これを使って精神統一をすると速やかに効果が上がり超能力が発現します。

超科学七、八号（各三〇〇円・送料共）参照

二九、五〇〇円
二五〇〇円



ESPカード……………五〇〇円
……………一四〇〇円

キリリアン写真機用テスラコイル
美顔器……………一三、〇〇〇円
……………二五〇〇円

超科学四号

特集 超科学実験装置 参照
五〇〇円 二二〇円

橋本電子研究所
鎌倉市小町一―一五―一七
0467(25)3035

あなたの中に眠る超能力を引き出し
すばらしい人生を送るための会

日本超科学会

会員は右記の品一割引、会報進呈、切手六〇円送れ。

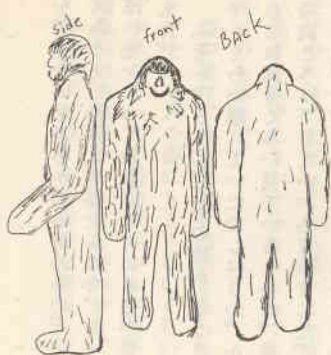
年が、かの有名なライト兄弟が史上初めて空を飛ぶことに成功した記念すべき日より7年も前だったことを考えあわせると、非常に興味深い。が、残念ながら、ここで誌面が残り少なくなつた。この事件の詳しいこと、そして前述のさまざまなUFO事件の詳細は、別の機会にご報告することにしよう。

■全身に黒い毛のはえた 不気味な生き物

ところで、奇怪としか言いようのないこのキャトル・ミューティレーションと黒いヘリコプター、UFO、黒い人影の四つともえのミステリーに、もう1つの黒い影ともいべき奇怪な姿の生物がさかんに出没していることが確認されているのである。

記録によると、1975年12月26日午後5時半頃、真っ青な顔色でガタガタとふるえた15〜16歳の女の子が2人、グレン・オズボーン副保安官の事務所にかけこんできた。

●謎の「雪男」のスケッチ。



2人は、恐怖と興奮で、しばらくは口もきけないほどふるえていたが、やあって、ようやく、その奇怪な体験を話しはじめた。

その日の4時頃、ヴォーンという町の女の子(匿名希望なので仮にA子、B子とする)の家に遊びにきていたB子は外の馬が急に騒ぎだし、柵をひづめて蹴ったり、奇妙な声でいらないたりするのを聞きつけた。

何だろう? と2人で外に出てみた

途端、その見るからに背すじがゾッとするような不気味な生き物を見たのである。そいつは背丈は2・1メートルから2・2メートルくらいで、身体の幅は人間の倍くらいもあり、顔以外の全身が黒っぽい毛でおおわれていた。しかも人間のような歩き方で、ぐんぐんと彼女たちの方へ歩いてくるではないか。

急いで家へとってかえしたA子は、父親の愛蔵している22口径の望遠レンズつきライフルを持ち出して、その生き物めがけてぶっ放した。

だが、そいつはまるで平気な顔でど

んどん近づいてくるのである。望遠レンズでのぞいてみると、そこだけ毛のない顔は、何ともいえず醜いもので、少なくとも地球上のものじゃない感じがしたという。

その生き物と彼女たちの間は、最初200メートルほど離れていたが、なおも近づいてくるので、今度は狙って



●トラビス・ウォルトン(中)を始め誘拐された人間は後を絶たないが……

もう1発撃ってみた。

すると、その生き物はバツタリ倒れたが、やがてずるずると手ではうようにすると再び立ち上がり、もときたほうへ引返しはじめた。

その頃には、もう恐ろしきで半狂乱になっていた2人は、ライフルを放りだしてグレート・フォールズの町へ向かって逃げだしたのである。

逃げながら、B子がうしろをふりかえってみると、驚いたことには、生き物の数は4つに増えていて、倒れた仲間を助けながら茂みのなかへ入っていくのが見えたという。

早速現場へかけつけた副保安官らは、付近一帯を捜索したが、足跡ひとつ発見できなかった。だが、生き物たちが入っていったという茂みの奥の空

地に、UFOの着陸跡のような円形の焼けこげを発見したという。

A子とB子は嘘発見器にかけられたが、2人とも真実を述べていることが判明したと報告されている。

■地球の生体標本採集を する宇宙人?

1976年4月4日の夜中、午前4時半頃。ヘレナという所に住む16歳の少年は、何となく異様な声が聞こえて眼をさました。

断末魔の人間の、うめき声のような音が断続的に家の外から聞こえてくる。彼は起き上がって、2階の自分の部屋の窓から外を見下ろした。

すると、60メートルくらい離れた所から、家の東側にある路上をこちらに向かって歩いてくる異様な生き物を見つけたのである。

「そいつは、背の高さが2・4メートルくらいもあって、身体中に2・5〜3・5センチくらいの黒っぽい毛が生えていたんだ。顔には毛がなかったけど、薄暗いんでよく見えなかった。おでこがまえへとびだして、鼻が顔にめりこんでるみたいに低かったのはわかったけれど……」

その生き物は大またで、両手を人間のように振りながら、のっしのっしと彼の家のほうへ向かって歩いてきたが、彼の家から30メートルくらい離れた道路の上までくると、そこでもうひと

宝島

毎月10日発売 480円



**雑誌宝島へ上陸する
と——音楽が聞こえ
てきます。映画も上映
中です。読みたい本も
いっぱい。今まで知ら
なかったことや新しい
生活を発見します。—
未来への宝ものを
自分で探すことの楽
しさを覚えます。**



〒162東京都新宿区堀場町15セントラル
・コーポラス207 電話03(268)6312

つの同じような生き物といっしょになつたのである。もうひとつのほうは、先にきたのよりも頭ひとつぶんだけ小さかったが、身体の構造は先にきたのとまったく同じで、腕の太さが殆ど身体の幅と同じくらいもあったという。やがて、大きいほうが、道端から何か細長い乾草の束のようなもので、その後方からビニールのヒモのようなものがヒラヒラと出ているえたいの知れないものを拾うと、小さいほうに手渡し、両者そろって、今度は少年の家のほうへ向かってまっすぐに歩いてきたのである。

びっくりした少年は、父親を起こそうと大急ぎで1階へかけおりたが、この間わずか2分くらいだったにもか

わらず2人で窓からのぞいてみたときには、不思議なことにもうどこにもその生き物の姿は見えなかったという。

一家中を起こしてあたり一帯を捜索したが、どこにも見当たらず、ただ、道路上に長さ43センチ、幅17センチという途方もなく大きな足跡が見つかっただけだったのである。

この足跡は、アンダーソン保安官補によって石膏の型にとられたが、足の指が3本しかない、じつに奇妙な足跡だったという。

このほかにも、これと同じ生き物はキャトル・ミューティレーションの現場近くで多数目撃されているが、大部分が、その目撃と前後してUFOや黒いヘリコプターが現れている点で共通

しているのである。

この生き物は、その姿・形からしてどう見ても雪男としか考えられないが、では、キャトル・ミューティレーションと黒いヘリコプターとUFOと黒い人影と雪男という、何とも説明のしようのない一連の怪奇な謎は、いったい何を意味するのだろうか？

キャトル・ミューティレーションの犯人については、

- ① 軍の秘密実験説
- ② 敵国のスパイ謀略説
- ③ 狂信者の団体のしわざ説
- ④ UFO(宇宙人)説

などがあるが、①③は、その規模の大きさや、非合理性、資金調達の問題など、どう考えてもうまくあてはま

らず、現在までのところ、唯一UFOのせいにしてしまうしかないといえるのである。

とすると、UFOに乗ってきた宇宙人は、今や地球上で大規模な生体標本採集をやっているのかもしれない、それが牛ばかりでなく、やがて人体実験にまで発展してくるかもしれないという、うがった説もあながち否定し去ることはできないだろう。

現に、1975年から1976年に報告された数々の、宇宙人による誘拐とUFO内での人体実験事件……トラブス・ウォルトン事件、カール・ヒグドン事件、サンデイ・ラーソン夫人事件などが、ぞくぞくと起こっているのだから――。

になろう!!



楽しさ/バツグンのハム

『JA1ZEAさん、こちらJR6△△△。あなたの電波は59(ファイブ・ナイン)で沖縄県は那覇シティに入感しております……お初にお耳にかかりますが、QSO(交信)よろしくおねがいたします。どうぞ……』

楽しみつきないハムの世界

●海外交信で外国の友達もたくさんできるし●ローカル(近辺)の仲間とのラグチューもゴキゲン●また学校その他のクラブ局や野外交信でも活躍できる●カラフルなQSL(交信)カードあつめの楽しさはBCLファンなら見逃せないところ●ハムコンテストやフロッグスハンティング等各種の催しも盛ん●手がるで予算少々のハンディー局も急増中!

ハムになるのはカンタン

『電話級ハム免許』は○×式のやさしい試験、小中学生の合格者も多数います。ラジオ、模型、BCL等の好きな方なら短期間の準備でOK。

▶ハム初心者のための『普及会』通信講座では日本短波(全国)放送にて『必勝!!国試対策教室』を放送中。国試最新情報をつかんだ重点速習指導で会員を一発合格へプッシュします。



ハムガイド集 無料贈呈中!!

——こんなふうに《電波の声》で仲間を呼び出して自由にラグチュー(おしゃべり)を楽しめるハム(アマチュア無線)が、いまヤングの間ですごく人気。マイクにむかって呼びかけるキミの声が天空をかけ一瞬のうちに世界各地の仲間(100万人以上!!)

にとどいて、楽しい交信が始まります。

↑クルマとハムを結びつけた《カー無線》は人気最高!運転免許を取ったらキミもぜひやろう。



●ハム受験から開局までの総合指導システム



CQアマチュア無線普及会

QTH: 東京都世田谷区尾山台3-9-5
[CQハムサービス 03・704・4986]

「ハムガイド」送れ
氏名・住所
〒番・住所
氏名・年令

〒158 東京玉川局
私書箱19号
CQアマチュア無線
普及会C7係

ダラス巨大空港 と宇宙兵器

▼米テキサス州ダラスのフォートワース空港。ジャンボ旅客機220機を1度に駐機できる。(共同提供)



驚異的超大空港建設の恐るべき背景を探る

軍事評論家 小山内宏

◆なぜ米南西部はUFO地帯か

アメリカを旅しながら、雑誌を見たり、人の話を聞いたりすると、UFOの噂に触れるのだが、そのUFOは話のなかでは、主としてテキサス、ニューメキシコ、アリゾナなどの南西部の州に現れるようである。

これらの州は、大体、大きな面積をもつうえに広大な広野と砂漠が広がっている州で、しかも、重要な軍事基地や産業施設が点在している。

そのような地域にUFOの噂が多く出てくるのは、一見奇妙なようだが、実はまた当然のことでもある、といえるのだ。

われわれの地球の超高空、宇宙空間には平均800数10個から千数百個の人工衛星がとび交っている。そのうち少なくとも3分の2は「軍用衛星」であり、何らかの形で地球上の状態を探知あるいは偵察を行うものとなっているのだが、ソ連のコスモス偵察衛星も大きなダ円軌道を描いて、アメリカ合衆国のほとんどの州をカバーするものとなっている。そのダ円軌道でアメリカ本土の上空に飛来するときは、もつとも低い近地点をとるものとなっており、ときには大気圏すれすれに飛ぶものともなる。そうして、アメリカ大陸の状況を探査しているのだが、その偵察衛星が大気圏に突入して、白熱光を

放って落下するケースも出現する。

光を放って地上に落下したUFOを見た人物が、その場所に近づくとアメリカ軍の空軍の制服を着た一隊がクレイン車やトラックでかけつけ、その残骸を回収していったという報告がなされているが、実はソ連の人工衛星をマークして、その回収を狙っていた特別班なのであった。

では、なぜ、南西部の州に、UFOとまぎらわしいソ連の人工衛星が数多く飛来するのか。

例えば、ニューメキシコ州にはアル

◇巨大空港のひみつ

その、テキサス州のもつ、アメリカ最大の空港が、1973年に完成・開港したダラス・フォートワース空港である。

テキサス州第1の商業都市と自負するダラスには、すでにラブ空港と称されるダラス空港はあった。

しかし、アメリカ最大の空港は、ワシントンのダレス空港であって、わが国の羽田空港の6倍以上の規模を有する大空港であった。首都ワシントンにはナショナル空港、北部にボルチモア空港と3つの空港をもっていた。アメリカの大都市は、ほとんどが3つのエ

バカーキを中心とした核兵器部隊、核兵器貯蔵庫、核兵器製造施設が集まって存在しているし、ホワイトサンズの砂漠では常に新兵器の実験が行われている。

アリゾナ州には有力な空軍基地があり、ICBMのタイタンII型の地下発射陣地が所在している。

テキサス州は、軍事基地はもちろんヒューストンの宇宙センターがあるしカリフォルニア州に迫る大軍需産業州にさえ発展する途上にある。

そして、このテキサス州は、いまやアメリカ最大の空港をもつものにさえなっている。UFOならずとも覗き見をしたくなる州であらう。

◇巨大空港のひみつ

ア・ポートをもつものであり、例えばニューヨークはケネディ空港をはじめラガーディア、マンハッタンの対岸のニューアークと3つの空港を有している。ロスアンゼルスは、大型のロス空港のほか、ロッキード社の所有するバーバンク空港があり、濃霧などのときに活用するサンディエゴ空港がある。いずれにせよ、アメリカにおける民間空港の数の多いのには驚かされる。

さて、このアメリカに出現した最大の空港ダラス・フォートワースは、なんとボーイング747クラスのジャンボ旅客機を220機まで同時に駐機す

ることができるといわれる、日本人の感覚では想像もできないほどの超大型空港である。

この、ダラス・フォートワース空港は、はやくも1976年に800万人の搭乗客数を記録するものとなったのだが、前年の75年に比して、8・8%の増大率である、といわれている。

しかも、この旅客数は定期便のみの記録で、不定期のチャーター便の乗客を加えたとなれば、それは裕に1600万人を超えるものとなる、とされている。

それでも、ダラス・フォートワース空港当局は、目標通りではない、と不満を示しているのだが、これは昨今の気象異変によりパケーションに動く観光客が減少したためだといわれる。

この、ダラス・フォートワース空港は、取扱いい航空貨物量は、76年には8万1364・7トン記録し、航空郵便は、3万9863・7トンに達するものとなっている。

とにかく、とうとうもないこの大空港は、主滑走路の全長が約6000mといたった長大なもので、年間最大5000万人の乗降客を処理し得るといわれる13のターミナルを備えている。

この大空港は、万一の際には戦略空軍の基地に活用されるのではない、か、という説が流されている。

わが国の民間空港は、どうであらうか。

ダラス・フォートワース空港と 各国主要空港との比較図

0 1 2 3 km

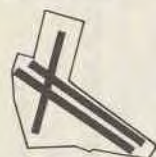
〈空港内の黒い太線は滑走路を
カッコ内の数字はヘクタールを示す〉

ダラス・フォートワース空港(米テキサス州) (7,000)

〈紀元2001年完成時の図〉

これで見ると、ダラス・フォートワース空港は世界の超一流空港といわれるパリのドゴール空港の倍以上もあり、いかに巨大であるかがわかる。

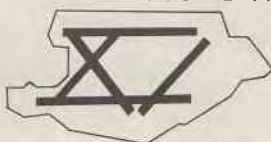
東京国際空港
(羽田) (409)



新東京国際空港
(成田) (1,065)



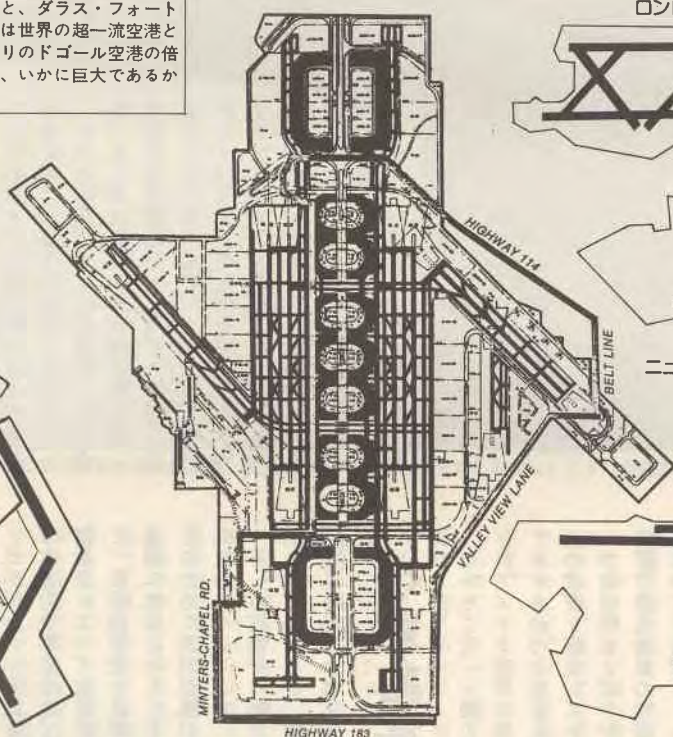
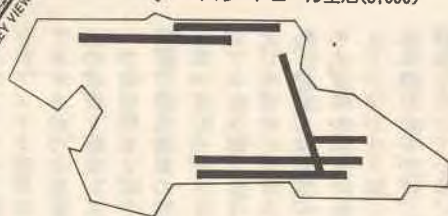
ロンドン・ヒースロー空港(1,100)



ニューヨーク・ケネディ空港(2,050)



パリ・ドゴール空港(3,000)



自衛隊法135条は、有時の際、交通機関を収用できる、と規定しているものである。これは、主として鉄道とその施設を目標として考慮されたものであるが、それは空港にまで拡大されている、といわれている。

アメリカにおいては、非常時収用法があり、国防総省の指令によって民間空港を、軍が収用できるものとなっているが、すでに平時においてそのなかでも必要な大型空港は指定されており一朝有事の際にはスムーズに軍管理に移行する体制は整えられている。

その目的は、アメリカ空軍の疎開と補助基地の拡大である。とくに、B52などの戦略爆撃機の疎開である。

アメリカ空軍は、その戦略核戦力の主体をICBMと海軍のSLBMと弾道ミサイル潜水艦においているが、戦略爆撃機の価値も軽視してはいない。なぜならば弾道ミサイルとは違って、戦略爆撃機は「呼び戻し」のきく核戦力であり、また、ちたつかせて瀬戸際戦略に使用できる威嚇力ともなるからである。

しかも、B52戦略爆撃機は、1発でわが国の関東平野全体に潰滅的な大被害さえ与えることのできるアメリカ最大の24メガトン——それは、ヒロシマ原爆の1200倍、TNT火薬なら2400万トン相当というほどの——という水爆さえ4発まで搭載できるし、さらには、自力で約900kmを飛行し

て目標に突入する巡航型ミサイル「ハ
ウインド・ドッグ」(AGM 28)を2発
携行する方法もなされ、この場合でも
各1発の核弾頭威力は2・4メガトン
——ヒロシマ原爆の100倍以上に相
当——とされていた。

最新型の方式では、短距離ミサイル
と呼ばれるAGM 69SRAMを携行す
るものとなっているが、このミサイル
は長さ427cm、直径約45cmという小
型の核兵器で、B 52はこのSRAMを
最大20発携行できる。その発射機は特
長のあるものであって、リボルバーの
ようなターレットに8発ずつ装填され
たAGM 69を連続発射できるものとな
っている。このランチャー1基を弾薬
庫に収納し残り12発を翼に吊下する。

このAGM 69の威力は1発当たり20
0キロトン——ヒロシマ型原爆10倍相
当——とされているものである。

こうして、戦略爆撃機は核戦略にお
いて改めて評価されているものとなっ
ているが、その評価とともにその保全
が重要視されるものとなったのだ。

B 52戦略爆撃機は、現用が453
機、KC 135給油機583機と組んで、
常時出撃待機体制をとっているが、ソ
連がSS 9型ICBMを展開し、それ
が5メガトン級の分離弾頭3発を収蔵
するMIRV(分離式多目標弾頭)も含
まれていることが判明したとき、アメ
リカ空軍はその基地を攻撃・破壊され
る可能性が急速に高まったのである。
これに対し、アメリカ空軍はミサイ

ル戦力の強化を図るとともに、戦略爆
撃機の疎開を考えるものとなった。そ
れは小敵撃つ、可能な限り多くの空
軍基地に分散・配置する方策となって
現れ、それは進展している。

だが、いかに分散されても、アメリ
カ本土の空軍基地は、常時、ソ連の偵
察衛星によって監視されている。従っ
て、戦略爆撃機の疎開状況も詳しくソ
連側に掌握されているものであるが、
そのために民間空港の有事活用は重要
になってくる。

万一の核戦争の場合、事前にその徴
候を感知したとき、戦略爆撃機が民間
空港に移動すれば、先制攻撃の難から

◇軍事衛星はここまできている

だからこそ、ソ連の偵察衛星は、さ
らにアメリカ空軍の狙いを探るべく、
テキサス州の上空をも飛びぬけて、地
上の状況を探査しているのだ。

宇宙空間をとぶスパイ、ともいわれ
る軍用偵察衛星の性能は驚異的なもの
となっている。

アメリカは、1960年以来、打ち
上げを進め、サモス、9200Aなどか
ら、現在では新型のビッグバードを打
ち上げている。

ビッグバードは、2〜3カ月間軌道
上に飛行をつづけ、TVによる監視・
偵察を行っている。TVカメラのほか
写真撮影機も備えており、必要に応じ

逃れることができるものとなるし、核
攻撃、あるいは回避のため、空軍基地
を飛び立ったあと、その基地は攻撃さ
れて破壊されるとき考えなくてはならな
い。

従って、万一の際、空軍基地を発進
した戦略爆撃機は、他に着陸地を求め
なければならぬのだが、そのために
は民間空港の収用は、重要なものとな
るのである。

ジャンボ旅客機220機を一度に駐
機できるというダラス・フォートワ
ース空港は、そのような場合、大きな役
割を果たすものとなることは、言うま
でもない。

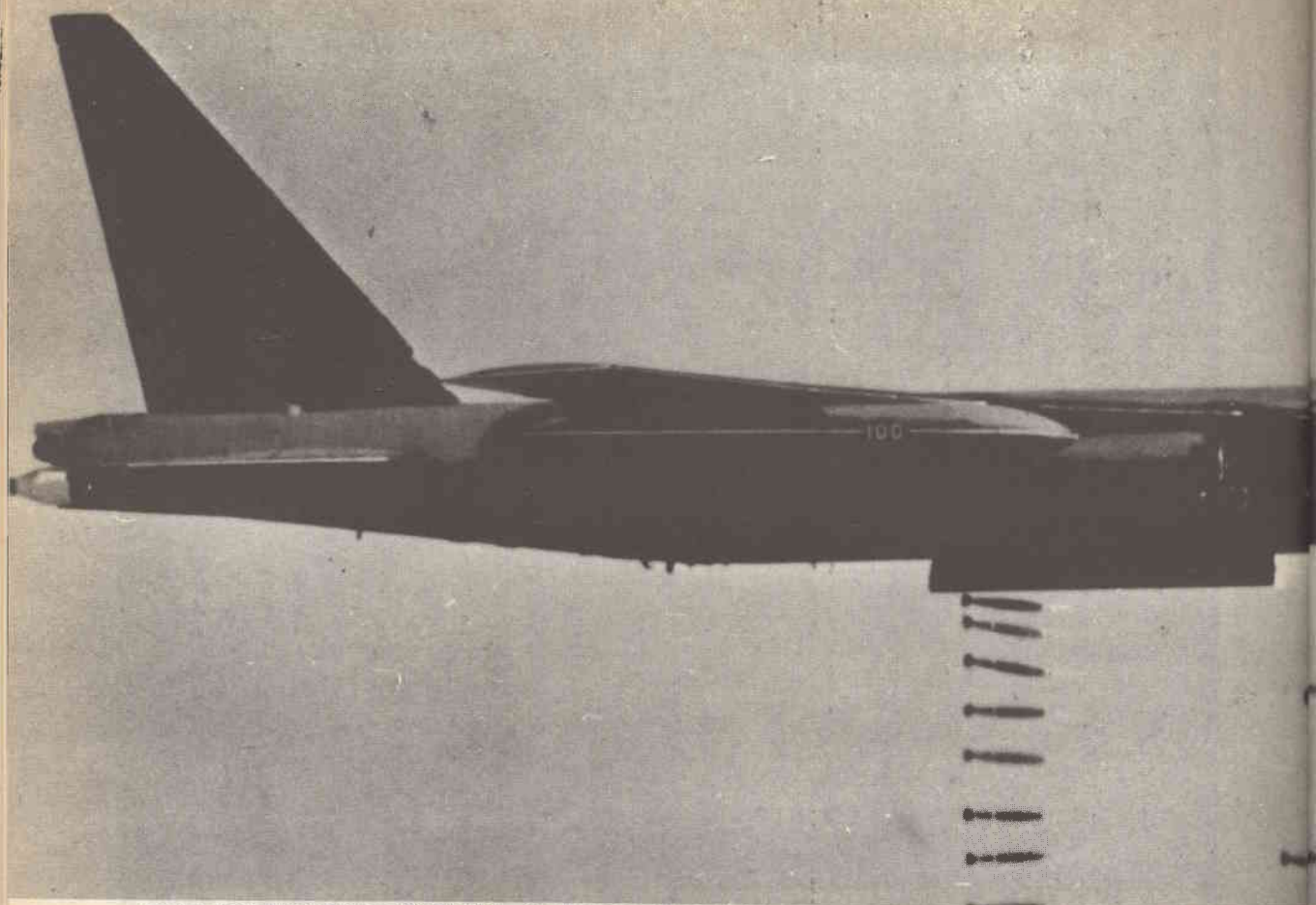
て写真撮影も行う。そして、そのフィ
ルムはカプセルごと投下されて、所定
の海域においてアメリカ海軍の特別機
動部隊が回収する。

この回収方法は進んだものとなり、
現在ではパラシュートを開いて降下し
てくるフィルム入りのカプセルを、特
別の捕捉装置を装備した回収機が飛行
して接近、空中においてこれを回収し
てしまうものにさえなっている。

この方法を案出した背景には、裏話
がある。

アメリカ海軍の特別機動部隊は、こ
れまで水面に着水したカプセルを拾い
上げるという方法で、回収を行ってい





▲ベトナムで爆撃中の米空軍B52戦略爆撃機。広島型原爆の1200倍の威力をもつ24メガトン水爆を4発搭載できる。(共同提供)

た。

ところが、あるとき、その海面にソ連の潜水艦が出現し、そのカプセルを拾い上げようと試みたのである。アメリカ海軍の対潜哨戒機が急行して、ソ連潜水艦を追いついたのだが、現在でも、カプセル回収に急行する海域には必ずソ連の潜水艦が出没し、アメリカ海軍の艦艇と航空機の間、砲火なき威嚇の闘いがくりひろげられている。

このように、偵察衛星の撮影したフィルムは、極めて重要なものとされているのだが、それは高度な撮影能力による。

かつて、スパイ機として名を謳われたU2機は20kmの上空から、60cm程度のものさえ識別できる写真を撮影し、ソ連当局を驚かせたのだったが、偵察衛星の撮影能力は格段の向上を示している。

例えば、アメリカの偵察衛星は、100数10kmから200kmという超高空の宇宙空間から撮影しても、地上にある60cmから1m程度のものを確実に識別できるといわれるほどのものとなっている。だから、偵察衛星は、地上にある兵器、軍事施設は1つとして見逃すことなく、確実に探査してしまふ、といわれるほどのものとなっているのである。

ソ連も当然、負けてはいない。

一連のコスモス偵察衛星を打ち上げて、アメリカの状況を探っているのだ

が、それは年間20〜30個にさえ及んでいる。打ち上げ用のロケットの費用をも含めて、ソ連の偵察衛星に投じられる軍事費は膨大なものとなろう、といわれているほどである。

宇宙開発の技術の進んだソ連は、1度軌道にのせた偵察衛星も、必要に応じて特定の地域にむけて軌道を変更できるものとなっているといわれる。そして、第4次中東戦争の際には戦争地域の空に、連続6個の人工衛星を飛ばせるといったことさえ行っている。

偵察衛星のほかに、アメリカは「早期警戒衛星」を打ち上げている。これは、ICBMなどのミサイル攻撃を早期に探知しようという目的のもので、1970年代に入ると、静止衛星を太平洋、大西洋、インド洋上空に打ち上げて、ソ連のミサイル基地、洋上にある弾道ミサイル原潜などを監視している。もちろん、ソ連も同種の衛星を飛ばしている。

また、多くの軍用の「通信衛星」を打ち上げ、戦略・戦術通信のために役立てている。

この通信衛星によってアメリカは、リアル・タイムで軍事情報を入手し、また、全世界の各地との即時交信を行えるものとなっている。

「航海衛星」は、艦艇、航空機などが方位を測定するために電波を放つものだが、とくにボラリス潜水艦のようなミサイル原潜の発射位置を正しく測定

するのに役立つものといわれている。それによってこそ、水中発射のミサイルが、正確な照準を得て目標に向けて突進できるものである。ソ連も同様に航海衛星を打ち上げ、全世界の海洋に行動する自国のミサイル潜水艦の攻撃体制を助けるものとなっている。

従って、FOBSの攻撃に対して、その命中精度が高くないことと、硬化されて耐爆性を有しているICBM陣地は、被害を避けることが出来るものであるが、地上の空軍基地に所在する戦略爆撃機は、5〜6分間の持ち時間では退避できず、奇襲攻撃をうけて全滅するものとなるのである。

しかし、ソ連がFOBSを実験したとき、攻撃型の宇宙兵器が出現した。FOBSは、水爆を搭載した衛星を人工衛星のごとく軌道に打ちあげ、それが軌道を1周するまでに目標にむけて降下指令を出し、FOBSは目標にむけて落下・突入する。しかも、軌道の高さが150km前後のため、アメリカの早期警戒レーダー網は、それが落下を開始し、目標に着弾する5〜6分前でなければ探知し、警報を発することはできない。

いまや、このように軍用衛星は宇宙空間をとる重要な兵器となっており、一国の防衛も、世界の安全も、この人工衛星の働きに依拠するものとなっている、とさえいわれるものとなっているのだ。

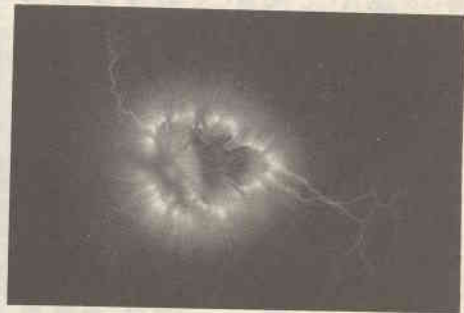
◇宇宙兵器と宇宙空間戦争

しかし、そのために、平時から砲火なき戦いが宇宙空間にまで拡げられつつあり、万一の際は、その宇宙空間で宇宙兵器による戦争さえ予想されるものとなっている。

1975年12月。アメリカ国防総省は、ソ連が対衛星兵器の開発・実験を行ったことを探知し、衝撃を受けた。それは、それまでの情報を解析した

結果によるのだが、同年10月18日インド洋上にあったアメリカの早期警戒衛星が、突如としてICBM発射時などに感知する1000倍もの熱を受けるといったことが起こった。しかもこの熱は連続的に5回放射され、1回の放射は4時間以上に及び、その熱源はソ連西部の一点から強力な熱エネルギーとして放射されていることも判明し

キルリアン写真実験セット



キルリアン (KIRLIAN) 写真とは、コロナ放電を利用し被写体の発光現象を撮影するものです。指や人体の一部などを撮影すると「生体エネルギー、オーラなどと呼ばれる現象が観察できます。あなたもこのセットで未知の世界を探ってみませんか？

○キルリアン電子写真実験セット

TKP101 (装置本体、附属部品共) ¥28,000

カタログのご請求は誌名記入の上下記まで

株式会社 テクノニクス

☎ 326 足利市鹿島町1156 ☎ 0284-62-8073

た。しかも、それが確実に人為的なものかどうかは判然とはしなかったのだ。

だが、つづいて11月17日〜18日両日。アメリカのモルニア衛星が、その赤外線センサーに強力な熱放射を受けた。その情報を分析した結果、それは高出力ケミカル・レーザの波長であることが判明し、それを発射する地点が3カ所も存在していることが探知されたのである。

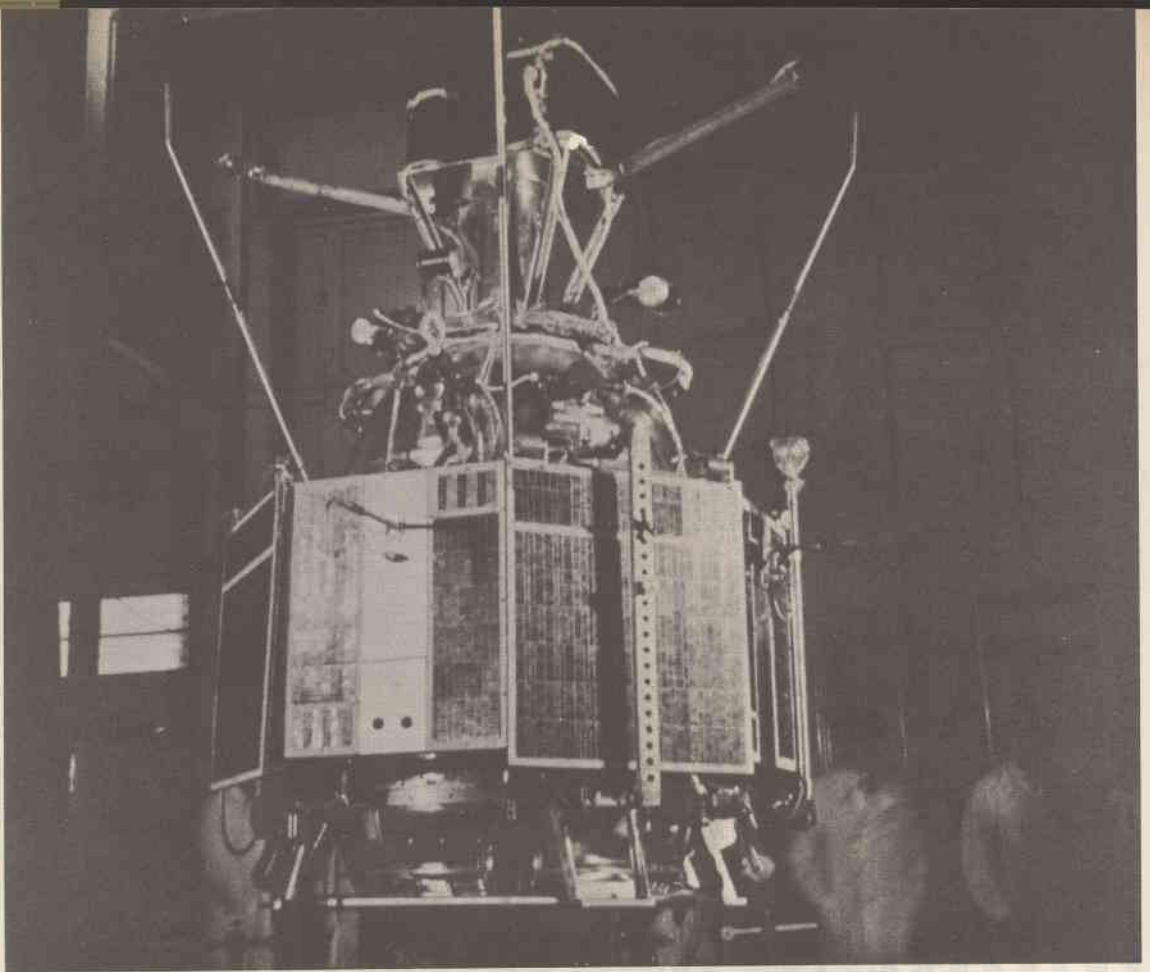
こうして、国防総省は、ソ連がレーザを使用し、早期警戒衛星を「メクラ」にし、ICBMの奇襲を成功させる戦術にとりかかったもの、と推定することになった。

ソ連はこうして、軍用衛星に対する

戦いを開始したのだが、さらに宇宙空間で直接アメリカの軍用衛星を破壊する「迎撃衛星」の開発に着手した。

1970年、ソ連はそのテストに着手し、71年、72年とそれをつづけ、74年まで一休みしたが、1976年2月、明確に迎撃衛星と思われるテストを行った。

これは2月12日。コスモス803衛星が打ち上げられ、それは、624km (遠地点) 554km (近地点)、66・0度 (軌道傾斜角) の軌道にのるものとなった。ところが、16日にコスモス804衛星が打ち上げられ、701kmと148km、65・1度の軌道にのせられたのだが、この804は803へ接近するために運動を始めた。



▲1台でアメリカ合衆国のほとんどをカバーできるというソ連のコスモス偵察衛星。(共同提供)

1時間25分後には、その軌道は、677kmと570km、65・86度に変わり、4時間40分後には、620kmと528km、65・74度が変わって、803にきわめて接近するものとなった。そして、62周目に803は「迎撃」され、テストは成功した、と見られるものとなったのである。

ソ連はこのように、軍用衛星を追跡して、宇宙空間でそれを破壊し去ろうとする、迎撃衛星の実用化を進めているのだが、アメリカもこれに対抗するために、迎撃衛星の開発に着手するものとなっている。米ソ両国の間に、この宇宙兵器の開発競争は、火花を散らすものとなっている。

そして、いま、アメリカは有人衛星船、あるいは宇宙ステーションとの渡し舟となるスペース・シャトルの開発を進めており、77年6月、それは初め

て母機にのせられて実験を行った。だが、この宇宙開発を目的とするとされているスペース・シャトルは、将来の宇宙兵器「軌道爆撃機」に発達していくことが期待されているものである。

この、軌道爆撃機は、宇宙ロケットによって軌道にうち上げられたのち、有人の宇宙兵器として軌道を飛行して地球上のあらゆる地点に突進し、核攻撃を行うことが可能であり、また、軍用衛星を撃破したり、各種の宇宙戦争を行い得ることが出来るものである。

この有人の軌道爆撃機は、任務の終了後、大気圏に降下し、地上の空軍基地に帰還できるものである。

そして、宇宙空間における宇宙兵器の戦争は、必ずやこの世紀のうちに実現するだろう、と世界の軍事専門家は憂慮し始めているのだ。

全日空ちびっ子航空教室

「紙飛行機からUFOの謎まで」

日時 8月7日(日) 13:30~16:00

入場無料

会場 愛知県春日井市立知多会館

内容 「UFOの謎」講演とスライド映写／久保田八郎 他

主催 日本航空少年団／協賛 全日空／後援 中部飛行協会・ユニバース出版社

抽選で「UFOと宇宙」誌を進呈
問合わせ全日空名古屋支店TEL 052-581-8301

《案内図》



科学ニュース



木星が太陽に変身!

30億年後には太陽が2つ

木星は30億年以内に質量と光度が太陽に近くなり、恒星になるだろう、とソ連の天体物理学者たちが仮説を打ち出した。

木星はこれまで考えられていたような大きな惑星でなく、光り輝く恒星である。その結果、この太陽系には太陽が2つ輝くことになるのである。

木星が太陽から受ける以上のエネルギーを放射していることは、10年前から判明していた。

そこでモスクワなどの研究所が観測した結果、木星の内部は太陽と同じ重水素の核融合反応が起こっていて、光を放射して

いることがわかった。

木星は終末期ではなく成長過程にあり、中心温度はすでに絶対温度で30万度の高温となっていて、今も上昇中だという。

30億年後に、太陽が2つも現れると、地球の生活もだいぶん変わるだろう。

CIAが

UFO観測を妨害?

米中央情報局(CIA)がUFO観測を妨害している、このほどメキシコのアカプルコで開かれた未確認飛行物体(UFO)の世界会議で米代表のウィリアム・スポールディング氏が非難。CIAはUFOに関する情報の流布を食い止めようとして

していると告発した。

CIAと他の政府機関員16人が米国内の21都市で観測データや写真の提出を要求し、ここ数年間に21枚の写真が没収されたという。

宇宙人あてに……

探測器にメッセージ

宇宙に存在する地球以外の高等生物に向けて国連メッセージが無人探測器・ボイジャー1号に託されることになった。

ボイジャー1号はケープカナベラル宇宙基地から8月に発射され、木星、土星のそばを通り抜けて数年後、太陽系を出る。

ワルトハイム国連事務総長のメッセージは銅製録音盤に音楽と地球の自然音と共に録音されており、「私は地球人類を代表してあいさつを送ります。我々が太陽系から踏み出したのは平和と友好を求めるためです」と語らせている。

この国連メッセージは米航空宇宙局が計画したもので、太陽系のほかにも、地球の環境に似た惑星があり、そこに人間に似た高等生物が存在する可能性がある、という仮説に立つて行われたもの。国連のほか、17カ国のメッセージも伝えている。

トピックス

2億年前の太平洋に

失われた大陸・パシフィカ

太平洋には失われた大陸があったと、このほど開かれた米地球物理学会で発表された。発表したのは米スタンフォード大学の地球物理学者アモス・ヌーア博士。パシフィカと名付けられたこの失われた大陸は、現在のオーストラリア大陸より少し小さいくらいだったが、2億年前に分裂して、漂流しはじめ、他の大陸に衝突した。ロッキー山脈やアンデス山脈はこのような大陸同士の衝突によるものだとヌーア博士は説明している。

ヌーア博士はさらに、3億年前に生息していた同じ動物の化石が、アラスカやニュージーランド、チリなどで発見されている。そこで、これらの動物がもともとパシフィカ大陸

2200万円の切手盗まれる!



複製機が上下逆さまになってしまったいわゆるエラーの珍しいものである。25年にミネソタ州ミネアポリスのベンジャミン・ミラー氏から寄贈されたコレクションの1枚だった。

これと同じエラー切手を数か月前、ニューヨークで行われた競売会で4万ドル、約1200万円で入札したシカゴの収集家もいた。なんと人気のある切手なんだろ。

ちなみに、日本では使用済み180円で売っているところもある。

(写真/AP)

米ニューヨークの図書館から時価2200万円はするという珍しい切手がこつ然と姿を消した。この切手は1918年、米国で発行された航空便用の24セント切手。印刷のミスで図柄の

津波偵察に

レーザー光線が威力

海岸から何百kmも離れた津波を発見するため、レーザー光線を使った研究が行われている。

研究しているのはソ連の津波

「ゼロ戦」と同じ速さの超特急

50年代後半には東京—大阪間を約1時間で結ぶ超高速列車の実用化をめざして、国鉄ではよいよ7月末、宮崎県の実験線で実物大の両車を使った走行実験を始めることになった。

国鉄が開発しているこの鉄道

は、リニアモーターカーと呼ばれるもので、磁石とモーターの回転運動の2つを組み合わせたもの。つまり、同じ極と極とが反発する磁石の性質を応用して車体を浮上させ、レールのかわりになる1本のガイドウェイに

専門家ボリス・レビン氏。津波レーザー・ソナード法と呼ばれるこの方法は、レーザー光線のすぐれた指向性と遠くまでとどく性質を利用したもの。

海に向けてこれを放てば、沖合の津波に反射され、もどって

来た光線等特殊な装置で受信する。津波はオシログラフで探知でき、津波までの距離と移動速度に関するデータはすべて自動的に計算される。

将来、このレーザー装置を沖合の津波危険水域に「偵察員」

コイルがたぐさん巻いてあるモーターの外側部分をたてに切って並べ、車体にはその回転軸を取りつける。するとモーターの回転運動は前進運動となつて、浮上した車体は500kmものスピードで走る。

この方法だと、従来の車両とちがつて車輪とレールで起こる摩擦音や列車の重みとスピードで発生する振動などのさまざまな公害が解消される。

国鉄では37年から研究を始め、47年には時速60kmの浮上走行実験に世界で初めて成功している。そこで、宮崎県に全長11kmの実験線をつくり、最高時速500kmのスピード実験にいくもうとしている。

時速500kmといえば、太平洋戦争で活躍した日本の戦闘機「ゼロ戦」と同じほどのスピードになる。

日本では、日航と運輸省がそれぞれ独自にリニアモーターカーの実験を進めている。西ドイツ、カナダも研究しているが、いずれも模型の段階で実験車を走らせるのは国鉄が世界で初めてである。

(写真/共同)

TOPICS

に生息していたと仮定すれば、なぜ同じ動物が太平洋周辺の異なった場所で同じところに化石になったのかを説明できると語った。

中国の唐山大地震

直前に謎の「せん光」

昨年7月、中国の河北省唐山で起きた大地震の直前に、唐山上空は真昼のように明るくなり、白を主体とする謎の「せん光」は遠く320km先きからも見えたという。

これは、このほど中国を訪れたメキシコ国立大学の地震学者ロムニツ教授が明らかにしたもの。この地震によって、65万人の死者が出たと推定されている。

毒ヘビにガブリ

人工呼吸器で奇跡の回復

世界一危険な毒ヘビ、マンバにかまれて奇跡的に助かった人がいる。

この人は南アフリカのヘビ学者、ジャック・シールさん。シールさんは実験材料にマンバを捕えた直後、ガブリと右足をかまれた。マンバにかまれると、普通5分で死ぬといわれるが、シールさんは自分で傷口を洗い、大量の抗血清を注射した。

シールさんの要求で人工呼吸器の治療がはじまって6日間、シールさんは完全なマヒ状態だったが、意識はすでに取りもどしていた。そうとは知らぬ医師や妻の会話はこうであった。

「脳がひどくやられているようだ。これ以上人工呼吸器をつけてもムダかもしれない」
シールさんはゾットとした。呼吸器をはずさ



として設置すれば、津波の発生を早期に発見し、対策に必要な情報を無線で沿岸の通報所に連絡できるようにするだろうという。

2100年前の

ラジオ体操(?)

中国では2100年前の前漢時代すでに体操や呼吸法など、健康増進、病氣予防・治療を目的とした運動が行われていた。これは最近発掘された湖南省長沙馬王堆3号漢墓から出土した「導引図」で明らかになった。「導引図」は呼吸を主体とした健康増進術で、長さ1・40m、幅0・5mの絹織物に彩色で描かれてあった。

太陽系の卵を発見

惑星誕生前のガスやチリ

太陽系と同じ惑星系を形成中の恒星が発見された。この恒星は「MWC349」とよばれ、地球からおおよそ1万光年の「は

くちよう座」にある。

発見したのは米航空宇宙局(NASA)と米アリゾナ大学の研究グループ。

同大学のリチャード・トンブソン博士は「惑星系が濃いガスやチリから生まれたとする現在の惑星系形成理論の最初の裏付けである」と語った。

今回の発見は、NASAエイムス研究所の観測機に積んだ2台の強力な赤外線望遠鏡の観測でわかった。(右)写真は恒星の想像図である。

地球の生命はいん石に乗ってやってきた!

先頃、京都で開かれた第5回生命の起源国際会議で、日本の3人の学者が、これまでの生命の起源をさぐる研究を振り出しにもどすような発表をした。

生命の起源の研究はずっとメタン、アンモニア、水素などの

還元型大気を出発物質として進められてきた。それも還元型大気に放電してアミノ酸をつくること

に成功していたからである。

ところが、ここ数年、地球の過去の研究や、火星や金星などの観測が進むにつれ、これまでの考え方に疑問が出てきた。「原始地球の大気は、有機物がほとんどできない酸化型の大気だった」というのである。

小島総・東大理学部教授ら3人の学者が独自に分析した結果「生命が生まれたと考えられるころの大気は、地球ができて間もなく、地表近いマントルのあたりから一気にふき出したもの。その当時、マントル付近の温度は1千度と考えられるが、炭素や水素、窒素、酸素といった元素はこの温度では、決してメタンやアンモニアにはなりえない」という同じ結論に達した。

そして東京工大の松尾助教は、現在の地球の大気中に酸素が多いのは生物の光合成の結果だったもので、生命の元になる有機物はいん石に乗って地球にやってきたと考えればよいだろう、と説明した。



岩が歩く?

15kgもある岩がひとりでに240m動く珍現象が米国で起きている。岩が動いたのはカリフォルニア州デスバレーにあるレイストラック・プラーヤ湖の湖床。湖床といっても水が枯れてしまっただけで、15kgほどある20個の岩が、90mから240m移動したというので地元の人々はビックリ。

カリフォルニア工科大学のロバート・シャープ教授はこの珍現象を、地面の湿気と強風の条件がうまく合ったときに起こるのではないかと一いつているが、岩でも自分で歩きたいときがあるのだろうか?

写真は240m動いた跡を残すホーテンス岩。

(写真/AP)

海は年間1540億トンの

酸素をつくり出している

世界中の海洋から大気中に放出されている物質の量を測る科学者が推定した。

宇宙ロケット開発の父 ブラウン博士死去

米ロケット科学者のウェルナー・フォン・ブラウン博士が6月16日、ガンのためバージニア州で死去した。65歳であった。ブラウン博士は米航空宇宙局(NASA)のマーシャル宇宙

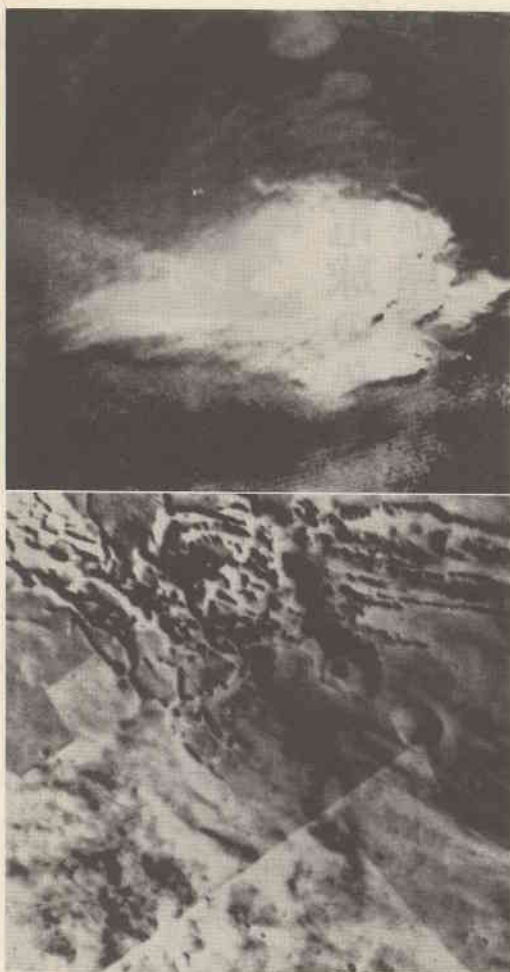
飛行センター所長として、アポロ計画の推進者となり、大型のサターン5型ロケットを開発。1969年、アポロ11号で初の有人月面着陸を成功させた。米国の宇宙ロケット開発の父といわれるブラウン博士は1912年、現在ポーランド領プロシャのビルジッツで生まれた。ベルリン大学卒業後、ドイツ兵器局の技師となり、第2次大戦中は世界初のロケット兵器V2号の開発に当たった。敗戦後の1945年、アメリカでロケット兵器の開発を担当して大陸間弾道弾を開発。米国の初的人工衛星を軌道に乗せたりした。

火星は今や「台風シーズン」

火星の砂あらしの様子を米航空宇宙局(NASA)がこのほど発表した。これは火星探測器バイキング号の軌道機が、3月25日マリナー1の谷の西方を撮影したもので、下の写真は昨年7月にバイキング号の軌道機が同じ地点を

撮影したものである。上の写真では、砂あらしが西から東へ、つまり左から右へ600kmも移動している。雲のように見えるのがそれで、先頭はかなり鮮明に写っているが、後の方はぼけている。これは40日前に始まった砂あらしが原因だ

という。火星の砂あらしは、火星が太陽に接近することが原因で、太陽にもっとも接近する5月中旬がそのピークだといわれる。これまでにも火星の砂あらしは地球から観測されていた。(写真/UPIサン共同)



TOPICS

もっとも生産力の大きいのは太平洋で、年間に580億トンの酸素、160億トンの炭素、70億トン以上のケイ素、40万トンのリンを大気中に放出したり、海底にたい積させたりしている。次いで、大西洋、インド洋、北極海の順である。

海の中で行われる光合成による生産力の見積もりは、植物性プランクトンを数えるのが困難なため、推定できなかったが、ソ連の海洋学者たちは、特別に設計した自動計測ブイの力を借りたおかげだといっている。

日本の伝書バト 6000キロのインドまで「ひとり旅」

日本から約6000kmも離れたインドの奥地で日本の伝書バトが保護された。保護したのはニューデリーから南へ1400km、インド南西部のイルカルという小さな町の大学教授と学生たち。去る4月、イルカルの回教礼拝所の庭に、疲れて飛べなくなった白いハトを見つけ、足輪を調べたところ、75年生まれの日本産伝書バトとわかったものである。

教授らはニューデリーの日本大使館に手紙を送り、持ち主を探して欲しいと依頼した。足輪の番号から社団法人日本ハトレース協会に登録されたレース用ハトとわかり、福岡県久留米市日吉町の猿渡小鳥店で扱った足輪であるところまでたどることができた。

しかし、同店では売り先をチェックしていないので、ハトの所有者はわからないという。それにしても6000kmを交通機関も使わず、ひとり旅するとは、空を飛べる鳥ならではの物語。

UFO 目撃 レポート

●裸電球の色をした葉巻型
物体が屋根すれすれを音も
なくゆつくり飛行

主婦(37歳)
大野 美智子

☆目撃日時 1976年10月29日、午
後6時10分頃。

☆目撃地点 自宅付近の道。

☆天候 晴れ。

☆目撃継続時間 約8分。

☆同時目撃者 停止時—

2回とも自分のみ。飛行

時—女性通行人1名。

☆観測方法 肉眼。

☆物体、飛行状態その他

①黄白色に強く輝く葉巻
型UFOが南西の方向に
停止しているのを発見

(屋根すれすれの低空)。

②さらに確かめるため歩
いていると見えなくなっ
たので帰ろうとすると、

境界がはっきりしない葉

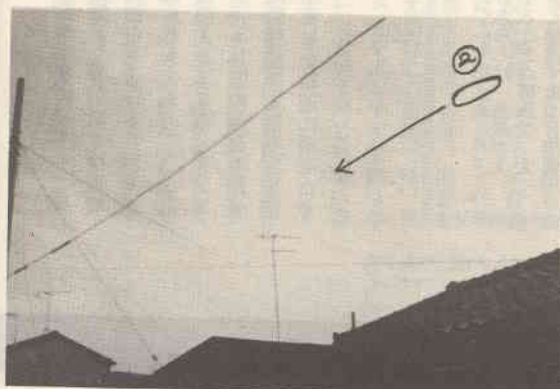
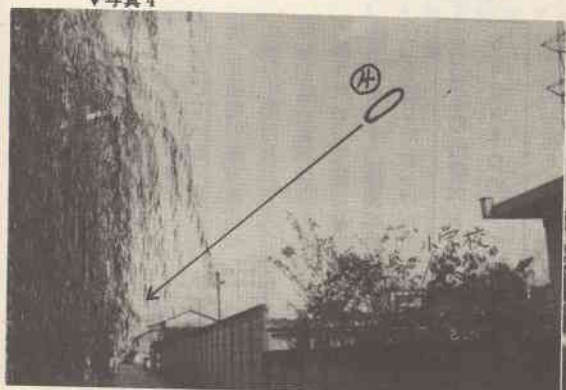


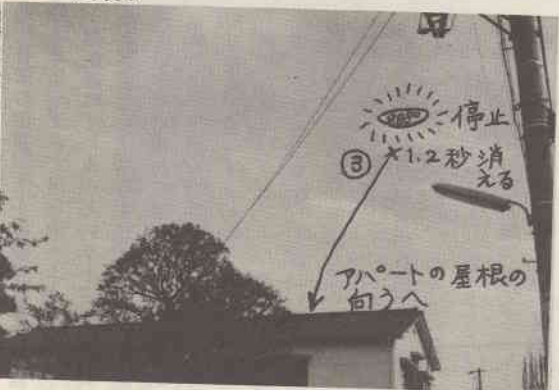
写真2▲



写真1▲

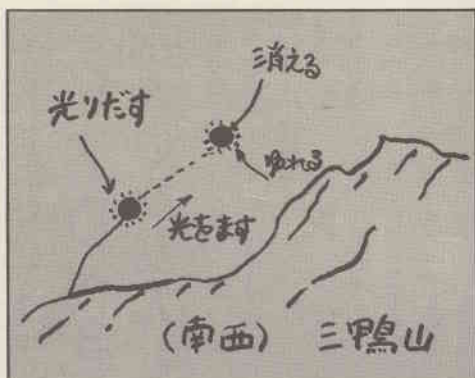


▼写真4



▼写真3

UFO 目撃 レポート



●震度3ぐらいの地震がやんで ふと山を眺めた私の視野にオレ ンジ色の光が……

●栃木女子高校2年(17歳)
安塚 久子

☆目撃日時 1976年10月6日、午
後10時45分。

☆目撃地点 自宅。

☆天候 くもり。

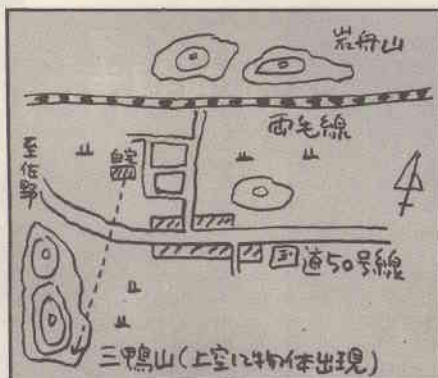
☆目撃継続時間 約1分間。

☆同時目撃者 母と姉。

☆観測方法 肉眼。

☆物体について 色はあざやかなオレ
ンジ色。大きさ11光としてしか感じら
れなかった。

☆飛行状態 突然、山の付近から現
れ、約1分間の軌跡でしたが、最初停
止し、それからゆっくりと斜めに上が
り、少し揺れて消えました。消えるま



えに黒い物体が1秒ぐらい、見られま
した。なお、この目撃のまえに震度3
程度の地震がありました。地震がやん
でからすぐに山の付近を見たら、UFO
を目撃することができました。

(〒329-43 栃木県下都賀郡岩舟町星
757-3)

巻型UFOが低空(高さ10〜20mぐら
い)をゆっくり飛んでいた。裸電球の
色でヘリコプターよりも小さいようだ
った。屋根すれすれを飛ぶときもあっ
た。

③仰角75度ぐらいのところで10秒ほ
ど停止、複数の光源より、パッパッと

赤い光を数回出す。

④1、2秒消え、また出現して進行
方向を北へ変え、ゆらゆらするような
飛び方で、非常にゆっくり、道と高圧
線(道のすぐわきに通っている)に沿
って飛ぶ。通行人に知らせ、近くを飛
んでいるのに音がしないので、UFO

に間違いないと話合った。②と同じ
形と飛び方。

⑤はるか北の空に一点となり、消え
る。

(〒125 東京都葛飾区東金町2-10
水元小合住宅8-8)

UFO 目撃 レポート

UFO 目撃 レポート

● 白銀色に光る親指ほどの細長いUFOが3機、北へ向かって飛ぶのを友人と目撃

● 小学校4年(10歳)
大沢 守

■ その①

☆目撃日時 1976年11月19日。午後1時~1時半頃。

☆天候 晴れ。

☆観測方法 学級会の時間にぼくと友だちの3人が白銀色に光る親指ぐらいの細長いUFOと見えるものを発見。3機、西の方向に空高く見えました。速度は飛行機の半分ぐらいのスピードで、北へ一直線に進んでいきました。

■ その②

☆目撃日時 1977年1月13日、午後8時20分頃。

☆同時目撃者 大沢都志夫(34歳。報告者の父)

☆天候 月が見えなかったので、くもりだったと思う。

☆観測方法 病院の帰り、東側にある山の上に、白色に光るUFOらしき物体を、クルマのなかから父といっしょ

に目撃しました。クルマは北の方向に進んでいましたが、飛行機かと思い、ちよつとエンジンをとめてみました。音が聞こえませんが、やがて、赤色に変色した野球ボール大のその物体は、山

かげに消えて見えなくなりました。

■ その③

☆目撃日時 1977年2月6日、午前10時30分頃。

☆同時目撃者 報告者はか20数名。

☆観測方法 学校帰りに星の大きざぐらいの銀色をした物体が、南から東に向かつて一直線に、飛行機ぐらいの速さで進み、雲の中にかくれました。

以上3回の目撃例のほかに、月日は忘れましたが4回ぐらい、ぼくは目撃しています。

(報告者の父より)私は守の父親ですが、じつのところUFOは信じていませんでした。しかし私は1度目撃し、それ

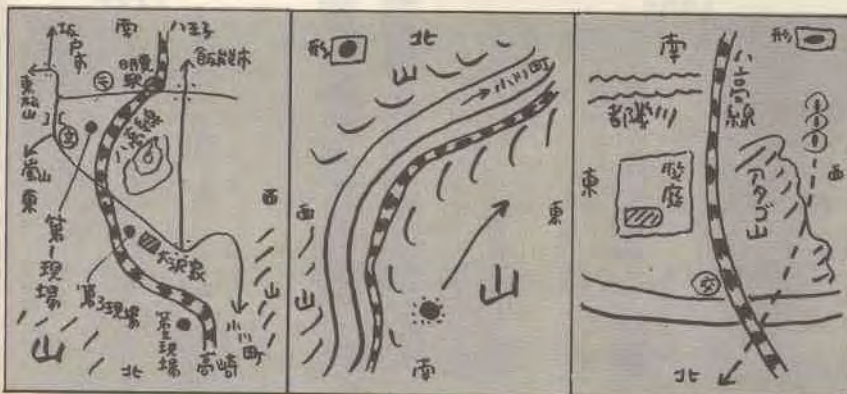
● 興奮さめやらぬ私は、急いでその物体をメモした

● 女子美術大学4年(22歳)
金子 磨路美

がUFOだと断定するのは早計だと思いますが、33歳になる妻も最近、目撃したというので、その実在を信じかけています。とにかく子供は『UFOと宇宙』をいつも離さず読みふけています。

(〒355-04 埼玉県比企郡玉川村

五明267)



たま出版

全米ベストセラー第2位・完全翻訳
20世紀最大の予言者超人
ケイシーの
秘密ジェス・スターン著 棚橋美元訳
上巻(6月)下巻(7月) 各1200円(〒160)
地軸傾斜、日本沈没、驚異の透視診断
古代アトランチス文明など生涯の業績

エドガー・ケイシー秘密シリーズ

転生の秘密 1300円
〒160
2500件の生まれ変わりの実例超能力の秘密 1200円
〒160
超能力開発の原理と実践法の解明夢予知の秘密 1300円
〒160
夢による未来予知と霊性の開発法

5冊になったケイシー秘密シリーズ

注目図書

アダムスキーの
宇宙哲学ジョージ・アダムスキー著
久保田八郎訳

750円 送料 120円

PSI(超常現象)HANDBOOK
実験四次元科学上・下巻 各1300円
送料160円

超能力ブームの引き金となった

『ソ連軍の四次元科学』の名コンビ

S・オストランダー L・シュロウダー共著

関英男推薦序文 照洲みのる・森島三郎各訳

上巻 植物編・エネルギー編・テレパシー編

下巻 念力編・霊界ラジオ編・資料編

162 東京都新宿区納戸町33

電話03-260-4367 振替東京3-94804

新刊好評発売中



☆目撃日時 1976年9月26日、午前4時45分頃。自宅の2階から姉といっしょに見た。まだ薄暗かったが、雲のないきれいな空だった。

☆観測方法 肉眼で3分ほど。視力は両眼とも1.5。

☆物体について 最初、白っぽい星のようなものだった。それが急に点滅を始め、白い光とは別な部分からオレンジ色が輝いて、燈台のように明るくなるときもあった。形は不明。

☆飛行状態 星だとはかり思っ見ていたら規則的に点滅を始めて、それからゆっくり動きだした。飛び方は図の

とおりで、かなり低空のようだった。

UFOらしきものが林の中へ消えた直後、私は興奮状態のまま、急いでこの体験を図解入りでメモした。まさか自分がこのようなものを目撃することになるとは夢にも思わなかったし、カメラはあってもフィルムは装填してないし、姉を起こすのが精一杯だった。

2、3日後、友人が『UFOと宇宙』を紹介してくれて、資料になるかどうかはわかりませんが、一応報告することにしたいです。

(〒244 神奈川県横浜市戸塚区 中田町1220)

海外 国内

海外

英国航空のパイロットが 巨大なUFOを目撃！

【ボルトガル】昨年の7月30日、ボルトガルの西海岸を飛んでいた航空機から、戦艦ほどもある巨大なUFOが目撃されている。

この事件は今年の5月11日に、イギリスにあるサリー空中現象調査グループの10周年記念大会で発表されたが、同グループの会長オマル・ファウラー氏は「ここ10年間に起きた、世界中で最も重要な目撃事件のひとつ」であると語っている。

7月30日の午後8時、ボルトガルのファロ空港に向けて飛んでいた英国航空のトライデント機は、リスボン管制塔から「レーダーに不思議な物体がとらえられたので注意しろ」という警告を受けた。デニス・ウッド機長が西の方を見ると、太陽と機体の間に「とても

明るいヘッドランプ」のような謎の物体がいる。その物体は自ら光を発していた。

と思う間もなく、2つの葉巻型物体がどこからともなく現れ、最初の物体の右下に位置した。まるで戦艦ほどの大きさだったという。コリン・トーマス副操縦士は8分間ほど見つめていたが、物体は全く動かなかった。

双眼鏡で観察したある乗客は、空港到着後、「輝く光の真中に、くしゃくしゃのスズ箔のような物体」が見えたと言っている。

1時間30分後、ファロ空港から帰途についたトライデント機は、全く同じ場所で2つの葉巻型物体をレーダーにとらえた。レーダーは上方に向けていたので、地上の物体の反射ではない。飛行機が7マイルまで接近すると、物体はレーダー・スクリーンから消えてしまった。

このUFOについては、トライデント機の乗組員と乗客100名ほどが目撃しているうえに、同じ

ころその場所を飛行していた英国航空のトライスター機、およびボルトガルの航空機によっても確認されている。

ウッド機長たちはヒースロー空港に到着後、UFO目撃報告を提出した。ウッド機長は、「それが何かは分からないが、何でないかは言える」として、気球、人工衛星、雲などの可能性を否定している。

ニューオリンズ一帯に UFOが続々と出現

【アメリカ】ニューオリンズ一帯で、今年の初めから不思議な出来事が相次いでいる。これは、人々が謎の空中現象を実際に目撃したことを示唆するものではないだろうか。

●つながった3個の光体

まず最初は1月15日の夜で、ジャルメットに住むビクター・ディガンジ夫妻が3個の光体を目撃した。その光体はつながっていた。ジャッジ・ペレス・ハイウエーのはずれの給水塔付近に静止していた。ディガンジ夫人は、光が10分から15分の間、ほぼ150mの高さにとどまっていたと言っている。

●接近してきた巨大な光球

1月21日には、非番の消防署員アーウィン・メネシーズとロバート・メレリンの2人が恐ろしい体験をしている。2人がイスクロスキーのシェール精油所近くの湾でモーターボートを走らせていたところ、強烈に輝く熱を帯びた物体が彼らめがけて接近してきたのである。巨大な光球は彼らの頭上20〜

22mまで降下してきた。モーターボートは停止し、メレリンの髪の毛は逆立ったという。船外モーターは水をかき回しているのだが、船はちっとも進まない。おまけに2人とも体が動かなくなってしまった。話はできるのだが、まるで漫画映画の1コマのように、じっとしたままである。光体は急に消え去ったが、とたんにボートはものすごいスピードで走り出し、2人は船尾へと投げ出されてしまった。2人の目撃者は、物体が彼らから去ったあとも30分ほど見えていたと言っている。その謎の物体はシェール精油所とイスクロスキー給水塔の検査を行っているようだったという。

●複雑に動くオレンジ色の光

翌晩の1月22日、マークとダミアン・プロウドローが、マークの家のボーチから、市の西部の上空を複雑な動きをして飛び回る赤みがかったオレンジ色の光を目撃した。その光は空中に停止したかと思うと南へ動き、止まったかと思うと方向転換する。ダミアンは飛行場に勤務しているの、飛行機が夜間どのように見えるかはよく知っているが、その物体は「大きさも明るさも飛行機を上回り、飛行機にはできない動きをしていた」と語っている。

●ドーム状の物体が着陸？

同じ晩、車に乗っていた6人もシャルメットで、UFOの着陸と思われる事件を目撃した。彼らは大人3人、子供3人である。6人はジャッジ・ペレス・ハイウエーを北に向かい、ジーン・ラフィット・パークウェイに入った。運転

をしていた女性は「頭がおかしいと思われるから」名を伏せてほしいと言って、「でも見たことは確かです。飛行機とも、グッドイヤー・タイヤの広告用飛行船とも違っていました」

彼らが車のウインドー越しに見た物体はドーム状で、赤と黄色の光をはなち、プロペラのようなものがあり、空中を乱舞していた。600m離れた木立の背後に姿を消したかと思うと、はずむように出現した。こうしたことを10分間も続けたのち、物体は急角度で降下し、木立の中にもぐって見えなくなってしまった。

●機光をはなつ葉巻型物体

1月25日（火曜）の夜、クレア・ウェッタ夫人は、市立公園近くのインターステート10のすぐ北で謎の発光物体を目撃した。形状は葉巻型で、グッドイヤーの小型軟式飛行船よりも細長かった。あざやかな緑色をしていて、2段階の階調がはっきり認められたそうである。彼女は「機光のようだった」と描写している。15秒後、輝きは消えた。飛び去ったのではなく単に消えてしまったのである。

●明るく輝く銀色の物体

2月8日、ゲイル・ロドリゲス夫人は、息子のブライアンと一緒に別の形をしたUFOを目撃したと届け出ている。シャルメットのパリ・ロードの東にあたるセント・バーナード・ハイウエーをドライブ中、明るく輝く銀色の物体が前方を横切って飛び、すぐハイウエーに平行した進路をとった。ロドリゲス夫人によると、その物体の動きは他に比較するものの

夫人と息子は、明らかに自分たちの見たものに困惑していたが、それでも彼らの話をひるがえさなかった。彼らは心理緊張度測定テスト（PSE）を受けたが、そのテストにパスしている。

●光を点滅させて応答するUFO
2月9日、ロドリゲス事件の翌日、ミシシッピ州マディソン郡の副保安官ケン・クリールとジェームズ・ルークは、9km西のフロラという町からかかってきたUFO目撃の電話に応答していた。

コックスフェリー・ロードをフレッド・グラントの自宅に向けて走っていた人が、車の上空6〜15mのところに出現した明るく輝く正体不明の航空機を目撃したというのである。目撃と同時に、カララジョに雑音が入った。

これと同じ物体が、はるかに離れた場所ので、5名の人々に目撃されている。そのうちの1人、フロリダ警察署のヒューバート・ロバートが目撃したのは、ボグーチッツ・クリークの近くの主道路からはずれた砂利道であった。彼が車

昇していったからです」
彼女の報告を受けたBUFOR
A（英国UFO調査協会）ヨーク
シャー支部のトレバー・ホイット
テーカー氏は、
「私たちは、最初の物体は宇宙か
ら落下してきた隕石といった、自
然現象で説明できるといふ仮定の
もとに、予備調査を進めていま
す」と語っている。

「Iがレビの深夜映画を見ていると、農場の居間の窓に銀色の服を着て、ヘルメットをかぶった人影が見えたのである。その人影は、たつぱり1時間半も2人を注視したのち、姿を消した。」

クームズ夫人は、現在はその体験のショックから立ち直つてきたが、事件以来、暗くなった後は家を出ないようになっているという。

「イギリス」イギリスのベイジル
ドンで、4月30日にラッセル・ス

彼女がメインロードを離れて横道に折れると、物体は「急スピードで下降を始めた」という。

「その物体は道路をこうこうと照らし、形状を変化させているようでした。最初は丸かったのが、上の方ですばまった長方形になりました。」

ウエールズも、今年の初めから数多くのUFO目撃報告が寄せられていく。場所はアバゲイブニールからカーディガン・タウンにまでわたり、全部で29件にも達している。

目撃者はすべてまともな市民

ミス君（15歳）が謎の飛行物体を目撃している。物体は銀色で、ウインブッシュ・エンドの空を飛んでいたという。また、主婦のパトリシア・スミスさんもそれと同じ物体を目撃したとはっきり述べている。

車に衝突するのではないかと恐
 くなって、車のスピードを落とす
 ました。しかし物体は道路わきの
 草地にぶつかり、どさっという音
 をたててはね返ると碎けてしま
 いました」

彼らが目撃したものは、脈動する光、不思議な航空物体、奇妙な怪物と様々である。その中で、リ

恐怖でふるえながら、カドマンさんは車を止め、エンジンを切った。見上げた彼女の目に第2の物

にお伝えしよう。

体が映った。黒っぽい形状で、すくなくとも6個の赤と黄色のライ

のぼり、ポーリン・クームズ夫人
が畑から奇妙な物体が上昇するの
を目撃したことに始まる。2月に

「私の眼はまだ最初の物体の光で影響を受けていたので、この物体

は、農場へ帰るため小道を走つて
いた彼女の車が、大きさも形もフ
ットボールに似た物本に追跡され

が実際にどんな形をしていたかよくわかりませんでした。かなりかさばっているようでした。

ている。物体は木立の先端と同じ高さを飛び、底部から円錐形の光

私は航空機か何かではないかと思いましたが、というのは、まるでロケットのように猛スピードで上

しかし4月にはもっと奇妙な事件が起きている。彼女と夫のビル

を目標しました。

最初は飛行機かと思ったのですが、それほど速く動いていないことに気づきました。それから、急にスピードを出したかと思うと唇

最後に、ハイネック博士の言葉
を引用して国際UFO会議の紹介
の締めくくりとするよう。
「いまや1977年だから、我々
は知識の限界に達したのだ、とい
うあやまった考えに陥ってはなら
ない。未来の人々は、私たちを見
て次のように言うかもしれない。
『当時、彼らはUFOが何かとい
うことさえ知らなかった』と」

〔沖繩〕さる1月16日夜、名護市の古我地の内原部落で、20歳の女性が空飛ぶ円盤？らしきものをみて話題になったが、昨年10月にも

同じ部落の主婦が同じタイプの円盤を見たと言乗りに出た。その主婦も「円盤は70cm×1mの大きさで色は赤色、周りが黄色だった」と証言している。

しかもこの円盤が出現した場所は20歳の女性が見た場所と同じ北都生コンのちかく。部落のある長老は「一帯では昔、首つり自殺や切腹自殺などがよくあった。そのため人が成仏できずに人だまになんていう上空を舞っているのでは……」と神秘的な発言をしている。これに対し「人だまにしては大きすぎるのではないか。やっぱり飛来する『ぶ円盤だ』と反論する者もいる。

これまでに円盤を見た人は20歳の女性(2回)、中学生、主婦の3人。いずれも円盤の形、色、場所については大体一致している。だが、物体の正体については「 UFOか人だまか」とさまざまな意見が出て、論議はますますエスカレートするばかり。

(1977年1月23日付、琉球新報)

〔北海道〕月の世界はすでに探検し、7億^{km}もの遠い宇宙の彼方に

さらにめく火星の探査から、さらに金星の正体を究めようとしている現代の科学文明でも、なお解明できない神秘に包まれた世界がある。この十勝でも、時折目撃者があるUFOと呼ぶ未確認飛行物体があり、ついこのごろは、大きな火の玉が、中川郡豊頃上空に現れ、写真撮影もされ話題になっている。

むかしから、墓場辺りでフンワリ飛んでいる「人ダマ」と呼ばれる光体は、よく目撃した人があつて、後を追つてくるとか、飛んできて消えた人家に不幸が起こるなど、薄気味悪いはなしだが、正体はリン光だろつといわれていたけれど、このごろは帯電光球といわれるようだ。ところで今度の、豊頃上空で目撃された光る物体は、なにものか——というのだが、これもその帯電光球ではなからうかと思ふことが、ワニブツクスの新刊、世界怪奇研究作家の佐藤有文氏著「地球の中の怪談ブラックホール」に窺（うか）がわれる。

それによると、米ワイオミング大学のトンペンズ博士は、怪奇大火の玉現象について、雷雲と地上の間に起こるプラズマ（放電現象）だと学界に発表し、ブラスイオンが地上から大気中に放出し、上からマイナスイオンが降下し、それが衝突するとき放電球体が発生すると説明。大きさは8 cm ぐらいから30 cm ぐらい。まれには5 m に近いものもあり、色は赤色、オレンジ色、黄色の3種類あるということだ。

また世界の物理学者として有名

な中谷宇吉郎博士は、その著書「雷」の中で、大きな光球が空から降りてきて、民家の上空を舞い飛んだり、路上歩行者の前で爆発した例をあげ、めずらしいのでは、窓から入り家の中をめぐる窓からフワフワ飛び出したのもあると、球体の実在性は、疑いもない球電現象だろうと述べている。また、ソ連の科学者は、今世界で話題になっている UFO の正体は、このプラズマ現象じゃないかと推定しているそうだが、もしそうだとしたら、暗夜の人ダマも、火星人来訪の「空飛ぶ円盤」説も、雲散霧消するわけだが、豊頃の上空に現れた火の玉の正体はなんだったろうか。

(1977年2月24日付、十勝毎日「編集余録」)

300年前のUFOの記録
を発見！

〔和歌山〕謎の空飛ぶ円盤など UFO（未確認飛行物体）が少年たちの夢をかきたてているが、飛行機も無かったいまから約3000年前にも、流星と違った光る物体が飛行していたことが昔の田辺の歴史を記している『万代記』に記録されていることを、一市民が見つけた。

和歌山県・田辺市に住むAさん（42）がこのほど、市教育委員会（42）がこのほど、市教育委員会が37年ごろ発行した万代記の解説本を読んでいたところ6、7、9巻の4カ所にUFOらしい記録があるのを見つけた。

その解読本によると、6巻34頁67に「貞享2年（1685年）2月22日、亥刻（午後9時～11時）

辰巳（東南）より戌亥（北西）へ
「光物飛行」

7 卷58頁10に「貞享5年（1688年）正月24日夜7ッ過（午前3時）5時、未申（南西）の方より丑寅（北東）へ光り物飛び申候」
9 卷46頁8に「宝永元年（1794年）4月18日夜5ッ時（午後7時）9時、光物東より戌亥（北西）へ飛」

9 卷60頁35に「宝永3年（1706年）8月上旬、よりすばる星に繼ぎ東方へ光り強星31尺程の三角に出、又東より西へ白雲細長くたな引」とあるように、各所に星や流星の記録があるところから、光る飛行物体は、これらとは別のものとみられるだけにUFO研究者にとつては興味のあるところ。

(1977年3月10日付、紀伊民報)

5人のお巡りさん
UFOを目撃

（山口）「ありや何だ、空飛ぶバ
 ンか。3月10日夜、当直
 中だった山口県徳山署員が、徳山
 湾上空を「飛行」する謎の物体を
 目撃、署内は時ならぬUFO騒ぎ
 がおおりにゃんわ。市民も、目撃者
 がおおりにゃんわとあつては、信びょ
 う性」十分というわけで、徳山市
 では一夜明けた11日もこの話題で
 もちきり。UFOに関心を寄せて
 いるチビッ子たちは「せつなかの」
 チャンス、ぜひ見たかったのよ」

謎の飛行物体を目撃したのは同
 署の岡崎巡查部長ら5人の当直員
 たち。午後8時35分ごろ、徳山湾
 西端の上空にあざやかなオレンジ
 色をした円盤型の物体が姿を現し、

一言で大騒ぎ。岡崎巡查部長らが望遠鏡を手には「確認」。それは上下に移動しながら、10分後に開いたカサ状となり、さらに10分後にはホウキ状となって先端は赤味を帯びた何とも不思議な色、後方は黒っぽい感じ。この間約20分、やがて大平山上空にさしかかり、すつと消えた。

「共產黨から発進したものか。それとも宇宙から」。つぶさに観察していた5人の目撃警官は興奮気味。報告を受けた林田勝義署長も、これが一般市民からの通報でなく、署員からのものだけに一笑に付す心境にはなれなかったらしい。

「ええ、星とは色が違いますからね。それにあんなおかしな動き方は普通じゃないし」。このところは事件が少ない徳山署はあつちでもこつちでもカンカンガクガクのUF O大論争。

（1977年3月12日付、山口新聞）

Ⅱ UFO発見30周年記念Ⅱ
 '77世界大UFOフェステ
 イバル開催のお知らせ

期日 8月5日(金)～10日(水)
時間 10 A M～6 P M (土日は

6..30PM)
場所渋谷東急本店6、8階

主催日本空軍と戸盤研究会
内容国際UFO会議報告、イ

FO映画他 入場料・大200小100

※詳細は「HSAT」まで

お 待 た せ い た し ま し た

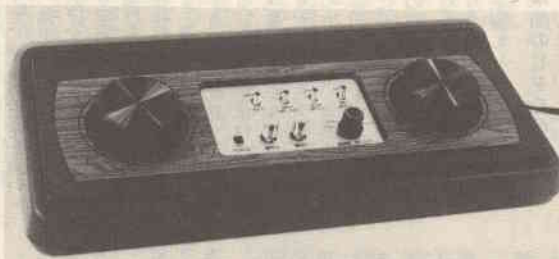
“ホームビデオゲーム”の決定版 いよいよ販売開始です！

アメリカで大人気!! 今話題のTVゲーム。ご家族そろって、お友達と、子供からお年寄りまで楽しめるゲームマシンです。反射神経のトレーニングに、プレゼントにどなたにも喜ばれます。



サッカーの場合の画面

■ウッディーデラックス (22×45×7 cm)



インテル特価 ¥17,500
(荷造送料800円)

- 〔性能〕 テニス、サッカー、スカッシュ、ブラクティス(練習)
◎スピード切替付 ●モノクロ
〔使用LSI〕 GI 8500
〔電源〕 単2電池6本使用(ACアダプター付)

●切替スイッチボックス ¥600

テレビゲームお買い上げの方には
無料にてサービス致します。



■ライフル銃 ¥16,000

インテル特価 ¥9,800 (荷造送料500円)

- カラーキーン用
- スポーツキング用
- チャンピオン用
(ビデオエース)

(使用機種を御指定下さい。)

カラーTVゲームマシン

■カラーキーン (新発売) (15×33×8 cm)



インテル特価
¥22,000
(荷造送料800円)

- 〔性能〕 テニス、サッカー、スカッシュ、ブラクティス(練習)、ライフルI・II
◎スピード切替付 ●フルカラー4色
〔使用LSI〕 MOS 7600-001
〔電源〕 単3電池6本使用(ACアダプター別売り) ¥1,500

■スポーツキング ¥23,000

インテル特価 ¥13,800 (荷造送料800円)

テニス(ピンポン)、サッカー(ホッケー)、スカッシュ、ペロター(練習用)
ライフルI・II ●スピード切替付

■チャンピオン(ビデオエース) ¥22,500

インテル特価 ¥10,500 (荷造送料800円)

テニス(ピンポン)、サッカー(ホッケー)、スカッシュ、ペロター(練習用)
ライフルI・II ●スピード切替なし

★御注文は現金書留で下記へお申し込み下さい。
(業者卸の取扱いも致します。お問合せ下さい。)

あて先 (株)インテル 電機事業部U係

〒193 東京都八王子市小比企町2957-9

☎ 0426-25-7941(代)

連載科学記事

続

宇宙・引力・空飛ぶ円盤

7

レナード・クランプ

【宇宙船の安定性と方位】

【UFOの燃料と原動力】

世界各地で目撃されているさまざまなUFO。その報告から技術的側面を取り出して科学的に分析していくと、次第に一定のパターンが浮び上がってくる。UFOが重力場宇宙船であることを裏付ける証拠がますます集まってくるのである……

翻訳出版権獲得

宇宙船の安定性と方位

前回は、重力場宇宙船の音と回転が操縦に関連があるのではないかということを検討した。これに引き続いて、重力場宇宙船の方位を定める方法について筆者なりの考えを示してみたい。恐らく読者も興味を持たれることと思う。

これまで、この重力場の発生をポイント・ソースとして言及してきたが、その発生機構についてはほとんど触れなかった。これについては本書の結論部分までとってあるのだが、装置の基本的な配置はここで説明したいと思う。この原理は基本的には簡単なもので、普通の光学システムにたとえることができる。フィラメント F_1 からの光あるいは熱の放射は凹面鏡によって反射され、より大きい半径の F_2 で焦点を結ぶ(図1a)。もしフィラメントを F_3 の位置まで鏡に近づけると、光線はさらに大きな半径の F_4 で焦点を結ぶ。これと同様に、宇宙船の主重力場発生機の中で発生した光線は「反射」され、焦点に集まる。この集中した光束は宇宙線を変調させて強力なポイント

・ソース、すなわち局所的な重力場を創り出すので、宇宙船自体がそれに引きつけられ、ちょうど宇宙に「穴を掘る」ように進む。まさにこういうことが起こっているのである。

航空工学の技術者、物理学者、動力学の専門家といった人たちは、この説明を読んで「靴紐を持って身体を持ち上げるようなもの」と一笑にふすであろう。しかし、それは彼らがいくつかの事実には無知であることを示すことになる。私は彼らに対して、なんらの固定観念もなしに、時が真実を明かしてくれると言っておきたい。

ポイント・ソースの焦点距離を変え、必要性については後述する。ここでは主として、宇宙空間での宇宙船の操縦技術として想定しうるものに関して扱っていく。これも基本的には単純なもので、まず図1bを見ていただきたい。もう一度フィラメントの類比を用いれば、 F_1 にある光源を一方にずらして F_2 にもつてくると光の反射は反対方向に動いて F_2 で焦点を結ぶという、これまたよく知られた光学効果がある。

同様に、宇宙船の重力場発生機がジヤイロスコープを応用して動揺を防いだ十字架台に設置されているとしたら、地球の表面に対して「正常」な位置にセットされると、宇宙船自体がどのように傾こうと、それに関わりなく重力場発生機は同じ位置を保つであろう。しかし、前述したように宇宙船が傾くと、ポイント・ソースの位置の変化と横方向の推力ベクトルとによって、宇宙船は傾いた方向へと進むので、一定高度を保って前進するならば、揚力の垂直ベクトルの損失を相殺するため推力を増加させねばならない。これらの事実を念頭に置きながら、さらに考察を進めていこう。

まず第一に、宇宙船は他のいくつかの要因によって傾くが、重力場発生機は傾かない。これは先ほどひき合いに出した反射鏡と全く同じ結果をもたらすことになる。すなわち、重力場のポイント・ソースは一方へ効果的に移動する。図2を見れば、これが機構的に都合がよいことがわかるであろう。重力場はやはり宇宙船の質量中心に働く

が、宇宙船の一部が他よりもポイント・ソースに近づくことになるので、2乗の反比の法則によって、それぞれ X_1 と X_2 の長さで示されるように、自動的にバランスの補正が行われる。再度注意してほしいが、この考えが効率的に働くには、宇宙船の平面が円形であることが最適なのである。場合によっては、設計技師は重力場発生機を船内に収容する手間をかけないかもしれない。その場合、地上から宇宙船の端を見ると、傾いた円盤には中央から奇妙な垂直の構造物が突き出ていることが分かるであろう。

このほかの要因も取り入れたいくつかの実例から、傾斜、横方向の推力ベクトル、およびバランス補正の複合効果によって、横方向へのゆるやかな揺れ動きが見られると考えられる。この現象は、UFO 研究家なら周知であろう。以下にその典型例を引用する。

「最後に出現した円盤は、それまでのものよりずっと低いところまで落下して、ほぼ橋の高さになりました。円盤はそこで一瞬静止して、かすかに横揺

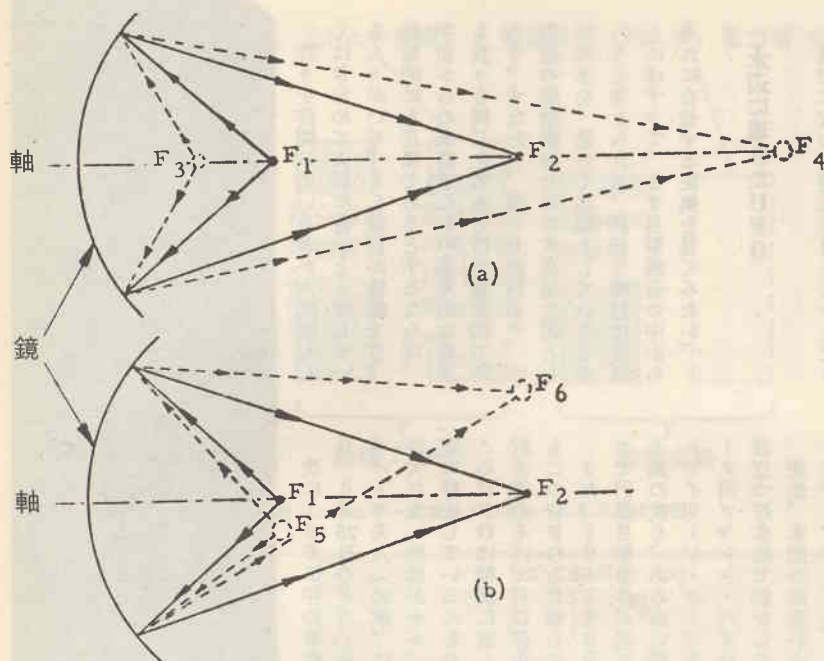


図1 凹面鏡における光と焦点距離の関係

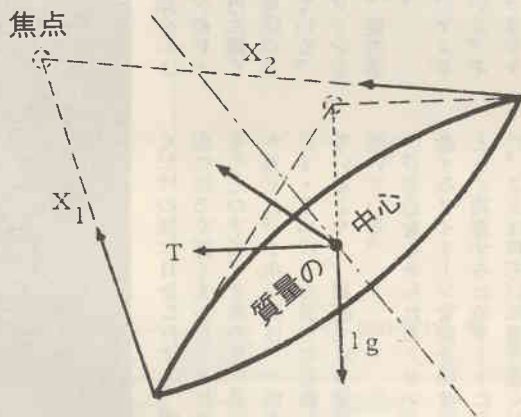


図2 焦点の変化により質量中心の周囲に働く非対称的な力

れ、いました」
「干し草の山にしては変な色だな。見てごらん」とイブに言ったんです。私はとまどっていました。突然、その干し草の山がかすかに動いていることに気づきました。まるで振動しているかのように、前後にわずかず揺れているのです。『おい、ごらん、干し草

の山なんかじゃないよ』私は連れ合いにどなりました。そして2人で、その不思議な物体の方へと野原を駆けていきました。そこへ行くには、開墾されていない野原を横ぎり、甜菜畑に踏み込まなければなりません。私たちが甜菜畑に着いたと思うと、その物体は傾き、15mほど斜めに上昇してか

ら、真つすぐ上がりはじめました。私たちは、3分間ほど見ていたでしょう。その物体は雲間に消えてしましました」
「彼は双眼鏡でその物体をかなり長い間みつめました。物体はあきらかに円形をしていて、平たく、赤く発光し、方向転換をするとき動揺しました。そ

して白熱光を放しました」
「ふり仰いだ彼らは、丸い形をした白色の物体が空中をゆっくり移動しているのに気づきました。物体は前進するさい、横方向に振動していました」
「彼らは、円形の物体が北の方向に突然出現するのを目にしました。それは平たくて灰色をしており、金属でできているようでした。物体はスピードを落とすと30秒ほど停止し、その間、前後にわずかず揺れました」
こうした円盤の振動は珍しいものではないが、どの目撃報告にも見られるわけでもない。しかしながら、地球でVTO機の設計に携わっている技術者たちが、この空中停止時における安定性の問題に取り組んでいるのは興味深い。この効果を補正するには、パイロットが操作するか、自動安定装置を使用する必要がある。こうした航空機の安定性が、かなりの程度達成されているのは知ってのとおりである。ここで疑問として浮かぶのは、我々の技術工学の産物より何百年も進んでいると思われる宇宙船が、いまだに安定性の問題に悩んでいるのだろうかということである。あるいは、地球を訪れる宇宙船の乗組員にとって、このことは全くとるに足らないのであろうか。確かに重力場宇宙船では、そうした状況でもなんら身体的な悪影響はないであろう。視覚的には不快極まるものと想像されるけれど。

UFOの燃料と原動力

我々を訪問している者が人間型もしくはきわめて人間に近いと主張している人々がいる。もし彼らが信頼でき、技術的にも正確であるとするならば、宇宙からの来訪者たちの基本的な要求も我々と同じと考えるのが論理的であろう。すなわち、彼らも飲料水や、宇宙船の原動機のための水素発生源としての水を、恐らく必要としているであろうと考えられる。詳細な検討は後ほどにゆずって、まず目撃報告の中からそれに合致する証拠を見てみたい。

水辺に現れたUFO

最初に次の事実注目していただきたい。ワイルドマン氏が空中に停止している円盤に遭遇したアストン・クリントンの近く、南東方向には巨大な貯水池があったのである。(この事件の詳細は本誌24号92ページ以降を参照) 事実、この事件について行われたその後の調査では、円盤が貯水池のある場所から飛び去ったことが、ほぼ確実視されている。

次に1962年の事件をご紹介します。6月26日の夕方、ロンドンのP・ロバート夫人(50歳)は深紫色に輝く巨大な丸い物体がキルバーン地区の上空に静止しているのを目撃している。このUFOは前後に進んで、ブレント貯水池のそばで再び停止した。他の者もこのUFOを目撃している。

また、1955年9月にも、アメリカで円盤目撃事件が起こっている。そよ風の吹く、ある暗い晩に、フランクとアイリーン・ボーズ夫妻はニューヨーク州ブッシュ・バインの近くにある波立つ貯水池で釣をしていた。

突然、水面の波音が水の飛び散る大きな音と、ゴボゴボという音にさえぎられた。アイリーン・ボーズが闇を通して音のする方をうかがうと、ピンクの光沢をしたマッシュルーム状の物体が、水面60cmのところに浮かんでいる。見ていると、物体は下降して水中に入った。恐くなった彼女は、舟底でもつれた釣糸を解きほぐしている夫に、急いで岸に引き返すよう頼んだ。彼女と夫のフランクが、星がかすかにまたた

くだけの闇に目をこらすと、90mほど先に明るく輝く光が見てとれた。次にその光の下に、2条の長い平行な光線が見えた。2条の光は、一部水に沈んだ4・5mほどの長さの物体から発しているようで、周囲では多量の水が渦巻いている。

好奇心をそらされたフランクは、懸念するアイリーンを説き伏せて、もつとよく調査するためボートに引き返した。2人は岸ぞいに遭ぎ進んだが、じつと監視されている気がした。そして遭ぐたびに、その物体はまるで接近するかのようにスピードを上げて向かってきた。彼らが停止すると、物体も停止し、後退する。

この間ずっと、水中での渦巻きは続いていた。そしてついに物体は池から遠ざかり、光も遠くに消えていった。のちになつてフランクは、その物体で奇妙だったのは、回転もせずに向きを変えることだと語っている。また彼は、その物体がライトをつけたボートだったかもしれないという可能性を否定している。物体の速度は、彼がこれ

までに見たどのボートよりも速かったという。

さらにまた、1962年9月にも事件が起きている。ニューヨーク州ウェスト・ニヤックの元海軍電子技術士官J・マクビカーは、回転しているように見える2つの「1ドル銀貨」を目撃したと報告している。同じ日の夕方遅く、5人の少年がオランダ貯水池の上空に停止している円盤を目撃した。彼らの話によると、UFOは水面に触れ、非常に高速度で音をたてずに飛び去った。さらにその後、2人の若者がとても明るく輝く光が貯水池の上を行ったり来たりし、爆発音が聞こえた」と報告している。

実例はこれくらいで充分だろう。もし我々にきわめてよく似た搭乗員が宇宙船に乗ってこの惑星を訪れているとしたら、彼らは遅かれ早かれ水を求めて着陸するだろうから、前に述べたような目撃が予想されるのである。

UFOのエネルギー源

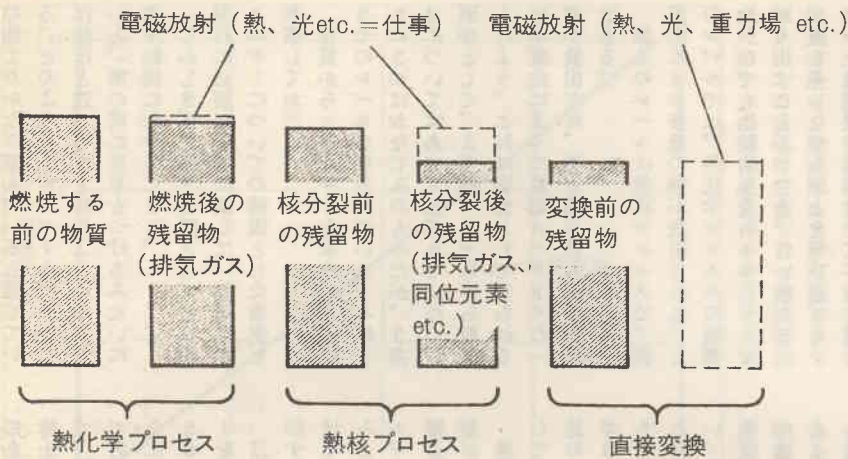


図3 質量・エネルギー変換の3つのレベルを示す模式図

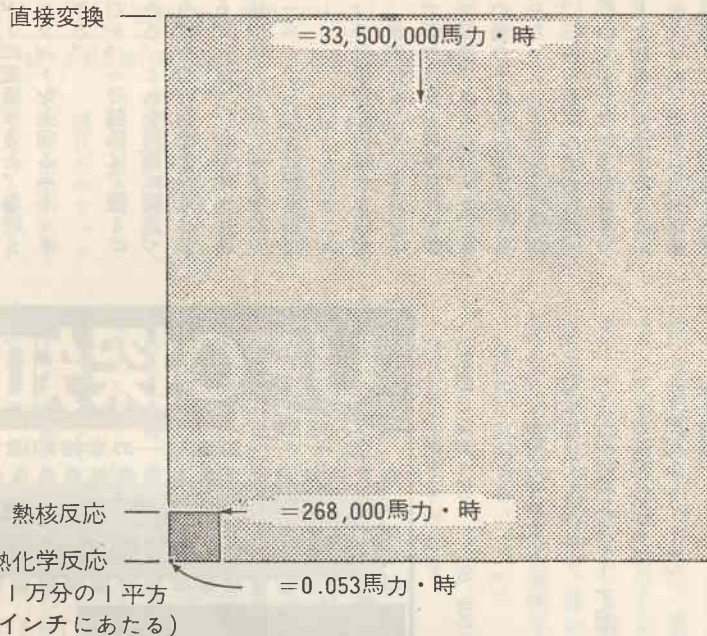


図4 1グラムの物質をエネルギーに変えた場合の3つのレベルの関係（理論値）

UFOの推進にどのような技術が利用されているかの理論的考察は、本書の範囲を越えている。しかし、単純な推測を積み重ねることによって、この問題への基本的アプローチは行える。

まず最初に、宇宙船は、惑星からの「脱出速度」を越えるため、重力場の技術を利用していると考えられる。脱出速度に到達したなら、宇宙船は慣性航行で燃料節約を図るであろう。そして、目的の惑星の大気圏内に入ったら地球のロケットと同様に、駆動力で速度にブレーキをかけると考えられる。

あるいは、惑星間旅行では、葉巻型母船に小型宇宙船を搭載すると思えるほうが論理的かもしれない。

研究者の多くは、これら大型、小型の宇宙船が、ある種の超高性能原子力エンジンを使用しているとして、UFO着陸場所に残る放射能について論議している。しかし、すべての場合に放射能が検出されるわけではないし、放射能の残留期間も非常に短い、と主張している者もいる。

こうした装置は非常にかさばるので改良の余地はあるにしろ、小型宇宙船に取り付けられるようなコンパクトな装置にできることは信じ難い。

一方、核融合の熱を電力に変換する熱イオン発生機についても、現在の段階の技術では非効率さきわまりないため、科学者は円盤が使用しているとは思えない。ただ、こうした結論が、ジェット機、ロケットといった航空宇宙科学の分野の既知の技術水準から算定した所要動力に基づくものだということを、一言付け加えておきたい。しかしながら、「力場」発生のための原動機として、核融合モーターを全く無視するわけにはいかないであろう。

円盤がある種のモーターを使用していることは、多くの目撃報告によって確定されていると思うので、ここで更に実例を引用することもあるまい。にもかかわらず、私としては、UFOの使用しているエネルギーが、我々の技術工学によって知られている原子力そ

の他よりかなり進んでいると信じている。どのようなエネルギーにかについては後ほど述べることにしよう。さもないと、馬の前に馬車をつけるみたいに本末転倒になってしまう。

しかしまず、導入段階として、宇宙飛行に必要な動力に関して、物質とエネルギーについての確固とした事実を考察しておこう。

物質からエネルギーを取り出すには3つのレベルが知られている。そのうちの2つはおなじみのものだが、3番目についてはあまり知られていない。順序として、まず熱プロセスから取り上げよう。これは燃焼として知られる化学変化によって電磁スペクトルの一部が放出され、光と熱が得られるものである。

第2のレベルは熱核プロセスで、核反応により多量の熱が放出される。このレベルでは、熱化学プロセスの廃棄物からでも比較的少量のエネルギーを取り出すことができる。言い換えると高温を発しながら頭上を飛び過ぎるジェット戦闘機の廃棄物や、宇宙を飛行するタイタン・ロケットの排気残留物の潜在エネルギーを、核エネルギーとして、ジェット戦闘機を何機も飛ばしたり、タイタン・ロケットで月・地球間を何度も往復できるほど多量に取り出せるということである。

第3のレベルは質量のエネルギーへの直接変換で、未来の技術工学の驚異

である。これはバークハード・ハイム博士が多年にわたり研究してきた分野で、物理学の面での変換の最終レベルである(図3)。1グラムの質量を完全にエネルギーに変換すると、毎時2500万キロワットを上回るエネルギーを利用できる。

以上3つのレベルの関係は、図4に示す通りである。これを円盤に関連づけて、円盤の技術的可能性を裏付けてみたい。それにはまず、科学者がエネルギーの直接変換と、重力場宇宙船の推進原理をマスターしたと仮定する必要がある。

重量30トンの月宇宙船の場合を仮定してみよう。単純化のため、宇宙船は旅の半ばまで等加速度で加速され、後半は同じ値で減速されるとしよう。もちろん、この種の宇宙船が必ずこうしなければならないというわけではない。例えば、任務の種類によっては、乗組員は旅行の大部分を一定の2gで加速し、残りを10gで減速することがあるかもしれないが、乗組員も宇宙船も重症で損傷をこうむることはない。しかしここでは、地球と月の重力による加速度は無視して、宇宙船が全旅程を1gの等加速度で加速/減速されると仮定する。そうすると、

月までの平均距離=238,857マイル
月への距離の半分=119,428マイル
宇宙船の加速度=1g (32.2フット/秒²)

UFO探知機

超高感度

国産唯一の本格的磁気探知機!

現在230台が全国で活躍中!!
既にUFO探知成功18件!!



左からT-5・T-3a・T-3b型

T-5型……¥9,000
T-3a型……¥18,000
T-3b型……¥19,000

■その他、連続観測用のACアダプター及び、補助電池ボックス(新製品)があります。

申込先: 〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606

折田 至

Tel. 044-866-8347

●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

宇宙船の重量=30トン (67,200ポンド)

ここで、運動の法則によって

$$V = \sqrt{2} f S$$

$$V = \text{最終速度 (フット/秒)}$$

$$f = \text{加速度 (32.2)}$$

$$S = \text{距離 (フット)}$$

$$W = \text{重量}$$

$$t = \text{時間}$$

それぞれに数値を代入すると

$$V = \sqrt{2 \times 32.2 \times 119,428 \times 5,280}$$

$$= 201,800 \text{ フット/秒}$$

しかし $V = ft$ でもあるので

$$\therefore t = \frac{V}{f} = \frac{201,800}{32.2} = 6,250 \text{ 秒}$$

$$= 1.735 \text{ 時間}$$

ここで1馬力・時間は550フット・ポンド×3,600秒、すなわち1,980×10⁶フット・ポンドに等しい。

しかし仕事量 $WS = 67,200 \times 119,428 \times 5,280$ フット・ポンドとなるので、

$$\therefore \text{消費馬力} \cdot \text{時間}$$

$$= \frac{67,200 \times 119,428 \times 5,280}{1,980 \times 10^6}$$

$$= 21.4 \times 10^6$$

また1kwは1.34馬力に等しいので

$$\frac{21.4 \times 10^6}{1.34} = 16 \times 10^6 \text{ kw/時}$$

1グラムの質量を完全にエネルギーに変えると1時間に2,500万kwが得られるので、 16×10^6 kw/時を発生

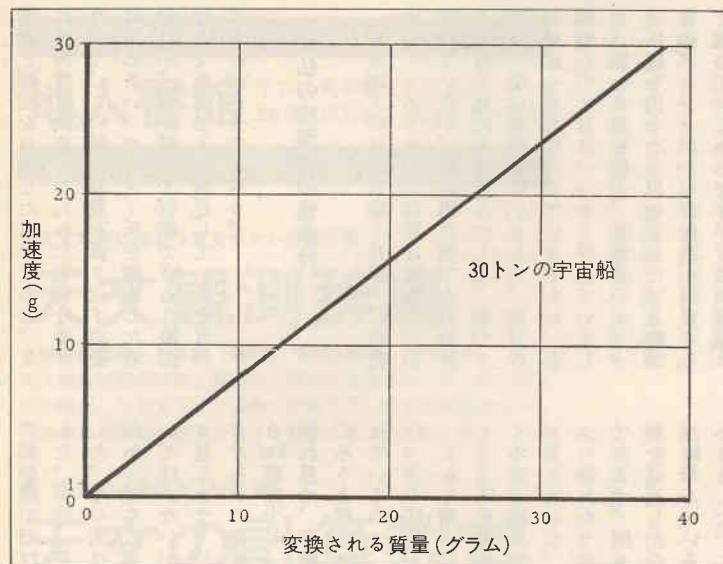


図5 30トンの月旅行用宇宙船における質量と加速度の要因

30gの加速度にすれば、1 $\frac{1}{4}$ 時間（正確には1・272時間）で、月へ行って帰ってくる、ことができるのである。つまり宇宙船で旅行するのに必要な質量はわずか2・3オンスなので、乗組員が飲む水の量のほうがはるかに多いくらいである。

現代のロケット工学の水準から考えてもつと驚かされるのは、この30トンのロケットが近地点の火星（3500万マイル）

とところで、UFOが明るく輝いているのは私たちに見せるためではなく、重力推進システムの副産物としての光のせいだ、原始的な機械の排気ガスのようなものと考える方が論理的であろう。もしそうだとしたら、重力場の強度の変化に従って光度が変化すると考えられるので、急激な離陸でクレターができるように、目もあやな光が展開すると想像される。目撃者の証言を見てみよう。

「ランプシェードのような形状の物体が……太陽のように輝く閃光……空中に真直ぐ上昇していった」

これが典型的な例である。もっと最

UFOの残す手がかり

近の例としては、1965年7月にスコットランドの「ダンデー・クーリエ」が報じたものがある。

「土曜日の昼間、ウルグアイのラ・プラタ川のそばの砂浜に4脚の物体が2分間着陸したのを、1人の若者が目撃した。ブエノス・アイレス発の記事によると、物体はサイレンのような音を後にひきながら、目もくらむような光と共に空中へ飛び上がったという」

また、UFOが飛び去る際に残した焼け焦げた草、油の付着などの手がかりも、さまざまなものがある。マリウス・ドウィルド事件のように、円盤から煙もしくは水蒸気が出ていたのが目撃されたこともある。マリウスは、フランスのカローブルの近くの軌道上に着陸した円盤を目撃した。彼は「低いヒューという音と共に、底部から黒くて濃い水蒸気が出た」と語っている。また、強烈な熱のせいだ、レールの間のジャリが融けていた。

私としては、あまり多くの実例を挙げて読者をわずらわせるつもりはないが、実例を示すには、こうした目撃報告の中の技術的証拠を広めたいという意図もあるので、いましばらく我慢していただきたい。次に取り上げるのはUFOの火花現象である。それと共に、本章の結論を付け加えたい。

それでは、もう一度、南フランスに戻ってみよう。今度はマリネン空港で、税関職員のカンノー氏がUFOの

するのには消費される質量は

$$\frac{16 \times 10^6}{25 \times 10^6} = 0.64 \text{ グラム}$$

しかしこの計算は月までの半分の手行程についてであり、宇宙船を1gで減速するにも1gで加速するときと同じエネルギーが必要なので、消費される質量は正確に2倍の1・28グラムになるであろう。言い換えると、もし完全にエネルギー変換するとすれば、2・56グラムの通常の質量で、7時間以内に、30トンの宇宙船が月を往復するに

エネルギーに充分なのである。

加速度と質量変換の関係をグラフにすると、図5のように直線になる。このことから、次のような注目すべき事実が明らかになる。

前に述べたのと同じ宇宙船で月へ行くのに、12・75グラムの質量を完全に交換して10gの等加速度で加速/減速すれば、1時間ちょっとしかかからないし、25・6グラムを消費して20gで加速すれば0・78時間となる。もっと急ぐのなら、76・8グラムを消費して

に行くのに、20・5ポンドの物質を消費して50gの等加速度で加速/減速すれば、6時間半たらずしかかからないことである。この場合、中間点での宇宙船の速度は毎秒約3270マイルになるが、それでも光速の1・76%にすぎない。

ただ、前の例と同様に問題を単純にするため、地球と火星による重力の効果は考慮していない。さらに、質量・エネルギー変換の効率を100%としているが、これは地球を訪れている円盤ですら実現不可能と思われる。確かに、UFOの記録には、それを暗示するような証拠が沢山ある。

着陸と離陸を目撃した事件である。これは何度も調査が行われた有名な事件なので、この話の背景を繰り返す必要はあるまい。ガシノー氏を調査した者全員が、彼が誠実で信頼できる几帳面な人であることに満足していると言っておけば充分であろう。

南仏の空港での怪事件

「10月26・27日（日曜・月曜）の真夜中頃、ミストラル（寒冷な北西風）が吹いていたが、空は再び雲でおおわれまもなく雨になりそうでした。朝の2時前、私は格納庫にいました。前日の10時から勤務についていましたが、昼間寝たので目はパッチリ冴えていました。軽い食事を終え、管制塔のオフィスに顔を出そうと思いました。2時20分にアルジェからの郵便機が到着すると聞いていたからです、この情報は誤りで、郵便機は飛んでいませんでした。

あたりはまだ暗かったけれど、空港全体を見渡せました。空港が真暗になることはありません。南の方は、物の輪郭がほぼ分かります。滑走路から私の背後の格納庫にかけては、赤いネオンでかすかに照らされていました。その文字はマルセイユ（空港）というもので、長さ30m、高さが3mほどあります。

2時3分に出発するニース・パリ間

の郵便機が飛び立ったばかりのときでした。突然、左手に小さな光が見えました。その光は滑走路沿いに私の方向に向かってくるようでした。それほど輝いてはいないが、闇の中なのではっきり見えます。ジェット機が着陸するときぐらいの速度だったので、時速250km程度でしょう。最初、私はそれが流れ星で、距離と速度を見間違えたのだろうと思いました。背景が闇に包まれているので、どこからが空なのか、はつきり区別が付きません。

しかし滑走路の左手の1kmほど離れたところに建物があるので、近づいてくる光が建物の約10m上を通過するのが見えました。進路は一直線で、ふらふら揺れたりせず、ゆっくりと下降していきます。間もなく、それが私の目の前を通過したので、流れ星ではなく本当に飛んでいるものだということがわかりました。これは一瞬の間の出来事なので、よく考えるヒマがありませんでした。

その光は私の前を通過するや否や着陸しました。私の右手100mのところ、速度も落とさずに突然止まってしまったのです。時速250kmからの瞬間的急停止！その物体が交差滑走路に降りたとたん、にぶくて聞きとりにくい音がしました。物体が飛来してくるときには無音だったので、音がしたのはこれが最初です。

それは飛行機ではないとわかりまし

た。速度を落としたり、地上を滑走したりしなかったからです。初めに目撃してから15・20秒後には、その物体は私の目と鼻の先にあったのです。

私は急いで立ち上ると、その物体の方に向かいました。ひとつには好奇心から、もうひとつは私の職務だと思っただからです。

その物体への距離の半ばまで行くのに30秒ほどかかりました。その間に、私が見ているのは単に光を発している物体というだけでなく、もっと重要な出来事なのだと分かったのです。

その物体は黒っぽく、周囲よりも暗い色をしていました。いったい何なのか、見当もつきませんでした。その後何度も自問しましたが、いまだにさっぱり分かりません。金属のようでもあり、ボール紙のようでもありました。背景のビルの大きさと、そこまでの距離から考えて、物体は高さ1m、長さ3mほどだったと言えものがせいぜいです。ラグビーボールのような形で、両端が尖り、かすかなネオンの光によって闇から浮き出ていました。先端はかなりの角度で細くなっています。物体の下側は真暗なので、車輪があるかどうか分かりませんでした。上の方も暗くて、はつきりしません。分かったのは、私が最初に見た光が4つの窓から出ていることだけです。窓は完全な四角形をしていて、20・30cmぐらいの大きさでした。窓は一列に並ん

でいましたが、葉巻型の上部のカーブに従って曲線状になっていました。

その窓を通して、奇妙な光がチカチカしているのが見えました。光は安定せず、明るくもありません。ぼんやりした柔らかな光で、時々、乳白色に近くなります。また、窓の背後で見え隠れする光が、明るい背景の中で物体を青緑色に照らし出していることにも気づきました。ともかく、光は物体の暗い部分を明らかにするほど強くはなく、物体が動いたときも強さは変わりませんでした。しかし、光はずっと波動のように「震え」ていました。

私は、物体に近づきながら、これだけのことを見てとったのです。

しかし、私が50mも離れていないところまで近づいたとたん、突然、物体の左後部の下側から火花のシャワー、というより白く輝く小さな粒子の流れのようなものが噴き出るのが見えました。火花の噴射は地面に向けて行われましたが、物体がどういう形をしているか見分けられるほどの光ではありません。

火花の噴射はすぐ終わりましたが、同時に葉巻型物体が急激に離陸したので、私は肝をつぶし、本能的に5、6歩後退しました。何が起こったのだろう、機体が爆発するのではないか、機体に押しつぶされるのではないかと恐れたのです。本当に身の危険を感じました。

天文図書の

地人書館 〒112 東京都文京区後楽1-1-10
☎03(815)4422 振替東京6-1532

新刊

●天文学習に役立つ天文ファン待望の書

天文観測辞典

古畑正秋監修 A 5判 380頁 定価2900円 〒200円

天文観測用語の解説と観測法の標準化を目標に、第一線の諸先生が解説した天文ファン必携の辞典です。天文の基礎事項から天文現象・観測法・機器などまで観測に役立つことに徹しました

●「天文の基礎教室」姉妹篇

天文の計算教室

齊田 博著 A 5判 228頁 定価1500円 〒200円

“直径2.2cmの100円玉を、目からどれぐらい離すと太陽をおおいかくすか”など、天文に関する色々なことを簡単な計算式で解き、勉強しやすいよう受験参考書形式にまとめた楽しい天文書

●初心者のための入門の入門書

子供の天体観測

天文と気象編 B 5判 128頁 定価700円 〒160円

観測をはじめようと思っても、どんな望遠鏡がいいか、またどうすれば星がさがせるかなど、望遠鏡をのぞく前に知ってほしい観測の基礎知識をいっぱいつめこんだ天体観測の入門書

好評発売中

●ヘール天文台校閲による天体写真の決定版

パロマ天体写真集

大澤清輝解説 B 4判 定価1700円 〒240円

ヘール天文台の5m大望遠鏡がとらえた神秘的な宇宙の姿を、一頁に一枚、週刊誌を開いた大きさに再現した迫力ある写真集。これまでの上、下2冊を1冊にまとめた永久保存版です

●先生と生徒の必読書

顕微鏡のすべて

井上 勤監修 B 5判 240頁 定価1300円 〒200円

顕微鏡の正しい使い方、標本の集め方、作り方がわかり、生物の生きる仕組みをとらえて学校の授業や毎日が楽しくなります。顕微鏡をしまいこんでいる人、これから買う人のための本

離陸のとき、火花のシャワーのほかに、かすかな音が伴いました。7月14日の革命記念日に鳴らす爆竹のような音でした。それ以外には、気流も起こらず、爆発もせず、傾斜もせずに離陸しました。わずか2、3秒のうちに、物体は飛来したのと反対の方向に飛び去りました。着陸のときはゆっくりした速度だったのに、離陸のさいはものすごい高速でした。全く加速しているように見えないうちに、さつき静止していた物体が、次の瞬間には稲妻のように飛び去ったのです。上昇角度は、着陸のときと同様に、それほど急ではありませんでした。機体は、滑走路の左右に30〜40m離れて並んでいる2つ

のビルの間をすり抜けていきました。物体が離陸したとたん、私には後部から流出する火花の粒子以外、見えなくなっていました。私のいる場所からは、窓も光も見えなかったのです。しかし、2つのビルの間を通過したとき、地上30mのビルの屋上よりずっと低く飛んでいることが分かりました。次の瞬間、空港の横手の道を越えた池の上で、光は見えなくなりました」

UFOの火花は何か

もうひとつフランスの事件を取り上げよう。1954年10月、場所はビルーである。F夫人と娘の2人は、就寝

の仕度をしていたところ目がちくちくと不快に痛んだ。眠れなくて窓のそばへ行った娘は、巨大な発光物体が垣根の近くに静止しているのを目にした。母親を起こして2人で見ると、その発光体は頂部が白く、下部はまぶしい赤色をしている。そして、時々、火花が、滝のように降りそそいでいた。

これらの火花は何なのだろうか。UFOの原動機を証拠づけるものか。それともある種のイオン放電なのか。恐らく違うというのが私の考えである。確かなことは言えないが、これまで述べてきたことから、いくつかのことが予測できる。

円盤が着陸していると想像してみよう。以前に、地上に固定されていない物体を円盤がどのように持ち上げるか、実例をあげて考察した。こうして持ち上げられた物体のいくつかは、恐らくものすごい振動によってふり飛ばされるだろう。電磁誘導で加熱され白熱状態となった物体は、運動エネルギーが重力場の拘束力を上回ると、ついに火花の滝のように放出されるのである。理論上からは以上のようなことが考えられる。そしてこれを証拠づけると思われる目撃例も何千となくあるのである。

中村省三訳

あなたにも“念力”がある！



¥7,000(送料共)

念力開発器 (ロジクルッシャン・ダイヤレット)

人はだれでも潜在的に念力を持っています。ただそれに気がつかないことが殆んどです。このダイヤレットであなたは自分に念力があることが自分自身で確認できますし、訓練によってそれが強化されてゆくのが分ります。バラ十字団の団員は現にダイヤレットを使って自己の念力を強化して実生活で幸福をつかむ手段としていました。あなたも自分のかくされた力を発見し、強化して幸せをつかんで下さい。



¥5,000(送料共)

プランセット (西洋式こっくりさん)

プランセットとはそれを行う人の意志とは関係なく自然に動き文章や図形が記されるもので、プランセットの実験は精神統一にも有益で家庭や友人と一緒に楽しめます。

プランセットで不思議な現象を試してみてください。プランセットはあなたの将来や為すべきことを暗示してくれます。



¥2,000(送料共)
携帯用ケース付

魔法の振子 (シュブロール振子)

1967年、ベトナム戦争で米国海兵隊は、振子を用いて敵軍の地下壕や地雷を探索し、適中率は86パーセントであると当時のニューヨークタイムズは報じました。

魔法の振子は、潜在能力開発の最も基本となる道具の一つです。魔法の振子で自分のかくれた能力を発見して下さい。占いにも使えます。



¥3,000(送料共)
セバレーター付

神秘のロッド (ダウジング・ロッド)

このロッドであなたは不思議な力が発揮できるようになります。比較的短期間の練習で多くの人が、紛失物やかくされた物を見出すようになります。この道具は実際に地下のガス管や水道管を探すのに実用されています。

さあ、あなたも自分の潜在能力を試してみましょう。



特価 ¥6,000(送料共)
(定価 ¥7,500の品)

ピラミッドA

アクリル製底辺約24cm (ピラミッドパワー実験用)

不思議なピラミッド・パワーの実験ができます。

中の台に色々な物を置いてみましょう。カミソリの刃は再び切れるようになります。生花は外のものより長持ちします。ミルクや果物も腐敗が遅くなります。魚や虫など小動物がミイラ化します。その他色々面白い実験ができます。

●上記商品には、詳しい説明書、練習方法の解説がついています。

●カタログ請求・お問合せは

〒103 東京都中央区日本橋小舟町2-7

発売元



ポラックス株式会社U係

TEL (03) 666-0511代

技術指導

潜在能力開発研究所

ご注文は

紙に商品名、住所、電話番号、氏名を書き捺印の上代金を現金書留封筒又は郵便振替(東京・4-8703)でポラックス株式会社E係にお送り下さい。

声

「UFOと宇宙」にもと
うとうニセモノが……
と思ったヨ。No. 24の表
示がないんだもの

川瀬功生
〒511-05 三重県員弁郡藤原町
上之山田734

「UFOと宇宙」No. 24を手にして気が
ついたら、また非常に残念なこ
とを発見した。小生が「UFOと宇
宙」を買って最初に眺めるのは表紙
だが(もともと、書店で手に取る前
に眺めるが)、あっこれは大変「No.
24」の文字がいくら捜してもないで
はないか……ハーン「UFOと宇
宙」にも、とうとうニセモノが出た
か、チキンショウ……と一瞬思ったこ
とはいうまでもない。

本紙の表紙を飾るのは元気がつら
つとしたUFOの写真だけではない。
このナンバーがどれほど隔月刊
誌を印象づけているかを絶対忘れな
いでほしい。そして本屋さんに行っ
て「UFOと宇宙」何号を下さい」と
いえるよう、よろしくオタノミ申
シマス。

《編集部より》No. 24の表示を忘れ
てしまい申しわけありません。ご指
摘ありがとうございます。

UFO問題の背後には
人類の将来に重要な変
化の要因がある

花田哲生(22・学生)
〒564 大阪府摂津市正雀本町1
11-4 下村方

科学で解明されない現象、UFO、
超能力、心霊等に興味を抱き続けて
きましたが、それとともにその背後
にあるものを考えると、この分野に
何か非常に大切なもの——人類の将
来に大きな影響、変化の要因になる
ようなものがあるように思えてなり
ません。

現在の世界を明確に把握すること
は難しい問題でしようが、今日の主
として自然科学の発展は、いうなれ
ば、世界の本源は物質的存在の中に
あるとする唯物論的世界観と哲学、
数学を基幹として展開してきたとい
えるでしょう。そこからさまざまな
応用技術も分枝してきました。



●阪上清久(画) 茨城県土浦市

のような見方で読むとき、興味の尽
きないものがあります。

飛鳥地方の「亀石」が
西へ向くと、日本列島
が沈没する?

山寺勝宏(13)
〒047 北海道小樽市天神1-20
12

いまのところ日本沈没は1982
年説がもっとも有力です。そこで私
が仮説をたててみました。この仮説
のヒントとなった飛鳥地方の遺跡の
資料を送ってくれたのは、本誌19号
の「声」で文通をはじめた中川康之
君です。

さて、その資料の中に「亀石」と
いうのがありますが、明日香村川原
にあるその亀石は、作られた目的は
まったくわからないということとし
た。しかし、村の伝説によると、それ
は最初北東を向いていたのが、だん
だん西へ向きを変えてきて、いまは
南西の方向を向き、これが西の方向
を向くとその地方は泥の海と化す、
つまり、付近一帯が海になって、沈
んでしまうということなのですね。千
数百年もかかって東から南西へ約90
度動いたのだから、1982年に日
本沈没はあり得ないと考えられます
が、しかし、ここで重大な発見をし
たのです。

それは、西の方向とわっているだ
けで、真西とはいっていないことで
す。

いまは南西の方向を向いています
が、あと少しでも西へ向けば日本沈
没もあり得るかもしれない、それが
1982年であるかもしれないとい
うことです。

これに似た伝説をごそんじの方、
教えて下さい。

昭和18年に現れた
葉巻型UFO

永田 卓
〒446 愛知県安城市住吉町3-
2-41

もう30年以上も前のことになりま
すが、私がUFOを見たのはそのと
き、ただ1度だけです。

昭和18年の春、4月か5月頃のある
晴れた日の午前中のことでした。
家から見て南の方の空に何か黒い小
さなものが浮かんできているのを発見し
たので、形は軽気球にそっくりで
したので、旧陸軍あたりが軽気球を
上げたのだらうくらいに思っていま
した。ところが、その物体は気球に
しては不自然に色が黒かったのです。
それに、軽気球ならば気球の下
にゴンドラが何か付属物がついてい
なければならぬと思いますが、そ
んなものは全然見当たりませんが、
た。母や隣家の人に知らせたので
すが、その人たちはそれが何である
か、もちろんわかりませんでした。

そのことがあってから30年以上た
ち、最近になって、雑誌その他でU
FOの写真だというのを見ますと、
中にどうも私が見た軽気球に似たもの
があるではありませんか。すると
やはりあのとき私が見た物体は、ひ
ょっとしたら軽気球なんかではな
く、UFOだったのではあるまいか
と、しきりに思うこの頃です。私が
目撃した場所は名古屋市内でした。

アイヌ伝説のオキクル
ミ神は宇宙人?

鈴木貴子(中2)
〒142 東京都品川区小山3-12
17

「声」18、23号の飯島さん、稲庭さん、インカ、マヤ、トルテカ及びアステカ文明で、それぞれ似たような神様が出てくるでしょう。私たち（日本人）が軽視してきた民族にもそのような神様の伝説があるのを知ってますか。その神様は、アイヌ民族のオキクルミ神です。オキクルミ神は、アイヌにいろいろのことを教えたアイヌたちを救ったりしましたが、アイヌたちが神の恩になれてしまい、だんだんだらくして神徳をけがすようなことが多くなったのでついに神はアイヌモシリを見すて、

●園村のぶあき(画) 熊本県下益城郡



隣りの国（上天らしい）へ行行ってしまったというのです。しかし、オキクルミ神はアイヌモシリをまったく見すてたわけではなく、いまでもときどき人間界を見にくるといわれ、そして、いまではオキクルミ神のことを宇宙人だという人がいるそう。オキクルミ神について、またアイヌの伝説について知りたい方は「アイヌ童話集」（東都書房、金田一京助・荒木田家寿著）をお読みになるとよいと思います。ただし、小・中学生向きです。お読みになる方、とくにオキクルミ神の乗るシンタ（神駕）に注意し

て！

私は、2階の窓から撮ったUFO写真を信用しません

鈴木孝之（高1）
〒879-04 大分県宇佐市四日市新町

最近2階の窓からUFOを写したという人が多く、毎号のように黒べったりの輪郭だけ円盤の形をした写真が掲載されますが、私はとても本物とは信じられません。UFOの現れるのを心待ちしてカメラを用意して2階で勉強しているわけでもないでしょう。万一現れたとき、10人のうち1人くらいはカメラの準備がうまくいって写せるかもしれないが、残りの9人はカメラをやっと構えたらもう見失ったということになるのではないでしょう。つまり、10人の人がUFOの写真を2階の窓から写したと発表したならば、90人の人から、2階の窓から目撃したのが撮影には失敗したとの報告が出ていなければならぬ合理的です。ところが、2階の窓からの目撃だけの報告はあつた名乗りの出た人は見事に写したという人ばかり、それも皆ガラスに張った人かと思えないような円盤ばかりです。あわててカメラを構えるのだからやつと1枚写したという人もあつてよいのに、決まって数枚ずつ撮っているのはどうもあやしい。私は2階の窓から撮ったというUFO写真は信用しません。アダムスキー型のトリック写真を作った楽しむのはかま

いませんが、飛んでいるUFOを撮ったのだとウソの目撃をする人は、崇高なアダムスキー精神を踏みにじるものだと思います。

ぼくはいつもUFO問題等に懐疑的な態度で接しています

小林英也（高15）
〒355 埼玉県東松山市上野本1-066-3

ぼくはいつもUFO問題等に懐疑的な態度で接しています。だってそうでしょう。たとえば、何でもUFOにしたら人が雲を見て「UFOだ!」と騒ぎ、あとでそれが「UFOの正体は雲」だったということになつてごらん下さい。普通の人は「UFOなんてそんなものさ」と信じてしまっています。

そういう点からいえば21号の口絵「ピレネーの怪」にはおおいに苦情があります。あれじゃどう見たって雲ですよ。雲ではないという証拠があるんだつたら、それをはつきりと載せるべきです。これについて意見のある方は遠慮なくお便り下さい。

返事を出しても戻ってきたくときのショック! 住所は正しくはつきり

升沢優子
〒034 青森県十和田市西六番町3-25

本誌20号に載った者です。あのとき、たくさんのお手紙をいただきましたが、住所がきちんと書かれていないものが何通もありました。郵便番号のないものには、調べて返事を書きました。しかし、何日かたつた頃、「このような住所はありません」と



する実験方法が正しいかどうかは私にはつきりわかりません。

〔方法〕 まずハリと紙を用意します。適当な長さのハリを台紙の上にしっかりと立てるようにし、薄い画用紙をビラミッド状、またはドーム状にしてハリの上にのせます。両手を図のように指先と手首が向かい合うようにして20cmくらい離し、この間に実験器を入れます。両手の指を軽く曲げ、実験器に接触しないように近づけて包むようにかざします。

すると指先の方向へ回り始めます。同じ要領で両手を逆にかざせば、やはり指先の方向へ、しかも勢いよく回ることが多いようです。また、1度回り始めると加速し、相当長い間一定の速さで回るようになります。

両手を逆にすると、勢いがいいのは空気の流れのためではないかと思ひ実験してみました。結果は空気の流れだけではないようです。

潜在する超能力発見の方法を教えます。ためしてください

堤 裕紀
〒117 東京都練馬区上石神井1-288-4 上石神井マンション

みなさんも自分に潜在する超能力をたたくてみませんか。超能力などヒトカケラもないと思つていた私でさえ実験し、成功したのでから狂喜しました。ただし、これから紹介

文通しよう

科学的なことはさっぱりわかりませんが、UFOをひたすら信じ、1度でいいから見たいと願っている22歳の私です。どなたか私と文通して下さい。または近県の方で月に1度くらい会える可能性のある方、ご連絡下さい。なお、県内のUFO研究クラブをお知らせ下さい。

木村洋子
(〒303-01 岐阜県安八郡墨俣町下宿20)

ぼくは、UFO、超常現象、遺跡などに興味をもっていますが、まだ未熟です。未熟者同士、日本を初め世界の謎について話し合いませんか。性別は問いませんが、なるべく同年の方、お便り下さい。

大川 樹(15)
(〒176 東京都練馬区豊玉中2-20)

限りなく広い宇宙。もしかしたら宇宙人は、宇宙のはてを知っているのかも……？

UFOを見たことのある読者のみなさん、どうすれば見ることが出来るのか教えて下さい。私の最大の夢は宇宙旅行なのです。

菊池みどり(19)
(〒113 東京都文京区本駒込5-41-6 メゾン本駒込204)

毎号「UFOと宇宙」を読んでいます。ぼくは、ぼくの楽しみは、何といても「声」の欄です。みなさんの研究やご意見がよくわかり、それが読む人の心をひきつけるのだと思います。ただ残念なのはUFOを信じていない人にソッポを向かれることですが、これからは、そういう人をもひき込むことのできるよう、一層努力いたします。宇宙やUFOについて文通しましょう。女性歓迎！

久保公男
(〒515-23 三重県一志郡嬉野町大字黒田220-2)

小 学校4年のときにUFOを見たのが最初で最後。それから、UFOに興味をもったのは、大宇宙のことを考えると人間が小さく見える。こんな私の話し相手になって下さる方、お便りお待ちしております。

小石川 保
(〒558 北海道千歳市祝梅1016二十四連二中新教)

私は本誌のモニターになっているのですが、UFO情報がなくて困っています。情報をお持ちの方お便り下さい。大学の研究会等の方、大歓迎です。

須永千恵子(19)
(〒183 東京都保谷市新町1-11-19)

ぼくはUFOの存在を信じている者ですが、UFOに興味ある方、文通しましょう。とくに女性歓迎。

山下和一(26)
(〒289-11 千葉県八街町東吉田98-11)

東 北、関東地区のUFOファンでUFOを目撃したことのある方、日時、場所、内容などを詳しく教えてください。お便りお待ちいたします。
清野由一(15)
(〒033-35 青森県北郡鶴田町生松162)

私がUFOを信じているという友人達はみんなバカにして、相手にしてくれません。UFOの話が気楽にできる方、文通しましょう。
諏訪公則(19)
(〒323 栃木県小山市南小林98)

中 2の時にUFOらしき物を目撃してから、その存在を信じるようになった者ですが、最近では、超能力や念力、そして人間の心の不思議さなどについても自分なりに研究しています。同好の方、また、真面目に研究されている小・中・高校生の方、お便り下さい。

石井和人(17)
(〒271 千葉県松戸市馬橋499-4)

UFOキチガイ、といわれる方、私にいろいろ教えて下さい。あなたの手紙を、夜空の星を見上げて待っています。

浅田美恵(18)
(〒799-34 愛媛県喜多郡長浜町大字長浜甲467-9)

あ なたの、UFO、超能力、謎、人生などについて意見を聞かせて下さい。お互いに論議をし合いい、また、よき支援者となり、真実を追

究しませんか。年齢不問、多くの方の手紙をお待ちいたします。
鈴木正春(17)
(〒243 神奈川県厚木市恩名933)

予 言、ESP、古代文明、UFOなどに興味をもっています。近ごろ予言の内容がわかって(？)くるにつれ、まわりに話し相手がいなせい不安になってきました。どなたか、ぼくの話し相手になって下さる方、お手紙下さい。

山口 毅(17)
(〒336 埼玉県浦和市領家6-10-6-303)

UFOについて研究したいのですが、どなたか教えて下さい。できれば資料もほしいので、よろしくお願いいたします。お手紙をお待ちしています。

古和田利子(高2)
(〒623-11 京都府綾部市八津合町日置谷)

全 世界のみなさまこんにちは。どなたかUFOキチガイの私と文通しませんか。UFO目撃レポートもいっぱい送りますよ！ご連絡を待っています。

森田洋子(17)
(〒731 広島県呉市本通8-12-20)

2 年前、初めてUFOを見てから興味をもち、とりこになってしまいましたが、まだまだ未熟なので全国のみなさんから資料を提供していただき、知識を広めたいと願っています。文通も希望します。
高橋 完(中2)
(〒244 神奈川県横浜市戸塚区和泉町4494)

まんがマステ

うれしいお知らせ

自宅でグン上達するマンガ技法を伝授します

さあ、キミも自分のかくれた才能を発見しよう!!

※ 描けたらどんなにスバラシイことでしょう。
※ マンガをつくる才能はキミにも必ずあります。ただ、じぶんでは気づかないだけ。キミもこのチャンスにかくれた才能を発見してみませんか？
※ 今コミックスクールでは夢とわかれた一流の先生方がキミのかくれた才能をスクスクのぼし、どんなマンガでも自宅でもどんな描けるよう指導してくれます。
※ 学びながら自宅バイトができる。誌上展にも参加できます。この機会にキミのかくれた才能を存分に発揮し、おごっかいもパッチリかせいで下さい。

まんがの好きな方は、下記へハガキ下さい。今なら、自宅でグン上達するまんがの学び方や自分の才能がすぐわかるテストつき説明書セットを無料でさしあげます



現代コミックスクール UFO係

〒145 東京都大田区田園調布局第56号
(大田区上池台5-7-10)
TEL 東京 (03) 727-2216 (指導部)

申込先

UFOファン 集まれ!

返信用切手同封のうえご連絡を。
杉野隆三郎
(〒463 愛知県名古屋市中天白区天白町八事鶴田52)

私 たちは、UAT(UFO AN GEL TROOP)を結成し

研究活動を続けていますが、人数も少なく、女子ばかりなので活動範囲も限られ、情報収集も困難です。全国の皆さん、お互いのUFO資料、研究内容を交換し合ひましょう。
中村佳子
(〒639 京都府北区衣笠街道町37)

ぼ からは、UFO、心霊などに興味をもち、研究サークル「超現象研究会」を結成しました。しかし、資料不足で困っておりますので、お持ちの方ぜひお譲り下さい。また、中学生の入会者を募集します。50円切手同封のうえ、お申込み下さい。
塚脇誠志(中2)
(〒659 兵庫県芦屋市前田町8-18)

い からは、UFOをはじめとし、あらゆる超自然現象の研究を1人でしていますが、情報などが集めにくく、不便でしょうかありません。どなたか私と一緒に研究会を作りませんか。真剣に取り組んで下さる方を希望します。
松原寿子
(〒399-41 長野県駒ヶ根市赤穂7748)

宇 宙やUFOに興味のある方、当会に入会しませんか。会の内容は・円盤工学研究部・UFO研究部・宇宙現象研究部・宇宙文明研究部など。会費は年800円、B6判の会誌を4回発行。資格は老若男女を問わず、誰でも結構ですが、ただまじめに研究して下さいを望みます。

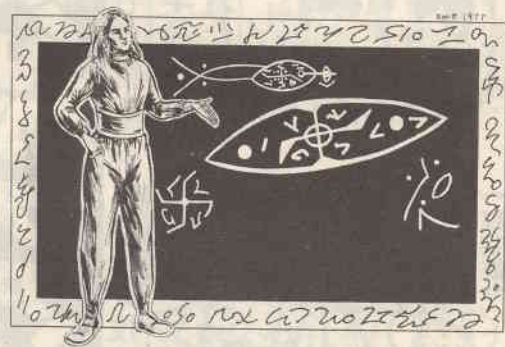
小 中学生諸君! 外国研究会に負けないと、UFO研究会「銀河」を結成。会誌「ウラニデス」を発行します。会費は年300円(50円切手6枚でOK!)。ぼくらのところにある山は比較的UFOの目撃が多く、この前、その山の近くでぼくは怪図型(?)を発見、そしてUFOを目撃しました。創刊号は、この山の情報を送る予定です。ご希望の方はご連絡下さい。(年齢記入のこと)。
中野俊夫(中3)
(〒797-12 愛媛県東宇和郡野村町大字野村4-69-1)

U FOに興味のある人、ぼくたちの作った研究会に入りませんか。ただし、中2以下の人を希望します。会の名称はURC(UFO研究会)という意味です。まずは電話で(07436-4141565)。
松田善美
(〒632 奈良県天理市庵治町4886-13)

三 重県を中心として活動を行っているグループですが、新規会員を募集します。とくに熱意のある方を望みます。が、これかやろうという意欲のある方も歓迎します。会費は年1000円、入会ご希望の方は50円切手同封のうえご連絡を。
岡(国際UFO研究会)
(〒514 三重県津市丸之内29-14 津商工会議所内)

倉 敷天文同好会内にUFO研究会ができて半年、活動も活発にな

UFOの推進原理は何か



●阪上清久(画) 茨城県土浦市

●重力を利用した 重力場推進法

もちろんUFOは重力を利用して飛行しているのである。

UFOの飛行は実に奇妙であり、たしかに地球上の乗物とは違ふ。超高速による急降下、急上昇、急停止や鋭角度のターンなど。地球の重力を無視したような飛行から考えられることは重力場推進法だけである。

つまりUFO自体が自力で重力の場というものを作り出すのである。それはすでに地球とは別個の惑星といえる存在なのである。月が地球に落ちてこないのと同じように、UFOもまた落ちないで浮いていられるのである。

地球では、まだこの推進法が開発されていないので、私には

る物体をプラス、逆に引力に逆らう力を受けている物体をマイナスと考えると、このマイナスを受ける物体を作ればよいのである。

ところで、そんな物体が作れるのだろうか。アダムスキー型UFOの下部に3個の球型が見られる。これが電子原動機であることは、無音で発光することなどから推測できる。この電子原動機が1分間に100万回転すること、回転電場の中の物質がマイナスのエネルギーになるとイギリスの研究で証明されている。

これらのことからUFOは高度な電子機関で反重力を利用して飛行しているのではないかと推測できる。ただし、この推進法では重力のない宇宙空間は飛行不可能である。
中村孝明(東京都八王子市)
〈同じ意見の人〉大島和文 高橋立能

●重力に反発する 反重力推進法

考えられる推進力は反重力を利用してゐるのである。

反重力は地球の重力に逆らうものであり、地球からはじかれようとする力である。地球上の生活では引力を無視することはできない。まして引力に逆らう反発するものを推進力に使うなどは考えつかない。
しかし地球の引力を受けてい

●磁気を利用した 磁気推進法

宇宙空間にあまねく存在する自然のエネルギー―磁気を利用した磁気推進法である。

我々の太陽系について考えてみると、各惑星は空間に及ぼしている磁場は遠方に進行するにしたがって、次第にその強さは弱まっていく。一方、磁気の波の干渉によって2つの惑星間には楕円形の磁場が形成される。これらはさらに太陽系間、銀河系間と複雑に広がっている。

14 馬場方)

り、来年4月頃に天文とUFOの合同研究発表会を行う予定です。また会報も充実し、レポート、研究、観測結果など幅広く載せています。

今回地方会員と本部会員をあらためて募集しますので、入会ご希望の方はご連絡下さい。案内書送呈。

倉敷天文同好会一同

(〒710 岡山県倉敷市田ノ上712 佐藤賢司方)

超

常現象研究会の設立にあたってUFO、心霊、超能力、四次元に関する資料や意見、論文を募集しています。怪奇現象やUFO目撃の体験や、また心霊などを信じない人はなぜ信じないのか、その理由を教えてください。

佐藤浩明(15)

(〒710 岡山県倉敷市堀南863)

自

然宇宙科学研習員募集！ 当方では、宇宙の神秘、自然の神秘について研究を行っています。その中で各現象、超自然現象、超常現象、人間と宇宙との現象、自然の法則、テレパシーなど、総合した研究をしています。ただし、研究内容がむずかしいので、高校生以上に限ります。イオンクラフトの実験は私が指導します。一緒に研究してみたい方はご連絡下さい。

福原道雄
(〒294 千葉県館山市水岡895)

超

常現象を信じる四次元人諸君！ SF小説、漫画、ボエム等の総合マニア誌を共同製作しようではないか！ 今、謎に満ちた世界を……君に、会員募集中！

亜空生鳥
(〒150 東京都渋谷区広尾1-18)

日

本宇宙文明研究会 BY・O・T AMA通信員募集！ 当研究会では、UFOの観測と、それに関する資料、またレレキニウム座の資料を集めながら研究をしています。

応募の資格は、昭和33年(35年生まれ)の方で、天文、UFO、異星人、古代または近代文明に興味をもつ方ならどなたでも。ただし、石川県金沢市、大阪府・市の方を優先します。

谷本隆昌
(〒533 大阪府藤井寺市小山藤美町3-13)

U

F O研究会「UFO専科」を設立しました。日本全国の最新情報を交換し、UFOについて、より多くの知識を身につけよう！ 考えよう！ 話し合おう！ 調べよう！ 何でもしよう！ という会です。詳細ご希望の方は往復はがきでご連絡下さい。それから全国のUFO研究会やクラブの代表の方、活動方法をお知らせ下さい。私たちの参考になりたいと思います。また、全国のみなさん、情報をお寄せ下さい。

久保川正文
(〒405 山梨市小原西738)

心

霊研究を重点的に行っている「YSKK」の会員を募集いたします。入会ご希望の方は50円切手同封のうえ、ご連絡下さい。(年齢・職業を明記のこと)。

村井雅彦
(〒013 秋田県横手市大屋新町字中野424-1)

私

私たちは「超自然現象調査最高司令機構」と名乗るUFOに関し活動している団体です。現在会員

惑星間の磁気の流れは、その流れの方向が絶えず往復の磁気運動になっている。この往復運動の一方だけを利用して宇宙船は進行する。そして両方の流れを同時に利用すれば、宇宙船は空間の一点に停止することが出来る。だから宇宙船のパイロットは宇宙空間の磁気の流れを十分に知っている必要があるだろう。

望月隆昭(山梨県東八代郡)
(同じ意見の人〓久保信一 野口文男)

●超能力を利用した
念力推進法

UFOの搭乗員が放った念力が、UFO自体に作用して推進力を生み出すのだと思う。

それはUFOの飛行を見ることで理解できる。現在の地球の航空技術ではとても考えられないものなのである。地球に飛来する高度な科学技術をもっている彼らは、当然、精神面においても高度であるにちがいない、あらゆる超能力をもっているのだろう。

彼らが操るUFOは、彼らの思いのまま、放たれた念力が直角を指していれば、UFOも直角に飛行する。姿を消したければ、たちまち見えなくなってしまうのである。

UFOに特定な形がないのは、エンジンやその他の推進装置を使わず、テレパシーなどの念力だけで動くことが可能なため、船体の形にとらわれること

がないためだと思う。
高橋明夫(神奈川県川崎市)
(同じ意見の人〓金森幸男 尾垣政晴)

●光を利用した
光子力推進法

UFOの飛行スピードからい、目撃例などから推測して光子力による推進だと思う。

ただし母船は別の推進法だ。UFOの一般的な目撃例では、昼間は黒く見え、夜間は明るく輝いているという。このことから考えてみると光子力推進法というのが妥当な線だと考える。まずはボクの考えを聞いていただきたい。光はだれもが知っているように、 3×10^{10} cm/secという速度で突っ走る。この速度なら惑星間はひとつ飛びだ、この光子力も、今やと地球の科学者が考え始めたが、技術的にはまだまだダメである。大きな電球を後につけて飛ぶというのがその方法らしいが、宇宙人ならロスのない全体発光を考え出しているだろう。そして同時に太陽のエネルギーを吸収するという。だから昼間は

発光よりも吸収の方が大になり黒く見える。逆に夜間は発光の方が大きくなるのである。そして円盤はそれ自身で電気をためておいて、光子力に変え推進しているのである。
川上 淳(鳥取県岩美郡)
(同じ意見の人〓香川雅生)

●その他

UFOはワープ航法(重力場、光子力、反重力の3つをそれぞれの状態に応じて使い分けている。
小林良彰(千葉県四街道町)
異次元を利用する。
川本潤一(山口県美祿市)
光よりも早いタキオンを利用したタキオン推進法

島中俊雄(北海道札幌市)
UFOはその目的に合った推進法を利用している。
尾山昌治(愛知県名古屋)
アブの飛び方を利用したオルゴン推進法。

河井正康(東京都世田谷区)
その他、奇抜な推進法を考えた人〓西野和子 豊嶋啓悦 早石考紀 吉田宏

《次号は》

●UFOに乗っているのは何か

全国から多数のお手紙ありがとうございます。次号は右記のテーマにご意見をお寄せください。発表は8月20日発売「UFOと宇宙」26号です。タテ書き、800字以内 締切7月末日まで。
ユニバース出版社編集部「声」係

募集中。J・A・キール、C・フォートなどの著書を中心に研究を進めています。また、他の研究団体で協力して下さる方はご連絡を。

磯部剛喜

(〒289) 千葉県八日市場市8-736

小楠小枝子(15)

(〒221) 神奈川県横浜市中区大石口通28

超 常現象に興味をもつ島根大学生ですが、わが校には、それらしい研究団体がないので、ぼくがその研究団体を作ろうと一大決心をしました。全国の研究団体の皆さん！参考のため、活動状況を教えて下さい。よろしく願っています。

松岡信宏
(〒690) 島根県松江市西川津町 奥名正雄方

このたび私たちはUFO研究会を、結成、ただいま会員募集中です。北は北海道から南は沖縄まで、男子でも女子でも、宇宙人または人間であればどなたでも可。会費は1ヵ月50円(50円切手3枚)。隔月で「UFOタイムス」という新聞のような雑誌のようなものも発行しています。UFOに詳しい方も詳しくない方もどうぞご入会下さい。ご希望の方は50円切手同封のうえご連絡を。

このたび、超現象研究会(PPS)という会を作りましたので、会員を募集いたします。入会資格はとくになし、会費もなし。また、SPSでは隔月刊誌を発行しています。

なお、会と会とのネットワークのようなものも企画していますので、希望の会の代表の方は会の詳細をお知らせ下さい。

坂井修一(17)

(〒700) 岡山市西市6-68-27

心 霊、超心理、UFO等に関心をもち、それらに関する書などもそろえていますので、同好の士にご利用いただけたらと思います。近辺の方で、ともに研究、情報交換のできる方で、気軽におつきあいできる方でしたらなお結構です。

岡島敏秋

(〒400) 愛知県名古屋市中区古渡町1-24-3 マルコウ荘

無 であり有であり、空気がたいてとらえどころのないUFOの証

明方法として①機械工学的に見ていく方法②生物学的に地球外知の文明を証明していく③古代超文明(地球上にかつて地球人の超文明があった)とする④UFOの発進地を地球にあるとする⑤統計的にUFOの存在を証明する⑥5つの見方に分け、各自専門の分野について研究し、話し合いながらUFOを証明づけていきます。月に1度会合をもち、夏は合宿をし、また発表会もあります。高校生以上の方、とくに女性の方、UFOについての考え方も理解したいと思しますので、多数の方の入会を歓迎いたします(県内の方)。

大谷淳一(20)

(〒238) 神奈川県横浜須賀野市森崎町3

ア ルビレオ天文同好会を作っていますが、UFO、天文に関する研究や活動と一緒にやりましょう。ご連絡をお待ちしております。

谷 宣憲(16)

(〒650) 14 兵庫県津名郡一宮町江井

われわれの研究会は①UFO②宇宙③心霊④ESP⑤妖怪学⑥の5研究部門があります。入会希望の方は50円切手同封のうえご連絡下さい。他研究会との交流も希望します。

萩野圭一

(〒001) 北海道札幌市北区屯田二条4-37 北日本超自然現象研究会

■米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得!

宇宙からの訪問者

「偉大な惑星人との会見記」

●空飛ぶ円盤は実在する! 遠い惑星から、偉大な進化をとげた人類が、宇宙船を駆つて地球の救援に飛来……壮大な宇宙空間の大スペクタクルと驚異的事実をつたえた本書は、まさに20世紀最大のドキュメントだ!

絶賛発売中!

定価 1300円 (¥160)

20世紀最大のドキュメントだ!



ジョージ・アダムスキー/著

久保田 八郎/訳

●「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」として名高い二点の記録書をアダムスキー研究家として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」のうちアダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表写真を含め50点以上の写真・図解を一挙掲載した決定版である!

ユニバース出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
☎832-1341~44 振替・東京1-119478

●書店にない場合は直接小社営業部までご注文ください。

世界のミステリーと驚異・専門誌

●隔月刊●

エニグマ

Enigma

◎
No. 5

特集・超能力

1. 現代一流超能力者による予言……

- 日本の巨大地震はいつ発生するか？
- 日本列島は沈没するか？
- 第3次大戦は発生するか？
- 3億円事件の犯人を透視

亀田一弘/小野田京子/青島光男/有働京子/伊藤知子/王麗華

2. フィリピンの驚異の超能力手術 瓜谷信広……

3. マニプーラチャクラによる超能力開発法 本山博……

4. 誰でもできる念力開発法 B・C・ボジャート……

5. 恐るべき超能力スパイ 中岡俊哉……

¥430 円160

全国書店で
衝撃発売中

書店で品切れの場合は、
本社へご注文ください。

ユニバース
出版社

〒110 東京都台東区
上野5-1-6、ヤマトビル
Tel. 832-1341~44
振替・東京1-119478

失われた
大陸アト
ランティ
スの謎

ジョン・ネーカー

●太平洋戦争の秘密兵器
日本も
原爆を
つくっていた

小橋良夫

ヒトラー
と
秘密結社

赤間剛

恐怖の
幽霊
屋敷

庄司浅水

驚異のピ
ラミッド
・パワー

久保田八郎

◆連載◆

●全国未発掘埋蔵金150兆円に挑む③ 桑田忠親

日本列島宝探し……

●矢追純一不思議⑤

バミューダ海中に人工建造物を発見！……

●シリーズ日本の謎④ 高坂剌魅

キリストは日本で死んだ！……

◆カラー写真◆

- 神秘のキルリアン写真……
- バミューダ海中の謎の建造物……
- 超能力者顔合わせ……
- フィリピンの超能力(心霊)手術……
- 未来のコンピューターランド……
- テレパシー・コンテスト……

- ◆今月の筆者紹介……
- ◆エニグマ・ミニ百科
- ◆エニグマ情報局
(海外・国内)……
- ◆ロードショー……
- ◆ブックガイド……
- ◆エニグマクラブ……



★譲ります

▼「UFO写真集①」(良島)を送料共1000円で。また、本誌「特製バインダー」(「ゴズモ」のでも可)2個との交換も可。本号発売後20日まで受付。往復ハガキで連絡を。
松本憲治(〒692 島根県松江市東朝日町一五一六)
▼近代宇宙旅行協会発行「空飛ぶ円盤研究」№73と77を各2500円で(無キズ、送料別)。希望者は往復ハガキで。
細村隆弘(〒335 埼玉県蕨市南町一四一四)

▼本誌№4と15をなるべく一括で。数冊でも可。連絡待つ。
山口 迅(〒682 鳥取県倉吉市上余戸二六七)

▼「UFO衝撃のレポート」(580)、「空飛ぶ円盤の秘密」(450)、「UFO大襲来」(600)をまとめて10000円(送料別)で。手渡しできる方ならタダ。またUFOの写真とならタダで交換。詳しくはハガキで。
森下豊子(〒816 福岡県春日市大字春日一六〇九一二九)

▼本誌№10と18を1冊5000円程度で(バラ売り可)、「恐怖の心霊写真集」を3450円で譲ります。
松村 整(〒537 大阪府大阪市東成区大今里二一三六一三)

▼本誌№1と20を送料共2万円(往復ハガキにTELを書き添えること)。
宇佐見義隆(〒444 愛知県岡崎市八帖北町一九一)

▼本誌№1と№2を10000円、ユリ・ゲラーのレコード・単行本・パンフレットを合わせて30000円、UFO写真集①を10000円、矢追純一・UFO写真集①②を22000円、「聖書とUFO」を9500円で。いずれも送料別。
村瀬慶洋(〒662 兵庫県西宮市穂子ケロ町一三三)

▼本誌№120を2万円(送料別)で。おまけに、旧奇想天外'74年3月号、5、10月号と「超自然の世界」(「ノストラダムス」の予言)「計9冊、40000円相当



売ります
買います

当をつけます。ハガキで連絡を。
松枝敏之(〒444 愛知県岡崎市井田町四一六五)
▼本誌№1と10を送料共1万円。
岡田衛人(〒545 大阪府大阪市阿倍野区美章園一〇一七)

▼本誌UFOシリーズ、神秘シリーズ、四次元シリーズ、古代文明シリーズ、その他25000円相当を譲ります。詳しくはハガキで。
樺島康博(〒835 福岡県山門郡瀬高町大字松田一五五八)

▼本誌№1と9、№15と20を譲ります。またはSF関係図書かSF映画のパンフレットとの交換も可。とにかく希望価格、数、本、パンフレット題名を書き、往復ハガキで。
吉永和哉(〒811 高知県高知市瀬戸町三二四〇)

▼本誌№5を10000円(複数有)、№6を30000円、№7を8000円、№8

を30000円、№17と22を各4000円。全冊美本。往復ハガキで。
谷口洋輔(〒670 兵庫県姫路市総社本町六八南門)

▼「世界の謎と恐怖」「世界の秘境」を各5000円、「世界の怪奇不思議」を5000円、「黄色いへやの密蔵」を3500円、「地球上最後の猛獣狩」を8500円、「世界のUFO写真集」を15000円で(すべて送料別。一括購入の方には「たから島・デュラン世界の歴史」をプレゼント。また、MGCモデル「ハイクエスト・パトリックマン41」を4500円、「コルトローマン357」を5500円、ステン用マガジン一式を10000円、世界兵器図鑑を10000円、往復ハガキで連絡を(いずれも送料別)。
下山浩之(〒379 群馬県新田郡笠懸村大字阿左美一〇八八)

▼「UFO殺人事件」「謎の巨人機」を各5000円、「タロット占いの秘密」(タロットカード付)を9000円、「真珠湾攻撃」を5000円、昨年の少年マガジン3、15、23、28、42、43、46、48号を1冊500円で。なるべく手渡しできる方へ。
蓮村 元(〒274 千葉県船橋市習志野台四一七一〇)

▼UFO写真集①を10000円、本誌№12と13を各30000円、№14と19を各3500円、№20と21を各4000円、「写真で見える空飛ぶ円盤2000集」を10000円、「UFO入門」を8500円、「世界のUFO」を6000円、「パパ、スプーン曲っちゃった」「狐狗狸さんの秘密」を各5000円、「霊感入門」を3000円

で譲ります。バラ売りも可。ただし、一括購入の方には、心霊・UFOなどの切り抜き資料と私が写したUFO写真(本物)をプレゼント。なお、手渡し可能な方に限ります。往復ハガキで連絡を。
関口 彰(〒691 兵庫県川西市向陽台三六四八)

▼本誌№13と19を1冊30000円で。まとめて買う方には1冊25000円でします。(送料別。なお、レコード「青春時代」「最後の言葉」とBCL関係の本との交換可。詳しくは往復ハガキで。
荒川正洋(〒232 栃木県栃木市片町五二四一)

▼本誌№1と12、「宇宙人についてのまじめな話」「円盤に乗った青年のまじめな話」「宇宙の使者」「時のない宇宙」「天竺人物語」「宇宙人の謎」「UFO写真集①」昭和30年頃からの新聞・雑誌切り抜きマガジン版、資料多数有。一括購入、手渡し可能な方希望。往復ハガキで連絡を。
坂 明(〒175 東京都板橋区徳丸九六一二二小林)

▼本誌№5と16まで希望号を安価で。バラ売り可。まずはハガキで連絡下さい。
三浦康弘(〒657 兵庫県神戸市灘区永手町四四一五)

▼「タロットカードI・J・版」「四次元図鑑」「タロット」(フルカラーカード付)「秘法カード占い入門」「ジェームズ・ボンド007タロットデッキ」「悪魔学入門」計12200円相当を10000円で。取りに来る方に限る。
岡田俊彦(〒762 香川県坂出市府中町南前谷二五一四)

▼本誌№16と21「世界のUFO」「謎のバミューダ海域」「UFO」「謎の三角海域」「宇宙人の謎」「謎の大消滅」をまとめて20000円で。連絡は往復ハガキか電話で。059844211146
(夜7時～)

▼久保公明(〒515 三重県志摩郡野町黒田二二〇一)
で送料共1万円。連絡は往復ハガキで。四家康弘(〒112 東京都文京区水道一七一)

▼本誌№14と16、18、講談社現代新書「文明のあけぼの」「失われた文明」「産報「消えた文明99の謎」角川文庫「古代への情熱」保育社「エジプト美術」以上まとめて30000円で。手渡し優先。
後藤久美子(〒501 岐阜県羽島市竹鼻町大西一七七一)

▼バンナムブックス(洋書)のSTAR TREK(宇宙大作戦)シリーズ№1とSTAR TREK NEW VOYAGES、SPOCK MUST DIEの計13冊を5000円で。また、本誌№1と6を6000円で譲って下さい。ハガキで連絡を。
市野龍一(〒692 兵庫県西宮市東園一三二六)

▼本誌№10と11を10000円で。往復ハガキで連絡を。
柿島 一鶴(〒188 東京都田無市西原町三二七七一)

▼本誌№5と20、「UFOと宇宙人」「空飛ぶ円盤の跳躍」「ヒューマンノイド」「空飛ぶ円盤実在の証拠」「空飛ぶ円盤謎と怪奇」を適価で(バラ売り可)。往復ハガキで連絡を。
駒田哲也(〒519 三重県四日市市諏訪栄町一八五)

▼日本家系協会「菅原一族」を22000円、タイムライフブック「宇宙」を35000円。
菅原 徹(〒434 岩手県東磐井郡藤沢町字仁舞二七一)

▼アメリカ「タイム」誌(3000円)75年5月5号から76年7月26日号まで約60冊有。1冊送料共10000円(4冊以上に限る。50円以下の切手代可)。
西村康生(〒322 滋賀県彦根市大畑町五八八)

▼手渡し送料を負担する方に本誌№17を無料。
泉 寿成(〒546 大阪府東住吉区西今川町三三五)

▼世界怪奇スリラー全集全巻を40000円で。「恐怖の心霊写真集」「続恐怖の心霊写真集」の2冊を10000円で。「謎のバミューダ海域」「灼熱の水惑星」「写真で見える空飛ぶ円盤2000集」「写真で見える空飛ぶ円盤・宇宙人2000集」の4冊を40000円で。往復ハガキで連絡を。

▼「ほん」



逢坂輝夫（〒001 北海）
似一〇一（四）

▼本誌No.1と2、「水晶の中の未来」「予

▼本誌No.1と4・6を適価で。「超対称性理論入門」「宇宙の四次元世界」「空飛

▼「解明された宇宙機と宇宙人」「空飛ぶ円盤は宇宙機である」「鉛の服を着た

10

100

18

100

100

00000000000000000000

100

EL明記の上、ハガキで連絡を下さい。

矢田 忍 (〒113 東京都府中市晴見町一

二八、一九二〇六)

▲本誌No.114を適価で譲って下さい。

鈴木 篤 (〒917 22 宮城県栗原郡築館

町新田東三二一)

▲日本UFOクラブ(仙波順一主催)の

プロジェクト・ブルー・フライング

を適価で譲って。コピーでも可。

熊谷 妥 (〒339 31 青森県上北郡野辺

地町字笹原二)

▲日本空飛ぶ円盤研究会の「UFOス

ラップ」を安く譲って下さい。

升谷 勲行 (〒116 東京都練馬区旭丘一

三二)

▲本誌No.116を適価で。またUFOの

写真、資料なども譲って。送料負担。

坂本 宏 (〒562 熊本県熊本市長瀬町一

三〇八一)

▲「恐怖の心霊写真集」(正統、UFO

写真、その他資料を安く譲って。また日

本宇宙現象研究会の会誌No.7を貸して。

木村 浩治 (〒955 山形県村山市橋岡十

町二七)

▲「ストラダムスの大子言」、UFO

や超能力に関する本を安く譲って。送料

は負担します。ハガキで連絡を。

▲UFO写真を譲って。ネガの場合は返

送します。またUFO研究会の会報も。

宮沢 光児 (〒696 京都府京都市左京区田

中上柳町三三 第一アパート306号)

▲UFO写真、白黒250円、カラー4

00円で譲って下さい。

金谷 佳和 (〒329 01 栃木県下都賀郡野

木町友池四六四〇五九)

▲テレビ漫遊、怪獣などのレコードを適

価で。送料は当方で負担します。

庭田 純 (〒931 青森県八戸市柏崎新田

一九)

▲サイボーグ009「宇宙戦艦ヤマ

ト」のレインボー戦隊ロビン「海のトリ

トン」などのレコードや資料を譲って。

浅見 恵子 (〒364 埼玉県北本市東岡四三

二一三四)

▲UFO写真、カラー1150円、白黒1

000円。トリックは不可。資料も歓迎。

佐藤 喜夫 (〒974 福島県いわき市金山町

朝日台二二二)



谷口 稔 (〒517 三重県鳥羽市小浜町二

一七四)

▲本誌No.116を送料共6500円で。

香川 真直 (〒791 41 愛媛県松山市新浜

町一四一七)

▲本誌No.8を送料別4000円以内で。ま

た「空飛ぶ円盤ミステリー」を譲ります。

岩本 考 (〒640 和歌山県和歌山市松江

五二四一)

▲本誌No.114を適価で。送料当方負担

西田 孝 (〒938 37 北海道足寄郡足寄

町北四区)

▲「キネマ旬報」(昭和73年)の決算特

▼UFO、心霊の写真ネガを貸して。責

任をもってお返しします。

沢山 典子 (〒931 青森県八戸市大久保柳

ノ沢三二一)

別号を譲って。希望価格をハガキで。

田中 政仁 (〒332 大阪府大阪市淀川区一

三東三丁目二一四 清友社)

▲ESPに関する本、資料を譲って。

佐藤 喜夫 (〒974 福島県いわき市金山町

朝日台二二二)

▲日本空飛ぶ円盤研究会やCBAの機関

誌を安く譲って。コピーでも可。または

重力研究所の「宇宙艇」との交換も可。

中村 智彰 (〒120 東京都足立区谷中二

一三五)

▲アダムスキーの著書を適価で。

丸山 敏彦 (〒339 46 長野県上伊那郡大

字中箕輪二八三九五)

▲本誌No.117を5000円以内で。

金木 裕子 (〒930 新潟県新潟市春日町三

一四一)

▲本誌No.1110を2000円以内で。ま

たUFO写真、心霊写真を安く譲って。

小山 栄子 (〒319 15 茨城県北茨城市市

郷町足洗五四)

▲本誌No.114を譲って。1冊でも可。

藤田 俊弘 (〒793 愛媛県西条市福武沢一

一四二)

▲本誌No.1120「空飛ぶ円盤2000集」

「ユニグマ」No.112を安く譲って。

豊嶋 啓悦 (〒933 宮城県仙台市旭ヶ丘四

かST76を30000円で。付属品

付。送料は負担します。

小野 寺典之 (〒933 01 宮城県気仙沼市

松崎戸浜二一〇)

▲UFO写真を3000円以内で譲って。

鶴川 充裕 (〒533 大阪府大阪市福島区野

田二一九)

▲天体望遠鏡の130ミリ反射用赤道儀

を5000円、径60ミリF10000ミリの

アクロマートレンズを10000円で。

吉田 晃一 (〒586 大阪府河内長野市三日

市三一)

▲天体望遠鏡スリピーチ製6センチ屈

折赤道儀、付属品一式を送料共27000

円です。また次の本を譲ります。「西洋

占星術」「姓名判断術」「終末のスター

をつく」「あなたの運勢」「正しい熱帯

魚の飼ひ方」送料共各2000円、「天文

ガイド」72年8月号「75年12月号を送料

共10000円で。連絡は往復ハガキで。

桐原 博人 (〒233 神奈川県横浜市港南区

一三二一)

▲本誌No.13「原子・銀河系・理解」のこ

りを適価で譲って下さい。

村山 文彦 (〒902 32 北海道石狩郡石狩

町大字花蔭二九〇五)

▲昭和40年頃の「少年マガジン」「少年

サンデー」「少年キング」「冒険王」「少

年ナンド」等各1000円で譲って。また東映

漫画祭り「海底3万マイル」「人魚姫」

の主題歌レコードを各5000円以内で。

柳瀬 良生 (〒782 高知県香美郡土佐山田

町百石町二一〇一)

▲本誌No.1, 2, 4, 「ユニグマ」No.1

を適価で。ハガキで連絡を下さい。

野村 政幸 (〒921 石川県金沢市寺町五

五一)

▲本誌No.1を譲って、値段をハガキで。

武藤 美由紀 (〒920 岩手県盛岡市上田一

一六五二)

▲本誌No.117を各2000円で。送料は

負担します。なるべく一括で。

鈴木 賢治 (〒513 三重県鈴鹿市庄野町一

五二七一〇)

▲「テレビマガジン」(昭和51年)10

12月号をまとめて譲って。譲ってくれた

方に「眼がどんどんよくなる」「謎の大

消滅」の本を。ハガキで連絡を。

▼下谷町一四二七八)

▲UFO写真を譲って下さい。

野沢 俊也 (〒932 13 新潟県佐渡郡赤泊

のレコード、萩尾望都の「11人ある!」

か続編を譲って下さい。

田中 由美子 (〒364 埼玉県北本市北本三

一三七)

▲UFO写真を譲って下さい。

村上 浩晃 (〒929 22 岩手県陸前高田市

高田町中野一三二一)

▲UFO写真を譲って下さい。

深谷 芳晴 (〒370 05 群馬県邑楽郡大泉

町五三三〇)

▲「サイボーグ009」「スーパージェ

ッター」「レインボー戦隊ロビン」のレ

コードを適価で譲って。また「宇宙戦艦

ヤマト」の紙ンパイも。

馬場 順子 (〒364 埼玉県北本市北本一

四〇)

▼「8マン」「宇宙少年ソラン」「戦えオ

渡辺美津子 (〒621 京都府亀岡市東つ

じヶ丘都台三二四一四一三)

▲本誌No.1113(8と10を除く)を40

00円で。ハガキで連絡を下さい。

斎藤 克哉 (〒921 14 栃木県日光市安川

町二四七)

▲本誌No.1113を50000円で。または

アマチュア無線の本、50000円相当と

の交換も可。電話の連絡もOK。

赤松 龍彦 (〒921 42 宮城県加美郡中新

田町字南町一八〇 〇22296131

2026)

▲本誌No.117を20000円以内で。

佐藤 俊光 (〒330 埼玉県大宮市東大成二

一六九八 〇48616413499)

▲タイムマシンに関する資料を。ハガキ

で連絡を下さい。

西村 兼好 (〒940 北海道函館市万代町六

一二二)

▲本誌No.117を適価で。ハガキで連絡

を下さい。価格も明記して。

金沢 修平 (〒960 北海道札幌市中央区北

ノ条西一〇 SRビル)

▲本誌No.18, 20を7000円で譲って。ハ

ガキで連絡を下さい。

辻村 裕之 (〒712 千葉県市川市相之川二

一九一 市南荘)

▲「がんばれマリンキッド」「海の

トリトン」のレコードを各5000円以内

で譲って。まずは連絡を下さい。

柳瀬 良生 (〒782 高知県香美郡土佐山田

町百石町二一〇一六 〇211688)

▲引伸機ラッキー70MRが90MRを15

000円で。一眼レフカメラ15000

円です。譲って下さい。

赤松 徹郎 (〒931 42 宮城県加美郡中新

田町字南町一八〇 〇22296131

2026)

▲UFO、心霊の写真を1枚600円で。「宇

宙戦艦ヤマト」のレコードを5000円。

UFO探知器を40000円で譲って。

谷本 隆昌 (〒533 大阪府藤井寺市小山藤

美町三三三 〇07291551605

8)

▲UFO、心霊の写真、経験をおもちの

方は連絡ください。

西村 昭彦 (〒490 01 愛知県一宮市大字光

明寺字千馬一)

ジョージ・アダムスキー

があなたにおくるメッセージ

テレパシー

訳・久保田八郎 ￥550 送料140

テレパシーすなわち宇宙語／人間の四つの感覚器官／触覚／細胞から細胞へ伝わる印象／肉体細胞から来る印象／感情が肉体細胞におよぼす影響／他の遊星から来る印象と地球の習慣的な想念／自我の抑制／弛緩・関心・感受性／透視・透聴・予知／思考と推理

生命の科学

訳・久保田八郎 ￥650 送料140

生命の分析／心とその成分／宇宙の法則の応用／万物の相互関係／意識英知及び生命力／新鮮さ／人間の若返り薬／宇宙的記憶／宇宙の一体性／宇宙的細胞と肉体の細胞の活動／意識による旅行／宇宙空間の探険／絶え間なき進歩の報い

フレッド・ステックリング著

なぜ空飛ぶ円盤は来るのか

訳・久保田八郎 ￥750 送料140

好評発売中

当社の出版物が書店にない場合は振替・現金書留・小為替・低額切手などで直接ご注文ください。

文久書林 ● 〒113 東京都文京区白山1-29-12

電話(03)813-2495 振替 東京4-2521番

★交換して下さい

▼本誌No.9, 21をお持ちの方、「空飛ぶ円盤」「新宇宙探検」と交換して。
▼本誌No.18, 19をお持ちの方、本誌No.8, 12と。また「空飛ぶ円盤見聞記」「空飛ぶ円盤同乗記」を各500円で譲ります。
▼天童コーポ1の5」
▼エレキギターかベースをお持ちの方、本誌No.4と21と。往復ハガキで連絡を。
▼前田哲秀(〒277 千葉県柏市向原町三一四一〇〇)
▼コニカ35EFカメラをお持ちの方、コダックインスタマチック608+5000円と。往復ハガキで連絡を。



奥松慎一(〒569 大阪府高槻市富田町五一六一〇〇)
▼幽霊写真をお持ちの方、私の幽霊写真と交換して。トリック不可。
▼中田温朗(〒519-43 三重県熊野市木本町笠屋町)
▼「超能力の秘密」をお持ちの方、「空飛ぶ円盤と宇宙人」か「幻のレムリア大陸」と。往復ハガキで連絡を。

川野榮利子(〒539 鹿児島県鹿児島市伊敷町四二〇一七一七)
▼ボクが持っている本誌No.5, 7, 8と本誌No.1と、「世界のUFO写真」「私は円盤に乗った」「バプア島の円盤騒動」等と交換して。手渡し希望。
▼熊田利秋(〒811-02 兵庫県姫路市四郷町東阿保九六六)
▼本誌No.1と10をお持ちの方、ボロロイDカメラとハガキで連絡を。
▼赤松徹郎(〒811-42 宮城県加美郡中新田町字南町一八〇)
▼本誌No.1と17をお持ちの方、「吾輩は猫である」550円「クイズバズ教室」400円、絵ハガキ150円、小型ラジオ1500円と。または各価格で譲ります。UFOの資料も譲って下さい。
▼市川比呂志(〒949-04 新潟県米魚川市平岩八九九)
▼「大宇宙の波動と生命」高橋信次著を

をお持ちの方、「私は宇宙人を見た」「空飛ぶ円盤同乗記」「古代電と円盤人」「空飛ぶ円盤・古代文明と宇宙人」「時のない地球」「死後の生命」の内4冊と。
▼加藤千尋(〒865 熊本県玉名市中坂門田八八八)
▼次の本をお持ちの方、アダムスキーの著書「キリスト宇宙人説」「バイブル大予言」「願いが叶う本」その他エドガー・ケイシーに関する本。私の本と交換して下さい。「プラナ占術」「UFO事典」「夢判断」「星占い幸運暦」「西洋占星術」「相対性理論への招待」「ルパン対ホームズ」「世界地名小事典」「対照小年表」など。ハガキで連絡を。
▼松島 智(〒321-01 栃木県宇都宮市末広一〇一、三九一)
▼UFO写真のネガをお持ちの方、ボクのネガと。または貸してください。ネガはB・C・ローラーズ、クイーン、オリ

ビア、スージー・タアトロなどです。
▼真田政治(〒142-04 山口県玖珂郡周東町上市)
▼ボクの「UFO写真集①」を「奇跡と大魔法」「祈禱の科学的解明」「超常現象のカラクリ」「エンタの空飛ぶ円盤」「テレパシー」「宇宙からの訪問者」「地球マン①②③④」などと。適個でも可。
▼中村三男(〒804 兵庫県伊丹市松ヶ丘二一六二)
▼本誌No.1と2, 3と5, UFO写真をお持ちの方、各「天文と気象」71年11月3月号「天文ガイド」71年11月4月号、71年12月号と交換して。ハガキで連絡を。
▼武田政美(〒801 北海道根室市駒場町二一四)
▼ボクの「エニダ」No.1と2を本誌No.1と10のどちらかと。往復ハガキで。
▼日倉由秋(〒334 埼玉県川口市新井宿一〇六)

☆1～7号は売切れ、-8号は残部僅少

送料 1冊 ¥160 1~3冊 ¥200 4~6冊 ¥240

口絵・月面の謎アポロ飛行士が撮ったUFO写真初公開／巨大円盤、横須賀に出現／UFOは地球の救済に来るのかオットー・B・ワインダー／奇跡を起こす方法テッド・オーウェンス／ピーター・フルコスの驚異的大発見／B・アン・スレート／科学ニュース／UFO情報／UFO目撃レポート／読者の声 その他

森林伐採工トラビス・ウォルトンのUFO同乗事件高梨純一／
UFOは地球の救済に来るのか(完)／UFOインタビュー私は
UFOを見た／岡崎友紀さんの巻／私は宇宙人のクビをすげ
かえた！／(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1)L・クランプ／科
学ニュース／UFO情報／UFO目撃レポート／読者の声／その他

横尾忠則私はUFOを何度も見た／チャールズ・ムーディ軍
曹砂漠で円盤に誘拐される／UFOのスポークスマン？／世界
の12の“魔の墓場”／大地震は予知できるか内田秀男／火星生
物発見の旅宮本正太郎／(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2)／科
学ニュース／UFO情報／UFO目撃レポート／神者の言／舊の市／その他

口絵・NHK16ミリカメラの快挙 他／トラビス・ウォルトン事件の真相／東北地方UFO事件特別取材・UFO大接近、自動車4台急停止／他／UFOインタビュー・久里洋二／月世界はUFOの中継基地か(1)／(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)／UFO目撃レポート／UFO情報／科学ニュース／読者の声・巻の末 他

日本を代表するUFO研究者3人の主張展開高梨純一・並木伸一郎・久保田八郎／空飛ぶ円盤の推進原理を語る橋本健・清家新一／精密UFO大図鑑／UFO事件完全年譜／月世界はUFOの中継基地か(完)／私は宇宙人に身体検査をされた(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)／UFO研究のすべて／UFOの謎

〈本誌取材〉UFOは石を食べていた!?／チベット山中の金星人
基地高坂剋魅／金髪的女性宇宙人としばしば接触／女性三人を
身体検査した巨大UFO／着陸した円盤に宇宙人の死体が／大
ニューヨークの郊外に円盤着陸(1)／(続)宇宙・引力・空飛ぶ
円盤(5)／バックナ・バリー宇宙紹介会(1)5月開催予定

口絵・コンピューター・システムでUFO写真の鑑定ができる／
〈特集〉ジョージ・アダムスキー／闇夜に牛が殺された／矢追純
一／UFO写真のコンピューター分析／女性宇宙人セムジャー
ゼとの会話／星・生命の始まるころ／大ニューヨークの郊外
に円盤着陸(中)／科学者はUFOに目覚めつつある(中)

＜特集＞戦後UFO30年史／ウィンチェスターに出現したUFO
と不思議な人間／謎のニューヨークの大停電荒井欣一／驚くべき
コンタクトの全貌／カーター大統領はUFOを見た！／（続）
宇宙・引力・空飛ぶ円盤（6）／UFOに家族をさらわれた？／
火星には生命が存在する？／UFO構図（科学）／（科学）

UFO宇宙 1977年8月号 第25号
発行 昭和五十二年八月一日
(月刊/毎月二十日発売)
定価 四三〇円 送料五〇円
編集人 久保田八郎
発行所 株式会社 ユニバース出版社
住所 〒110 東京都台東区上野五―
六ヤマトビル
電話 ○三(八三三) 一三四一―四四
振替 東京一―一九四七八
印刷所 三晃印刷株式会社
年ざめ購読料五一六〇円(送料サービス)
書店で入手できない場合は、本社へ直接ご
文ください。
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます
海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

●本誌はUFYや一般ミステリー事件に関する原稿、目撃レポート、写真などを広く募集しています。

●原稿はなるべく原稿用紙（タテ書き）をご使用ください。なお、投稿された原稿等は一切お返ししません。写真のネガはご希望により返送しますが、この場合は返送用封筒に切手をはり同封してください。

●掲載分には当社規定の掲載料を差し上げます。

読者の投稿を歓迎します

あて先
ユニバース出版社
UFOと宇宙編集部

目撃レポート参考事項

(1) 目撃者の住所・氏名・年齢・学年・その他
(2) 目撃地点の略図・時刻・天候等
(3) 飛行物体の形状・飛行状態等
その他なるべく詳細に。

ユニバーズ出版社

★いよいよ本誌は月刊誌になりました。本誌より8頁の増頁敢行、定価の増員値下げです。次号からは雑誌のついた平綴じの本格的な雑誌スタイルになりますから見開違いなきようにお願いします。

★本号の圧巻はなんといつて

も「私は円盤に乗った宇宙人に救われた！」でしう。絶対に事実であるという保証付きのこのすばらしい記事は本誌が放つ大ヒット！これにより円盤と宇宙人がむかしから日本にも出現していたことが十分に考えられるではありませんか。8月20日の9月号発売日をお忘れなく。(K)

創刊4周年記念

本誌ついに月刊化!

●本誌は1973年7月に創刊以来（旧題号は「コスモ」）満4カ年、隔月刊ながら驚異的成長をとげて、ここに第25号を迎えました。これは多数の読者のご支援のたまものと深く感謝しておりますが、更に皆様のご要望にこたえて本号より月刊誌にしました。次号（9月号・8月20日発売）より増頁し、背をつけた平綴じにして、UFO問題に加えて広くノンフィクション・ミステリーの分野、宇宙科学などもとりいれながら、有益な記事を満載した斯界のトップクラスをゆく「世界の謎と驚異・専門誌」とします。ひき続きご愛読をお願いいたします。「UFOと宇宙」という題号と定価は従来どおりです。

●8月より毎月20日、全国書店で一斉発売

ユニバース出版社



月面と宇宙 アポロ計画 大写真集!

●世紀の大偉業“アポロ計画”の全貌公開。アメリカ航空宇宙局（NASA）提供による驚異のカラー写真119点、モノクロ写真11点があなたを未知の宇宙へご案内します。

●本書（BRMセラー社版）は横25.5cm、タテ34.3cmの特大版で本文極上アート紙使用、極厚手表紙・カバーつき、総頁数128の豪華写真集です。詳細な英文解説に別冊日本語版（全訳）がつきます。

●科学研究者・天文ファン、学校・図書館等の公共施設はもちろん、ご家庭の教養図書としてもぜひ一冊おそなえ下さい。

定価11,000円
（梱包送料600円）

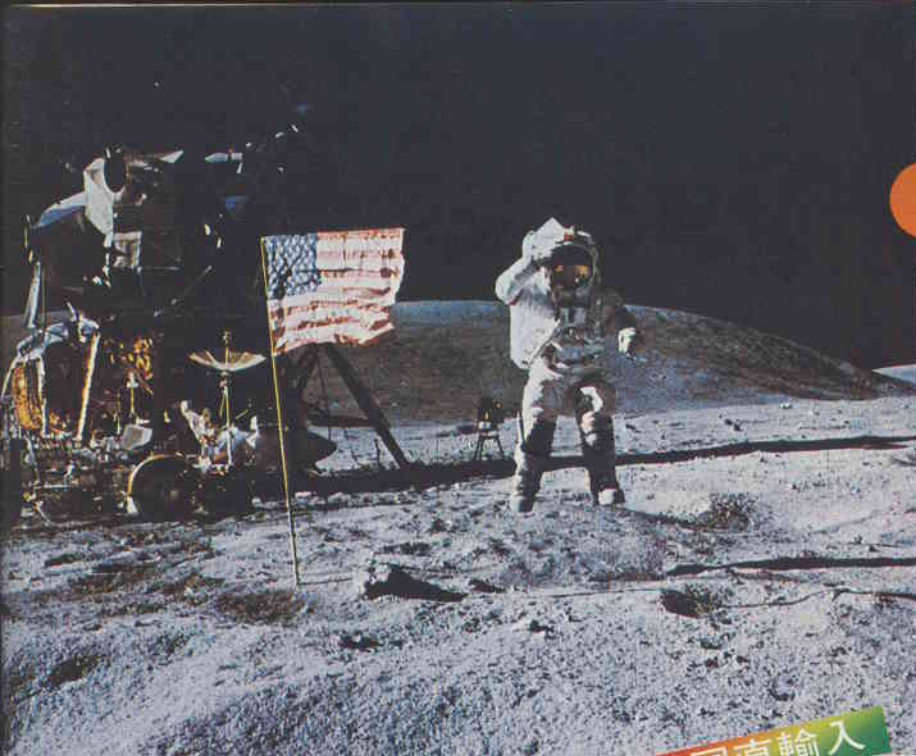
MAN'S GREATEST ADVENTURE 人類の最大の冒険

BRM SELAH社版

●本書はユニバーズ出版社内独占販売のため一般書店ではお求めできません。ご購入の場合は、代金を現金書留または振替で直接当社営業部までお送り下さい。なお5日間無料で本書をご覧になれる方法もあります。ご希望の方は当社営業部まで資料（無料）をご請求下さい。

国内総販売元
株式会社 ユニバーズ出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル 振替東京1-119478



新発売!!

●無料でご覧になれます

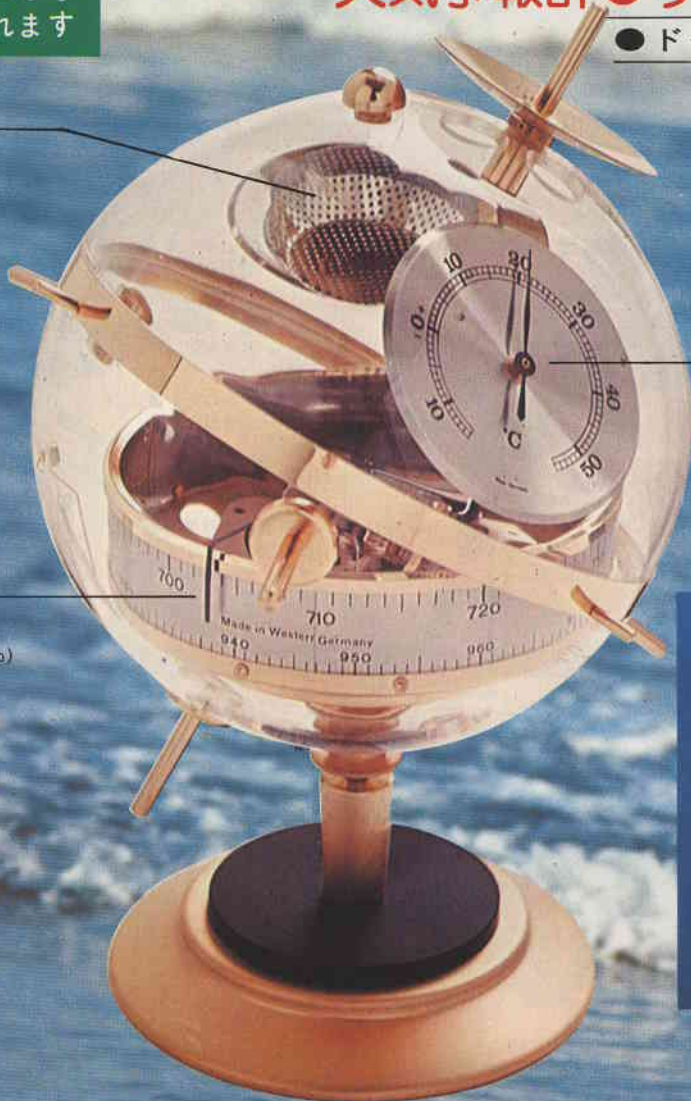
温度計+湿度計+気圧計
天気予報計●サテライト・3

●ドイツ製、直輸入品

●湿度計
(20%~100%)

●気圧計
(700mb~1060mb)

●温度計
(-15°C~+55°C)



球体直径 130mm
高さ 205mm
重量 610g

晴れ、のち曇り、一時雨—?

天気予測に最も大きな関係があるのは、気圧の高低ではなく、気圧が上昇中(快方に向う)なのか、下降中(下り坂)なのかということです。欧米ではウェザー・バロメーター(天気予報計)が一般の会社や家庭に広く普及しています。しかし、我が国ではあまり普及していません。公害や天気不順の折から現代人は、毎日の天候…温度や湿度、気圧に適應する、健康管理を、ひいては生活設計をしなくてはなりません。このドイツ生まれの“サテライト・3”は、気圧計・湿度計・温度計の3つの精密機器が、コンパクトに収まり、そのうえ、洋風にも和風にも調和する豪華で美しい室内装飾品にもなります。また、お子様の科学の勉強に、興味をひく面白い天気観測器は、机や書斎の上に飾るインテリア・アクセサリに最適です。なお、ご結婚や新築のお祝い、ご入学・卒業などの贈り物に実生活に役立つ天気予報計“サテライト・3”はぴったりです。

申込先 社団法人 日本割賦協会 事業会員
フェーマースタートギャラリー 企画部

●手にとって無料でご覧になれます!!

「天気予報計“サテライト・3”」を手にとって無料でご覧になれます。もし、ご満足できないようでしたら、現品受取後、5日間以内に返品してください。この場合、何らの購入義務もありません。お気に入りになりましたら、そのままご購入ください。

●月つき3,000円×6回払いでOK

いま、お申込みの方は奉仕価格⇒月つき3,000円×6回払いでお求めいただけます。(一括払いの場合は16,800円) しかも現品先送り、代金は後払いで結構です。

ご希望の方は右記の申込書を切り取り、住所・氏名・支払方法を明記し、印を押して当社(東京・大阪)へお送りください。なお現品をご覧になってご不満の場合は、現品受取後5日間以内に返品してください。この場合、何らの購入義務もありませんので安心してお申込みください。

〈〒556〉 大阪市浪速区大國町1の121の8 ☎(06)649-5508
〈〒170〉 東京都豊島区駒込1の34の8 ☎(03)945-2810

“サテライト・3” 価格表

●現金価格 **16,800円** ●割賦価格 **18,000円**
(一括払いの場合のみ) 分割払金 3,000円
●梱包送料当社負担 ●製品保証 支払回数 6回
支払期間 6ヵ月

今、スグ切り取ってポストへ!!

●下記の申込書に記入し捺印の上、封筒に入れてお送りください。

“サテライト・3”購入申込書

■天気予報計“サテライト・3”を購入申し込みます。現品到着後下記の方法で必ず送金します。

●支払方法 (〇印をしてください)
1. 月つき 3,000円×6回払い
2. 一括払い 16,800円

●現品に不備の場合は現品受取後5日間以内に返送し、この場合、購入義務は一切ありません。

おなまえ	捺印	年令	TEL
	⑥	オ	
おところ(郵便番号)			
()			
保障者名(18才未満の方は保護者の印が必要)			捺印
			⑥
UF0-7			

●印のない場合は無効になりますので必ず捺印してください。

特典・お申し込みの方全員に
「エニグマ」最新号を無料進呈!

◆MOP高性能天体望遠鏡

(通産省光学検査合格品)

◆MOP本格派双眼鏡

(通産省光学検査合格品)

インテル
特価

全商品大特価セール 5年間品質保証書付 UFOをとらえるのはこれだ!

研究観測用高級機 100%反射型赤道儀式

MOP M109型

規格・性能 焦点距離
900mm 主鏡レンズ有
効径100mm(主鏡アルミ
ナイズメッキ) 分解能
1.16秒 極限等級11.8
等星 集光力204倍

装置 直進ヘリコイド
式繰出(接眼レンズ口
径24.5mm用) 赤道儀兼
経緯台 微動装置ウォ
ームギヤー使用 赤経
・赤緯目盛環付

付属品付き

定価55,000円の品

インテル特価 97,000円

(送料2,000円)



チャンス!

MOP 610型

規格・性能 焦点距離
1,000mm 有効径60mm
(アクロマートレンズ
使用) 分解能1.9秒 極
限等級10.7等星 集光
力73倍

付属品 サングラス
6×30mmファインダー
天頂プリズム HM 6mm
HM12.5mm K20mm
バランスウェイト2 フ
レキシブルハンドル2
木製2段伸縮三脚

研究観測用高級機
60%屈折赤道儀式

チャンス!

定価55,000円の品

インテル特価

36,000円

(送料2,000円)



MOP双眼鏡 8×30

スタンダードな小型機

規格・性能 倍率8倍
対物レンズ有効径30mm
射出瞳径3.8mm 明るさ
14.1 実視界7.5度 1000
m先の視野131m 高さ
11.5cm 重さ550g

定価11,500円の品

インテル特価 8,500円

(送料800円)

チャンス!



付属品 ソフトケース
保証書 使用説明書

●ミクロンシリーズ

持ち歩きに便利な
高性能機!

規格・性能 倍率10倍
対物レンズ有効径40mm
射出瞳径4mm 明るさ
16 実視界7度 1000m
先の視野123m 高さ12
.3cm 重さ490g

10×40

付属品ハードケース

MOPミクロン 10×40

チャンス!

定価17,300円の品

インテル特価

13,800円

(送料800円)



MOP双眼鏡 20×50

高倍率大型機!

規格・性能 倍率20倍
対物レンズ有効径50mm
射出瞳径2.5mm 明るさ
6.3 実視界3度 1000m
先の視野52m 高さ17cm

全機種特価

広告に記載されて
いない商品も格安
にて販売!お気軽
にお問い合わせ、ま
たはご一報下さい。

付属品 ハードケース
保証書 使用説明書

定価18,000円の品

インテル特価 11,500円

(送料800円)



チャンス!

●ミクロンシリーズ

ポケットにピッタリ!

規格・性能 倍率8倍
対物レンズ有効径20mm
射出瞳径2.5mm 明るさ
6.3 実視界5度 1000m
先の視野88m 高さ7.1
cm 重さ185g

8×20

付属品ソフトケース



チャンス!

定価14,000円の品

インテル特価

11,000円

(送料800円)

ご注文方法

広告価格はすべて現金価格です。ご注文の場合は品名・住所・
電話番号・氏名を明記し、現金書留でお申し込みください。

あて先

〒193 東京都八王子市小比企町2957-9 ☎0426-25-7941(代表)
(株)インテル 光学事業部UFO係

【お知らせ】

当社製品の販売代理店を募集します。当社まで資料をご請求下さい。またこの広告に
いてのお問い合わせは当社調査室(TEL0426-25-7941)までお電話でお願い致します。

カタログ無料進呈

当社全製品満載のカタ
ログを無料で差し上げま
す。切手100円を同封し
下の請求券をはって
お申し込み下さい。

カタログ請求券
UFO25

今なら 3大特典

1 全品
大割引!

2 長期
均等分割

3 全品 送料
サービス!

迫切
迫る!

数量限定!
今がチャンス!
ゼッタイ買得!

初心者にも
見やすく使いやすい
天体・地上
両用望遠鏡

ニコルス RJ-6092A
商品番号81-071

〔特長〕

- 225倍屈折型経緯台式望遠鏡
- 有効径60%焦点距離F=900%
- コリメーターテスト済高性能対物レンズ使用
- 上下微動装置付
- 二段ドロウチューブ

〔定価〕全長890%

- 対物レンズ 有効径:60%アクロマートコーティング、焦点距離:900%、集光力:73倍(肉眼)、分解能:1.93秒、極限等級:10.7等星
- 接眼レンズ S R-4%(倍率225X) HM-12.5%(倍率72X)
- 接眼部 ラック&ピニオン繰出装置
- 架台 ヨーク式上下微動装置付
- 三脚/二段伸縮式木脚 脚長70~135cm

〔附属品〕

- スターダイヤゴナルプリズム(天頂プリズム)
- ファインダー(5×24%十字線 入合金製)
- サングラス

分割払金(月)1,890円×10回
分割払価格18,900円
現金価格16,900円

当社平常販売価格25,000円を
現17,200円で大奉仕!

組立キット!!
ドライバー1本!!
30分で組立OK!!

※ 全部品完全セット。詳しい組立説明書付だから、誰れでもカンタンにできる!!

ニコルス B-1010
商品番号81-022

分割払金(月)2,000円×10回
分割払価格20,000円
現金価格17,200円

ニコルス LS-1149
商品番号81-021

〔特長〕

- 150倍反射型経緯台式望遠鏡
- コリメーターテスト済高性能反射鏡
- 有効径114% 焦点距離F=900%
- 上下、水平微動装置付
- 光軸修正装置付

114%大口徑反射式
天体入門者用
ベストセラー人気機種

〔定価〕

- 対物主鏡 有効径:114%アルミナイズ済、焦点距離:900%、集光力:265倍、分解能:1.00秒、極限等級:12.0等星
- 斜鏡 短径23%アルミナイズ済
- 接眼レンズ、HM-6%(倍率150X) HM-12.5%(倍率72X)
- 接眼部 ラック&ピニオン繰出装置
- 架台 ヨーク式上下、水平微動装置付
- 三脚/二段伸縮式木脚 脚長70~135cm

〔附属品〕

- ファインダー(6×24%十字線入合金製)
- サングラス
- フレキシブルハンドル(1本)
- 太陽穴キャップ

分割払金(月)2,880円×10回
分割払価格28,800円
現金価格25,600円

〔定価〕

- 対物主鏡 有効径:100%アルミナイズ済、焦点距離:1,000%、集光力:204倍、分解能:1.16秒、極限等級11.8等星
- 斜鏡 短径23%アルミナイズ済
- 接眼レンズ HM 6%(166X) HM12.5%(80X)
- 接眼部 ラック・ピニオン繰出装置
- 架台 ヨーク式上下微動装置付
- 鏡筒 金属製白色塗装
- 三脚 直脚式木脚

〔附属品〕

- ファインダー(5×24%十字線入合金製)、サングラス、太陽穴付キャップ、天頂ミラー

カタログ及び注文方法は次のページにあります.....

2
長期
均等分割

3
全品
送料サービス

数量限定！今がチャンス！
ゼッタイ買得！メ切迫る！

当社平常販売価格 31,100 円を
現金 25,900 円 で大奉仕！

当社平常販売価格 55,800 円を
現金 40,000 円 で大奉仕！

ニコルス RS-6090
商品番号 81-072

〔特長〕
■225倍屈折型経緯台式望遠鏡 ■コリ
メーターテスト高高性能対物レンズ
■狙った星をのささない上下水平微動
装置付 ■二段ドロチューブ付 ■高性能
正立プリズム付

〔定 格〕
●対物レンズ 有効径
：60%アクロマートコー
ティング、焦点距離
：900mm 集光力：73倍（肉眼）分解能：
1.93秒 極限等級：10.7等星 ●接眼
レンズ S R-4%（倍率225×）
HM-9%（倍率100×）HM-20%（
倍率45×） ●三脚 / 二段伸縮式木
脚 脚長70～135%

〔付属品〕
スターダイヤゴナルプリズム
（天頂プリズム）地上用正立
プリズム、ファインダー（5×
24%十字線入合金製）サン
グラス

分割払金（月）2,880円×10回
分割払価格28,800円
現金価格25,900円

ニコルス RK-6010
商品番号 81-073

〔特長〕
■250倍屈折型赤道儀式望遠鏡
■コリメーターテスト高高性能対
物レンズ付 ■モータードライブ取
付可能な赤道儀兼経緯台式 ■二段
ドロチューブ、高性能正立プリ
ズム付

〔付属品〕
●スターダイヤゴナルプリズム
（天頂プリズム） ●地上用正立プリ
ズム ●ファイ
ンダー（5×24
%十字線入合
金製） ●サン
グラス ●バラ
ンスウエイト（0.5kg 2個）
●フレキシブルハンドル（2本）
●接眼レンズ S R-4%（倍率
250×）HM-9%（倍率111×）
HM-20%（倍率50×）

〔定 格〕
対物レンズ60%アクロマート
（セミコート） 焦点距離1,000
mm 集光力73倍（肉眼） 分解能
1.93秒 極限等級10.7等星 鏡
筒径63% 全長1,000mm（接眼
部を除く）赤道儀歯数138枚、
赤緯と赤経目盛付

分割払金（月）3,750円×12回
分割払価格45,000円
現金価格40,000円

商品のご注文方法は

- 商品番号か品名を紙に書いて、月賦は初回金を現金書留封筒でお送り下さい。
- 一時払いは同じ方法で現金価格をお送り下さい。
- 代引注文（商品到着時に現金価格で一括お支払いの方法）も受け付けます。詳しくは電話でお問合せ下さい。☎03 (672) 9094（内線33）日・祝日を除くAM9:30～PM5:30

あて先

〒133 東京小岩局27号
二光通販(株)
光学課 74係

カタログ無料進呈！

只今無料進呈中！
ご希望の方は、カタログを
お送り下さい。下記のカタ
ログを、ハガキのうらには
無料でお送りいたします。



カタログ進呈券74係

二光カタログハウス
営業時間 AM10:00～PM7:00

ニコルス

●広告の商品はニコ
ルスにて展示販売中！
お急ぎの方は、ご来
店下さい。初回金で
OK！（印鑑を持参下
さい）



ニコルス秋葉原店
年中無休

TEL 03 (832) 0713
社団法人
日本顕微鏡協会正会員
この協会は顕微鏡の普及により
消費者保護を目的とする団体で
当社は会員です。安心してご注
文下さい。

二光
二光通販株式会社
東京都江戸川区南小岩6-31-25

苦情相談

この広告についての商品未着や商品苦情はご遠慮なくお申出下さい。
ニコル 消費者相談 ☎03 (672) 8558 東京都江戸川区西小岩3-31-11 新井ビル2F

今なら3大特典!

全品¹
大割引!

当社平常販売価格 42,000円を
現金 34,000円 で大奉仕!

ニコルスL-1149
商品番号81-023

〔特 長〕
■225倍反射型経緯台式望遠鏡
■有効径114%、焦点距離F=900%、集光力265倍、■コリメーターテスト済高性能反射鏡
■接眼レンズSR-4%(倍率225×) HM-9%(倍率100×) HM-20%(倍率45×)

〔定 格〕

●対物主鏡 / 有効径: 114%アルミ
ミナイズ済 焦点距離: 900%
集光力: 265倍 分解能: 1.00秒
極限等級: 12.0等星
●接眼部 (大型口径36%、24.5%両接
眼レンズ使用可能) ラック&ピニオン繰出
装置 ●架台 (マウント) ヨーク式上下
・水平微動装置付 ●鏡筒 / 金属製、白
色塗装 ●三脚 / 直脚式木脚 脚長85cm

〔附属品〕

●ファインダー(6×30%十字線入
合金製) ●サングラス ●フレキ
シブルハンドル(1本) ●太陽絞穴
付キャップ

分割払金(月)3,150円×12回
分割払価格37,800円
現金価格34,000円

当社平常販売価格 52,000円を
現金 43,000円 で大奉仕!

ニコルスLG-1149
商品番号81-025

〔特 長〕
■225倍反射型経緯台式望遠
鏡■コリメーターテスト済高
性能反射鏡■有効径114%、焦
点距離F=900%、集
光力265倍 ■有効径
60%ガイドン
グスコープを搭
載

〔定 格〕

●接眼レンズ SR-4%
(倍率225×) HM-9%(倍率100×)
HM-20%(倍率45×) ●接眼部 (大型
口径36%、24.5%両接眼レンズ使用可能)
ラック&ピニオン繰出装置 ●架台 (マウ
ント) ヨーク式上下、水平微動装置付
●鏡筒 / 金属製、白色塗装
●三脚 / 直脚式木脚 脚長85cm

〔附属品〕

●スターダイヤゴナルプリズ
ム(天頂プリズム) ●ファイン
ダー(6×30%十字線入合金製)
●サングラス●フレキシブル
ハ・ドル(1本)●太陽絞穴付
キャップ●接眼レンズSR-4
%(倍率225×) HM-9%(倍
率100×) HM-20%(倍率45×)

分割払金(月)3,900円×12回
分割払価格46,800円
現金価格43,000円

当社平常販売価格 60,000円を
現金 44,000円 で大奉仕!

ニコルスLK-1149
商品番号81-024

〔特 長〕
■有効径114%、焦点距離F
=900%、集光力265倍 ■コ
リメーターテスト済高性能
反射鏡■狙った星をのがさ
ない赤道儀兼経緯台式マウ
ント

〔定 格〕 全長880%

●対物主鏡 有効径: 114%アルミナイズ済 焦点
距離: 900%、集光力: 265倍、分解能: 1.00秒、極限
等級: 12.0等星 ●斜鏡/短径23%アルミナイズ済
●接眼レンズSR-4%(倍率225×) HM-9%
(倍率100×) HM-20%(倍率45×) ●接眼部
(大型口径36%、24.5%両接眼レンズ使用可能)
ラック&ピニオン繰出装置 ●架台 (マウント)
赤道儀式(赤経、赤緯目盛環付赤道儀兼経緯台)
●鏡筒/金属製、白色塗装●三脚/直脚式木脚 脚
長85cm

〔附属品〕

●ファインダー(6×30%十字線入合金製)
●サングラス●太陽絞穴付キャップ●バラ
ンスウエイト(0.8kg 2個) ●フレキシブル
ハンドル(2本)

分割払金(月)4,000円×12回
分割払価格48,000円
現金価格44,000円

当社平常販売価格 74,000円を
現金 61,000円 で大奉仕!

ニコルスLKG-1149
商品番号81-026

〔特 長〕
■225倍反射型赤道儀式望遠鏡■有効径114
%、焦点距離F=900%、集光力265倍■コリ
メーターテスト済高性能反射鏡■有効径60
%ガイドングスコープを搭載■赤道儀兼
経緯台式高級マウント

〔定 格〕

●接眼レンズ SR-4% (倍率225×)
HM-9% (倍率100×) HM-20% (倍率
45×) ●接眼部 (大型口径36%、24.5%両
接眼レンズ使用可能) ラック&ピニオン繰
出装置 ●架台 (マウント) 赤道儀式(赤経、
赤緯目盛環付、赤道儀兼経緯台) ●鏡筒 / 金属製、
白色塗装 ●三脚 / 直脚式木製 脚長85cm
〔附属品〕
●スターダイヤゴナルプリズム(天頂プリ
ズム) ●ファインダー(6×30%十字線入合
金製) ●サングラス ●バランスウエイト
(0.8kg 5個) ●フレキシブルハンドル(2本)
●太陽絞穴付キャップ ●接眼レンズSR-4%
(倍率225×) HM-9% (倍率100×)
HM-20% (倍率45×)

分割払金(月)5,550円×12回
分割払価格66,600円
現金価格61,000円

High S型赤道儀シリーズ Low



グレートビクトリー 700MD 60%赤道儀兼経緯台

対物レンズ アクロマート
コーティング
D60% F700%
接眼鏡 フルコート 同焦点
HM6% HM12.5%
倍率 117× 56×
接眼部 24.5% 36%兼用
付属品 天頂プリズム
サンダラス
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥47,800 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥35,800 送料¥1,500



No. ST1000MD 60%赤道儀兼経緯台

対物レンズ アクロマート
コーティング
D60% F1000%
接眼鏡 フルコート
HM6% HM12.5% K25%
倍率 167× 80× 40×
接眼部 24.5% 36%兼用
付属品 天頂プリズム
サンダラス
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥52,500 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥40,500 送料¥1,500

安定性の低い小型赤道儀の時代は終わった。そしてガバナー制御のモータードライブ付大型赤道儀の時代が始った!!



グレートビクトリー100 MD 100%反射式赤道儀兼経緯台

主鏡 D100% F800%
接眼鏡 フルコート 同焦点
HM6% HM12.5%
倍率 133× 64×
接眼部 ラックピニオン式
24.5% 36%兼用
付属品 サンダラス
光軸アイピース
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥49,800 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥37,800 送料¥1,500

(モータードライブは後日購入も出来ます。)



No. SH900MD 100%反射式赤道儀兼経緯台

主鏡 D114% F900%
接眼鏡 フルコート
HM5% HM8% K25%
接眼部 ラックピニオン式
24.5% 36%兼用
付属品 サンダラス
光軸アイピース
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥54,800 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥42,800 送料¥1,500

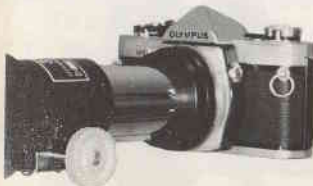
S型赤道儀は一クラス上の大型赤道儀………小型赤道儀は微振動が多い為、観測しにくく写真撮影も思う様に出来ません。従来の赤道儀の欠点を補って新設計されたS型赤道儀は微振動が少なくて安心です。
S型赤道儀は上下角微調節ネジ付………今迄は10万円クラスの高級品にしか採用されていませんでした。
S型赤道儀は移動するロールバランスウェイト軸………今迄は15万円以上の高級機専用でした。
S型赤道儀のモータードライブは二電源方式のガバナー（電圧安定装置）制御のDCサーボマイクロギヤードモーターですので精度の良い回転が得られ、単3乾電池4本(6V)又家庭用100V電源の両方が使用出来ます。
S型赤道儀シリーズはコストパフォーマンス(価格に比べた品質と性能)が最高で他の及ぶ所では有りません。

●写真撮影用カメラアダプター (35%一眼レフ専用 屈折望遠鏡接眼鏡36%専用)

天体写真、地上写真のどちらにも使用出来ます。直接撮影方式で望遠鏡が超望遠カメラ用交換レンズと同じ事に成りますので、他の方式に比べてもっとも鮮明に写せます。

¥3,000 送料¥300

＜使用出来る35%一眼レフカメラ＞ ペンタックス(S及Kシリーズ)
フジカ、マミヤ、リコー、ヤシカ、ニコン、キャノン、ミノルタ、オリンパスOM、
コニカ(新)、ミランダ(注文時カメラ名をお知らせ下さい。接眼鏡24.5%径は使用不可)



●地上用ズーム接眼鏡

正立像 6%~15%ズーム
天体望遠鏡がズーム式地上望遠鏡に使えます。¥4,500



ご注文は代金、送料を送金下さい。又はご来社下さい。

株式
会社

スリービーチ 光学部UFO係

光学部TEL 東京03
(850) 6110

〒121 東京都足立区平野3丁目7番17号

振替口座 東京7-103033

総合カタログ・切手300円同封の上お申込み下さい。

(広告有効期間・本誌号月の月末迄)

カメラの有力専門誌 日本カメラ 51年6月号 特集 常用交換レンズ総点検より
スリコールLP135、135% F2.8
中心部はコントラストもほぼ良好で、シャープさもじゅうぶんである。周辺部はわずかに画質が低下するが目立つほどではない。全般的に見て各収差がバランスよく補正され画質のよいレンズである。しかも13,000円という普及価格は魅力がある。(原文のまま)



reliance THREEKOR P series

High 高品質 技術力を結集した信頼の交換レンズ Low 低価格

リライアンス スリコール交換レンズ Pシリーズ

スリコール交換レンズは出来る限り安くお届けする為にユーザーへの直接販売システムです。天体望遠鏡専門メーカーのスリコール交換レンズの実力をお楽しみ下さい。

●スリコール交換レンズ仕様 (プリセット絞り、絞込み測光、マウント交換式)

品 番	LP135	LP200	LP300	LP400	LP500	WP 35
焦 点 距 離	135mm	200mm	300mm	400mm	500mm	35mm
明 る さ	F:2.8	F:4.5	F:5.6	F:6.3	F:8	F:2.8
レンズ構成(群/枚)	4/4	3/4	3/4	3/4	3/4	5/6
レ ン ズ 口 径	47mm	44mm	53mm	62mm	62mm	30mm
全長mm・重量g	80・340	140・420	230・550	315・700	410・790	52・150
価 格	¥13,000	¥14,000	¥18,000	¥21,000	¥24,000	¥12,000
附 属 品	フード、Pマウント、ケース					マウント、ケース

価格は附属品を含んだ価格です。(35mm一眼レフ用)

●使用できるカメラ (35mm一眼レフ)

アサヒペンタックス(Sシリーズ・Kシリーズ)・ニコン・ニコマート・キャノン(EX除く)・ミノルタ・オリンパスOM・コニカ(新)・フジカ・マミヤ・リコー・ヤシカ(ネジ込み)・ベトリ・ミランダ・

スリコールPシリーズはカメラを買替えた場合、あるいは2台以上メーカーの異なるカメラをお使いの場合でもマウントのみ別に購入すれば、どのカメラでも使用出来ます。

スリコールPマウント 別売価格¥1,500

スリコール交換レンズは1台3役 ①カメラ用望遠レンズが(300mm・400mm・500mm)



②ズーム式地上望遠鏡に

〔別売〕附属品
アイピースアダプター ¥1,500
ズーム式地上アイピース ¥4,500
300mmの倍率: 20倍~50倍
400mmの倍率: 27倍~67倍
500mmの倍率: 33倍~83倍

②③の使い方をする時は、アイピースアダプター・アイピース(天体又は地上ズーム)を合わせてご注文下さい。



③天体望遠鏡に

〔別売〕附属品
アイピースアダプター ¥1,500
天体用アイピース各倍率 ¥1,500
300mmの倍率24倍・50倍・60倍・75倍
400mmの倍率32倍・50倍・80倍・100倍
500mmの倍率40倍・62倍・100倍・125倍

望遠鏡になるのはスリコール交換レンズだけです。他社の交換レンズには使用できません。

〒121 東京都足立区平野3丁目7番17号
株式会社 スリービーチ UFO係

電話照会受付時間
午前10~12時 午後1~5時
日・祭日休業
〒東京(03)859-1331
(広告有効期間 本誌号月の月末迄)

スリコール交換レンズを購入希望の方は、ハガキにお持ちのカメラ名を書いてカタログ(無料)をお申し込み下さい。急送します。

衝撃の12倍ズーム! サウンド8ミリの限界に挑んで遂に登場。



1206 SM

標準価格164,200円(標準マイク付)イヤホン600円
●F1.8電動ズーム(6~72mm)●マクロ撮影(レンズ
面0cm)●コマ撮り機構●インタバルタイマー(1
~60秒)●同録可能の24コマ/秒●フェード機構

チノン・ダイレクトサウンド
CHINON
DIRECT SOUND

☎チノン株式会社 〒160東京都新宿区西新宿6-12-4 コイトビル ☎03(346)2481(代)